

廣島大學

國語史研究會會報

第貳拾八號

【目次】

あさぢが露本文併に自立語索引

本文篇

凡例

本文

自立語索引篇

凡例

自立語索引

未詳	わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ
.....
230	226	225	219	204	188	179	152	135	111	73

み	り	み	ひ	に	ち	し	き	い
.....
228	225	209	194	185	168	141	119	80

ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う
.....
221	214	200	186	170	146	124	88

ゑ	れ	め	へ	ね	て	せ	け	え
.....
228	225	215	202	186	174	150	126	93

を	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	お
.....
228	226	222	216	202	187	174	150	127	93

あさぢが露本脅併に自立語索引

本 脅 篇

本文篇凡例

- 一、この本文は天理図書館蔵のあさぢが露(『天理図書館善本叢書和尚書之部第六巻 あさぢが露・在明の別』昭和四十七年、八木書店)を底本として、その全文を翻字したものである。
- 一、原本の丁数・行数は各行の初に、丁数を漢数字で、丁の表・裏をオ・ウで、行数をアラビア数字で示した。
- 一、漢字の字体は、底本のかたちに従うことを原則とした。
- 一、所謂、誤字・宛字については底本のままに翻字した。
- 一、平仮名・片仮名の字体は、印刷の便を考えて、現行の字体に改めた。
- 一、踊字は、漢字・平仮名ともに底本に従って翻字した。
- 一、底本の破損等で筆画のすべてが残っていないものは「」に包んで示した。判読しがたい箇所は、字数相当分の 〃 で表示した。
- 一、底本においてミセケチ、顛倒符等の施されている箇所は、訂正後の本文に従った。
- 一、文意理解の便宜上、私に句読点・引用符・濁点等を付けた。
- 一、底本の誤脱と判断せられる場合、次のように補った。

例、三ゐ・きみは(一一オ5ゝ6)

翻字に際して、市古貞次・三角洋一編『鎌倉時代物語集成一』(昭和六十三年、笠間書院)、大槻脩『あさぢが露の研究』(昭和四十九年、桜楓社)、福田百合子・鈴木一雄・伊藤博・石碯敬子校訂・訳『中世王朝物語全集1 あさぢり・浅茅が露』(平成十一年、笠間書院)を参考にした。

本PDFでは、翻字本文は省略に従いました。右記、影印本他を御参照ください。

自立語索引篇

自立語索引篇凡例

- 一、この索引はあざびが露に用いられている総ての語のうち自立語を、翻字本文に基づいて収載したものである。
- 一、自立語と付属語との区別について、問題のある語等は左のように処理した。
 - 1、「る」「さる」「す」「さす」及び「まほし」「ことし」は、助動詞として扱い、付属語とした。
 - 2、「むず」は一語と扱い、付属語とした。但し、「むとす」「む」「と」「す」の三語に分けて、「む」「と」は付属語とし、「す」のみ収めた。
 - 3、接尾語は、収載し、見出しに掲げたが、用例は、そこに示さず、その接尾語によって構成された単語の項に掲げ、その単語をそれぞれ参照できるようにした。
 - 4、「この」「その」「わが」等の連体修飾語としての用法は、一語と扱って、連体詞として収めた。
 - 5、「きこえさす」「きこゆ」「たてまつる」「たまふ」「まつす」等の補助動詞の用法のものは収載した。また、その用法がわかるように用例は上接語を含めて掲げた。
- 6、所謂形容動詞は一語として認め、収載した。
 - 一、見出し語は平仮名で歴史的仮名遣によって統一し、排列は最終音節までの五十音順とした。字音語は字音仮名遣によることを原則としたが、仮名の直音表記のみのものはそれを尊重した。
 - 見出し語には原則として品詞名は記さないが、他と弁別を要するものについては、《 》に包んで記した所がある。活用語の活用形式やその他についても同様に処理した。
 - 一、見出し語の排列のうち、「つ」「つづ」「つづつ」「つづつづ」「つづつづつ」「つづつづつづ」は、ア行に排列した。
 - 一、見出し語は単語を原則とする。接尾語、複合語の下位要素からも検索できるように参照項目を設けた。
 - 一、単語の認定について、動作性の漢語にサ変動詞「す」の付いた形は、一語と扱って収載した。この場合、「す」の項目からも、それぞれの漢語サ変動詞を参照できるようにした。
 - 一、見出し語の字音仮名遣については、当時の音価と表記とを考え左に従った。
 - 1、合拗音は「くわ」「くゑ」「くゑい」で表し、「これ」か「け」と区別する。
 - 2、鼻音の「ん」と「ん」を区別し、それぞれ「む」と「ん」の表記に従つ。その排列は「む」「ん」をマ行に排列せず、「フ」行の次の「ん」「ん」と同じ位置に排列する。
 - 3、「ん」中「ん」の類は「ち」「つ」「ぢ」「つ」とする。
 - 一、見出し語には、意味識別の便宜上、その意味に当たると考えられる現行の漢字を宛てた。
 - 一、漢字の読み方は概ね左の基準に従った。

1、「侍」(動詞・補助動詞)、「御」(接頭語)については、底本に仮名書きのある場合はそれにより、仮名書きのないものについては原則として「はべり」「おほむ」に統一した。

2、官職名で人物を指す場合には、原則として音読した。

3、年、月、日は原則として音読した。但し、「ついたち、ふつか、なぬか、やうか、とをか」を除く。年齢についても原則として音読した。但し、「よつ、いつつ、むつ、とを、はたち」を除く。

一、用例は、一文節を底本の表記に従って示した。但し、補助動詞はその上接語(又は語句)を示すことを原則とした。

一、用例の排列は出現順とした。同一単語であつて、用例の表記が全く同じ場合には、初出の例の下にまとめて示し、再出例以下のものはその所在の位置を示すのみとする。

一、用例の所在は、丁数を漢数字で、丁の表・裏をオ・ウで、行数をアラビア数字で示した。

例、あか 七八ウ¹⁵……「あか(闕伽)」の語頭が第七十八丁裏十五行目にあることを示す。

一、和歌に用いられている語については、他と区別するために所在の後に*を付けて示した。

一、和歌等における掛詞については、何との掛詞であるかを注記して、それぞれの項目に重複して掲げた。

一、活用語については、左に従う。

1、終止形を見出しとする。

2、一語一文節を構成する場合、「中止法」「連体法」「ぞ」の結び「こや」の結び「よ」のように用法を注記する。

作成者

松本光隆、安藤陽子、磯貝淳一、茨木佑子、岡陽子、榎本由紀、岸野大、高津佐可奈子、佐々木映美、関根紗絵、世羅恵巳、永松寛明、西祐一朗、西村幸恵、野村沙世、橋村勝明、花房千春、早川陽子、松元仁美、森岡信幸、渡邊一志

あ

あ(彼)

あは 八二ウ 12

あいしもつ(愛持)

あいしもち給し(連用法) 六四才 10

あいす(愛) ↓いだきあいす

あか(關伽)

あか 七八ウ 15

あかし(明)《名詞》 ↓めあかしども

あかし(明)《形容詞》

あかき(連体法) 一三才 7

あかく(連用法) 二七ウ 7・二八才 9・三三

ウ 6

あかしくらす(明暮)

あかしくらしける 四九才 10

あかしくらし給ふ

あかしはつ(明果)

あかしはて給へる 三二ウ 9

あかしはてぬに 五七才 3

あかす(明) ↓おもひあかす・ならひあかす

あかし待ぬべきを

あかし給つゝ 四四才 13

あかし侍りき

あかだな(關伽棚)

あかだなゝど 四九ウ 4

あかだなを 七八ウ 13

あかつき(曉)

あか月の 一四ウ 9 *・三二ウ 1 *

あか月 四八ウ 12・五九才 1・八〇才 6・八

二ウ 10・八三才 4

あか月なども 四九ウ 16

あか月に 六二ウ 5

あかつきがた(曉方) 暁 六八ウ 14・七二ウ 12・七三才 3・七六ウ 9

あかづきがた

あか月がたに 四六ウ 10

あからさまなり

あからさまに(連用法)

あからさまにと 七三才 3

あがる(上) ↓おきあがる・おもひあがる

あがり給はず 八六才 14

あき(秋) 一五才 8

秋の 一才 11 * 《飽く》との掛詞

秋ばかりにやと 二才 3

秋は 一一ウ 8

あきらむ(明) ↓ききあきらむ

あきる(飽)

あきれたる 二八才 13

あきれまどふ(飽惑)

あきれまどひたりつる

あきれまどいて 三二ウ 4

あきれまどいて 六〇才 9

あきれまどふ(連体法) 六二才 12

あく(飽)

秋 一才 11 * 《秋》との掛詞

あかぬ 四才 3・一四才 14・二四才 11・三〇

才 3 * 《明く》との掛詞・八五才 9

あかなく 四二才 12

あく(明)

あくる(連体法) 一四才 14・八〇才 11・八七

ウ 8

あけぬれば 一五才 7

あけぬべき 一六ウ 11

あかぬ 三〇才 3 * 《飽く》との掛詞

あけぬる 三二ウ 14

あくるが 三三才 4

あけなんも 三三才 7

あけなん 三五才 3

あけぬ 六二才 11

あく(開) ↓おしあく・さしあく・とりあく・

ひきあく

あくるに 一六才 15

あくれば 一八ウ 5

あけ給へと 三六ウ 15

あくる(連体法) 三六ウ 16

あけさせて 三七才 4

あきたるより 四二才 5

あきたる 五九才 12

あきて		五九才13	あさからずさも	六七才14	あしき(連体法)	四九才13
あけて		六八ウ17	あさて(明後日)		あし(葦)	
あく(上) ↓うちあく・せきあく			あさて	四四才7	あしの	一七ウ12
あげなど	二八才8		あさはかなり(浅)		あし(脚) ↓おほむてあし・てあし	
あげて	五二ウ9		あさはかなるに	五一ウ6	あしも	七八才20
あくがる(懂)			あさまし(浅)		あしで(葦手)	
あくがれたまふ	五一才1		あさましう(連用法)	二二ウ12・六三才3・	あしでなどの	六四才2
あくがれたまふに	五一才7		六三ウ1		あす(明日) ↓けふあす	
あくがる(連体法)	六五才17		あさましかりつる	二八ウ16	あすの	四四才9
あくがれまさる(懂勝)			あさましく(中止法)	五八才7	あすばかりと	六七ウ15
あくがれまされば	一六才14		あさましく(連用法)	七二ウ7・七五才8	あすばかりもと	八七ウ10
あげ(上) ↓むねあげ			あさましき(連体法)	七三ウ11	あすか(飛鳥)	
あけくれ(明暗)			あさみ(浅)		あすかの	一九才3
あけぐれの	四ウ1		あさみにも	一三ウ12	あせ(汗)	
あけとほす(開通)			あさゆふ(朝夕)		あせと	二八才5
あけとをして	七八ウ14		あさ夕	四八ウ3・六四才10	あそこ(彼処)	
あけはつ(明果)			あさゆふに	七二才11・七七才14	あそこに	五五ウ10
あけはてぬ	八〇才15		あざり(阿闍梨) ↓なにがしのあざり		あそび(遊) ↓おほむあそび・おほむひなあそび	
あさし(浅)			あざり	四二才12・六〇才7	あそびなども	五三ウ4
あさからぬ	五ウ10・三三才11・八四才10		あざりの	六〇才3	あそびたはぶれ(遊戯)	
あさからで	九ウ12・二〇ウ7		あさぬの	三一ウ1	あそびたはぶれの	七九ウ14
あさからず	六三ウ4		あし(悪)		あそぶ(遊) ↓もてあそぶ	
あさからねば	六五ウ7		あしう(連用法)	一五才11	あそびて	四四ウ2
あさからずながら	六七才8		あしく(連用法)	二八ウ1	あそび侍つるに	四五ウ17
あさからざりけると	六七才16		あしくもぞ	四四才9	あだな(渾名)	

あだなをも	五八ウ 11	あづまうどの	六八ウ 19	あとほかななくて	八五才 14
あたふ(能)		あづまえびすが		あな	
あたはぬ	八二ウ 2	あづまびと(東人)	八〇ウ 13	あな	二五ウ 14・五六才 15
あたら(惜)		あづま人も	七二ウ 9	あない(案内) ↓あんない	
あたら	七〇ウ 9	あづま人の	七二ウ 9	あない	五四ウ 9
あたらし(新)		あつむ(集) ↓かきあつむ・とりあつむ	七二ウ 19	あながちなり(強)	
あたらしき(連体法)	三〇才 13	あつらふ(詠)		あながちに(連用法) 一二才 12・一五才 1	
あたらしきも	六四才 3	あつらへたりけるなり	五八才 2	あなた(彼方)	
あたらし(惜)		あて(当) ↓おしあて		あなた	五三ウ 9
あたらしかるべし	三五才 14	あて(貴)		あなた	六五才 13
あたり(辺) ↓おほむあたり		あて二六才 8 《各書》「あてに」の「に」の脱とする		あなづる(侮) ↓おほしあなづる	
あたりは	三七ウ 11	あてやかなりける		あなづりおぼす(侮思)	
あたりに	五三才 8・八一才 3	あてやかなりける(貴)		あなづりおぼしつらんと	二九才 2
あたりをのみ	六四ウ 14	あと(跡) ↓おほむあとども		あに(兄)	
辺の	七〇ウ 15	あとの	七七才 8	あにゝ	二三才 12
あたる(当) ↓さしあたる		あと(後) ↓おほむあとまくら		あね(姉)	
あたり給はず	四八才 14	あとを	一一三ウ 1	あねなれども	七五才 12
あつかひ(扱) ↓おほむあつかひ		あとかたなし(跡形無)	一一三才 6*・八〇ウ 3	あねぎみ(姉君)	
あつかふ(扱) ↓もてあつかふ		あとかたなく(連用法)		あねぎみも	五四ウ 19
あつかひきこゆ	三九ウ 9・三九ウ 12	あとたゆ(跡絶)	六九才 10	あはす(合) ↓いひあはす・おもひあはす・か	
あつかひたてまつる	六一ウ 1	あとたえて侍りつるに	六九ウ 14	きあはす・ききあはす・きこえあはす・ふ	
あづく(預)		あととむ(跡留)		きあはす	
あづけて	八五ウ 3	あとゝむべうこそ	七八才 13	あはすべき	三八才 7
あつし(暑)		あとほかなし(跡計無)		あはせば	四六ウ 6
あつく(連用法)	四〇ウ 5			あはせ(合) ↓かきあはせ	
あづまうど(東人)				あはただし(慌)	

あはたゝしく(中止法) 一七才4
 あはたゝしき(連体法) 三〇才4
 あはれ(哀) 七八才5
 あはれ 二才9・二〇才7・三二才4・六七才8・六八才8
 あはれを 四ウ3・七六ウ16
 あはれと 六才1・六三ウ2
 あはれをも 一三ウ1・一六才8
 あはれとも 一八才14*・三八ウ13・六〇ウ15
 あはれの 八七才12
 あはれこそと 八七ウ2
 あはれさ(哀) 六八ウ5
 あはれさ 六八ウ5
 あはれなり(哀) ↓ものあはれなり
 あはれに(連用法) 一才7・一〇才12・三九ウ4・六一才5・六一才11・六一ウ20・六四才7・七〇才4・七〇才12・七二ウ3・七六ウ2・七六ウ11・七八ウ4・八一ウ20・八四才8
 あ「は」れに(連用法) 五才12
 あはれなるまで 一〇ウ1
 あはれにのみ 一六才9
 あはれなりける 二二ウ3・三八ウ10
 あはれに(中止法) 二二才5・七四ウ13
 あはれにぞ 三二ウ11・三三ウ4
 あはれにて 五四才14
 あはれにこそ 五四才15・七三才1
 あはれなり(終止法) 五九ウ18・六一ウ16・七八才5
 あはれなるに 五九ウ19
 あはれなる(連体法) 六四才3・七〇ウ16・八八ウ7
 あはれなりし 六七才17
 あはれにも 七七才11
 あはれなるべきを 八五才7
 あはれむ(哀) 六〇才16
 あはれみ給ぞと 六〇才16
 あひおもふ(相思) 五〇ウ9
 あひ思ひたりしに 五〇ウ9
 あひしらふ 三六ウ5
 あいしらふ(連体法) 三六ウ5
 あひたすく(相助) 八〇才19
 あひたすけ(中止法) 八〇才19
 あひなし 六五ウ10
 あいなしなど 六五ウ10
 あひみる(相見) 五二ウ13*
 あひみんと 五二ウ13*
 あふ(合) ↓いひあふ・おとしあふ・おぼしあふ・ひぎあふ・みあふ・めであふ
 あふ ↓しづめあふ・しのびあふ・ちあふ・つつみあふ・とりあふ
 あふ(逢・会・遇) ↓たづねあふ・めぐりあふ・ゆきあふ
 あふ(連体法) 一二ウ8 《近江道》との掛詞・一四ウ12*
 あひたり 三七才5
 あへるは 三七ウ12
 あいたる 四四才16
 あいたるに 五九才9
 あい侍らんの 八〇ウ7
 あひたてまつりてより 八一才19
 あひたりしに 八四才13
 あふぎ(扇) 五九ウ11
 あふぎを 五九ウ11
 あふせ(逢瀬) 一一ウ10
 あふせもやと 一一ウ10
 あふみぢ(近江道) 一一ウ8 《逢ふ道》との掛詞
 あふみぢの(近江道) 五四ウ14
 あふみ殿ゝ 五四ウ14
 あふみどのは 五四ウ15
 あへなし(敢無) 三三ウ14
 あへなからん 五三ウ4
 あへなく(連用法) 一八ウ8
 あま(海人) 一八ウ8
 あまも 一八ウ8
 あま(尼) ↓かうやのあま

あまに	五四才 8	あまりにやと	一七才 3	あやしとや	五〇才 14
あまの	六八ウ 21	あまりこそ	五五才 16	あやしくなん	五八才 11
あまが	七三才 4	あまりなり(余)		あやしかりつる	五八才 14
あまうへ(尼上)		あまりに	六ウ 5・二六才 7	あやしく(中止法)	六一才 8
あまうへの	五二才 8・八六才 13	あまる(余) ↓おもひあまる		あやし(「なむ」の結び)	八二才 17
あまうゑ	五五才 8	あまりて	九ウ 7	あやしげなり(怪)	五二才 11
あま上も	六三ウ 18	あまりはんべらぬ	七〇才 9	あやしげなる	
あまうへに	八八ウ 1	あまる(連体法)	七七才 5	あやなさ(綾無)	
あまかける(天翔)		あまりたる	八〇ウ 6	あやなさに	一九才 7*
あまかけりても	二二才 8	あめかぜ(雨風)		あやにくなり(生憎)	
あまがつ(天兒)		雨かぜの	五ウ 8	あやにくに	三八才 2
あまがつ	六八才 5	あやし(怪)		あやにくにて	五二ウ 16
あまぎみ(尼君) ↓おほむあまぎみ		あやしく(連用法) 五ウ 5・五三才 16・五八才 4・六〇ウ 6・六一ウ 4・六四才 12・六才 1・八二才 10・八二才 18		あやふし(危)	一一ウ 5
あま君にや	六九ウ 5	あやしくて一八ウ 3・二七ウ 1・三三ウ 10・五七ウ 16・六五ウ 19・八三ウ 8		あやうく(連体法)	
あま君は	七四才 16・八八才 7	あやしき(連体法) 二〇才 10・四四才 4・四九ウ 4・五一才 9・五二ウ 8・五三才 13・六五ウ 11・六六才 16・七四才 19		あやまち(過)	一七才 12
あま君の	七六ウ 9・八三ウ 1	あやし(ながら)	三六ウ 3・五〇才 3	あやめ(綾目)	
あま君に	七七才 6・八四才 12	あやしながら	三六ウ 7	あゆみ(歩)	七ウ 2
あま君にも	七八才 16	あやしう(連用法)	四〇ウ 17・八七ウ 3	あゆみのみ	四九ウ 12
あま君	七八ウ 15	あやしと	四二才 11	あらがふべくも	
あま君も	八八ウ 14	あやしと	四二才 11	あらがふべくも	五八才 14
あまた(数多) ↓ひくてあまた		あやし(終止法)	四六才 11	あらし(嵐) ↓やまあらし	
あまた八才 12・九ウ 1・三七才 10・六八ウ 15				あらし(荒)	
・六九ウ 2				あらし(連体法)	五ウ 8
あまり(余)				あらしのやま(嵐山)	
あまりに	六ウ 6・五五ウ 3				
あまりにや	一一ウ 1				

あらしのやまの 六二ウ 7
 あらそふ(争) ↓とりあらそふ
 あらたむ(改) 一四オ 11
 あらためて 一四オ 11
 あらため給べき 二四オ 8
 あらはし(顕) ↓ところあらはし
 あらはす(表) ↓みききあらはす 二二ウ 7
 あらはして 八一ウ 2
 あらはし給 七六オ 6
 あらはる(現) 八一ウ 5
 あらはれ給たるかと
 あらはれ給 七六オ 6
 あり(有) ↓ともあれかくもあれ
 あれば 一オ 9・六五オ 15・六六オ 20*・八三ウ 18
 ありつる 三ウ 11・二七オ 6・二八オ 1・二八ウ 3・三三ウ 11・三六オ 13・三七ウ 4・五七ウ 5・八二オ 9
 あらばなど 五ウ 2
 あらず 七オ 9・一五ウ 16・一九オ 5・二六オ 6・四〇ウ 3・四五オ 10・四九オ 3・六七オ 8・七九オ 11
 ありしかば 一一ウ 9
 あり(終止法) 一三オ 3・二四ウ 1・二五オ 7・三九オ 2・四〇オ 10・五二ウ 10・五六ウ 17・五九ウ 8・六一オ 18・六二ウ 11・六二ウ 17・六六オ 17・七八ウ 15・七九ウ 7
 ありしかど 一三オ 4
 あり(中止法) 一三ウ 3・三九ウ 14
 あらぬ 一三ウ 4・一六オ 10・二二オ 14・六三ウ 10・八四ウ 4
 あらん 一三ウ 10・一五オ 13・三五オ 12・三九オ 3・四〇ウ 11・四二ウ 10・五〇ウ 1・六〇ウ 18・六三オ 10
 あらまし給 一三ウ 14・五八オ 8
 あらましを 一三ウ 14
 あるに 一七オ 10・三八ウ 7
 ある(連体法) 一七オ 12・二四オ 5・二四オ 14・五五ウ 15・五七ウ 14・五九ウ 7・六〇オ 9・八四ウ 11
 あるを 一七オ 16・一九オ 9・二五ウ 8・三三オ 6・五八オ 11
 ありけれと 一八ウ 14
 あんなるをと 二一オ 14
 あるべき 二一ウ 10・三八オ 4・五八ウ 14・六〇ウ 2・七五オ 17・七六オ 17・七九オ 5・八五ウ 3
 ありしより 二一ウ 11
 あらで 一三三オ 1・二七オ 12・三三オ 4*
 あらじかし 二二オ 4
 あるべし 二五ウ 3・五二ウ 15
 あらんと 二二オ 2・三三オ 7・五二オ 13・五二ウ 5・七五ウ 15
 あるか 二七オ 7・六六ウ 14
 あると(「や」の結び) 二八ウ 13
 あらじを 二八ウ 16・六八ウ 12
 あるにも 三三オ 4*
 あらまし 三三オ 9
 ありつらん 三三ウ 17・六〇ウ 10
 ありしに 二四オ 2
 ありて 三三オ 14・四一ウ 4・六〇ウ 4・七九ウ 6・七九ウ 8・八三ウ 6・八三ウ 14
 ありと 三三ウ 10・六七ウ 7・七八ウ 9・八一オ 16・八三ウ 4
 あるにや「と」 三六ウ 2
 あるべくも 三七オ 7
 ある 三七オ 10
 ありてなん 三七オ 11
 ありぬべく 三七ウ 14
 あらぬに 三八ウ 15
 ありし 三九ウ 9・四〇オ 1・五〇オ 2・五〇オ 16・五一オ 11・五八オ 7・六四オ 5・六六ウ 16・七六ウ 14・七九オ 4
 あるにや 三九ウ 13
 ありけん 四〇ウ 3・五四ウ 4・六七オ 10・七一オ 5
 あるべからん 四二ウ 13
 ある(「ぞ」の結び) 四四オ 9・六六ウ 16

あるは	四四ウ 3	あるらんに	六四ウ 19	りさま	
ありつらんものを	四六ウ 14	あらんこそ	六四ウ 7	ありさまに	七ウ 13・八五ウ 5
あるべきにや	四六ウ 6	あるべきなんど	六五ウ 7	ありさま	一六ウ 9・二八ウ 4・二九ウ 1・
ありとも 四六ウ 9・七三ウ 19・七四ウ 8・		あらんとて	六五ウ 16	三三ウ 1・三三ウ 11・四六ウ 9・五六ウ 15	
八七ウ 3		あるらんとばかり	六七ウ 12	・五七ウ 5・五九ウ 12・六一ウ 1・六一ウ	
ありとばかりも	四七ウ 12*	あらじと	七五ウ 1	17・七五ウ 13・七九ウ 7・八〇ウ 12	
あるまじき	五四ウ 15	あるまじきほど	七五ウ 15	ありさまなれば	二八ウ 7・七四ウ 15
ありけるを	五五ウ 7	ありとだに	七八ウ 10	ありさまばかりを	二九ウ 6
あらんに	五六ウ 2	ありながら	七九ウ 17	ありさまにも	二九ウ 4
ある(終止法)	五八ウ 1	ありつるに	八六ウ 16	ありさまなるを	三〇ウ 1
ありしかども	五八ウ 2	「あ」るべきならねば	八八ウ 18	ありさまを 三三ウ 13・四二ウ 3・八五ウ 1	
あるが 五九ウ 13・六二ウ 13・六八ウ 16		ありあけのつき(有明月)	一四ウ 16	ありさまとても	三八ウ 11
あるぞと	五九ウ 2	ありあけの月の		ありさまも	五〇ウ 2・八八ウ 8
あらぬにやとまで	五九ウ 16	ありありて(在在)		ありさまをも	六七ウ 4
ありける	六〇ウ 14	あり	五六ウ 6	ありさまならぬを	八三ウ 15
あらざりつる	六〇ウ 9	ありがたし(有難)		ありさ「ま」	八七ウ 15
あらんになど	六〇ウ 9	ありがたき(連体法) 三三ウ 4・六〇ウ 15・		ありなし(有無)	
あらば 六〇ウ 12・六八ウ 11・七四ウ 20・八		六六ウ 16		ありなしだにも	七〇ウ 3
二ウ 4・八二ウ 5・八二ウ 6		ありがたくのみ	六五ウ 5	ありのままなり(有儘)	
あれ	六〇ウ 14・六〇ウ 14	ありく(歩) ↓いでありく・おこなひありく・		ありのまゝには	六七ウ 19
あらめ	六〇ウ 18	かよひありく・しありく・たたずみありく・		ある(或)	
あるまじく	六一ウ 5	たちまはりたたずみありく・はぶれありく・		ある	二五ウ 14
ありけるか	六一ウ 7	まかりありく・まぎれありく		あるじ(主)	
あるべきならねば	六一ウ 4・六八ウ 5	ありくを	五五ウ 12	あるじには	二五ウ 10
あるらんと	六三ウ 5	ありきたる	六二ウ 15	あるじと	二六ウ 12
あらずとて	六三ウ 8	ありさま(有様) ↓おほむありさま・ことこのあ		あるじの	二七ウ 13

い

あるじを	五四ウ 10		
あるじは	五五オ 1		
あるじも	五六オ 12		
あるじがほ(主顔)		い(意)	
あるじがほに	五一オ 16	意は	八二オ 3
あるじがほなる	五五ウ 13	いかが(如何)	
あるじのをむな(主女)		いかに(如何)	
あるじの女も	五〇オ 3	いかに(連用法)	六オ 8・一七オ 1・二九オ
あるじの女にも	六一オ 18	いかに(連用法)	六オ 8・一七オ 1・二九オ
あるじめく(主)		いかに(連用法)	六オ 8・一七オ 1・二九オ
あるじめきたるは	二五オ 8	いかに(連用法)	六オ 8・一七オ 1・二九オ
あれ(彼)		いかに(連用法)	六オ 8・一七オ 1・二九オ
あれえ	四三ウ 8	いかに(連用法)	六オ 8・一七オ 1・二九オ
あれに	四三ウ 12	いかに(連用法)	六オ 8・一七オ 1・二九オ
あれなりと	八二ウ 12	いかに(連用法)	六オ 8・一七オ 1・二九オ
あれはつ(荒果)		いかに(連用法)	六オ 8・一七オ 1・二九オ
あれはて(中止法)	五一オ 13	いかに(連用法)	六オ 8・一七オ 1・二九オ
あわ(泡)		いかに(連用法)	六オ 8・一七オ 1・二九オ
あはなどの	六二オ 13	いかに(連用法)	六オ 8・一七オ 1・二九オ
あんない(案内) ↓あない		いかに(連用法)	六オ 8・一七オ 1・二九オ
案内	八三ウ 11	いかに(連用法)	六オ 8・一七オ 1・二九オ
あんないし侍らんと	五四ウ 5	いかに(連用法)	六オ 8・一七オ 1・二九オ

いかならんと	三八才12・四四才14	いきとまる(生止)		いけやま(池山)	
いかなりしとだに	三八ウ9	いきとまるべくも	三八才16	いけやまの	五三才8
いか「なる」(連体法)	四〇ウ2	いきのした(息下)		いさぎよし(潔)	
いかならん	四四才6	いきのしたなり	二〇ウ15	いさぎよく(連用法)	七六才12
いかなりける	四六才11・四六才16	いきほひ(勢) ↓おほむいきほひ		いさむ(諫)	
いかならんとは	五五ウ1	いく(生)		いさめきこえ給て	七八ウ2
いかなりけるぞと	六八才12	いける(連体法)	二〇才16	いせ(伊勢)	
いかにいかに(如何如何)		いきて	二九才8	いせへ	二二ウ15
いかに と	四四ウ11・四一才7	いき給たらん	五二才8	いせのさいぐう(伊勢齋宮)	
いかに など	六〇ウ1	いきて侍りしかども	八〇才10	いせのさい宮に	五九ウ14
いかにも(如何)		いき給て	八一才8	いそがし(急)	
いかにも	五六ウ11	いきたらん	八六ウ4	ゝ(い)そがしく	九才10
いかばかり(如何許)		いくか(幾日)		いそがしく	二四ウ5
いかばかり	六二才2	いくかゝ	六〇ウ18	いそがしき	二八才6
いかばかりなる	六四才7	いくつ(幾)		いそがす(急)	
いかめし(厳)		いくつばかりに	六六才5	いそがしきこゆれば	三二ウ7
いかめしき(連体法)	四八ウ3	いくつにか	七〇才8	いそぎかへる(急帰)	
いかやうなり(如何様)		いくほど(幾程)		いそぎかへりて	四六才8
いかやうにか	八才11	いくほどの	三九才6	いそぎかへり給ぬ	五六ウ14
いかやうにて	三五才12	いくほどか	五一ウ16	いそぐ(急)	
いきいづ(生出)		いくよ(幾世)		いそぎ(連用法) 九才6・三七ウ1・四五才	
いきいで給ぬ	四一ウ5	いくよも	四ウ9	15・五七才9・六〇才4	
いきかた(行方)		いく世	七五才15	いそぎに	三〇ウ9・五七才9
いき方	八三才17	いけ(池)		いそぎて	四六才4
いきかへる(生返)		いけ	二二ウ5	いそがせ給へども	五一ウ11
いき帰給へかりける	八三才8	いけの	五二才15・六四ウ20	いそぐ(連体法)	六五才18

いそがれ侍るなど	八一才 11	いたゞきて	五九ウ 1	いつぞや 二五才 1・五六才 11・五八才 6・ 六三才 14
いそぎ給ける	八五才 10	いたづらなり(徒)	六ウ 7	いつより
いだきあいす(抱愛)	六七ウ 20	いたで(連用法)	八〇才 17	いつぞやも
みだきあいし給ふに	六七才 4	いたで	六一ウ 2	いつまで
いだきいだし給へる	六八才 11	いたはし(労)	五八ウ 1	いつまでとのみ
いだきいづ(抱出)	六三才 2	いたはしく(連用法)	五一才 12	いづ(出) ↓いきいづ・いだきいづ・いひいづ・ うちいづ・うちいでにくし・おきいづ・お ひいづ・おほしいづ・おもひいづ・ききい づ・くしいづ・さしいづ・しだりいづ・すす みいづ・たちいづ・たづねいづ・つくりい づ・とりいづ・ぬすみいづ・ひきつくるひ いでたづ・ふきいづ・ふりいづ・まかりい づ・みききいづ・むまれいづ・もていづ・も れいづ・やりいづ
いだく(抱) ↓かきいだく	二九ウ 2	いちでうおほみやわたり(一条大宮辺)	五八才 4	いで給ふ
いだきて	三〇才 7	いちでうのひやう部の大夫	五五才 7	いで給へば
いたし(甚)	六〇才 14	いちでうのひやうぶの大夫と	五八才 16	いでにけるにやと
いたく(連用法) 四ウ 10・六ウ 9・六八才 19 ・七七才 6	二四才 12	いちど(一度)	七二ウ 13	いで給ぬれば
いたくてとて	一四才 12	いちにち(一日)	四二ウ 13・四六才 15	いでぬと
いたき(連体法)	六八才 6	いちも	三三才 7	いでにけり
いたう(連用法)	七四ウ 15	いちににち(二二日)	三三才 7	いで給べき 二七才 5・三〇ウ 6・四八ウ 12
いだしいる(出入)	八八ウ 15	一二日も	一一ウ 11	いでなんずるにや
いだしたつ(出立)	八八ウ 15	いちほむのみや(一品宮)	一一ウ 11	いでさせ給やらむ
いだしたて給ひつ	八八ウ 15	一ほんのみや	一一ウ 11	いでをはしませかしこそ
いだしたて給	八八ウ 15	いつ(何時)	一一ウ 11	いでたまふ
いだしたてきこゆる物から	八八ウ 15			
いだす(出) ↓いだきいだす・さそひいだす・ みいだす	八八ウ 15			
いだしたてまつれば	四三才 12			
いたたく(戴)	四三才 12			

いで給ぬ	三〇ウ12・五三ウ2・五八ウ14・	いで給べきに	六八ウ15	いづことも	二四才10
六〇ウ5		いで給しを	七一ウ1	いつしか(何時)	
いでにければ		いで給なんす	七二ウ12	いつしか	二九ウ8・三五才3・七五ウ19
いでぬ	三四ウ15・四四ウ3	いでさせ給て	七二ウ15	いつしかの	五八才3
いで給て	三五才8	いでさせ給べきに	七三才4	いづち(何方)	
いでまして	三五ウ1	いつか(何時)	四五ウ15	いづちとも	四五ウ6
いでぬれば	三六才11	いつか		いづちと	五一才3
いでばやと	三七才6	いづかた(何方)		いつつ(五)	
いでゝ	三七ウ3・五三才14・五七才16・五	いづかたにか	一四才6	五	一〇才8
七ウ4・六三才11・六九ウ15・七二才15・		いづかたにも	二一才6	いつゝ	七〇ウ1
七九才9		いづかたの	四五才10・四五ウ2	いつも(何時)	
いで給なば	三七ウ7	いづかたに	四七才12*・七八才10	いつも	一六ウ1・一七才11・二四ウ6
いでさせ給へとのみ	四三ウ6	いづく(何処)		いづれ(何)	
いでさせ給なんすに	四四才16	いづくよりぞと	三四ウ11	いづれも	三ウ6
いでたり	四五ウ13	いづくよりぞなど	三六ウ14	いづれか	二〇才13
いで給はんと	四七才2	いづくとも	四三ウ8・五一才7・五六才14	いづれにても	二三ウ11・三四才11
いで侍にきと	四九才1	いづくを	四七才9・八二ウ11・八二ウ16	いづれの	五四才14・七八才3
いできこえけん	五〇ウ17	いづく	五四ウ2	いでありく(出歩)	
いで給に	五一才3	いづくよりも	六四ウ6	いでありき給をも	一九ウ14
いで給なんと	五三才2	いづくに	六七才11・六八才12・七〇ウ13・	いでいり(出入)	
いでなんと	五七才4・六三ウ12	八〇ウ3・八七才13		いでいりの	三七ウ14
いでたるに	五七才5	いづくの	六七ウ13	いで入など	五九才13
いづるを	五七才10	いづくも	六九才10	いでいりす(出入)	
いで侍なりと	五九ウ4	いづくにてか	八一才12	いで入する(連体法)	六〇才6
いでぬる	六三ウ17	いづくにも	八三才15	いでいる(出入)	
いで給ひぬ	六六才11	いづこ(何処) ↓いづく		いで入給に	一三ウ15

いでおはず(出御座)

いではしたりしかども

いでがたし(出難)

いでがたく(連用法)

いでく(出来)

いできて 三五ウ16・三七オ2・六一オ3・

八八オ15

いできけるに

いでたつ(出立)

いでたち給

いでや

いでや 五一ウ11

いと(糸)

いとなど

いと(最)

いとニオ8・三オ7・三オ10・二ニオ4・

一五ウ7・一六ウ2・一八ウ2・一九ウ17

・二ニオ13・二ニウ14・二ニオ14・二ニウ

10・二五オ12・二五オ13・二五オ15・二六

ウ6・二八オ13・三一オ11・三ニウ3・三

三ウ5・三三ウ17・三四オ6・三四オ10・

三七ウ16・三七ウ17・三九ウ1・三九ウ10

・四四ウ8・四五オ5・四六ウ11・四七ウ

4・四九ウ7・五〇オ1・五一ウ6・五一

ウ7・五ニオ4・五ニオ13・五ニウ6・五

四オ4・五五オ2・五五ウ9・五六オ14・

五六オ17・五六ウ18・五七オ10・五七ウ6

・五八オ2・五八オ10・五八オ11・五九ウ

8・六〇オ6・六〇オ14・六一オ5・六一

オ15・六一オ17・六一ウ9・六一ウ16・六

三オ1・六四オ2・六四オ6・六四オ14・

六四ウ6・六四ウ15・六五オ7・六五ウ14

・六七オ4・六七ウ14・六八オ19・六八ウ

2・六八ウ20・七二ウ18・七三オ13・七六

ウ1・七八オ5・七八オ11・七八オ14・七

八ウ17・七九オ12・七九オ20・八二オ17・

八二ウ1・八三ウ17・八七ウ2・八七ウ7

・八七ウ11・八八ウ5・八八ウ7

いとけなし(幼)

いとけなくより

いとこ(従兄弟) ↓おほむいとごどし

いとど

いとど 一〇オ5・一六ウ5・一六ウ13・一

九オ14・二八ウ10・四二ウ7・四四ウ17・

四五オ4・四八ウ4・五八オ17・五九ウ19

・六五オ10

いとなみ(営)

いとなみにやとぞ

いとなみくらす(営暮)

いとなみくらしたる

いとなむ(営)

いとなむに

いとはし(厭)

いとはしかりつる

いとはしく(連用法)

いとふ(厭)

いとふ

いとほし(愛)

いとをしく(連用法)

いとをしくて

いとをしう(中止法)

いとをしう(連用法)

いとをしかりぬべき

いとをしく(中止法)

いとをし(終止法)

いとをしからめと

いとほしかりぬべくなぞ

いとま(暇) ↓おほむいとま

いとま

いどまし(挑)

いどましき(連体法)

いとまなさ(暇無)

いとまなさに

いななぶ(田舎)

いななびたる

いななび(辞)

いなび(連用法)

いぬ(往)

六一ウ8
六一ウ21
七九オ17

七九オ17

一七オ3
一七オ16

一七オ16

一九オ3
二九ウ15

二九ウ15

三〇オ15
三五ウ4

三五ウ4

四七ウ8

四七ウ8

七二ウ16

七二ウ16

三四オ3

いぬるぞと	二六ウ 11	いひあはず(終止法)	二八ウ 4	いひなす(言做)	
いぬ(犬)		いひあふ(言合)		いひなして	四三才 1・四六才 12
いぬの	四九ウ 8	いひあへり	二八才 10	いひまぎらはず(言紛)	
いぬ	七九ウ 16	いひあへるも	五六才 11	いひまぎらはずべき	三三ウ 12
いのち(命) ↓おほむいのち		いひあへる(中止法)	五六才 15	いひまぎらはして	三四ウ 14
いのちもがなと	一九ウ 3	いひいづ(言出)		いひもてゆく(言)	
いのちなると	二二才 15	いひいでゝ	六四才 17	いひもてゆけば	一七ウ 11
いのちも	四二ウ 14	いひいでまし	六五ウ 6	いひやる(言遣)	
いのちの	六二才 6	いひいづる(連体法)	七八才 10	いひやらす	七五才 4
いのち	七二才 12・七四ウ 20	いひおく(言置)		いふ(言)	
いのちばかりは	八〇才 10	いひをき給しに	一四才 9	いゑとて	一ウ 8
いのちこそ	八六才 5	いひをかす	三九才 5	いふなれば	四才 6・五二ウ 3
いのり(祈) ↓おほむいのりす		いひをき給し	三九ウ 8	いふなる	四才 10・三一才 8・七四才 11
いのりをさへ	二二ウ 7	いひをきて	六〇ウ 5	いはれしかど	六才 11
いのる(祈)		いひしらす(言知)		いはれけん	六ウ 2
いのり(中止法)	三五才 10	いひしらせてこそは	四二ウ 7	いはれ給しかば	一二ウ 14
いのりて	四六ウ 9・七三才 18	いひしらせ給	六一才 1	いひて	一五才 14・二五ウ 6・二七ウ 13・三
いのり給けん	五三ウ 18	いひしる(言知)		七才 5・四〇才 8・四一才 2・四二ウ 3・	
いのり給に	六八ウ 13	いひしらす 三ウ 6・六才 6・一〇ウ 2・四		四四才 10・四四ウ 2・五三才 4・五七才 4	
いのり給	七二ウ 5	九才 7・六四才 13		・五七才 9・六〇才 4・六三才 1・六三ウ	
いのり申つる	八五ウ 6・八八才 13	いひしらぬ	四一ウ 11	9・八八才 16	
いはぶ(祝)		いひつぐ(言告)		いふ(終止法) 一五ウ 1・五四ウ 10・五五才	
いはぶ(連体法)	三五才 10	いひつげゝる	五〇ウ 19	1	
いひあはず(言合)		いひつづく(言続)		いふめれば	二五ウ 4
いひあはずべき 二八ウ 3・四二才 13・六一		いひつゞけ(中止法)	一六ウ 7	いふと「か」の結び	二七ウ 4
ウ 13・六二才 16		いひつゞけて	三四才 13・七八才 4	いへども 三三才 6・三三ウ 8・三八才 12・	

四六ウ5
 いはずれば 三三ウ10
 いふを 三四オ15・三七オ3・四六ウ14・五
 二オ11・五三ウ17・六三オ12
 いふ(連体法) 三四ウ3・四五オ1・四五ウ
 10・四九ウ7・五五オ6・五六オ3・六二
 オ8・六三オ13・六三オ15・六三オ17・六
 五ウ1・六七ウ16・六九ウ4・七一ウ18・
 七三オ11・七八オ10
 いへば 三四ウ11・三四ウ13・三六オ4・三
 七オ1・三七オ4・三七オ12・四三オ9・
 四三オ11・四四オ16・四五ウ11・五一ウ13
 ・五一ウ17・五二オ3・五四ウ1・五四ウ
 15・五四ウ19・五五オ11・六三オ8・六八
 ウ2・七〇オ8・七三オ1・七三ウ15
 いひたり 三四ウ11
 いはんにと 三五ウ9
 いふべきなど 三五ウ15
 いはするも 三六オ12
 いはんと 三六オ13
 いへど 三六ウ15
 いふべき 三七オ8・三七ウ3
 いひつれば 三七ウ2
 いひながら 三九ウ4・六八オ2・六八オ16
 「いふ」に 四一ウ2
 いふに 四三オ2・四四オ6・四五ウ9・四

五ウ16・五〇オ7・五八ウ5・五九ウ4・
 六二ウ1・八三ウ5
 いはまし 四五オ2
 いはまじと 四五オ2
 いはず 四八オ12
 いひければ 四九オ1・七五オ18
 いひつる 五二ウ17
 いひし 五五オ12
 いはれ給はず 五六オ16
 いはせたれば 六一オ4
 いふにやと 六一オ8
 いふなり 七二ウ16
 いゝて 七三オ12
 いはれし 七五オ7
 いひけり 七五ウ11
 いゝ(中止法) 七九ウ18
 いふかひなし(言甲斐無) 七九ウ18
 いふかひなき(連体法) 三四ウ1・三八ウ1
 いふかひなく(連用法) 七七ウ1
 いぶせさ(燻) 七七ウ1
 いぶせさの 七二ウ11
 いへ(家) 七二ウ11
 いゑは 二四ウ2
 いゑの 二四ウ8・三七オ7
 いゑに 五一ウ1
 いゑなれど 五五オ5

いゑも 六四オ5
 いへの 六六オ17
 いへち(家路) 四ウ2
 いゑぢ
 いま(今) ↓ くだいま
 いまは 四オ9・四ウ8・二二ウ6・一八オ5
 ・二〇ウ13・二二ウ7・二六オ12・四七オ
 9・四八オ2・四九オ13・四九ウ11・五一
 ウ3・五八ウ2・六〇ウ1・六四ウ1・六
 八オ3・六八ウ7・六九オ5・七四オ11・
 七四ウ2・七四ウ10・七六オ19・八五ウ2
 ・八八オ18
 いま 四オ11・九オ6・三〇ウ1・三一オ8・
 三四オ4・三八オ6・四〇ウ15・四二オ8
 ・四二ウ13・四六オ8・四六オ15・五一ウ
 16・五四ウ5・五六オ2・六〇ウ3・六〇
 ウ18・六六オ7・六七ウ15・七〇オ16・七
 二ウ13・七五オ11・七五オ15・七七オ19・
 七八ウ10
 いまなん 二二ウ5・八五ウ11
 いまも 二二ウ11・二三ウ6・七五オ4
 いまぞ 二七オ14・四一オ3・四七オ7
 いまより 二七ウ2・六一オ15・六八ウ3
 いまの 二九ウ16・五二オ6・五七オ12*・
 七一オ3・七一ウ16
 いまゝで 三三ウ15

いまよりは	四二才12・七八才5	いみじと	二二才7	ねいる・とりいる・なきいる・ねいる・まぎ
いまこそ	六七才15	いみじきを	二二ウ6	れいる・めしいる・よびいる
いま「は」	七四ウ20	いみじからんにても	三四才5	いり侍ぬ
いまにても	八六ウ18	いみじき(連体法)	五四ウ18	入給ぬるに
いますこし(今少)		いみじきに	五五才14	いりぬるに
いますこし	五五ウ14	いみじく(連用法)	七二才1・八一ウ12	いり給ぬるを
いまだ(未)		いもうと(妹) ↓おほむいもうと		入や
いまだ九才4・九才10・一一才7・一四ウ7		いもうとにやと	五六才3	入給はず
・二一才9・二四才1・二八才11・三七ウ		いもうとぎみ(妹君)		入たまふ
17・三八ウ14・四七ウ16・五四才9・五五		いもうとぎみの	五五才13	いり給はでぞ
ウ17・五七才17・七〇才14・七七才12・七		いもうとのきみに	五八才2	入給たるに
七ウ20・七九才16・八〇ウ6		いよいよ(愈)		いるべき
いまに(今)		いよ	四ウ7・一〇才12・六一才13	入て
いまに	二〇才12	いらふ(応)		入ぬるに
いまに	八五ウ7	いらゑきこうべき	二七ウ6	いり侍ぬと
いまの関白と	七三才2	いられがまし(焦)		入給はねば
いまひときは(今一際)		いられがましう	六才2	入給て
いま一きはも	一四才2	いり(入) ↓いでいりす		入たてまつれば
いま一きは	三三才11	入かたに	三ウ7	入たまひしは
いまひとしほ(今一人)		いる(入)《四段》 ↓いだしいる・いでいる・う		入給
いま一しほ	三二ウ6・七六ウ17	ちいる・おちいる・おぼしいる・おほしめ		いる(入)《下二段》 ↓みいる
いまやいまや(今今)		しいる・おもひいる・きえいる・きぎいる・		いれて
いまや と	一五才6	くちいれにくし・うらむじいる・おしいる・		いれ給はず
いみじ		しづみいる・すべりいる・たえいる・たづ		いれまいらせ給へと
いみじかりし	二才10			いる(射)
				いるを

いれ(入) ↓まうしいれども
いろ(色)

色をも 六ウ5

いろ 一四オ6・三二ウ16・四〇オ5・五三

ウ16・七六ウ17

いろをだに 一四オ10

色を 一四オ11・五二オ7

いろも 一五オ2

いろや 一七オ12

色に 一七ウ13

いろと 四五オ10

色 五二オ13

いろいろ(色色) ↓さまざまいろいろなり

いろの 一五ウ10

色々 三三ウ16

いろなり(色)

いろなる 一〇ウ10

いろふかし(色深)

いろふかく(連用法) 五八オ10

う

う(得) ↓おほしう・こころう

うつ(植)

うえけん 五八ウ18

うきな(憂名)

うきなを

うきみ(憂身)

うき身

うき身とのみ

うき身には

うきめ(憂目)

う「き」めを

うきめは

うきよ(憂世)

うきよにこそ

うき世に

うく(受) ↓まちうく

うぐひす(驚) ↓はつうぐひす

うけたまはる(承)

うけ給はらぬ

うけ給はらんと

うけ給はらぬ

うけたまはるべきなど

うけ給はらじ

うけ給はらぬ

うけ給て 四八ウ17・七六ウ18・八一オ7

うけ給はりつる

うけ給はる(連体法)

うけ給しにも

うけ給しか「ば」

六〇ウ19・八六オ6

三二ウ2*

四一ウ7

五〇ウ6*

八六オ4

八六オ8

一八ウ14

八五オ13

二オ9

一五ウ5

一七オ5

一七オ9

三三ウ14

三七オ8

一六オ11・一八ウ12

一六ウ12

一六ウ12

一六ウ12

一六ウ12

一六ウ12

一六ウ12

一六ウ12

一六ウ12

一六ウ12

一六ウ12

うけ給はらず

うけ給しも

うけ給し

うけ給(連体法)

うけ給も

うけ給に

うけ給(連用法)

うけ給侍

うけひく(受引)

うけひきたまはざりしかば

うけひく(連体法)

うごく(動)

うごきも

うさ(憂)

うさのみ

うさぎ(兎)

うさぎなどを

うし(憂) ↓こころうし・すぎうし・ものうし

うしと

うかりけり

うき(連体法) 二〇ウ2・六六ウ6*・六九

ウ9・七二オ12・七五ウ6

うきは

うしなふ(失) ↓みうしなふ

うしないてんと

うしろ(後)

七〇オ3

七〇オ12

七〇ウ6

七三ウ9・八四オ13

七三ウ10

七三ウ14

七三ウ14

七三ウ11

八一ウ17

三四オ2

五五オ14

二七ウ6

一九ウ17

七九ウ16

七九ウ16

七九ウ16

七九ウ16

七九ウ16

七九ウ16

七九ウ16

七九ウ16

七九ウ16

七九ウ16

七九ウ16

七九ウ16

七九ウ16

うしろを		五五ウ 18	うせにしかば		七一ウ 16	うたのじよう(雅楽允)	
うしろむ(後) ↓おもひうしろむ			うせにける	七二オ 1・八三ウ 7		うたのせうなるが	五七ウ 12
うしろめたさ(後)			うせ給しと	七二オ 4		うたよみ(歌詠)	
うしろめたさに	六一ウ 11*		うせ給にける	七二オ 14		うたよみなど	五四オ 10
うしろやすし(後安)			うせぬる	七五ウ 4		うち(打) ↓おほむごうち・つるつち	
うしろやすからぬ	七オ 12		うせにけむ	八七オ 10		うち(内)	
うしろやすくと	八ウ 8		うすみどり(薄縁)			うち	四ウ 8・二二ウ 3・五〇オ 9
うしろやすく(連用法)	四七ウ 11		うすみどりなる	五一ウ 10		うちも	七ウ 2・二六ウ 7・五〇オ 8
うす(失) ↓きえつす			うた(歌)			うちの	一一オ 13・三三オ 10・四六ウ 4
うせ給て	一〇オ 2・五五オ 8		うた	五一ウ 15		うちよりも	一三オ 12
うせ給ぬ	二三オ 8		うたなど	五七オ 10		うちに	一四ウ 10*・二七オ 7・三七オ 7・
うせなん	四三ウ 8		うだいしやう(右大将)			うちに	六〇オ 17・六一オ 16
うせ侍ぬなど	四四ウ 16		右大将	七三オ 5		うちに	
うせさせ給たるとて	四五ウ 7		うだいじんの(右大臣殿)			うちに	
うせ給ぬれば	四八オ 11		右大臣殿	一一オ 2		うちに	一九ウ 9
うせ給し	五一ウ 1		右大臣殿に	七一ウ 17		うちに	二九ウ 2
うせ給なん	五一ウ 3		うだいじんのおほむむすめ(右大臣御娘)			うちなる	三一ウ 7
うせ給たんなるに	五一ウ 17		右大臣の御むすめ	九ウ 8		うち	三二ウ 8
うせて	五二オ 2		うたがはし(疑)			うちには	三二ウ 14
うせ給ぬと	五二オ 11		うたがはしけれど	四九オ 6		うちより	四〇オ 2
うせ侍りて	五五オ 3・七五オ 11		うたがひ(疑)			内	四七オ 15・五三オ 14
うせさせ給て	六〇ウ 12		うたがひ			うち(内裏)	五三ウ 13
うせ給へきと	六三オ 9		うたがふ(疑) ↓おもひうたがふ	七九ウ 7・七九ウ 10		うちの	七ウ 9・一五ウ 3
うせ給ひにし	六九ウ 6		うたがはぬ			うちよりも	一三オ 2
うせ給にき	七〇オ 12		うたがいおはしますまじ	五八オ 15・五八ウ 15		うちに	二二ウ 1
	七〇オ 15		うたがふ(連体法)	七九ウ 10		内にも	四七ウ 4
	七一オ 15			八七オ 2			

うちつけなり(打付)		うちの上	一一ウ7	うちやる(打遣)	
うちつけなる(連体法)	六七オ1・七三ウ17	うぢのかみ(氏神)		うちやられたる	五九ウ10
うちつづく(打続)		うぢの神の	七九ウ3・七九ウ7	うちゆふ(打結)	
うちつゞき(連用法)	二二オ1・六九ウ8	うちはやむ(打速)		うちゆいたる	五二オ14
うちとく(打解)		うちはやめて	三三ウ8・五三ウ2	うちわたり(内辺)	
うちとけたりつる	七三ウ6	うちふく(打吹)		うちわたりの	三七ウ15
うちながむ(打眺)		うちふくに	一五オ5	うちわらふ(打笑)	
うちながむる	五二ウ14	うちふく(打更)		うちわらひたる	五二ウ4
うちなく(打泣)		うちまかす(打任)	一六オ13	うちわらひ給ひて	八六ウ6
うちなき給て	二九オ14	うちまかせたる	三〇オ10	うちゑむ(打笑)	
うちなきぬ	七〇ウ14・七六ウ8	うちまかせたる	三五オ13	うちゑまれ	一一オ2
うちなく(連体法)	七二ウ9	うちまどろみたまふ	一九ウ8	うちゑみて	五五オ11
うちなげく(打嘆)		うちまどるまれ給はず	四〇ウ1	うちゑみ給へる	六四ウ2
うちなげき(中止法)	八八オ5	うちみつく(打見付)		うつ(打)	
うちなびく(打摩)		うちみつけたる	二五ウ12	うたれさぶらひにき	八〇オ7
うちなびく(連体法)	三一ウ13	うちみる(打見)	八八オ8	うち侍に	八三オ1
うちなびきたるを	三三オ2	うち見て	八八ウ8	うつくし(愛)	
うちならず(打鳴)	三オ5	うち見る(連体法)	七七オ9	うつくしき(連体法)	七オ5・一〇ウ2・二
うちなる(打鳴)		うちむかふ(打向)	七六オ5	七ウ4・四六ウ11・六三ウ19・六四オ14・	
うちなりて	一八オ12	うちむかいきこゆるより		七八ウ17	
うちの(内野)		うちむる(打群)	七六オ5	うつくしく(連用法)	七ウ8・二三オ14・六
内野にて	八〇オ7	うちむれて	四三ウ3	三ウ18	
うち野に	八〇オ11	うちやすむ(打休)		うつくしかりし	四九オ7
うちのうへ(内上)		うちやすむ(連体法)	七六オ5	うつくしう(中止法)	五四オ10
				うつくしなど	五六オ15
				うつくしく(中止法)	六一オ15

うゝ(う)つくしき(連体法)	六三才3	うづまさまつで(大秦詣)	四九ウ13	うゑも	一〇ウ3
うつくしう(連用法)	七二才19	うづまさまつでにも		上	一九ウ13
うつくしきに	八八ウ5	うづみび(埋火)		うへは	三二ウ14
うつくしげなり(愛)		うづる(映)	一八才13*	うゑに	四八才2
うつくしげなる(連体法)	五九ウ8・六三才	うつれるも	五才3	うへに	六七ウ6
2		うとうとしげなり(疎疎)		うへ	七三才6
うつくしき(愛)		うと	七三才8	うへ(上)↓あまつへ・うらつへ・くものうへ	
うつくしきなどの	二六ウ13	うとし(疎)		うゑにぞなど	五ウ3
うつくしきなど	六四ウ3	うとく(連用法)	七ウ1・六〇ウ4	うゑは	一七ウ11
うつくしきを	六七ウ20	うとき(連体法)	七四ウ7	うへに	二五ウ2
うつくしきに	六八ウ4	うとくのみ	七五ウ3・七七ウ2	うゑと	五〇才9
うつくしみよるこぶ(愛喜)		うとくは	八四才7	うゑより	六三才13
うつくしみ悦給ふ	六八才12	うとまし(疎)		うへと	七二ウ3
うつじこころ(現心)		うとまじうぞ	一六ウ10	うへにやと	七二ウ5
うつじ心も	二六ウ11	うはかぜ(上風)		うへなるを	八五才12
うつつ(現)↓ゆめうつつ		うは風ぞ	六六才19*	うへ	八七ウ13
うつつの	五九ウ16	うへ(上・天皇)↓うちのうへ		うへのかた(上方)	
うつまさ(大秦)		上は	一才5	う「へ」方に	八三ウ19
うつまさにて	四二ウ15・四五才12	うへは	三才5	うへのきぬ(上衣)	
うつまさには	四三才9	うゑも	三ウ8	うゑのきぬ	二五才5
うつまさより	四八ウ10	上	三才5	うまる(生)	
うつまさなどへ	四八ウ13	上の	六才6・六ウ11	うまれ給なば	六四ウ5
うつまさへ	六〇才12	上	八才5・八才10	うまれける	六六ウ15
うつまさほふし(大秦法師)	六八ウ10	うへ(上・北方)	四八才11	うまれ給ひし	六七ウ4
うつまさほしなどぞ	四九才5	うゑの	一〇才7	うまれ給ひぬ	六八才19

うまれかはりたる 八四ウ 5
 うむ(生) 八四ウ 5
 うみたまふ 五九ウ 3
 うみたる 六二ウ 13
 うみ給し 七〇ウ 1・七一ウ 14
 うみたてまつらせ給しを 七一ウ 4
 うら(浦) 七一ウ 4
 うらも 一七オ 7 * 《「裏」との掛詞》
 うら(裏) 一七オ 7 * 《「裏」との掛詞》
 うらも 一七オ 7 * 《「浦」との掛詞》・五〇ウ 5
 うらうへ(裏表) 六八ウ 16
 うらうへに 六八ウ 16
 うらかぜ(浦風) 一七オ 14 *
 うらかぜに 一七オ 14 *
 うらしまがこ(浦島子) 六九オ 11
 うらしまがこ 六九オ 11
 うらみ(恨) 四八オ 3
 うらみ 四八オ 3
 うらみかく(恨掛) 五七オ 1
 うらみかくれば 五七オ 1
 うらむ(恨) 六オ 3
 うらむ(う)らみ給 六オ 3
 うらむる(連体法) 六七オ 10
 うらめし(恨) ↓ ものうらめし 一四ウ 2
 うらめしく(中止法) 一四ウ 2

うらめしくなど 一七オ 6
 うらやまし(羨) 一七オ 6
 うらやましく(連用法) 一二ウ 1
 うらやましく(中止法) 一二オ 3・七六オ 13
 うるはし(麗) 五二オ 15
 うるはしからず 五二オ 15
 うれし(嬉) 一六オ 2
 うれしうと 一六オ 2
 うれしけれ(「こそ」の結び) 二七ウ 10
 うれしき(「ぞ」の結び) 三二ウ 11
 うれしき(連体法) 四六オ 6・七七ウ 12・八四ウ 3
 うれしくて 五四ウ 7・六三ウ 11
 うれしく(連用法) 六九オ 12
 うれしく侍り 六九ウ 17
 うれしく(中止法) 七六オ 19
 うれしう侍りなごぞ 八五ウ 12
 うれしさ(嬉) 七四オ 15
 うれしさも 七四オ 15
 うれはし(憂) 六五オ 6
 うれはしく(連用法) 六五オ 6
 うれふ(憂) 七ウ 6
 うれへきこゑ給へば 七ウ 6
 うれへ(憂) 四七オ 6
 うれへをこそ 四七オ 6
 うれへ 六五オ 11

うれへかく(憂掛) 四六オ 7
 うれへかくれば 四六オ 7
 え(枝) ↓ たちえ 二オ 11
 え 二オ 11
 えこそ 二オ 11
 え七オ 9・一九オ 14・三五オ 1・四三オ 7・
 五三ウ 9・七〇オ 7・七五オ 1・八一ウ 15
 ・八六ウ 18
 え 三三オ 14・四七ウ 7
 え「こそ」 八五オ 3
 えも 八五ウ 16
 えだ(枝) ↓ ひとえだ
 えびす(夷) ↓ あづまえびす
 えんなり(艶) 二七オ 11
 えんに(連用法) 二七オ 11

お

おいおとろふ(老衰) 三八ウ 14
 をいおとろへたる 三八ウ 14
 おいゆく(老行)

をいゆく(連体法)	六一ウ10*・八四才16	おきふし(起伏)	おかんの	八一才3
おがむ(拜)		をきふし	おくつかた(奥方)	
おがみきこゆ	七六才6	おきぬる(起居)	をくつかたに一八才10・二四ウ9・五一ウ5	
おきあがる(起上)		をきいるべき	おくゆかし(奥床)	
おきあがらんとも	三九才8	おく(奥)	をくゆかしうとて	三六才5
をきあがり給へる	三九ウ13	をくにて	おくゆかしくて	七八ウ20
をきあがりたまふ	四一ウ8	をくの	おくらかす(後)	
をきあがり(中止法)	四三才15・六一ウ3	をくに	をくらかさせ給なよと	六五才14
おきいづ(起出)		おくの	おくらかさせ給けるとて	七一ウ7
をきいで給も	一四ウ1・三三才8	おく(起) ↓おほむとのこもりおく	おくり(送) ↓おほむおくり	
をきいでぬる	一六ウ12	をきも	をくりこそ	二七ウ10
をきいで給はず	三三才5	をきつ	おくりおく(送置)	
おきかへる(起返)		をき給て	をくりおき給に	二七才7
をき返など	六四ウ1	をきて	おくる(送) ↓みおくる	
おきつ(掟) ↓おほしおきつ		おく(置) ↓いひおく・うちおく・おくりおく・	をくりたてまつりて	二一ウ15
をきて給へるも	二〇才16	ききおく・きこえおく・こころおく・さし	をくりたてまつりつ	六二ウ5
をきて(中止法)	三四ウ7	おく・しおく・ちぎりおく・こころおく・と	おくり侍りつるに	七四ウ3
をきて	三七ウ8	どめおく・ならはしおく・まつしおく・ま	おくりきこゑんと	八三才16
おきて	七四ウ14	みらせおく・みおく・むすびおく	おくる(遅) ↓たちおくる	
おきつしらなみ(沖白浪)		ゝ(を)きつ 一七才8* 《沖》との掛詞	をくれたてまつらせ給まじければ	一一ウ12
ゝ(を)きつしらなみ 一七才8* 《置》との掛詞		をきなど	をくれきこゑし	一五ウ11
の掛詞		をきてや	をくれにしかば	四〇才11
をきつしらなみと 一七才15* 《起》との掛詞		をきて	をくれきこゑじと	五四才1
掛詞		をきなん	をくれたてまつりて	六九才14
おきどころ(置所)		をけと	おくれたてまつりしかば	七二才6
をき所	二一ウ14	おきて	おくれて	七五ウ10

おくれたてまつりて	七六才15	をこりて	八ウ2	をそく(連用法)	二八才9
おこしすう(起据)		おしあく(押開)		おそふ(襲)	
ゝ(を)こしすゑたてまつりて	二九才3	ゝ(を)しあけて	二四ウ10	をそはるゝ	一九ウ10
おこす(遣)		おしあけて	五三才3	をそはるゝ	二六ウ4
をこすべきなど	二七才10	おしあて(推当)		おそろし(恐) ↓ ものおそろし	
おこたる(怠)		をしあてに	一七ウ13・五八ウ5	をそろしき(連体法)	二六ウ10
をこたる(連体法) 一四ウ4・二〇才12・二		おしかかる(推掛)		をそろしかんなる	四二ウ8・五〇ウ14
〇ウ11・七八才8		をしかりて	四ウ12	をそろしう	四九才11・四九ウ9
をこたるまじき	四八才7	おしかく(推掛)		おそろしき(連体法)	八三才9
をこたり給はず	四八ウ4・五九才1	をしかけつゝ	五八ウ14	おそろしうて	八八才5
おこなひ(行)		おしする(推摩)		おそろしげ(恐)	
をこないの 四三ウ1・四六ウ15・七八ウ11		をしすりて 一八ウ1・三五ウ7・四一ウ3		をそろしげなどは	七九才11
をこない	四七才2	おしたつ(押立)		おそろしさ(恐)	
をこないなど	六九才2	をしたてゝ	五五ウ4	をそろしさを	五六ウ2
おこなひありく(行歩)		おしのごふ(推拭)		をそろしさなど	六二才6
おこないありきけるを	七五ウ9	をしのごい給へば	六一ウ14	おたぎ(愛宕)	
おこなひなる(行馴)		をしのごい給	七八才14	をたぎに	四一才10
をこないなれたる	七六才11	おしはかる(推量)		おちいる(落入)	
おこなふ(行) ↓ うちおこなふ		をしはかられ給へど	五三才1	をち入(中止法)	八六ウ4
をこなはせなど	二二ウ9	をしはかられて	七八才16	おと(音) ↓ おほむつまおと	
をこなはんと	八一才15	おしやる(押遣)		をと 二三ウ15・二四ウ4・三二ウ14・三五	
をこない給て	八一才19	をしやられたるを	二才5	ウ2	
おこる(起)		おそぎくら(遅桜)		をとも 二六ウ15・二七才3・四一才5・五	
をこりて	五一ウ11	をそぎくらの	二五ウ16	〇才12	
をこりて候けり	八〇才14	おそし(遅)		おと	三六ウ8・六九才4
おこる(奢)		をそしとも	二六ウ15	おとの	六六ウ10

おとしあふ(落)		をとんだちたる	五二才17	おとろふ(衰) ↓おいおとろふ	
おとしあへり	七六才9	おとりざまなり(劣様)		おとろへ(衰)	
おとしむ(販)		をとりざまにて	二三ウ7	をとろへなどこそ	八ウ9
をとしめらるゝには	五八ウ10	おとりばら(劣腹)		おなじ(同)	
おとす(落) ↓おほしおとす・おもひおとす		をとしばらにぞ	九ウ2	をなじ(連体法) 六ウ12・一〇ウ6・二二ウ15・三八ウ16・五三ウ12・五三ウ14・六二才10・六二才15・六四才4	
おとづる(訪)		おとる(劣) ↓けおとる	三才2	をなじく(連用法)	三九才2
おとづれて	七二才6	をとり給はず	八一ウ6	をなじ(連体法) 六七ウ1・七〇才10・七一才15・八三ウ12	
おとと(弟) ↓おほむおとと・くらうづのおと		をとり給へれど		おに(鬼)	
とのしきぶのたいふがめ		おどろかしがほ(驚顔)	二七才1	をになどに	四〇ウ10
おとど(大臣) ↓こおほきおとど・ちちおとど・		おどろかす(驚)		をにゝも	六〇ウ14
とのおほむおとど・ひだりのおとど・ひ		おどろかし給はざりければ	一七才2	おの(己)	
だりのおとどのひめぎみ・ふるきみやばら		おどろかし給へよ	七八才9	をのがうゑにぞなど	五ウ3
のながしのおとど・みぎのおとど・みぎ		みおどろく		おのおの(各)	
のおとどのれいけいでんによつて		おどろく(驚) ↓うちおどろく・ききおどろく・		をの	三五才10
をとども	七ウ6・八才7・二一才1	おどろき給に	一九ウ11	おのづから(自)	
をとどなど	八才2	おどろき給て	二〇才15	をのづから 七才7・七ウ12・一七ウ6・三八ウ7・四一ウ10・四七ウ8・六二才4・六三ウ14・七〇ウ12・八〇ウ7	
をとどに	二四才3	おどろかかれ給て	二五ウ15	をのづからの	六二才13
おとどの	七〇ウ4	おどろきて	四一才1	「を」のづから	八八才3
おとどなどに	七六才14	おどろかかれなど	四一才1	おはしつく(御着)	
おとど	七七ウ9	おどろきて	二七才14・四〇ウ15	をはしつきぬ	四四ウ7
おとな(大人)		おどろき給へ	四一才1	おはしつきたれば	七八才20
をとなに	二五才11	おどろき給ぬ	四一才4		
おとなし(大人)		おどろかかれ	四六ウ15		
おとなしくぞ	二五才10	おどろかかれ給に	五九ウ10		
をとなしき	六二ウ16	おどろかれし	六四才12		
おとなだつ(大人立)			七九才7		

おはします(御)《本動詞》

をはしますば

四ウ 4

をはしません

六二ウ 19

をはするに

五オ 1・一〇ウ 11・三五オ 8・

をはしますさぬに

七オ 3・二二オ 11

をはしますさんこそ

六三オ 17

をはせしかば

六ウ 11

をはします(連体法)

七オ 10・二二ウ 12・一

おはしましけるにかと

七〇オ 13

をはせず

七オ 1・二二オ 5・二二オ 6・二

九オ 12・二三オ 12・三四オ 8・四八ウ 16

おはしますとも

七〇ウ 13

二オ 10

をはします(終止法)

九オ 6・四二ウ 6

おはします(連体法)

七〇ウ 18・八二ウ 6・

をはする(「ぞ」の結び)

九ウ 3

をはしますさぬ

二二オ 4

八三ウ 3

をはせし

九ウ 4・三四オ 10

をはしますしゝかば

二〇ウ 17

おはしますにか

七二ウ 17・七三ウ 11

をはすらん

九ウ 8

をはしますさで

一三オ 13

おはしますし

七七オ 12

をはするを

一三ウ 12・五五オ 10

をはしますらんに

一三ウ 3

おはしましけるを

七七オ 14

をはずと

一五ウ 1

をはしますらんに

一五ウ 3

おはしまししかども

七七オ 18

をはしたる

一五ウ 2・一九ウ 6

をはしましけるはとて

二六オ 8

おはしますを

七九ウ 5

をはせん

一六オ 1・一六オ 6・五一ウ 16

をはしましつる

二六ウ 8

をはします(「なむ」の結び)

八三ウ 1

をはして

一七ウ 1・二九ウ 7

をはしましなん

二九オ 8

おはしましける

八一ウ 12

をはせぬに

二三オ 10・二四オ 2

をはしますまじき

三三オ 14

おはしますらんと

八四オ 19

をはしぬれば

二六ウ 9・三〇ウ 16・三六ウ 11

をはしますと三七オ³・五四ウ¹⁰・六一オ²

四一ウ 2

おはします(御)《補助動詞》

八四ウ 9

をはずると

二八オ 2・三二ウ 8

をはしますべき

四四オ 1

たもたせをはしますせども

九オ 4

をはずべき

四一オ 11・六〇オ 4

をはしますさねば

四六オ 2

めでたくてをはします

一一オ 7

をはしつる

四一オ 13

をはしますさず

四六オ 3

いでをはしますせかしたこそ

二九オ 12

をはしけれと(「こそ」の結び)

四二オ 8

をはしましなから

四七ウ 13

うたがいおはしますまじ

七九ウ 10

をはせぬど

四九オ 14

をはしますせ(「こそ」の結び)

五一ウ 19

おはす(御) ↓ いでおはす・うちしのおはす・

をはずれど

五〇ウ 11

をはしますさぞ

五三オ 15

こもりおはす・ひとりごちおはす

をはずせしも

五一ウ 2

をはしますせば

五九ウ 3

をはずる(連体法)

をはずらんと

五一ウ 4

をはしますさずと

六一オ 4

オ 13・四四ウ 1

をはずしたるは

五三オ 3

をはしますすべきにかと

六二オ 9

をはずるやうにて

四オ 11

をはず(終止法)

五四ウ 19

をはしぬる	五六才 2	おはせざりき	八七才 16	おほゐ殿へ	三四ウ 7
をはせぬ	六〇ウ 2	おはちまんしせんざい(於八万四千歳)		をいどのよりと	三七才 1
をはせめ	六二才 5	於八まん四せんざいなど	一八才 11	おほい殿に	四三才 6
をはせんとて	六二ウ 2	おひいづ(生出)		大殿にも	四七ウ 4
をはしたり	六五才 3	をいゝで給ふを	二三ウ 10	おぼえ(覚)	
おはして	六六ウ 21・八四才 1	おひたつ(生立)		おぼえの	五二ウ 17
おはしきこえ給	六八才 8	をいたゝせ給て	六ウ 13	おぼえなし(覚無)	
おはせし	六八才 10・七二才 17	をいたゝせ給へば	七才 8	おぼえなくて	三二才 11
おはしし	七〇才 14	をいたち給へば	一〇ウ 3	おぼえなく(連用法)	三三才 7・五九ウ 8・
おはせず	七〇ウ 7	をいたち給へるに	三八ウ 13	七八ウ 17	
おはせませかば	七二才 15	をひたち給へれば	四〇才 12	おぼえなき(連体法)	八三ウ 17
おはせしかば	七二才 20	をいたちし	四三ウ 7	おほかた(大方)	
おはせじと	七二才 20	をいたちける	六一ウ 18	大かた	五四才 10
おはすらめども	七三才 6	をいたちたまはゞ	六二才 4	おほかたなり(大方)	
おはすらんとだに	七七ウ 3・七七ウ 11	をいたち給はんに	六三ウ 11	大かたに	六才 2
おはし申さば	七七ウ 16	をいたち給はゞ	六三ウ 14	おほかみ(狼)	
おはしけれと	七八才 3	おひつく(追付)		おほかみを	七六ウ 3
「お」はする(連体法)	八一才 6	をいつきて	五六才 17	おほきおとど(太政大臣)	
おはしけると	八一ウ 14	おふ(生)		↓こおほきおとど	
おはせざる	八一ウ 17	をうる(連体法)	一一ウ 4	おほきおほとの(太政大臣)	
おはすらんと	八二ウ 3	おふ(追)		↓こおほきおほ	
おはしき	八三才 6	をいて		との	
おはせしを	八三才 11	おふ(負) ↓ておふ	五七才 5・七一ウ 7	おほきなり(大)	六三ウ 15
おはしつる	八三ウ 19	をいて候し		大きに	
おはしけりと	八六ウ 3	おほいどの(大殿) ↓ひだりのおほいどの・み	八〇才 17	大きみに	五五才 11
おはしけるにか	八七才 13	ぎのおほいどの		おほけなし	
				おほけなき(連体法)	七四ウ 19

おほし(多)

おほく(中止法)

おほかるに

おほかれば

おほかれど

おほく(連用法)

おほしあなづる(思悔)

おほしあなづりしかども

おほしあふ(思合)

おほしあへぬに

おほしいづ(思出)

おほしいでゝ

おほしいづるも

おほしいづれば

おほしいる(思入)

おほしいる(連体法)

おほし入つゝ

おほし入ぬる

おほし入たりし

おほしいりたるを

おほしいるに

おほしいるにこそと

おほし入て

おほし入(中止法)

おほしう(思得)

おほしゑたる

おほしおきつ(思掟)

おほしをきてつる

おほしをきてたる

おほしおとす(思落)

おほしをとすも

おほしかかる(思掛)

おほしかゝりけん

おほしかく(思懸)

おほしかけぬ

おほしかへす(思返)

おほしかへせども

おほしくづほる(思崩)

おほしくづをれで

おほしくらぶ(思比)

おほしくらべて

おほししづむ(思沈)

おほししづみ給へる

おほししる(思知)

おほししるばかり

おほししるに

おほしたつ(生立)

をゝしたて給し

おほしたて給に

おほしたてまし

おほしたつ(思立)

おほしたちて

おほしたどる(思辿)

おほしたどるべき

おほしつづく(思続)

おほしつゞくるに 一二オ2・二九ウ3・二

九ウ7・四六オ14・六四ウ10・六四ウ13

おほしつゞくるも

おほしつゞけ_(思)れて

おほしつゞくる(連体法)

おほしとどむ(思留)

おほしとゞめし

おほしとる(思取)

おほしとりてしを

おほしなげく(思歎)

おほしなげきて

おほしなげかせ給ふ

おほしなげく(連体法)

おほしなげくめる

おほしなげきしかども

おほしはぐくむ(思育)

おほしはぐくまんばかりを

おほしはぐくませ給べき

おほしはぐくむ(思育)

おほしはぐくませ給へ

おほしひげす(思卑下)

おほしひげして

おほしまはす(思廻)

八七ウ9

三五ウ3

五八オ9

六一ウ12

四五オ5

二〇ウ3

四七ウ5

四八オ13

五五オ13

七一オ12

八オ1

四八オ9

六七ウ1

二二ウ8

一〇オ11・四七ウ14

一〇ウ1・一オ7

一六ウ13

六オ1

二八ウ5

二九オ1

三八ウ6

一五オ1

五八ウ16

二九ウ14

四八オ15

七ウ10

四八オ15

二九ウ14

五八ウ16

一三オ5

一五オ1

三八ウ6

二九オ1

二八ウ5

二九オ1

一五オ1

三八ウ6

一〇ウ1・一オ7

一六ウ13

六オ1

二八ウ5

二九オ1

三八ウ6

一五オ1

三八ウ6

二九ウ14

四八オ15

二九ウ14

五八ウ16

一三オ5

一三ウ16

一四オ1

五六オ14

六一ウ12

七〇オ9・八〇ウ16

三八オ1

二二オ15

一七ウ3

三五オ13

五八オ5

一五オ13

一九ウ3

二〇ウ4

二二ウ1

三四ウ2

四一ウ13

四一ウ15

五四ウ13

七四ウ19

二七オ6

二七オ6

二七オ6

二七オ6

二七オ6

二七オ6

おぼしまはすに	三八才5	おぼしやる(思遣)	三六才6	おぼしたんめれば	九才1
おぼしめしいる(思召入)		おぼしやりつるも		おぼしたりし	一〇才3
おぼしめしいりたれど	一八ウ12	おほしよる(思寄)		おほすらんと	一二ウ5
おぼしめしかしづく(思召傳)		おほしよらぬ	二二ウ2	おほしけん	一三才11・七二才17
おぼしめしかしづきたてまつらせ給ふに七才		おほしよると	六六才1	おほす(終止法)	一六ウ2・七二ウ8
6		おほしよるこぶ(思喜)	九ウ5	おほすらん	一七才1・二〇ウ1・四三ウ16
おほしめしつづく(思召続)	六一ウ17	おほしよるこばせ給に		おほすほどに	一七ウ1・五一才5・五五ウ12
おほしめしつゞくるに		おほしわづらはふ(思煩)	八六才11	・七九才8	
おほしめす(思召)	九才2	おほしわづらはふ		おほす(連体法)	一八ウ10・二〇ウ9・二八
おほしめすにやと	九才6	おほす(仰)	三才10	ウ15・三〇ウ3・三三ウ16・三七ウ7・四	
おほしめすべきに	九才9	おほせられながら	二四ウ3	五才3・五五ウ3	
おほしめしたる	九才11	おほせられて	三三ウ3	おほすに	一九ウ2・二三ウ11・三二才3・
おほしめすにや	九ウ11	おほせらるれば	三八才9	三五ウ9・三九ウ16・四三ウ9・五八才3	
おほしめしゝに	一一ウ6	おほせ ⁽⁶⁾ ・れける	四四ウ12	・五九才11・六一ウ21・六三才14・六四才	
おほしめしつゝ	一九才1	おほせらるゝに	五八ウ1	9・七五ウ15・八一ウ21	
おほしめすに	三五ウ6	おほせ給ふも	六二ウ19	おほされず	一九ウ12
おほしめす(終止法)	三七才11	おほせ給へど	五八ウ5	おほさるゝに	二〇ウ6・二六ウ14
おほしめす(連体法)	三九ウ1	おほせられんには		おほせば	二一才8・四四才12・四九才15・
おほしめしたると	四三才10	おほす(思) ↓あなづりおほす	二ウ3	五〇才15・八六才3	
おほしめしたり	五二ウ1	おほさるべし	三ウ4	おほさぬに	二二才11
おほしめすと(「や」の結び)	五三ウ8	おほさるべき	二ウ3	おほせど	二一才14・二二ウ6・二八ウ11・
おほしめすまじ	六〇ウ4	おほして七ウ8・一一ウ2・二四才3・二九		・二九ウ9・三〇才11・四三才15・五三才10	
おほしめして	七一才7	オ7・三〇才8・三〇ウ8・三二才9・三		・五三才11・六一ウ2	
おほしめさじと	八四才7	八才8・四五才15・五七ウ8・六五ウ11・		おほし(連用法)	二二ウ12
おほしめし	八七才1	六八ウ6・六八ウ10・七三才13・七五ウ17		おほしければ	二二ウ14
		おほすべし	八才4	おほさるゝ	二二才3・三三ウ4・四〇ウ5

おぼしたりし物を	二二才7	おほぞら(大空)	おほみや(大宮) ↓ いちでうおほみやわたり
おぼすも 二五才13・三六才9・五〇才10・		おほぞらの	おほむ(御) ↓ うだいじんのおほむすめ・き
五四才14		大空に	みのおほむはは・きむのおほむこと・たい
おほし給	二六才10	おほち(大路)	ふのおほむめのと・たゆふのおほむめのと・
おぼさるゝにやとて	二八才1	おほちの	つきことのおほむこと・とのおほむおと
おぼせども 三五才1・六四才18・七九才6		おほちも	ど・なにのちうなごんのおほむこのちうじ
おぼしたれば	四二才2・六七才14	おぼつかなき(覚束無)	やう
おぼしたる	四三才2	おぼつかなきに	おほむあそび(御遊)
おぼさゞりつる	四四才9	おぼつかなし(覚束無)	御あそびなどよりも
おぼされて	四四才10	おぼつかなく(連用法)	おほむあたり(御辺)
おぼさるゝをば	四五才7	おぼつかなく(連用法)	御あたりなれば
おぼさるれば	四九才11	おぼつかなく(連用法)	御あたりの
おほしける	五〇才14	ウ4・八二才10	御あたり
おほすなるべし	五一才12	おぼつかなく(連用法)	御あたりなどに
おほしだに	五一才12	おぼつかなきに	おほむあつかひ(御扱)
おぼす物から	五二才17	おぼつかなく(中止法)	御あつかひを
おぼしなから	五五才2	おぼつかなく	おほむあとも(御跡)
おぼすらんこそ	六三才7	おぼつかなき(連体法)	御あとも
おぼさるゝは	六八才2	おぼつかなく(連用法)	おほむあともくら(御後枕)
おぼすべけれども	七三才16	おほつかなかりつる	御あともくらにて
おぼすべき	七三才3	おほと(大殿) ↓ こおほきおほとの	おほむあまぎみ(御尼君)
おぼしたるまじき	八四才5	おほと(大殿)	御「あ」ま「君」
おほせ(仰)		大のなとも	おほむありさま(御有様)
おほせに	五六才11	大殿へ	御ありさま
おほせごと(仰事)		大殿に	御ありさまに
おほせ事に	八〇才11	おほばん(大番)	御ありさま
		大番の	御ありさま

御ありさまの	二二才12・七七才18	おほむおとと(御弟)	御かたゝがへ	二四ウ1
御ありさまにより	三八ウ3	御をとゝに	おほむかたはら(御傍)	
御ありさまのみ	七七才13	おほむおもかげ(御面影)	御かたはらに二〇ウ8・二八才14・二八ウ2	
御ありさまは	八四才14	御をもかげは	御かたはらなる	二四ウ10
「御」ありさまを	八四才9	御をもかげも	おほむかたみ(御形見)	
おほむいきほひ(御勢)	七七才4	おほむおもひ(御思)	御かたみにも	一五ウ9・七二才16
御いきをひ	七七才4	御思ひ	御かたみとて	六三ウ14
おほむいとごどし(御従兄弟同士)	七七才9	御思ひに	御かたみと	七三ウ10
御いとごどしに	七三才9	おほむおもひども(御思)	御かたみとも	七八才3
おほむいとま(御暇)	一四ウ5	御思ひどもの	おほむかはり(御代)	一二才8
御いとまの	一四ウ5	おほむかかふ(御抱)	御かはりには	
おほむいのち(御命)	四三ウ15	御かゝへたてまつるに	おほむかへし(御返)	
御いのちも	四三ウ15	おほむかがみ(御鏡)	御返こそ	三六才11
おほむいのり(御祈)	一一ウ7	御かがみの	御返なりけり	五九才10
御いのりをぞ	一九ウ14・四七ウ15	おほむかげ(御影)	おほむかへりごと(御返事)	
御いのり	二〇才15	御かげに	御返事	一九才9・八八ウ2
御いのりなど	三九ウ12・五〇ウ19	おほむかぜ(御風)	御返事と	一九才11
御いのりなども	四二ウ7	御かぜ	御かへりごとゝ	三六ウ4
御いのりなども	六八才18	おほむかた(御方)	おほむかほ(御顔)	
おほむいのりす(御祈)	二〇才3	御かたに	御かほに	四一才8
御いのりする(連体法)	二〇才3	御かたへ	御かをに	六八才10
おほむいもつと(御妹)	二〇ウ16	御かたの	おほむきそく(御気色)	
御いもつとに	二〇ウ16	御方に	御きそく	七ウ9・八才5・八才10
おほむおくり(御送)	三ウ9	おほむかたさま(御方様)	おほむきやう(御経)	二二才4
御をくり	三ウ9	御方さまは	御きやうを	七六才8
		おほむかたがへ(御方違)	御経などは	
		七三才8・七七ウ2		

おほむくせ(御癖)	御こそとよ	御心を	四八ウ9・五三ウ3
御くせなれば	御子	御心なれど	五一才4
おほむくらゐ(御位)	御子は	御心なりやと	五八ウ17
御くらひを	おほむこうち(御暮打)	御ころに	六六才2
おほむくるま(御車)	御こうちなど	おほむころくせ(御心癖)	一三ウ7
御くるま	おほむこち(御心地)	御心くせぞ	
御くるまこそ	御心ち	おほむころぐるし(御心苦)	一二ウ5
御くるまの三七ウ3・五〇才8・五〇才12・	御心ちの	御心ぐるしく	
六一才16	御心ちに	おほむころぎし(御志)	
御くるまを	御心ちも	御心ざし	九ウ12・六八才16
おほむぐわん(御願)	御心ちなどの	おほむころざま(御心様)	一一ウ1
御ぐわんも	おほむこころ(御心)	御心ざまも	
おほむけしき(御気色)	御心も	おほむころづから(御心)	一四才10
御けしきにこそ	御心五ウ10・一〇ウ10・二ウ6・二ウ14	御心づからぞかし	七〇ウ9
御けしき	・一九ウ13・二七才4	御心づから	
御けしきも	御心かな	おほむころまうけ(御心設)	一一ウ8
おほむけしきども(御気色)	御心や	御心まうけ	
御けしきども	御心にも	おほむこと(御琴)	二ウ7・三才9
おほむけはひ(御気配)	御心には	御こと	
御けはひ	御心に	おほむこと(御事)	三才7・三二ウ8
御けはひの	御心に	御ことの	一一ウ7
御けはひに	一才1・八六ウ7	御こともがなと	一三才14
おほむこ(御子)	御心と	御ことしも	
御こに	御心にや	御事に	一五ウ7・二二ウ9・三六才10・七
御こにて	御心は	七才15	
御こにも	御心なれば	御事をば	一九才6
	御心の		

御こと	二一ウ 7	おほむさま(御様)	二〇ウ 7・二四オ 12	おほむすほふ(御修法)	一五ウ 3
御ことならん	三四オ 7	御さまを		御すほうに	
御事は	三八ウ 9・四八オ 4	御さまなれば	二一オ 6	おほむすみか(御住処)	
御事より	三九オ 5	御さまに	二八オ 1	御すみかなれば	一三ウ 13
御ことなどに	四六ウ 4	御さまは	四九オ 7	御すみかは	八一オ 12
御事	四七ウ 8・四八オ 14	御さま	七〇ウ 5・七二ウ 21・七九オ 21	おほむすゑ(御末)	
御事ならんかしと	五四ウ 5	御さまにて	八六ウ 3	御すゑなり	二一オ 2
御事かな	五六オ 7	おほむさん(御産)		御すゑかなと	七八オ 12
御事と	六八オ 2	御さんとて		おほむせうと(御兄)	
御事かな「と」	八三ウ 17	おほむしつらひす		御せうとの	一〇オ 4・七〇ウ 1
おほむことのは(御言葉)		御しつらいして		御せうと	一五オ 14
御ことのはにも	一一ウ 3	おほむしむちう(御心中)		おほむぜんしよ(御前所)	
御ことのはをも	二二オ 6	御心中也	六八ウ 9	御ぜんしよは	八一ウ 14
おほむこども(御子)		おほむしむちうども(御心中)		おほむぞ(御衣)	
御こどもの	四七ウ 10	御心中ども	七八オ 19	御ぞ	四六ウ 16・六〇オ 12
おほむこゑ(御声)		おほむしやうじん(御精進)		おほむだいくわん(御代官)	
御こゑは	二ウ 12	御しやうじんなりければ	四五オ 16	御だいくわん	五六ウ 16
御こゑ	七六オ 7	おほむしゆくせ(御宿世)		おほむたくひ(御類)	
おほむぎうし(御曹司)		御しゆくせも	二九オ 12	御たくひ	七オ 3
御ぎうし	三七ウ 15	おほむしるし(御印)		おほむたはぶれ(御戯)	
おほむさかえ(御栄)		御しるしもやと	四二ウ 15	御たはぶれも	一七ウ 2
御さかへと	二一オ 2	御しるしにも	六〇ウ 16・七三オ 20	おほむため(御為)	
おほむさしぬき(御指貫)		おほむすがた(御姿)		御ため	一四オ 7
御さしぬきも	六五オ 7	御すがたにて	八三オ 10	おほむち(御乳)	四二オ 5
おほむさた(御沙汰)		おほむすずり(御硯)		御ちの	
御さたにて	二〇オ 5	御すゞり	一八ウ 16・三〇オ 1・三五ウ 6	御ちを	六一ウ 15

おほむちぎり(御契)		御てならひしたまふ	三〇才1	御ともの 二七才2・二七ウ14・五一才6・ 五三才10・五三才11・五三才15・六〇才8
御契	六七ウ1	おほむてまさぐりに		御とものに 三〇ウ7・三四才10・四三才5
御契や	七一才12	御てまさぐりに	二才6	御ともなるを 五六ウ10
おほむつかさ(御官)		おほむてら(御寺)		御ともなる
御つかさも	七一才7	御てらに	四七才1	御ともにて
おほむつかひ(御使)		御寺へ	七二ウ10	おほむな(御名)
御つかひは	三四ウ12・三七才2	御寺にも	七三才18	御なは
御つかひ	三五ウ13・三八才10・六〇才13	おほむとき(御時)	七一才1	おほむなか(御中)
御つかひに	三六ウ4・三七才3	御とき	七〇才10	御なかなれば
御つかひになん	三七才12・三七才12	おほむとし(御年)		御中
御つかひかなと	四六才7	御としにて	五七ウ7	おほむなげき(御歎)
おほむつぼね(御局)		おほむとし(御殿籠起)		御なげきにて
御つぼね	七三才4	御とし(御殿籠)	二五ウ5	おほむなごり(御名残)
おほむつまおと(御爪音)		御とし(御殿籠)	二六才12	御名残
御つまをとなどは	三ウ2	御とし(御殿籠)	二八才11	御なごりと
おほむて(御手)	三六才8	御とし(御殿籠)	二八才11	御なごりは
御てにてこそ		御とし(御殿籠)	四一才	御なごりに
おほむてあし(御手足)		御とし(御殿籠)	四一才	おほむなほし(御直衣)
御てあしの	四〇ウ13	御とし(御殿籠)	四〇ウ16	御なをしに
おほむてうど(御調度)		御とし(御殿籠)	五七才17	御なをし
御てうどなど	八八ウ13	御とし(御殿籠)	四〇才8	おほむなみだ(御涙)
おほむてうどども(御調度)		御とし(御殿籠)	四三才5	御なみだ
御てうどども	二一才4	御とし(御殿籠)	四三才5	御なみだを
おほむでし(御弟子)		御とし(御殿籠)	四三才5	御なみだも
御でしにて	一五才15	御とし(御殿籠)		
おほむてならひす(御手習)		御とし(御殿籠)		

御なみだは	六七才15	御ふみなど	八八才7	御「み」づから	七六才10
おほむなやみ(御惱)		おほむほい(御本意)		おほむみども(御身)	
御なやみなれど	一九才16	御ほい	九才10・一二才6	御身どもにか	四才3
おほむはか(御墓)		おほむほんい(御本意)		おほむみみ(御耳)	
御はかは	四八才1	御ほんい	七九才9	御みゝ	七〇才17
おほむはかまうで(御墓詣)		おほむまへ(御前)		おほむみめ(御見目)	
御はかまうで	五八才19	御まゑに	二才4・三才3・三三才4	御みめなども	一〇才8
おほむはからひ(御計)		御まへにて	四才1	おほむむかへ(御迎)	
御はからひに	三六才11	御まゑにと	二五才7	御むかへに(御迎)	四四才8・四五才15・四八才12・ 六七才18
おほむはは(御母)		御まへに	三九才11・四〇才9・五八才9	おほむむことりの	三四才1
御はゝにて候給に	二三才6	御まへには	四〇才16	おほむむことり(御婿取)	
おほむははかた(御母方)		御まへの	四六才13	御むことりの	
御はゝかたとても	二二才9	御前に		おほむむすめ(御娘)	九才12
おほむはら(御腹)		御前の	七八才11・七八才17	御むすめを	
御はらに	九才4・九才13	御前に	八六才13	おほむむね(御胸)	
おほむひなあそび(御難遊)		おほむまゐり(御参)		御むねの	四二才5
御ひなあそびなどに	七才3	御まいりの	四五才16	御むねは	四六才10
おほむびん(御鬢)		おほむみ(御身)		御むね	六二才8
御びんなど	三二才10	御身の	一〇才11・二九才3・四二才3・五	おほむむま(御馬)	
御びん	五七才8	〇才2		御むまにて	三〇才10・五九才6
おほむふみ(御文)		御身	二〇才2・三三才4・四八才4	御むまに	五一才3
御文ばかりは	一五才9	御身は	三八才4	御むまより	五一才4
御文や	二八才13	御身を	七〇才9	御むま	五三才1
御文など	三五才9・四五才4	おほむみちびき(御導)		御むまながら	五九才14
御文を	三六才2・三六才14	御道びきに	七七才12	御むまも	五九才15
御文は	三六才6	おほむみづから(御自)		おほむめ(御目)	

御め	六才 6	おほむゆかり (御縁)		おぼゆ (覚) ↓ ものおぼゆ	五ウ 2
御めに	六五ウ 3	御ゆかりも		おぼえ侍など	
おほむめのと (御乳母)		御ゆかりと		おぼゆる (連体法) 六ウ 4・二六才 3・二六才 12・六四ウ 15	
御めのと	二二才 11	おほむゆくへ (御行方)		おぼえて 一三才 9・一六才 9・五四ウ 5・五七才 2・五八才 4・六一才 17・八五ウ 5	
御めのと	二八ウ 12	御ゆくゑは		おぼえ給はずや	一三ウ 9
御めのと	三八才 14・七一ウ 19	御ゆくへをも		おほゆるにやと	一六ウ 9
御めのと	六一ウ 20	御ゆくゑを		おほゆる (ゝぞゝの結び)	一六ウ 10
おほむめのと (御乳母子)		おほむゆるされ (御許)		おぼゆれと (こそゝの結び) 一七ウ 13・六才 8	
御めのと	三〇ウ 11	御ゆるされ		おほゆるに 一八才 9・四〇ウ 1・四二ウ 12・六一ウ 5・五九ウ 16・七八才 12	
おほむもと (御元)		おほむゆるし (御許)		おほえ給を	一九才 2
御もとへ	一〇才 7・七〇ウ 4	御ゆるしも		おほえず	一九才 10・四三ウ 8
おほむもとどり (御鬢)		おほむよがれ (御夜離)		おぼえ給へば 一九ウ 13・三三才 10・六七才 18・七六才 14	
御もとどりばかりを	七一ウ 5	御よがれは		おぼえぬ	二〇ウ 5・八三才 17
おほむものおもひ (御物思)		御よがれなれば		おぼえ給へる	二六才 5
御物思ひの	五〇ウ 20	おほむよはひ (御齡)		おぼえ給に 二六才 10・五二ウ 6・八一ウ 3・八一ウ 13・八二才 1	
おほむものがたり (御物語)		御よはひの		おほえ給に	二九ウ 13・七六ウ 1
御物がたり	八才 8	おほむをさおひ (御幼)		おほえぬに	三八才 16・四三ウ 15
御物がたりに	七〇ウ 17	御をさをいの		おぼえ侍	三八ウ 4
おほむものけ (御物怪)		おぼめく (臆)		おぼえ給はず	三八ウ 10・五六才 14
御ものけなどの	一五才 12	おほめかせ給かなとて		おぼえつるに	四三ウ 2
おほむやくそく (御約束)		おほやうなり (大様)			
御やくそく	一三才 3	大やうなる (連体法)			
おほむやすみ (御休)		おほやけ (公)			
御やすみの	一一ウ 12	大やけ			
おほむやまふみ (御山踏)		大やけに			
御やまふみにも	六五才 12	おほやけの			

おぼえ給へ	四六ウ 8	おほよそに	四五オ 4	思ひ	八ウ 2・六九オ 18
おぼえ給けるをぞ	五〇ウ 13	おぼる(溺)		思ひには	一三ウ 8・一八オ 13 * ≪火≫との
おぼゆると(「ぞ」の結び)	五二ウ 2	おぼれたる	二六ウ 13	掛詞	
おぼゆ(終止法)	五六オ 5	おぼれ「侍る」	八四ウ 17	思ひも	二二ウ 13・八四オ 15
おぼえ給まゝに	六〇ウ 6	おぼるけなり(臆気)		思ひに	三一ウ 9
おぼえ給にも	六一オ 12	おぼるけならじと	六三オ 8	思いや	五三ウ 12
おぼえ給ふ	六一オ 14	おぼるなり(臆)		おもひ	六五オ 2
おぼゆるも	六一ウ 9・六四ウ 16	おぼるなるに	五七オ 7	思ひを	八六ウ 4
おぼえ給ほどに	六二オ 7	おまし(御座) ↓はしのおまし		おもひあかす(思明)	
おぼえける	六二ウ 6	御ましの	五五ウ 13	思ひあかす	四〇ウ 2
おぼえ給て	六三ウ 4	おもかげ(面影) ↓おほむおもかげ		おもひあがる(思上)	
おぼゆるなり	六三ウ 5	おもがはりす(面変)		思ひあがりたるは	一三オ 4
おぼえ給はぬ	六三ウ 7	おもがはりすな	一オ 11 *	思ひあがり(中止法)	二四ウ 14
おぼえし	六六ウ 12	おもし(重)		おもひあはず(思合)	
おぼえ給はざりしを	六九オ 6	をものみ	二〇オ 2	思ひあはせんまでと	六八ウ 10
おぼえ給で	七二ウ 21	をものみ(連用法) 三八オ 15・四四ウ 13・四五		思ひあわせられて	八五ウ 2
おぼえたる	七四ウ 9	オ 12		思ひあはするには	八六オ 2
おぼえけれど	七五ウ 1	おもしろし(面白)		おもひあまる(思余)	
おぼえさせ給に	七七オ 13・七七オ 16	をもしろく(中止法)	三オ 7	思ひあまり(中止法)	七ウ 5
おぼえで	七七ウ 6	をもしろくきこゆ	三ウ 6	おもひいづ(思出)	
おぼえねとて	七八オ 13	おもはし(思)		思ひいでられて	二五オ 1
おぼい給ければ	八二オ 11	おもはしき(連体法)	四オ 4	思ひいでらるゝ	五六オ 12
おぼえ給へど	八二オ 13	おもはずさ(思不)		思ひいづれば	五八オ 7・七〇オ 6
おぼえ侍ると	八七オ 11	をもはずさ	五九ウ 15	おもひいる(思入)	
覚侍る	八七ウ 3	おもひ(思) ↓おほむおもひ・おほむおもひど		思ひ入給に	一二ウ 8
おほよそ		も・おほむものおもひ		思ひいれぬ	二八ウ 9

おもひうしろむ(思後)	七ウ12	思ひすぐしゝを	八四ウ12	思ひのほかに(連用法) 一八ウ10・二二ウ8
思ひうしろむべき		おもひすます(思澄)		・五一才10
おもひうたがふ(思疑)	五六ウ19	思ひすましたる	七六才12	思ひのほかなる(連体法)
思ひうたがふ(連体法)		思ひすましたりつる	七八ウ5	思ひのほかなりし
おもひおとす(思落)		おもひそふ(思添)		おもひはなる(思離)
思ひをとす	三五ウ5	思ひそひぬる	二九ウ6	思ひはなれよと
おもひかく(思懸)		おもひたつ(思立)		おもひまうす(思申)
思ひかけず五四ウ11・六七ウ5・六九才6・		おもひたゝぬ	七三ウ1	思ひ申たれなど
七二才7・七九才13・八五ウ17		思ひたつらん	七三ウ18	おもひまぎらはす(思紛)
おもひかけぬ	六五ウ13	おもひたち侍りけると	七四才5	思ひまぎらはす(連体法)
おもひかけず		思ひたゝれぬ	八六ウ6	おもひまさる(思勝)
思ひかけずと	六七ウ7・六九ウ15	おもひつづく(思続)		思ひまされば
思ひかけぬ	七三才15	思ひつゞけられたまふに	一一ウ2	おもひまどふ(思惑)
思ひかけざりし	八五才12	思ひつゞけられて	二九才2	思ひまどひたる
思ひかけ「ず」	八七才5	おもひとどまる(思止)		おもひみだる(思乱)
おもひくらぶ(思比)		思ひとゞまりぬ	七四才16	思ひみだるべくも
思ひくらべらるゝは	一六ウ9	おもひとまる(思止)		おもひやる(思遣)
おもひしりすぐ(思知過)		思ひとまるまじき	五三ウ9	思ひやり給ふ
思ひしりすぎためりし	六ウ5	おもひとる(思取)		思ひやられ給へば
おもひしる(思知)		思ひとりて	七五ウ7	思ひやる(連体法)
思ひしりたまふ	五ウ1	思ひとり(中止法)	七五ウ8	思ひやり給ふ
思ひしられて	三二才11	おもひなぐさむ(思慰)		おもひよそふ(思装)
思ひしられたまひける	三八才4	思ひなぐさむ(連体法)	四六ウ6	思ひよそへられて
思ひしられ侍れと	六七才15	おもひなげく(思嘆)		思ひよそへられたるも
おもひしられ侍り	八四才11	思ひなげきて	五四才13	思ひよそへられたるは
おもひすぐす(思過)		おもひのほかなり(思外)		おもひよる(思寄)

思ひより給はぬに	四〇ウ 8	思ふ物から	一六才 11	思ひし	六二才 6・七一才 9・八三ウ 12
思ひよらぬ	五三ウ 17	思ひながらも	一七才 14*	をもふらん	六四ウ 19*
おもひよらず侍りけるに	六七才 13	思ひ給へるに	二〇才 14	思ひ侍りつるものを	六五才 14
おもひわかる(思分)		思ひ給へる	二〇ウ 10	おもはぬ	六六才 19*・六九才 16
思ひわかれず	二八ウ 5・六〇才 10	思ふに	二六ウ 11・三三ウ 1・三四ウ 3・四	思ひ給ふ <small>(思分)</small>	六七ウ 13
おもひわかれ侍「らぬ」	八四ウ 18	二才 12・四二才 13		おもふ(連体法)	七二ウ 11
おもひわく(思分)		おもはん	三〇才 11・八〇ウ 18	思ひたまへれど	七七ウ 16
思ひわく(連体法)	二九才 15	思ふも	三二ウ 11・六〇ウ 11	思ひ給	七八才 2
おもひわく(連体法)	六六才 3	思ひつれと	三三才 3	思ひ侍る	八一才 10
思ひわき候はねとて	八五才 4	思ふらん	三五ウ 4	思(連体法)	八一才 16
おもひわづらふ(思煩)		おもへども	三七才 6	思ひ給てけるなど	八一ウ 18
思ひわづらふ(連体法)	三五ウ 15	思ひて	三八ウ 13・三九才 3・四二ウ 10・四	おもはんと	八二才 13
思ひわづらふと	三六才 4	三ウ 11・四六ウ 14・五一ウ 14・五四ウ 8	四〇才 7・五九ウ 19	おもはざる	八三才 5
おもふ(思) ↓ あひおもふ・たのみおもふ・も		思ひたる	四〇才 14	おも「は」れぬ	八四才 4
のおもひわする・ものおもふ		思ひたるに	四二才 8	思ひきこゆるを	八四ウ 2
おもへば	四ウ 9・八三ウ 17	おもえば	四二才 11	おもひきこえさせしかど	八四ウ 10
思ひ待まゝに	八才 13	おもはざりけるをぞ	四二才 11	思に	八四ウ 16
思ひながら	八ウ 3・一七才 3・二八ウ 8・	思ふを	四二ウ 16	思ひしも	八六才 8
七八才 8		思ひきこえんずるに	四三才 4	おもふに	八五才 11
思ひきこえたり	一〇ウ 8	思ひつるにとて	四五ウ 12	おもふべかりけり	八六ウ 13
思ひきこえ給て	一二ウ 6	思ひつれ	四六ウ 1	おもひ給など	八七ウ 11
思ふ(連体法)	一四ウ 3・二六才 7・三二ウ	思ひ給へど	五五才 16・六五ウ 8	思ひ給て	八八才 12
11・三八才 13・三八才 14・五〇才 7		思ひけるにや	五七才 11	おもむきがたし(趣難)	
をもはざらなんとて	一四ウ 13*	思ひ給ふる物をとて	五八ウ 12	おもむきがたきにやと	七六才 2
思ふまじき	一五才 2	思ふぞ	五八ウ 18	おもむく(赴)	
思ひ侍つるに	一五ウ 5	をもはゞ	六〇ウ 19	おもむけられんに	八才 3

おもる(重)

おもり給へる

おや(親)

おやと

をやと

をやの

をよすく

をよすけにけるも

をよすけ給

およびなし(及無)

をよびなき(連体法)

およぶ(及) ↓ ききおよぶ

およびぬらん

おりたつ(降立)

をりたちて

おりある(降居)

をりあなんの

おる(降)

をりさせ給はん

をりさせ給ふ

をりさせ給ぬれば

をり給て

おり給ぬ

おれおれし

をれ しぎ(連体法)

二〇才 4

三九才 3

四〇才 12

五一ウ 13・八三才 2

八〇才 2

七ウ 7

七五才 19

一一才 10

六九ウ 13

六〇ウ 1

一才 8

八ウ 13

一一ウ 10

一二才 8

五九才 15

七六ウ 9

五八ウ 12

おろかなり(愚)

をろかならぬ

ゝ(を)ろかに

をろかに

をろかなるまじき

をろかならぬ

をろかならんやは

おろしこむ(下)

をろしこめて

おろす(下)

をろして

二二ウ 9

二八ウ 15

五七才 2・五九ウ 12

六三ウ 8

六三ウ 11

六八ウ 3

六〇ウ 12

七一ウ 9

かいばみも

かいばみす(垣間見)

かいばみすばかりなりとて

かいばみせし

かいばむ(垣間) ↓ たたずみかいばむ

かいばみて

かいばみ給へば

かいばみ給ふに

かいばまざりせば

かいばみし

かう(斯)

かう(更衣)

かうゐの

かうかう(斯斯)

かう なん

かうし(格子) ↓ みかうし

かうしなれば

かうし

かうだう(革堂)

かうだう

かうのと(守殿) ↓ はりまのかうのと(を

はりのかうのと)

かうや(高野)

かうやより

かうやに

五六才 13

五五ウ 5

六四ウ 10

一八才 6

五五ウ 6

五一才 17

五六ウ 2

五八才 6

四五ウ 10・六四ウ 16

三七ウ 15

三四ウ 15

五一ウ 6

五二ウ 9

六〇才 12

六八ウ 21

六九ウ 11・七一ウ 9

か

か(日) ↓ いくか

か(香)

かをも

かも

かいねり(掻練)

かいねりを

かいねりのきぬ(掻練縮)

かいねりのきぬを

かいばみ(垣間見)

かいばみなども

かいばみの

二六才 10

二四才 9

五一ウ 10

七八ウ 18

一五才 2

六ウ 5

六〇ウ 12

七一ウ 9

二六才 10

二四才 9

五一ウ 10

七八ウ 18

一五才 2

六ウ 5

六〇ウ 12

七一ウ 9

二六才 10

二四才 9

五一ウ 10

七八ウ 18

一五才 2

六ウ 5

かうやへ	七二才5・七四才16	つる・ゆきかかる・よしかかる	かきざまなど	八八ウ6
かうやのあま(高野尼)		かゝる	かきすさむ(書遊)	
かうやのあまが	七五ウ16	かゝり給を	かきすさみたり	六四才4
かうらい(高麗)		かゝるにやと	かきすまふ(書遊)	
かうらい	八〇ウ13	かゝる(連体法)	かきすまはれ給へども	一九才4
かうりんじ(法輪寺力)		掛詞	かきそふ(書添)	
かうりんじなれば	四八ウ2	かゝりて	かきそえ給ふ	六六ウ20
かうりんじの	四九ウ14	かき(垣) ↓ いがき・なががき	かきたつ(揺立)	
かかふ(抱) ↓ おほむかかふ		かき(書) ↓ てかき	かきたてゝ	二五才5
かがみ(鏡) ↓ おほむかがみ		かき	かきたゆ(揺絶)	
かかり(斯)		かきなども	かきたへ(連用法)	三五ウ3
かゝる(連体法)	一一ウ6・一四才11・二一	かきあつむ(揺集)	かきたへぬるにやと	四〇才1
才9・三七ウ17・四一才10・四一ウ12・四		かきあつめたるに	かきたへて	四四ウ17
二才8・四二才12・四二ウ3・四五才5・		かきあはす(揺合)	かきたへぬるを	四五才8
四九才15・五〇ウ19・五五才9・五七才15		かきあはせられたり	かきつく(書付)	
*《「懸」との掛詞》・六二才3・六二ウ1		かきあはせなど	かきつけたる	三六ウ2
・六三才18・六六才2・六七才13・八〇		かきいだく(揺抱)	かきつけたり	六六ウ16
才14・八六ウ17		かきいだきて	かきならす(揺鳴)	
かゝらずは	二二ウ10	かきいだきたるを	かきならさせ給て	二ウ8
かゝらずぞ	二二ウ14	かきけちかきけちす(揺消揺消)	かきね(垣根)	
かか(連体法)	六四才16	かきけち	かきねを	四九ウ14
かゝりける	八四才18	かきけち せられたり	かきやる(揺遣)	
かかり(懸)		かきこもる(揺籠)	かきやりなど	二九才4
かゝりなども	五五ウ15	かきこもり侍まじきに	かぎり(限)	
かかる(懸) ↓ おしかかる・おぼしかかる・か		かきざま(書様)	かぎりの	二〇ウ7
こちかかる・こぼれかかる・はひかかりむ		かきざまも	かぎりの	二二ウ10・六〇才9・三三才6

かぎりは 二九才 8・五二才 8
 かぎりとのみ 四一ウ 9
 かぎりに 四四ウ 13・七四ウ 11・八一才 6
 かぎりなし(限無)
 かぎりなし(終止法) 四七ウ 5・六三ウ 20・
 六八才 13
 かぎりなき(連体法) 八六才 10
 かく(掛) ↓うらみかく・うれへかく・おしか
 く・おぼしかく・おもひかく・のたまひか
 く・ひきかく 四ウ 4
 かけさせ給ふ 一ウ 4
 かけ給へるを 四五才 9
 かけきこえずしも 二六ウ 2
 かけざりけり 八四ウ 2
 かけて 一七才 6
 かく(書) 三三ウ 4・七六ウ 10
 かき給 六四才 5
 かきたり 六六才 18
 かきたる 二〇ウ 7・二八ウ 8・三六才 12・三八才 10
 かく(斯) ↓ともあれかくもあれ・ともかくも
 かく六才 9・六才 11・一六ウ 8・一七ウ 10・
 一・五七才 3・五八ウ 7・五八ウ 16・六一
 才 8・六三才 13・六四才 15・六四ウ 13・六
 五ウ 2・六九才 13・七〇才 7・七一才 7・
 七二才 14・七三ウ 11・七五ウ 11・七六ウ 18
 ・八〇ウ 8
 かくしもほと 一九ウ 5・三九ウ 5・四二ウ 9
 かくのみ 二〇才 9・二〇才 14・七七才 13
 かくまでは 二〇ウ 4
 かくのみこそは 三一才 7
 かくと 四五才 14・四八ウ 13・五五才 11・六
 一才 5・八三ウ 14
 かくとだに 五〇ウ 2
 かくや 五三ウ 8
 かくとや 六四ウ 8
 かくやとぞ 八一ウ 3
 かくまでも 八四ウ 16・八五才 16
 かくやは 八六ウ 11
 かく(嗅) 二五ウ 5
 かくせ給はじなど 二五ウ 5
 かくし(隠) ↓ひがくし
 かくす(隠) ↓とりかくす・ひきかくす
 かくて(斯) かくて 一ウ 7・二〇ウ 5・二二才 7・二
 三才 7・二九才 11・三五才 3・四二ウ 13・
 四三ウ 4・四八才 8・四八ウ 6・四九才 14
 ・五〇ウ 11・六八ウ 14・七四ウ 20・八一ウ
 13・八四才 9・八五ウ 3・八八才 10
 かくてなど 一六才 7
 かくてや 四五才 2
 かくても 四九ウ 11・五一ウ 18・七五才 16・
 六〇ウ 17・七六才 13
 かくては 七三ウ 17
 かくる(隠) ↓たちかくる
 かくれさせ給ぬれば 二二才 10
 かくれ給ぬれば 一三才 15・二二才 13・五三
 才 7
 かくれ給なん 二二才 7・四八才 1
 かくれてこそ 五一ウ 18
 かくれなし(隠無)
 かくれなく(連用法) 二四ウ 12・二五才 4・
 二六才 3・五九ウ 5・七九才 2
 かくれ「なき」(連体法) 八八才 4
 かくるふ(隠) ↓うちかくるふ 三三ウ 8
 かくるへたる 三三ウ 8
 かくるへかよふ(隠通)
 かくるへかよひ給はん 三四才 12
 かくるへさま(隠様) 三五ウ 14
 かくるへさまに 三五ウ 14
 かげ(影) ↓おほむかげ・ほかげ 一才 4・五才 6*
 かげ 一四ウ 16
 かげなどは 六七才 7
 かけとどむ(掛留)

かけとゞめまほしく	六一ウ 8	かしこまり(畏)		かせ(風邪)	
かけはなる(掛離)		かしこまり	三七オ 13・七九オ 9	かぜにやと	三八オ 14
かけはなるともなど	一ウ 1*	かしこまる(畏) ↓うちかしこまる		かた(形) ↓あとかたなし	
かけはなれにけるを	八四オ 15	かしづく(傳) ↓おほしめしかしづく・もてか		かた(方) ↓あかつきがた・いきかた・いづか	
かける(翔) ↓あまかける		しづく・もてなしかしづく		た・いりがた・うへのかた・おくつかた・お	
かこちかか(託掛)		かしづき(中止法)	二四オ 12	ほかた・おほかたなり・おほむかた・おほむ	
かこちかゝらせ給	四オ 8	かしづくなるを	二四ウ 14	かたざま・おほむかたがへ・おほむは	
かこちがほなり(託顔)		かしづきたてまつりし	七一ウ 15	かた・きたのかた・くれがた・せむかたな	
かこちがほなる	五オ 10*	かしら(頭)		し・たとへむかたなし・はしつかた・は	
かこつ(託)		かしら	七一ウ 8	かた・ひとかたならず・ひとかたなり・ひ	
かこたせ給し	八ウ 12	かしらつき(頭付)		るつかた・やすきかたども・やるかたなし・	
かこつべき	六五ウ 15・六七ウ 7	かしらつき	二五ウ 13・五九ウ 12	ゆふがた・ゆふつかた	
かさなる(重) ↓たびかさなる		かず(数) ↓ひかず		かたに一ウ 3・一ウ 7・一〇ウ 10・一八オ 1	
かさなりたる	三二ウ 16	かずならぬ	五オ 5*	・一八ウ 2・四六オ 13・五〇ウ 3・五三ウ	
かさならば	七八オ 8	かずを	四七ウ 15	7・六二ウ 11・七八ウ 13・七九オ 1	
かさぬ(重) ↓とちかさぬ		かずかず(数数)		かたにて	
かさね(襲) ↓したがさね		かず	二二ウ 12	かたは	一〇ウ 13
かしこ(彼処) ↓ここかしこ		かずそふ(数添)		かたの 一一ウ 6・二五ウ 8・四〇オ 5・七	
かしこには三〇ウ 7・三〇ウ 16・三三ウ 5・		かずそふを	一四オ 1	五オ 7・七九ウ 13	
四五オ 8・六八オ 6		かずふ(数)		かたもや	一三ウ 14
かしこゑ	三三オ 15・三五ウ 13	かずへられ給に	四九ウ 12	かたも 一七ウ 3・一九オ 10・二三オ 10・四	
かしこに 四八ウ 2・五五ウ 11・七三ウ 3		かぜ(風) ↓あめかぜ・うはかぜ・うらかぜ・		六ウ 6・八四オ 16	
かしこし(畏・賢)		おほむかぜ・やまかぜ		かた 一一オ 4・三二ウ 11・三三ウ 13・三八	
かしこしとて	三四オ 7	かぜ	一五オ 4	オ 2・四六ウ 7・四九オ 6・五〇ウ 17・六	
かしこく(連用法)	五三ウ 1	かぜに	三三オ 2	二オ 17・七四ウ 18・八八オ 6	
か「し」こぎ(連体法)	八〇ウ 11	風に	七七オ 1	かたへ 二六ウ 9・四六ウ 2・五六オ 17・七	

二才7
 かたを 五五ウ6
 かたより 六〇才7
 方を 六九才5
 方へ 六九才16
 方にと 七〇才2
 方の 七六ウ16・八六ウ7
 方 八四ウ17
 かたかた(片方) 六八ウ19
 かた は 六八ウ19
 かたがた(方方) 三七ウ13・六一才8
 かた 八〇才6
 かたき(敵) 八〇才6
 かたし(難) ↓いでがたし・おもむきがたし・
 かなひがたし・かよひがたし・ききすぐし
 がたし・しづめがたし・すぐしがたし・す
 てがたし・たへがたし・とどめがたし・は
 るけがたし・ふりすてがたし・みすぐしが
 たし・みすてがたし・わすれがたし
 かたし(終止法) 一一ウ9・三四才10
 かたくのみ 五三ウ13
 かたきに 六四ウ15
 かたかるべきを 六八才4
 かたしけなし(忝) 六三ウ6
 かたしけなくも 六三ウ6
 かたがへ(方違) ↓おほむかたがへ
 かたゝがへの 六四ウ11
 かたかたへの 六六ウ17
 かたち(形) 七二才19
 かたちなどの
 かたとき(片時) 三八ウ15
 かた時
 かたはら(傍) ↓おほむかたはら
 かたはら 一九ウ10
 かたはらに 二五ウ1・四〇ウ5
 かたはらなる 二六ウ1・二六ウ5・二七才14
 かたわらに 二六ウ4・三三ウ16・五五ウ16
 かたはらにこそ 五四才3
 かたぶく(傾) 五才2
 かたぶく(連体法)
 かたみ(形見) ↓おほむかたみ 一四才10・八五才15
 かたみの 三三ウ6
 かた見にとて 六三ウ21・六五ウ17
 かたみとて 六四才16
 かた見を
 かたみにて 六六ウ6*
 かたみに 六六ウ12・六六ウ13
 かたみに 六八ウ6
 かたみと 七三ウ2・七四才12
 かたみとは 七四才17
 かたみにも 七八才6
 かたみに(互) 一三才13・六五ウ4
 かたみに 一三才13・六五ウ4
 かたむ(固) ↓さしかたむ 三七ウ12
 かためず
 かため(固) 七九ウ1
 かためと
 かたらひつく(語付) 七五才12
 かたらひつきて
 かたらふ(語) ↓うちかたらふ・ちぎりかたらふ 二七才12
 かたらひ給へども 五四ウ8
 かたらい(中止法) 五四ウ11・六二ウ4
 かたらひて 七一ウ18・八一才5
 かたらひ給 七四才19
 かたり(語) ↓ものがたり・よがたり 三八ウ11
 かたりきかす(語聞) 三八ウ11
 かたりきかするに 八ウ6
 かたらせ給し 二五才1
 かたりし 三三ウ14
 かたるに 四三ウ13
 かたりければ 五四才11
 かたりしこそ 五六ウ16
 かたれば 五七ウ5
 かたり申せば 六一ウ20
 かたりしかば

かたるを	七二ウ 2・八一ウ 19	かなし(終止法)	一四ウ 4・六一ウ 9	かならず(必)	八六才 8
かたりきこえ給	七六ウ 13	かなしく(連用法)	一六ウ 5	かならず(一ニウ 5・一三ウ 8・一五才 4・二	
かたり申給	七八ウ 5	かなしけれど	三九才 11	七ウ 11・四一才 11・七二ウ 13・七二ウ 15・	
かたりきこゆべき	八五ウ 9	かなしと	三九ウ 4	七三ウ 1・七六才 19・七八才 8・七九ウ 6・	
かたわたり(肩辺)		かなしきにも	四九ウ 2	七八ウ 9・八一ウ 4・八二才 4・八二才 6	
かたわたり	二五ウ 13	かなしければ	五〇ウ 4・六三ウ 13	一四ウ 6・七三才 12	
かぢ(加持)		かなしく(中止法)	六一ウ 2・六一ウ 19	かならずかならず(必必)	一七才 8・八二ウ 9
かぢなど	一五ウ 7・八三才 14	かなしう(中止法)	七〇才 13	かならず	
かぢ	六〇才 8	かなしくて	七六ウ 2	かぬ(兼) ↓きこえかぬ	六一ウ 10*
がぢ ↓かへりみがちなり・しづれがちなり・や		かなしきにぞ	七六ウ 11	かぬぬる	
まひがち・やまふみがちなり・糸みがちなり		かなしくこそ	七七才 16	かね(鐘)	
かぢす(加持)		かなしうす(悲)		かねの(二四ウ 7・二六ウ 15・三一ウ 14・六	
かぢしたてまつると	一六ウ 16	かなしうしたてまつりたまふ	一〇ウ 4	〇才 17	
かぢしたてまつる	四一ウ 4	かなしさ(悲)	五一ウ 13	かねより	二六才 13
かつ(且)		かなしさは	二二ウ 14	かね(鉄漿)	五五ウ 10
かつは 一六才 10・二二才 12・二二才 14・五		かなしさの 三九ウ 16・四〇才 4・七八才 1	七二才 14	かねて(予)	四〇才 3
〇ウ 13・七三才 18・八五ウ 6		かなしさとして	七二才 14	かねて	
かづく(被) ↓ひきかづきふす・ひきかづく		かなしさ	七五才 4	かの(彼)	かの 一四才 7・一九ウ 9・三〇才 14・三五
かど(門) ↓ひらかど・ひらかどめかし		かなしむ(悲)		オ 13・四九ウ 3・七〇才 4・七六ウ 7	
かど	三一ウ 15・三七才 4・三七ウ 8	かなしみ給に	六三ウ 21		
かども	三六ウ 12・三七ウ 11・六一才 3	かなた(彼方) ↓こなたかなた			
かどを	五〇才 4	かなひがたし(叶難)			
などの	五〇才 8	かないがたう(連用法)	七九ウ 4		
かなし(悲) ↓ものがなし		かなふ(叶・適)			
かなしき(連体法) 五ウ 1・一〇才 12・一四		かなへたてまつらまほしきばかりにて 四三ウ			

七才3・四八ウ10・五四ウ2・五四ウ6・
 六三才15・六九才19・六九ウ12・七二ウ19
 ・七二才2・七二才5・七二才13・七三ウ
 1・七三ウ18・七四ウ5・七八才9・八一
 才2・八一才15・八一ウ11・八二才1・八
 二ウ6・八三才6・八四才12
 かのも(彼面) ↓このもかのも
 かは(川) 一九才3*
 かはの
 がはし ↓みだれがはし
 かはず(交) ↓きこえかはず・たのみかはず
 かばね(屍) 八一才2
 かばね 八三才2
 かばねの
 かはり(変) ↓おもがはりす
 かはり(代) ↓おほむかはり 五六ウ13
 かはりに
 かはる(変) ↓うまれかはる
 かはる(連体法) 一四才6・三五才5・四〇
 才5・八五才6
 かはるらんと 一七才12
 かはらぬ 三二ウ1・三六ウ1・八三才10・
 八六ウ2
 かはらず 四八才9
 かはらずながら 八八才3
 かひ(甲斐) ↓いふかひなし・ゆふかひなし
 かひ(貝) 一七才7* ≪甲斐無し≫との掛詞
 かい 一七才14* ≪甲斐無し≫との掛詞
 かひ 七七才10
 かいを
 かひがひし(甲斐甲斐)
 かい しく(中止法) 九ウ6
 かひな(腕)
 かひなも 三二才13
 かひなし(甲斐無)
 かいなくて 一七才7* ≪貝無し≫との掛詞
 かひなしと 一七才14* ≪貝無し≫との掛詞
 かひなし(終止法) 二〇才16・六二才16
 かいなき(連体法) 二九才7・五一ウ18
 かふ(買)
 かはんとて 六二ウ11
 かふ(変)
 かへて 七〇ウ5
 かふ(代)
 かへんと 七一才9
 かぶる(被)
 かぶらせ給 一一ウ14
 かべ(壁)
 かべに 一一ウ3
 かへさ(帰)
 かへさより 二二ウ15
 かへさは 七八才19
 かへし(返) ↓おほむかへし 六一才4
 返
 かへす(返) ↓おほしかへす・とりかへす・ひ
 きかへす・よびかへす
 かへすがへす(返返)
 返 五四ウ15
 かへす 六六才8
 かへりごと(返事) ↓おほむかへりごと
 返事 三〇才5・五八ウ14
 返事は 五八ウ3
 返事とて 八八ウ3
 かへりて(却) 一一才10
 かへりては
 かへりのぼる(帰上) 七四才9
 帰のぼりたらんに
 かへりまゐる(帰参)
 返まいりなど 六〇才14
 かへりみがちなり(顧)
 かへりみがちに 三三才9
 かへりわたる(帰渡)
 かへりわたらせたまひければ 三ウ8
 かへる(返・帰) ↓いきかへる・いそぎかへる・
 おきかへる・しみかへる・たちかへる・ま
 かりかへる・みかへる
 かへり給ぬれば 一九ウ8
 返給ぬ 二七ウ12

かへりぬなり	三二才 1	かをば	七八ウ 19	神無月の	五九才 5
かへらんとこそ	三二才 2	かまし ↓ をこがまし		かやう(斯様)	
かへりける	三三ウ 6	かまふ(構)		かやうの	五才 11・二二才 6・三三才 3・三
かへりて	三五才 1・四六才 8	かまへて 二九才 3・三二才 5・三三ウ 2・		五才 12・五三ウ 17・五四才 17・五六才 5・	
かへり給ても	三八才 5	四二ウ 16		五六才 13・五六ウ 16・七四ウ 3・七七ウ 3	
かへらで	四三ウ 8	かみ(守) ↓ ちくぜんのかみ・をはりのかみ		・七七ウ 11・七八才 21	
かへり給まじき	四三ウ 12	かみ(紙) ↓ みちのくにがみ		かやうなり(斯様)	
かへり給 四七才 8・七一ウ 2・八六ウ 2		かみ(上) ↓ まくらがみ		かようにてのみ	三才 11
かへり給ふ	五六才 17	かみの	四ウ 5	かやうにて	四ウ 4
返らず	五七才 16	かみを	七九才 21	かやうにて	八ウ 10・四六ウ 1・七四才 12・
返にけれと	五七ウ 3	かみは	八一ウ 9	八六ウ 2	
かへり給ひて	六七ウ 6	かみ(髪)		かやうに(連用法)	一七ウ 6・三四才 4・五
かへるべきをとて	七一才 19	かみ	五二才 14・五五ウ 16	四ウ 7・六九ウ 15・七四才 15・七六ウ 5・	
かへりて侍りしを	七一ウ 6	かみも	五四才 9	七七ウ 7・七七ウ 14・八〇ウ 9・八二才 5	
帰侍らまし	七二ウ 12	かみの	五五ウ 14・五五ウ 17・五九ウ 11	・八五才 3	
帰ぬ也	七三才 12	かみ(神) ↓ うぢのかみ・ほとけかみ・むすぶ		かやうなる(連体法)	二二才 12・三三ウ 11・
かへらず	七四才 3	のかみ		六六ウ 8	
帰なんと	七四才 17	かみにも	六〇ウ 14	かやうにてや	五八ウ 11
帰給て	八六才 12	かみのよ(神代)		か様に(連用法)	七八才 5
かほ(顔) ↓ あるじがほ・おどろかしがほ・お		神のよの	一一ウ 1	かやうになん	八八ウ 9
ほむかほ・かこちがほなり・しらずがほ・ぬ		かみのらふ(上臈)		かやる(帰)	
るるがほなり		かみのらうに	四ウ 6	かやり給はんと	八二才 9
かほに	三八才 7・五七才 7	かみほとけ(神仏)		かやらん	八二才 11
かほ	五六才 13	かみほとけの	六〇才 15	かよひ(通)	
かほも	五七才 6	かむ(鴟) ↓ うちかむ		かよひにも	三七ウ 14・四九ウ 14
かほの	六四才 13	かむなづき(神無月)		かよひありく(通歩)	

かよひありき給 五九才 4
 かよひがたし(通難) 三〇才 10
 かよひがたく
 かよひみる(通見) 六八ウ 6
 かよひ見給に
 かよふ(通) ↓かくろへかよふ 九ウ 13
 かよひ給し
 かよひて 二六才 7
 かよひきこえ給はん 三四才 4
 かよふ(連体法) 三八才 9
 かよひけるが 五四才 7
 かよひ給はんずるなめりなど 五六才 10
 かよひ給にしぞかし 七〇才 16
 かよひ給はん 七三ウ 16
 から(柄) ↓ところから・ひとから
 からこども(唐籠共) 五九才 16
 からこども
 からうじて(辛) 一六ウ 11・四三才 15・五三ウ 6
 からうじて 一六ウ 11・四三才 15・五三ウ 6
 からし(辛) 五三ウ 1
 からかりつれ 五八ウ 8
 からかりしか
 かりそめなり(仮初) 一一ウ 2
 かりそめなる(連体法)
 かりばのをの(狩場小野) 六五才 9*
 かりばのをのに

かる(狩) 七九ウ 15
 かり(中止法)
 がる↓めづらしがる
 かるむ(軽) 一五ウ 16
 かるむばかりに
 かれ(離) ↓めかれす・よがれ 五〇才 4・五四才 16
 かれ(彼) 五二才 12
 かれ 五四ウ 3
 かれや 六六才 4・八一ウ 7
 かれも 八三ウ 5
 かれを 八八ウ 14
 かれなん
 かれには 八八ウ 14
 かれうびん(迦陵頻) 八一ウ 3
 かれうびんも 一九才 16
 かれはつ(枯果) 二〇ウ 14・二二ウ 2
 かれはてなん
 かるむ(軽) 六四才 14
 かるむ(連体法)
 かる(薫)
 かほりたる
 き(木)

き

木 二五ウ 15
 きえいる(消入) 二一才 11
 きへ入給 二一才 11
 きへいる(連体法) 二六ウ 12・六二才 11
 きへいり給へりければ 四一ウ 6
 き「え」いる(連体法) 六〇才 11
 きえ入(連体法) 七五才 1
 きえうす(消失) 一九ウ 2
 きへうする(連体法) 七五ウ 7
 きえうせ給ぬるを
 きえはつ(消果) 八六才 7
 きえはてなば
 きかい(鬼界) 八〇ウ 13
 きかい
 きかす(聞) ↓かたりきかす 一六才 2
 きかせ給はゞ 四六ウ 9
 きかせ給へと 五四ウ 9
 きかすれば
 ききあきらむ(聞明) 七三ウ 19
 ききあきらむべき
 ききあはす(聞合) 五〇才 2
 ききあはせられ給に
 きき「あは」せ給に 七六ウ 15
 ききいづ(聞出)
 ききいでゝ 四五才 13
 ききいでぬ 六八ウ 11

きゝいでたてまつらずとて	七〇ウ 14	ききとどむ(聞留)	きかで	二七才 9・四一ウ 12
きぎいる(聞入)		きゝとゞめ給ひつらんとしもぞ	きくに	三四才 15・五八才 5
きゝいるゝ(連体法)	二七才 13	ききなす(聞為)	きけ	四六才 11
きゝいれたまはず	五四ウ 13	きゝなし給へる	きけども	四八ウ 14
ききおく(聞置)		きゝなしつゝ	きゝつるにやと	五二ウ 18
きゝをきし	八一ウ 20	ききにくし(聞難)	きゝ侍れば	五四才 5
ききおどろく(聞驚)		きゝにくゝ(連用法)	きかまほしきと	五四ウ 3
きゝおどろき給てぞ	七六ウ 12	ききふす(聞伏)	きかばなん	五四ウ 16
ききおよぶ(聞及)		きゝふしたるに	きゝ給なん	五四ウ 17
ききをよばせ給たる	八七才 9	きゝふし給たるに	きけば	五六ウ 5
ききしる(聞知)		ききわたす(聞渡)	きかんとて	六二ウ 14
きゝしるばかりの	一三才 13	きゝわたり給にも	きゝ給に	六三才 15・七二ウ 2・七五ウ 13
きゝしらず	二七ウ 4	ききわたる(聞渡)	きかまほしく	六四才 18
ききすぐしがたし(聞過難)		きゝわたりたてまつりて	きゝしを	六四ウ 5
きゝすぐしがたくもや	一三才 10	きく(聞) ↓うちきく・たちきく・たつねきく・ とひきく・みききあらはず・みききいづ	きゝ給	七〇ウ 16・八二才 8
きゝすぐしがたき(連体法)	八五才 11	きく(連体法)	きゝたまふに	七〇ウ 17
ききすぐす(聞過)		きゝ給て 七ウ 7・一六ウ 17・一九ウ 6・二	きゝ侍りし	七一ウ 19
きゝすぐし給はぬと	五四才 18	〇才 4・三四才 2・六五ウ 9・七八ウ 9	きゝし	七二才 4・八三ウ 8
ききつく(聞付)		きゝ給ふに	きゝ給だに	七二ウ 3
きゝつけて	三四ウ 11	きゝて	きゝはんべらで	七二ウ 11
きゝつけざりけるも	四六才 15	きゝ給へば 一八才 2・一八才 6・五二ウ 10・ 六九才 5	きゝたてまつる	七七ウ 17
きゝつけたてまつりたる	六九才 13	きゝ給らんと	きゝたてまつ「らず」	七七ウ 20
きゝつけてなん	七三才 17	きゝ給ければ	きくなん	八二才 17
きゝつけ給て	七七ウ 9	きかぬ	きかれたてまつるべき	八三ウ 14
ききつたふ(聞伝)			きくさ(木草)	
きゝつたへ給しか	三八ウ 12		きくさの	二二ウ 5

きこえ(聞)

きこえ

三四才5

きこえなす(聞為)

四二ウ3

きこえ給を

九才12

きこえあはず(聞合)

きこえあはせ給へるに

四七ウ9

きこえやる(聞遣)

二八ウ10

きこえたれば

一五ウ2・五五ウ1

きこえあはするに

五三ウ15

きこえやらぬ

七七才10

きこえ給へば

一五ウ9・六七才3

きこえあはせんとて

六五ウ12

きこえやる(連体法)

七四ウ18・八八才6

きこえて

一六才7・五四ウ6

きこえおく(聞置)

きこえをき給ふべし

二一才8

きこえわたる(聞渡)

一三才4

きこえつ

一九才9・二七ウ6

きこえかぬ(聞兼)

きこえかねて

一九才12

きこえわたるも

一三才7

きこえ給へば

二〇才8・五〇才12

きこえかはす(聞交)

きこえかはす(終止法)

五ウ4

きこえわたる給に

一三ウ6

きこえ給ふ

二一ウ11・六七才21

きこえさす(聞)《本動詞》

きこえさせける

一五ウ15

きこしめす(聞召)

三七才9

きこゆる(準体法)

二二才11

きこえさせまほしく

四六才5

きこしめしたつ(聞召立)

三七才15

きこゆる(連体法)

二五才12・三七ウ10・七

きこえさせずやと

四七才3

きこゆ(終止法)

三ウ7・七四ウ10

きこえて

三〇ウ6

きこえさせ侍らん

六六才8

きこゆるに

きこゆるにや

三二才15

きこえさする(連体法)

きこへさせ侍る

八二才5

きこゆるに

「きこえ」給へと

三七ウ2

きこえさす(聞)《補助動詞》

たのみきこえさするに

八八ウ2

きこゆるに

きこえけるに

四一ウ11

たのみきこえさせ給へるに

三八ウ5

きこゆるに

きこえて侍

四八才10

たのみきこえさせ給へるに

四七ウ12

きこゆるに

きこえて侍

五四才3

くしいできこえさせて

七五才2

きこゆるに

きこへよと

五六ウ13

おもひきこえさせしかど

八四ウ10

きこゆるに

きこえ給はず

六一才6

きこえしらせ給て

六才1

きこえたまへば

九才2

きこえまほしさに

六七ウ5

きこゆべき	八三ウ 10	なぐさめきこえばやと	三四ウ 2	わたしきこえて	七〇ウ 4・七一ウ 14・八三
きこゆべきにかと	八三ウ 16	あつかひきこゆ(終止法)	三九ウ 9・三九ウ	才 12	
きこへつるに	八六才 15	12		まちきこえしに	七一ウ 3
きこえざりしを	八七才 17	もてなしきこえざりしかど	三九ウ 10	みせきこえず	七五ウ 3
きこえしか	八七ウ 1	なぐさめきこえんと	四〇才 7	うちすてきこえて	七五ウ 4
きこへ給へば	八七ウ 8	はなちきこえず	四二才 1	おがみきこゆ(終止法)	七六才 6
きこえ給つ	八八ウ 1	思ひきこえんずるに	四三才 4	かたりきこえ給	七六ウ 14
きこゆ(聞)《補助動詞》		とりかくしきこえて	四三ウ 14	うちむかいきこゆるより	七七才 9
つれへきこえ給へば	七ウ 6	わたしきこえ給へと	四四才 5	いさめきこえ給て	七八ウ 2
思ひきこえたり	一〇ウ 8	かけきこえずしも	四五才 9	まほりきこえ給て	七九ウ 4
思ひきこえ給て	二二ウ 6	見をくりきこゆれども	五〇才 12	もてあつかいきこゆる(準体法)	八二ウ 1
もてなしきこえ給を	一三才 1	なりきこえて	五〇ウ 16	おくりきこえんと	八三才 16
しのびきこえ(中止法)	一三ウ 1	いできこえけん	五〇ウ 17	思ひきこゆるを	八四ウ 3
たのみきこえて	一五ウ 10	をくれきこえじと	五四才 1	たづねきこゆる(連体法)	八五ウ 8
をくれきこえし	一五ウ 11	まちきこへつるものを	五六ウ 7	かたりきこゆべき	八五ウ 9
したひきこへぬべきにや	一五ウ 13	まねびきこへたるを	五六ウ 19	まちきこえ給	八八ウ 14
ゝ(と)ぶらひきこえ給て	一九ウ 8	たがへ・れきこへて	五八ウ 7	いだしたてきこゆる物から	八八ウ 15
せいしきこえ給へば	一九ウ 15	せいしきこえ給へども	五九才 4	きさき(后) ↓ ははきさき	
さたしきこえ給ふ	二二ウ 8	たち返きこえん	六〇ウ 3	きさきに	一一才 1
さきだちきこえにければ	二二才 11	さたしきこゆべき	六一ウ 3	きさきだち(后立)	
みをくりきこゆれば	二七ウ 9	まちきこえ給ひて	六八才 7	きさきだち	一一ウ 2
さぐりきこゆれば	二八才 5	おはしきこえ給	六八才 8	きそく(気色) ↓ おほむきそく	
もてなしきこゆべしとも	二九才 5	見しりきこえ給て	六八ウ 7	きた(北)	
ねんじきこゆるに	二九才 14	たいめんしきこえつる	六九ウ 16	きたを	八二ウ 13
いそがしきこゆれば	三二ウ 7	たづねきこゆべき	六九ウ 18	きたなげなし(汚無)	
かよひきこえ給はん	三四才 5	みしりきこゆべくも待らず	七〇才 7	きたなげなきが	二五才 11

きたなげなく(連用法)	五五才 4	きはの	三三才 5	きみのおほむはは(君御母)	八七才 14
きたなげなくて	七七才 7	きはむ(極)		君の御はと	
きたなむ(汚)		きはめ(中止法)	七九才 21	きむたち(君達)	
きたなめらるゝ	五二才 7	きびし(厳)		きんだち三ウ 9・六ウ 8・九才 12・三四才 10	
きたのかた(北方)		きびしき(連体法)	三八才 3	・七六才 4	
きたのかたの	九ウ 3	きみ(君) ↓ あねぎみ・あまぎみ・いもつとき		きんだちも	七才 8
きたやま(北山)		み・いもつとのきみ・おほきみ・さいしやう		きやう(京) ↓ にしのきやう	
きた山なる	七八ウ 9	のきみ・さむぬのきみ・しきぶのきみ・せ		きやうに	一五ウ 1・一六才 6
きた山へと	八六才 15	うしやうのきみ・せんじのきみ・ちうじや		きやうへ	四七才 7
きた山へ	八七ウ 8	うのきみ・ひめぎみ・わかぎみ・をとこぎ		京の	七二ウ 14
きたる(来)		み・をむなぎみ		京へは	八〇ウ 8
きたる(連体法)	六九才 4	きみ	一〇才 8・五〇才 5・五六ウ 4	京へ	八一才 4
きたり侍れば	八〇才 1	きみを	一〇才 12・二八ウ 15・二九才 3・三	京に	八一才 10
きちやう(几帳)		五才 10		きやう(経) ↓ おほむきやう	
き丁を	二五ウ 9	きみも	一二ウ 8・二九才 14	きやうなど	一六才 1・四三ウ 3
きぬ(衣) ↓ うへのきぬ・かいねりのきぬ		きみは	一七才 8*・一七ウ 15・二二才 1・	きやう	一六才 4・四九ウ 16
きぬなどにぞ	八七ウ 14	二四ウ 6・二六ウ 12・二八才 13・三三才 12		きやうを	一六才 13・四九ウ 6
きねむす(祈念)		・三四ウ 15・四三才 14・五九ウ 4・六一才		きやうの	一八才 1
きねんしたてまつりつる	八五ウ 11	4・六一ウ 2		きやうは	一八才 10
きのくに(紀国)		きみに	四五才 13・四六才 8	きやうをだに	三九才 14
きの国へ	七二才 17	君	七〇才 17	経に	七八ウ 19
きの国なる	七三ウ 4	君は	七三才 12・八六ウ 6・八七才 15	経を	七九才 1
きは(際) ↓ みぎは		君も		きやうほとけくやうす(経仏供養)	七六ウ 9
きはには	二六才 6	きみの	七四ウ 12	経佛くやうし給	
きはまでは	二九才 15	きみたち(君達)	七九才 20	きゆ(消)	七六ウ 9
きはにも	三三才 3	きみたちの	二三ウ 9	きへなばや	一四ウ 9*

きゆるは	一八才 8	こんまでの	三二ウ 5	くだく(推)	一五才 6
きゆとも	一八才 14 *	くる(連体法)	四〇ウ 15	くだきつゝも	五三ウ 3
きへぬる	四一ウ 13	きぬれば	四一才 12	くだきて	
きへもこそ	五七才 13 *	きて	四八ウ 13・六三ウ 3	くだくだし	六七才 20
きへぬとも	五七才 14 *	くれば	五三才 5	くだ	
きへぞ	六一ウ 10 *	きつると	五三才 13	くだる(下) ↓さまくだる	
きへ給ぬ	六二才 13	こよとて	六〇才 5	くだらせ給しかば	二二ウ 15
きゆうせん(弓箭)		くさ(草) ↓きくさ・しのぶぐさ		くだ「り」て	八一才 7
弓箭の	七九ウ 13	くさの	一一ウ 4	くち(口) ↓とぐち・やまくち・やりどぐち	
きよげなり(清)		くさ	五一才 15	くちいれにくし(口入悪)	
きよげなり	五八才 2	くさし(臭)		くちいれにくきに	三六才 10
きよみつ(清水)		くさくもこそと	二五ウ 4	くちずさむ(口遊)	
きよみつ	二四ウ 2	くさのゆかり(草縁)		くちずさみ給ふ	一一才 1
きよみつなどにち	四三才 8	草のゆかりは	八四才 6	くちをし(口惜)	
きりふす(切伏)		くさはひ(種)		くちをしからましとぞ	二二ウ 10
きりふせられて侍りしに	八〇才 13	草はひ	八七才 7	くちをし(口) ↓とぐち(連用法)	四五才 7
きる(着)		くし(髪) ↓みくし		くちをしけれ(こそ)の結び	四六ウ 4
き給て	三三ウ 16	くしいづ(具出)		くちをし(中止法)	四八才 1
きむのおほむこと(琴御琴)		くしいできこゑさせ	七五才 2	くちをし(中止法)	六四ウ 13
きんの御こと	一三才 8	くしげ(匣) ↓みくしげどの		くちをし(中止法)	六四ウ 16
		ぐす(具) ↓うちぐす		くちをしかりける	
		ぐして 一五ウ 4・三六ウ 11・六三ウ 3・七		くつ(朽)	
		二才 8・八一ウ 10		くちや	五〇ウ 7 *
		ぐし侍て	七四才 4	くつぼる(崩) ↓おほしくつぼる	
		くせ(癖) ↓おほむこころくせ・おほむくせ		くつる(崩)	
		くせと	二四才 11	くつれたる	五一才 13
				くつれ(崩)	



くづれも 三七ウ12
くどき(口説) ↓うちくどき
くに(国) ↓きのくに・みちのくにがみ
くに 六九才19
くに 八一ウ11
国に 六九才19
国に 八一ウ11
くま(隈)
くまは 一四才5
くま 三七才7
くまに 六四才16
くまにかとて 六七ウ14
くまなし(隈無)
くまなく(連用法) 五才2・三四才8
くまなき(連体法) 二六才3・五四ウ4・五
八才10・五八ウ17
くまなきに 三五ウ8
くまなかりしに 七一才18
くまの(熊野)
くまのへ 六九才7
くものうへ(雲上)
くもの上も 一才9
くもる(雲居)
雲井の 一ウ1*
くも井の 二才2・五才6*
くも井に 一九才1
くやう(供養) ↓きやうほとけくやうす
くやし(悔)
くやしけれなど(こそ)の結び(二〇ウ12
くやしく(中止法) 五〇ウ17
くらうど(蔵人)
くら人を 一ウ4
蔵人も 六九ウ10・七五才8
蔵人は 七一ウ6
くらうどのおととしきぶのたいふがめ(蔵人
弟式部大夫妻)
蔵人のおととしきぶのたいふしきぶの大夫
がめの 七一ウ10
くらうどのにふだう(蔵人入道)
蔵人入道 七六才10・七八ウ4
蔵人入道にも 七八才16
くらし(暗)
くらし(連体法) 一一才8・一四才7・一四
ウ1・七五ウ14
くらす(暮) ↓あかしくらす・いとなみくらす・
ながめくらす・ふしくらす
くらす(連体法) 三〇才4*
くらし(中止法) 七九ウ17
くらぶ(比) ↓おほしくらぶ・おもひくらぶ
くらぬ(位) ↓おほむくらぬ・つかさくらぬ
くらひに 一一ウ10
くる(暮)
くれぬべしなど 一九才3
くれなば 三〇才6
くれに(準体法) 三〇ウ5
くる(連体法) 四四才15
くれぬれば 六二才15・六六ウ20・八二才9
くれぬる 六四ウ10・八六才16
くるし(苦) ↓おほむこころぐるし・こころぐ
るし・はなちぐるし
くるしき(ぞ)の結び(五ウ6・四六ウ12*
くるしき(連体法) 五ウ12・二〇ウ13・三四
ウ6
くるしかるべしなど 三〇才11
くるしう(連用法) 四三才14
くるしく(連用法) 四四ウ10・六二才9・六
六ウ12
くるしうも 四九ウ11
くるしからずと 五一ウ14
くるしからでも 五二ウ14*
くるしからん 五六才1
くるしきに 六〇才11
くるしげなり(苦)
くるしげなる(連体法) 二一ウ1
くるしげにて 五九ウ8
くるしげに 五九ウ17
くるしき(苦) ↓こころぐるしや
くるま(車) ↓おほむくるま
くるまの 一一三ウ15・二四ウ4・二七才3
くるま 四四ウ5・五九才8

くるまやどり(車宿) 三三ウ6
 くるまやどりの
 くれ(暮) ↓あけくれ・ひぐれ・ゆふぐれ 一四ウ6
 くれにも 一七ウ8
 くれに 一七ウ8
 くれには 一七ウ16
 くれは 一七ウ11・五七ウ9・五七ウ14*
 くれなれば 三四ウ5
 くれまで 四六ウ14
 くれ 五七ウ13*
 くれにと 五八ウ3
 くれがた(暮方) 二八ウ14
 くれがたに
 くれなる(紅) 五七ウ9
 くれなるの
 くれゆく(暮行)
 くれゆくに 三〇ウ5
 くれゆく(連体法) 三〇ウ9・三三ウ13
 くる(黒) ↓しろくる
 くるし(黒)
 くるく(連用法) 四二ウ6
 くるう(中止法) 五二ウ13
 くるく(中止法) 五五ウ10
 くわげつ(花月)
 花月にのみ 五一ウ1
 ぐわん(願) ↓おほむぐわん

ぐわんに 六九ウ7
 ぐわんず(観) 八〇ウ17
 ぐわんざられ候けれ
 ぐわんばく(関白) ↓いまのぐわんばく
 ぐわんもん(願文) 七六ウ10
 ぐわんもんの
 ぐゑんちうじやう(源中将) ↓げんちうじやう
 のむすめ 八七ウ11
 源中将の
 くんず(屈) 四ウ10
 くんじ(連用法)

け

け(氣) ↓ひとけ・もののけ 四〇ウ5
 けにや 五六ウ19
 けも
 げ ↓うつくしげなり・うとうとしげなり・おそ
 ろしげ・くるしげなり・こごちよげなり・こ
 とごとしげなり・さびしげなり・しうくげ
 なり・たへがたげなり・なやましげなり・も
 のなげかしげなり・よわげなり
 けいす(啓) 八ウ5
 けいし(連用法)
 けうやう(孝養)
 けふやうの 三九ウ3・五八ウ6
 けふやうに 五二ウ10
 けおとる(気劣)
 けをとりに 六四ウ6
 げかうす(下向) 七七ウ12
 下向し侍りき
 げがらひ(穢) 四五ウ1
 げがらひなど
 げさ(今朝) 二九ウ8
 げさも 三三ウ14*・六一ウ6
 げさの 五七ウ18*
 げさ
 げざやかなり
 げざやかに(連用法) 五五ウ6
 げざん(見参) 七六ウ4
 げざん
 けし(異) 四一ウ2
 けしうは
 けしき(気色) ↓おほむけしき・おほむけしき
 ども 一六ウ8
 けしきの
 けしきなれば 一六ウ11・二二ウ11・二七ウ7
 ・三三ウ4・五九ウ1
 けしき 一八ウ11・二六ウ12・二九ウ14・四
 〇ウ7・五五ウ15・五五ウ7・五六ウ3・
 五七ウ2・五九ウ19・七六ウ12

けしきに 二二ウ 2・二七オ 8・三〇オ 12・

三四ウ 16・三五オ 5

けしきも 二四ウ 5・二四ウ 9・二七オ 13・

三一オ 8・三二ウ 13・三三ウ 13・六一オ 10

・六四オ 18

けしきなり

けしきには

けしきにて 二八オ 13・四〇オ 7・六二ウ 15・

七二ウ 9・七二ウ 16

けしきよりは

けしきなるに

けしき也けるを

けしきなるも

けしきばかりにて

けしきぞかし

けしきなど

げすをむな(下種女)

げす女も

げちかし(気近)

げちかき(連体法)

げちめ

げちめもやと

けつ(消) ↓かきけつ

けどほし(気遠)

けどをくのみ

けどをからぬ

けに(異)

けに

げに(実)

げにぞ

げに(下人)

下人にて

けはし(険)

けはしければ

けはひ(気配) ↓おほむけはひ

けはひなども

けはひも

「け」わい

けふ(今日)

けふも

けふは 一七オ 11・五七ウ 8・五九オ 9・八

四ウ 3

けふかな

今日も

けふまで

今日の

けふや

けふ

けふを

「けふ」まで

一四オ 4

五オ 3・八ウ 4

四七オ 5・五二ウ 3・五八ウ 12

五ウ 6

七五ウ 19

六ウ 4

六九ウ 4

六九ウ 5

八五オ 4

一六オ 3

三〇オ 4 *

三一オ 3

四六オ 14

六二ウ 9

六六ウ 13・七七ウ 12

六七オ 2

八五ウ 16

けふあす(今日明日)

けふあすのみ

けふあすに

今日あすのみ

けふあす

けぶり(煙)

けぶりにもと

けん(軒)

けん

げんちうじやうのむすめ(源中将女)

げん中将のむすめなりけりと

げんちうなごん(権中納言) ↓とのげんちう

なごんどの

九オ 1

三〇オ 12

四二ウ 12

八八オ 9

七一オ 15

二ウ 10

七六ウ 14

七六ウ 14

七六ウ 14

七六ウ 14

七六ウ 14

じ

こ(子) ↓うらしまがこ・おほむこ・おほむこ

ども・おほむめのとこ・なにのちうなごん

のおほむこのちうじやう・をのここ

こ 五九ウ 2・六二ウ 13

こは 六二ウ 13

こを 六三オ 18

この四六ウ 13 * 《此》との掛詞・六六ウ 19

* 《此》との掛詞

子にて 六九ウ 9

子さへ	八五才15	ここ(此処)	ここちよげなり(心地良)
こ(此)		ここに	心ちよげに
こわ	五九ウ9	ここになん	こののへ(九重)
こは 六一ウ6・六三才5・六三ウ20・六四才12		ここには	このへの
こ(木)		ここにしも	こもと(此処許)
この	八六ウ16	ここかしこ(此処彼処)	こもとの
こ(暮) ↓おほむこつち		ここかしこの	こころ(心) ↓うつしこころ・おほむこころ・おほむこころぐせ・おほむこころづつから・おほむこころざま・おほむこころづつから・おほむこころまつけ・しれこころ・すぎこころ・なにこころなし・ものこころぼそし
こ(期)		ここかしこ	心の 五ウ1・五ウ12・七ウ7・一六才10・一六ウ6・二六才7・三五ウ8・四〇才2
こつち(空夜)	八〇才1	ここち(心地) ↓おほむここち	心ばかりは 五ウ7
こつちや	二ウ8	心ち三才1・二二ウ12・一七才13・一九ウ11	心も七才12・二二ウ9・一五才11・一六才14
こおほきおとど(故太政大臣)		・二五才14・二六才1・二六ウ5・二六ウ8・二七ウ2・二九ウ6・二九ウ17・三三才3・三五才5・四三ウ3・四七才11・四九ウ9・五二才15・五六才12・六〇ウ17・六二ウ9・六九才12・七四ウ13・七六ウ17	心は 二二ウ4
こおほきおとゞ	一〇才2	・七七ウ5・八四ウ5	心と 二二ウ4・四八才7
こおほきおほと(故太政大臣)	二〇ウ16	心ちぞ 一一才5・五〇ウ18・六三才14・七九才3	心には 一四ウ4
こがす(焦)		心ちのみ 一四才3・四二ウ14	心を 一五才6・一六ウ8・一七才8*・二四才12・三二ウ9・四六ウ3・四六ウ5・六一才13
こがすに	三二ウ9	心ちも 一五ウ12・一五ウ14・二六才11・二八ウ12・三八ウ16・三九才10・三九ウ14・四二ウ11・六一ウ3・七六才16	心に 一九才5・三九ウ7・四〇ウ3
こがし待ぬるも	六九才18	心ちなど	心に 二六才4・四五才9・八四ウ2
こくらく(極楽) ↓わつじやつこくらく	二二ウ7	心地	
こくらくの	八八才13	心ち	
極楽の		心ちの	
こぐわつふつか(五月二日)	四三才13	心地に	
五月二日ばかり		心ちに	
こけ(苔)	五〇ウ7*		

心三四才14・三八才7・三九才3・四五才6	心ぎし	三七才10	心のやみに	一三才2・六九才3
・四八才7・五八才7・七五才6・八〇才14・八六ウ4	こころざす(志)	二五ウ8	こころふかし(心深)	
心にて	心ざす(連体法)	七二ウ6	心ふかく(連用法)	三一ウ12
心ならば	こころさわぎ(心騒)	八才13	こころぼそし(心細)	
心など	心さはぎは	三四才15	心ぼそく(連用法)	二才4・二〇才13・五九ウ18
こころ	こころたがふ(心違)	五六才10	心ぼそく(中止法)	四八ウ8
「心」に	心たがうる(連体法)	一八ウ6	心ぼそかりける	八四才17
心からこそと	こころづきなし(心付無)	四二才12	こころみ(試)	二六ウ1
心からこそと	心づきなく(連用法)	三四才9	心見に	
こころう(心得)	こころづくし(心尽)	四二才12	こころもとなし(心許無)	
心えにければ	心づくしに	一七ウ5	心もとなき(連体法)	三二ウ15
こころうし(心憂)	こころときめきす(心悸)	一七ウ5	心もとなからで	三六ウ10・六一ウ7
心うく(連用法)	心ときめきせられて	二二ウ14	心もとなく(連用法)	一七ウ9・三八才1・四
ウ14	こころとどむ(心留)	二二ウ15	心やすく(連用法)	八才8・五四才2
心うくて	心とどめ給はん	五三才1	こころやまし(心疚)	
心うかりしにこそ	こころながら(心)	八ウ3	心やましく(中止法)	三七ウ6
心うからましと	心ながら		こさぶらひ(小侍)	
心うければ	こころなし(心無)			
こころおく(心置)	心なくも			
心をき給はぬも	こころにくし(心悪)			
こころぐるし(心苦)	心にくき(連体法)			
心ぐるしかるべけれ	心にくく(連用法)			
こころぐるし(心苦)	心にくく(連用法)			
心ぐるしに	心にくく(連用法)			
心びしに	こころのやみ(心闇)			
心びし	心のやみは			

こさぶらいの	五七ウ 11	こたふ(答)	三七オ 1	・二〇オ 11・二二ウ 3・二四オ 11・二五オ 14・三三オ 1・三四オ 9・三四オ 14・三四ウ 10・三六ウ 16・三七オ 11・三七ウ 3・四一オ 10・四一ウ 9・四三オ 1・四四ウ 11・四七ウ 5・四八オ 3・五三ウ 13・五四オ 18・五五オ 2・五六ウ 17・六〇オ 3・六〇ウ 2・六一オ 5・六三ウ 2・八〇ウ 3
こしちにち(五七日)	三九オ 13	こたふれば	六六オ 20*	ことをも
こじふよにん(五十余人)	八〇オ 8	こたへける	二ウ 4	ことは 六オ 3・六オ 12・一四ウ 12*・四五オ 5・五六オ 5・六二オ 7・七六オ 2・七六ウ 4
五十よ人ばかり	六三ウ 10	こち(此方)	六九オ 14	事 八ウ 1・九オ 9・二〇ウ 9・二一オ 14・二六オ 10・二七オ 6・三三ウ 16・四八ウ 4・五八オ 14・五八ウ 2・五九オ 5・六二ウ 2・六三ウ 20・六八オ 11・七四ウ 11・八二オ 10・八二ウ 2・八三オ 7・八三ウ 10・八五オ 6・八八オ 1・八八オ 16
こじよ(御所)	六二ウ 8	こちやとて	七七オ 3	ことに 一〇ウ 1・二〇オ 10・二〇ウ 2・二八オ 4・五三ウ 17・五六ウ 17・六七ウ 1
御所にて	八〇ウ 18	こちうぐう(故中宮)	三〇ウ 14	ことなり 一ウ 14・一五オ 3・三三ウ 17・三四オ 6・四五オ 5・七九ウ 12
こす(越) ↓ひきこす	七オ 11	こ中宮に	一〇ウ 12・五一ウ 14	ことなれば 一二オ 5・三四ウ 14・三八オ 12・三九ウ 8・六三ウ 2・七四オ 7
こず系(梢)	五六オ 9	こざそつ(護持僧)	二〇オ 3	ことに 一〇ウ 1・二〇オ 10・二〇ウ 2・二八オ 4・五三ウ 17・五六ウ 17・六七ウ 1
こず系	五七ウ 1	御ちそつより	二〇オ 3	ことのみ 一三ウ 16・一九オ 4・二〇ウ 13・七〇オ 5
こせ(後世)	六七ウ 17	こちたし	七七オ 3	
こせを	八二ウ 4	こちたし(終止法)	七七オ 3	
こぜん(御前)	七四ウ 1	こちなし(骨無)	三〇ウ 14	
御ぜんにも	八七オ 6	こちなき(連体法)	三〇ウ 14	
こぜんに	二オ 10	こと(言) ↓そらごと・ひとごと	二〇オ 3	
御ぜんにて	五一オ 14	こと(琴) ↓おほむこと・きむのおほむこと・しやうのこと	二〇オ 3	
御ぜん		こと	二〇オ 3	
こぞ(去年)		こと(事) ↓おほせこと・おほむこと・かへり	二〇オ 3	
こぞの		こと・つきごとのおほむこと・なにごと・ねぎごと・ふるごと・まめごと	二〇オ 3	
こそつのみや(故帥宮)		こと	二〇オ 3	
こそつの宮に		こと	二〇オ 3	
こそつの宮の		こと	二〇オ 3	
こだいながんのすけ(故大納言典侍)		こと	二〇オ 3	
こ大納言のすけの		こと	二〇オ 3	
こだちども(木立共)		こと	二〇オ 3	
こだちども		こと	二〇オ 3	

事も	一四ウ3・一五才4・一五才11・二〇ウ11・三六ウ3・四五才1・四八ウ7・五〇才7・五二才1・五六才2・六五ウ21・六七才9・六八才3・七〇ウ12・七三ウ5・七三ウ12・八〇ウ16・八四ウ6	事か	三六才4	事の	六五ウ11・八八才4
ことなど	一七才4・二〇才15・五七才3・六一ウ19・六二ウ1・六三才15・七四ウ14	事などの	三六ウ2	事なれば	六六才2
事を	二〇才9・四一ウ12・四七ウ14・四八才1・六一才13・六五ウ6・八八才14	ことこそ	四二才8	事なん	六七才3
ことを	二〇ウ14・四二ウ8・四三ウ9・四三ウ16・五〇ウ15・五五ウ1	事に	四五ウ16・七一才6・七五ウ6・八二ウ2・八五ウ7・八八才14	こともや	六七才10
ことゝ	二二才3・三三ウ9・四二才13・五四ウ15・七六ウ12	ことにかと	四六才12	ことななどは	六七ウ5
ことやら	二四才6	事なるに	四七ウ7	事にて	六八才3・七三ウ10
ことならねば	二八ウ3	事もやと	四九才5	事のみ	六九ウ9・八一ウ2
ことの	二八ウ4・二八ウ8・三三ウ13・四一ウ14・四六才9・五六ウ15・五七ウ5・六一才7・六四ウ15	事は	四九才13・五四ウ6・五六才9・六六才3・七八才10・七八ウ1	ことか	七一才5・七二才1
事とも	二九ウ5・六九才6	ことゝだに	五〇才16	事なればと	七一才10
こともこそとて	三〇ウ15	事にかとて	五〇ウ16	事をのみ	七二才13
ことぞと	三三才7・三三ウ12	ことなどぞ	五二ウ2	事にや	七三ウ9
ことなん	三三ウ11	ことなどを	五四才12	事など	七四ウ17・七八才17
ことなりなど	三四才13・七八ウ2	ことや	五四ウ4	ことゝのみ	七七ウ5
ことなれど	三四ウ1・四三才3	事には	五四ウ13	事なれど	八二才14
事にかと	三六才3・四五ウ9	ことに	五四ウ18	事をしも	八六ウ7
		事をも	五八ウ1	事もや	八七才10
		ことかなと	五八ウ5	ことならぬを	八七ウ10
		事ぞとだに	六〇才10	ことゝつぎことのおほむこと	
		ことをば	六〇ウ14	ことごとし(事事)	
		ことにやと	六二才14	こと	しく(連用法) 一五ウ14・二九ウ11
		ことかな	六三ウ6	こと	・三六ウ14
		事と	六三ウ11・七九ウ19	こと	しからぬ 一九ウ15・六七ウ16
		事ぞと	六四才12	こと	しき(連体法) 三四ウ16
		ことしも	六五才15・六六才20*	こと	しからず 八七ウ12
				ことごとしげなり(事事)	

こと しげに(連用法)	三四ウ12	ことのは(言葉) ↓おほむことのは	八三ウ19
ことさま(事様)		ことのはも 一オ2・三三オ11・三五ウ10・ 四九ウ17	
ことさまやとて	三六ウ4	ことのほかなり(殊外)	八〇オ7
ことし(今年)		ことのほかなり(殊外)	
ことしぞ	七二オ18	ことのほかならずと	
ことし	七七ウ19	ことのほかならずと	
ことしげし(事繁)		ことのほかに(連用法) 一八オ4・二二ウ1 ・二四ウ14・四二オ5・四七ウ2・五五ウ 7・五六オ4	
ことしげく(中止法)	三五オ7	ことば(言葉)	
ことしげき(連体法)	四三オ6	ことばも	一九オ1・三八ウ8
ことつく(言付)		ことども(子共)	
ことつけて	五九オ4	ことども	三八ウ17
ことども(事共)		ことどもなどの	三九ウ7
ことども	二二オ9・三四ウ7	ことよす(事寄)	七五ウ8
事どもを	三四ウ3	ことよせて	八オ4
ことどもは	三八オ3	ことわり(理)	
ことどもを	四一ウ11	ことわりに	四八オ12
事ども 六一ウ12・七三ウ20・八二オ8・八 四オ13		ことわりに	六七オ17
ことなしび(事無)		ことほりに	
ことなしびに	四六オ12	ごなう(御惱)	
ことなり(殊)		御なうの	一五ウ6
ことなる(連体法)	一四オ2・六四オ11	こなた(此方)	
ことにて	三三オ11	こなたえ	二オ1
ことに(連用法)	四九ウ9	こなたへ	二八オ11
ことのありさま(事有様)		こなたには	六八ウ20
ことのありさまも	七六ウ13		
		こなたの	
		こなたかなた(此方彼方)	
		こなたかなた	
		この(此)	
		この一ウ11・二オ3・六オ9・六ウ8・七 オ8・一〇オ1・一〇オ8・一〇オ12・一 一ウ8・一三オ13・一五ウ4・一八ウ2・ 二〇ウ1・二二オ1・二二オ3・二二オ9 ・二三ウ9・二四ウ11・二四ウ12・二四ウ 14・二五オ11・二五ウ12・二五ウ13・二六 オ15・二六ウ1・二七ウ10・三四オ14・三 四ウ9・三六オ10・三六ウ6・三七オ5・ 三八ウ11・三九オ5・四〇オ4・四〇ウ9 ・四一オ13・四一ウ1・四一ウ14・四二オ 9・四二ウ6・四四ウ12・四四ウ14・四五 オ12・四五ウ4・四五ウ6・四五ウ8・四 五ウ16・四六オ3・四六オ7・四六オ9・ 四六ウ14・四七ウ1・四九オ1・四九ウ14 ・五〇オ3・五〇オ5・五〇オ14・五二オ 16・五二ウ1・五三オ7・五四ウ7・五四 ウ16・五四ウ16・五五ウ16・五六オ12・五 六ウ4・五八オ1・五八オ11・五八ウ3 ・五八ウ14・五八ウ15・五九オ10・五九ウ 18・六〇オ6・六〇オ9・六〇オ15・六二 オ1・六三オ15・六三ウ2・六三ウ10・六 三ウ21・六四オ13・六五ウ6・六五ウ12・	

このよ(此世)	このよには	九ウ6・一〇ウ13・五四才2・七八才2	こひねがふ(請願)	七九ウ11
このよし(好)	このよは	一一ウ2・四六ウ13*《子世》との掛詞》	こひ(恋)	二二才6*
このよしからず	このよのみとは	一四ウ12*《今夜》との掛詞》	恋し	四九才9
このませ給はざりしかど	このよに	四八才3・四八ウ5	こひたてまつり	七七才14
このまかのも(此面彼面)	このよばかりだに	六〇ウ19	恋たてまつる	六四ウ20・七五ウ19
このもかのもにも	このよのみ	六一ウ21	こほり(氷)	七八才15
このむ(好)	この世は	六六ウ7*	こほり	七八才15
このめる	この世に	七六才15	こほる(零)	二九ウ1
このませ給はざりしかど	この世を	七九才17	こほるれば	二九ウ1
このもかのも(此面彼面)	この世の	七九ウ1	こほるゝ(「ぞ」の結び)	三四ウ4
このもし(好)	こぼう(御房)	四五ウ7	こぼるゝ(連体法)	四二ウ1・四六ウ3
このもしからず	御ぼう	八一才15	こぼれ給ぬ	四二ウ5
このよ(此世)	こひ(恋)	二四才8	こぼれ給ひけり	六〇才1
	恋は	二四才8	こぼれぬるを	六六ウ10
	こひし(恋)	二四才8	こぼれかかる(零懸)	六七才16
	こひしく(中止法)	七ウ4・四九才8	こぼれかゝる(連体法)	六一ウ14
	こひしき(連体法)	二九ウ17	こま(駒)	六二ウ7
	恋しう(連用法)	五〇ウ8	こま	三三ウ7
	恋しう侍りて	七四ウ4	こまの	七三ウ7
	こひしさ(恋)	七四ウ4	こまやかに(細)	七八才20
	こひしさ	三九ウ16	こまやかに(中止法)	一七才5・八七ウ11
	恋しさ	七八才1	こまやかにぞ	三三ウ5
			こみや(故宮)	

こ宮などの	七二ウ 21	五夜七夜など	六八ウ 2	御らんずるなめりとして	五三才 8
こむ(込) ↓おろしこむ・さしこむ・しのびこむ・まきこむ		こゆ(肥) ↓うちこゆ		御らんぜさせ給へ	六三才 18
こむよ(来世)		こよなし		これ(此)	
こんよを	四〇才 2	こよなく(連用法)	六八ウ 20	これは 六才12・二五ウ7・三二ウ5・三六才7・五一才17・五五才7・五七ウ13・五八才12・五九ウ2・六三ウ4	
こもりおはず(籠御座)		こよひ(今宵)		これも 一〇ウ1・五五ウ14・六八才19・六八ウ3	
こもりおはする(連体法)	一九ウ 16	こよひも	六才3・五一才2	これを 一三ウ9・四〇才11・五〇才5	
こもりをはして	二二才 1	こよひは 一八ウ7・三〇才8・三〇ウ5・三三才13・三五才3・四〇才7・五六ウ9		これより 一四ウ2・三二才2・五九才16	
こもりおはして	七才 10	こよひばかりの		これに 二四才2・三一ウ9・三三ウ9・四一ウ15・四六ウ3・五三才13・五六ウ11・六七ウ12・七四才7・七六ウ2	
こもる(籠) ↓かきこもる・とぎこもる		こよひと	五六ウ 6	これや 二五才12・四一才6	
こもり給ぬれば	二二ウ 8	こらい		これをしも 二五ウ 5	
こもらんと	四二ウ 16	こらい 八二才8 《語らひ》の「か」の脱		これをだになど 三一才 5	
こもらせ給へかして	四三才 8	とむじ(御覽)	六三ウ 15	これこそは 三三才3・七三才1	
こもらせ給て	四三才 11	こらむじ(御覽)		これ 三五ウ12・五七ウ15・六一ウ8・六三才4・六三才18・六四ウ15・六五ウ8・七九ウ11	
こもりたる	四五才 13・六八ウ 18	こらむじいる(御覽入)	三一才 3	これなん 三六才3・六三ウ13・六五ウ17	
こもり給たるが	四五ウ 5	御らんじも		これにぞ 三八才 3	
こもらじとて	五九ウ 3	こらむじいれで		これをのみ 三八ウ 12	
こもりて	六九才 1・七二才 12	こらむじめぐらす(御覽廻)		これにては 四二ウ 13	
こもり給けるとばかり	七〇ウ 5	御らんぜよとて	四三才 12・六三才 4	これへ 四五ウ 13	
こもり給べきにか	七三ウ 15	こらむじめぐらす(終止法)		これのみ 六二才 7	
こや(後夜)		御らんじめぐらす(御覽)	一才 7		
こやの	四六ウ 15	御らんずべきにこそなど	一五ウ 8		
五夜の	六〇才 16・六九才 2	御らんぜられつらんこそ	二〇ウ 11		
五夜も	七三才 11	御らんずれば	二四ウ 11・六三才 13		
五夜	八二ウ 18	御らんぜよとて			
こやしちや(五夜七夜)					

これしも 六四ウ15
 これには 六七ウ19・七三ウ15
 これにても 七四オ9
 これなり
 これなりを 五六ウ8
 これなりのあそん(一―朝臣)
 これなりのあそんなど 五八ウ9
 これら(此等)
 これらをも 三九オ2
 ころ(頃) ↓このころ・さむべつとをかころ・
 さむじふにすころ・しやうべつとをかこ
 ろ・ついたちころ・つきころ・つこもりこ
 ろ・とをかころ・なかころ・ひころ
 ころ一オ4・四五オ16・六二ウ7・六五ウ13
 ・七二オ5・七八ウ6
 ころと 九オ2
 ころなるを 一一ウ3
 ころも 一四ウ15
 ころにて 四三オ7
 ころなり 五三ウ5
 ころなれども 五五オ12
 ころより 六六ウ17
 ころを 七〇オ6
 ころは 七一ウ1
 ころくにち(五六日)
 五六日にも 一六オ7

五六日ばかり 三六ウ10
 五六日 四五ウ5
 ころほひ(頃)
 ころをひなれば 三〇ウ4
 ころも(衣) ↓さころも 五〇ウ5
 ころもの
 こわづくる(声作) ↓うちこわづくる
 こゑ(声) ↓おほむこゑ・やこゑ
 こゑ一ウ4・六ウ3・一四オ3・七二ウ20
 こゑの 一ウ11・一八オ1
 こゑも 二四ウ7
 こゑよりも 三五ウ11*
 こゑなども 四九ウ9
 こゑは 八一ウ3
 こんぎやう(勤行)
 こんぎやうも 一六オ14
 こんちうなごん(権中納言) ↓とのごんちう
 なごん
 こんちうなごんどの(権中納言殿)
 こん中納言殿の 七三オ2

な

さ ↓あさからずさ・あはれさ・あやなさ・いぶ
 せ さ・つころめたさ・つつくし・つれし
 さ・おそろしさ・おぼつかなさ・おもはず
 さ・しれがましさ・つらさ・ほどなさ・わづ
 らはしさ
 さ(然)
 さなん 八ウ6
 さ 一一二ウ5・四三オ10・五四オ13
 さにこそと 一六ウ1
 さは 四二オ8・五二オ12
 さいかく(才覚)
 さいかくの 八一ウ5
 さいぐう(齋宮) ↓いせのさいぐう
 さい宮は 二二ウ14
 さい宮に 二三オ8
 さいぐうに 二六オ5
 さい宮にぞ 七一オ3
 さい宮と 七二ウ7
 さい宮に
 さいしやうのきみ(宰相君)
 さいしやうのきみ 四オ7・五オ8
 さいしやうのめのと(宰相乳母)
 宰相のめのと 六七ウ18
 さいなむ(嘖)
 さいなまんずるが 四七オ5
 さいはひ(幸)
 さいはい 八三ウ2
 さいゐん(齋院)
 さいゐんも 一一二オ7

さつ(相)							
さつなどを	七八ウ7	さきの	二六オ14	さしいる(差入)		五オ2	
さつぎつし		さきに	三二オ2・五五ウ4・六四ウ8	さし入て			
さつ	七オ4	さきも	七五オ2	さしおく(差置)			
さつ	七オ4	さきになん	八四オ17	さしをかれて		六二オ7	
さつ	九ウ11	さきだつ(先立)		さしかたむ(差固)			
さつ	九ウ11	さきだちきこゑにければ	二二オ11	さしかためて		三六ウ12	
さつ	八六ウ10	さきだち給なんずる	四七ウ13	さしこむ(差込)			
さつじし(曹司) ↓おほむさつし		さくら(桜) ↓おそざくら		さしこめたれば		六一オ3	
さつじみ(正身)		さくりもよよと(噓)		さしすぎたる			
さつじみの	五ウ7	さくりもよよと	七七オ20	さしすぎ(差過)			
さつなし(左右無)		さくりよれば		さしつどふ(差集)		七三オ19	
さつなく(連用法)	六〇オ7・七九オ14	さぐる(探)	二七ウ1	さしつどいて		五一ウ9	
ざえ(オ)		さぐる		さして			
ざえ	一〇ウ11	さぐりきこゆれば	二八オ5	さして		三三ウ11	
ざが(性)		さごろも(狭衣)		さしぬき(指貫) ↓おほむさしぬき			
ざがなるを	一三ウ7	さごろもの	四九オ3	さしのぞく(差覗)			
ざかえ(栄) ↓おほむさかえ		さざめく ↓うちさざめく		さしのぞきて		三二ウ3	
ざかへを	四七ウ17	さしあく(差開)		さしも			
ざかし(賢)		さしあけさせて	五〇オ4	さしも 一七オ2・三九ウ10・五六オ7・七			
ざかし(賢)	六一ウ4	さしあたる(差当)		三ウ7			
ざかし(賢)	六一ウ4	さしあたりては	四六ウ7	さしやる(差遣)			
ざかし(賢)	六一ウ4	さしあたりて	四九オ11	さしやり給へれば		五八オ12	
ざかりなり(盛)	六〇ウ16	さしいづ(差出)		さしよす(差寄)			
ざかりなる(連体法)	四七ウ16	さしいで	一オ4・五五オ6	さしよせて		四四ウ5	
ざかりに(連用法)	七〇オ5	さしいでたり	三六オ2・六三オ3	さしよる(差寄)			
ざき(先)		さしいでたれば	三六オ14	さしよる(差寄)			
ざきになど	二〇オ13			さしよる(差寄)			

さしよりては	四一ウ10	さすらへ給らんと	六四才17	さだむ(定)	一三ウ9
さす(鎖・閉)		させる(然)		さだむべうは	
さゝざりけるも	一八ウ6	させる	一五才14・二六才10	さだめたる	二四才1
させやと	三七ウ8	さそひ(誘)		さだめぬ	二四才10
さしつなり	三七ウ8	さそいや	六五才12	さだめず	八〇ウ19
さす(射)		さそひいだす(誘出)		さて	
さしなから	四〇才8	さそひだして	三〇才8	さてのみやはと	二四才4
さす(指)		さそいゝだして	三〇才14	さて一二七才9・三八才4・三八ウ4・四〇才1・五五才11・五六ウ1・六〇ウ2・六二ウ4・六八才5・八五才14・八八才17	
さゝれて	八〇才4	さそふ(誘)	四三ウ9	さては	
さし給	八二ウ13	さそふ(連体法)	四六ウ2	さては	五四才2・六五ウ2
ざす(座主) ↓だいのざす		さそはれぬらんと	七二才8	さても	一ウ4・六八才5・八五才14・八八才17
ざすの	一五ウ3	さそつ(連体法)	七四才4	さては	五四才2・六五ウ2
さす		さそつなるに	七五ウ18	さても	一ウ4・六八才5・八五才14・八八才17
さすが	四四才13	さそい給て	六七才21	さても	一九才6・二八才4・二九才8・五七ウ18*・六二ウ19・七〇ウ8・八七才4
さすがなり		さそらふ		さてもや	六五ウ7
さすがに(連用法) 一九才2・二五才2・二六ウ7・三一ウ5・三三才15・三五ウ8・五〇ウ1・五七才5・五七ウ4・六〇ウ7		さそらへぬべかりけるものを		さと(里) ↓ふしみのさと・ふるさと	
・六三ウ12・七二ウ16・七六才16・七九才18・八五ウ8		さた(沙汰) ↓おほむさた		さとの	五四才3
さすが也(終止法)	三〇才13	さだいしやつ(左大将)	九才12	さとやしなひ(里養)	
さすがなりぬべく	六七ウ11	左大将		さとやしなひにも	六二ウ18
さすらはす(流)		さだかなり(定)	八五ウ14	さながら	二二ウ6・三六才14・八〇才9
さすらはせんも	三〇才14	さだかに(連用法)		さながら	二二ウ6・三六才14・八〇才9
さすらふ(流)		さたす(沙汰)	二二ウ8	さばかり	三三才12・五五ウ17・六〇ウ15
さすらふ(流)		さたしきこえ給ふ	三四ウ8	さばかり	三三才12・五五ウ17・六〇ウ15
さすらふ(流)		さたするに	五六ウ9	さばかりの	六二才2
さすらふ(流)		さたせさせ給へ	六一ウ3	さばかりなり	
さすらふ(流)		さたしきこゆべき			

さばかりにやと	一八ウ13	候べきを	四三オ5	候しかば	八一オ7
さばかりにて	六一オ11	候へ(「こそ」の結び)	四四オ5	候はゞ	八一オ10
さびし(寂)		候なる	四四ウ12・四四ウ13	候なりと	八一オ17
さびしく(中止法)	二四ウ7	候はでなど	五一オ7	候なん	八二オ5
さびしく(連用法)	六二ウ8	候には	五二オ7	候はで	八二オ19
さびしげなり(寂)		候まじきにこそなど	五四オ2	候(終止法)	八二ウ4・八七オ3
さびしげに(中止法)	五一オ14	候に	五七オ17	さぶらふ(「や」の結び)	八七オ7
さぶらひ(侍) ↓「こそぶらひ・なまざぶらひ		さぶらはせ給て	六八ウ14	候はせ給へと	八七ウ5
さぶらひ	六〇オ5	さぶらふなる	七一ウ17	さぶらふ(候)《補助動詞》	
さぶらひつく(候付)		さぶらふ(「なむ」の結び)	七二ウ14	みざぶらはめと	三三ウ4
候つきたり	七四ウ16	候へと(「こそ」の結び)	七三オ1	し候(「と」「こそ」の結び)	三六オ12
さぶらひども(侍共)		候て	七三ウ5	申候つれど	三六ウ5
侍ども	八一ウ13	候(「なむ」の結び)	八一オ15	申候(「なむ」の結び)	三七オ13
さぶらはせたまふ	二ウ5	候らん	七三ウ10	つかひ候へば	三七ウ1
さぶらはせ給しを	六ウ13	候へば 七三ウ12・八〇ウ11・八二オ11・八	八二オ11・八	し候と(「ぞ」の結び)	四七オ8
さぶらふ(連体法)	一三オ1・五八ウ13	候なまし	七七ウ18	申候て	五七ウ16
候を	二〇ウ2	候しが	八〇オ8	見さぶらひしかば	六五ウ20
候給に	一三ウ7	候けり	八〇オ14	見さぶらふばや	六六オ5
さぶらひて二七ウ14・三九ウ11・五六ウ11・		候し 八〇オ19・八一オ6・八一オ8・八二	八二	しりさぶらひて	六九ウ12
六九ウ12		ウ5		なり候に	七七ウ20
候はず	三六ウ6・八〇ウ4	候しに	八〇ウ5	うたれさぶらひにき	八〇オ7
候つれば	三六ウ6	候が	八〇ウ6	をいて候し	八〇オ18
候と	三六ウ7・七八ウ11	候へども	八〇ウ11	とどめ候べき	八〇ウ3
候らんと	三七オ5	候けれ	八〇ウ18	「つ」かうまつり候はず	八〇ウ10
候給ぞ	四〇ウ16	候べきなど	八〇ウ19	たづね候べきと	八二ウ12
				たづね候べきにも	八二ウ17

まかり候しに 八三才5

思ひわき候はねとて 八五才4

まひ候ねば 八八才17

さほど

さほどに 三三才8・四八才4

さま(様) ↓いかさまなり・おとりさまなり・

おほむかたさま・おほむこころさま・おほ

むさま・かきさま・かくろへさま・ことざ

ま・ちござま・ひござま・みなみさま・れい

さま

さまに三才8・六ウ12・一〇ウ3・一八才5

・一八ウ8・二八ウ9・三四ウ13・三八ウ

17・五五ウ15・六七ウ17・七五才1・七八

才15

さまのみ 四才4

さまにのみ 一三ウ10

さまなど 一九ウ7・二八ウ12・七九才12

さまなる 二〇ウ14

さまを 二二ウ7・二八ウ6・四一ウ14・四

三才2・四三ウ12

さま 二二ウ13・三六才2・四八才13・四八

ウ1・五一ウ9・五五ウ9・五九ウ9・五

九ウ17・六三才4・六三才15・六八才9・

六八才13・七七才11・七八才5

さまにこそとは 二八ウ8

さまにて 三二ウ1・四五ウ13・六二才10・

六二才15・七六才11

さまの 三四ウ1・七〇ウ16

さまぞ 三六才5

さまなれど 三六ウ1・四六才13・七七才2

さまをも 四二才11

さまなれば 四九ウ10・六三ウ10

さまには 五三才1・五九ウ16

さまなども 六三ウ7・六三ウ9

さまなり 六六才16

さまなんと 六七才5

さまも 七八才14

さまなどをば 七八ウ5

さまくだる(様下)

さまくだりたる 五五ウ9

さまさま(様様)

さま 二二才4・三〇才7・三三才5・

六八ウ1・七八才18・八二才7

さま の 四五才9・八四才17

さまざまいろいろなり(様様色色)

さま 色 に(連用法) 三五才9

さまざまなり(様様)

さま なりつる 二九ウ4

さまし(覚) ↓めざまし

さます(覚)

さまさせ給て 六才7

さまし侍らんとて 二五才15

さまたく(妨)

さまたげまほしき 三四才14

さまたげ(妨)

さまたげにや 一四才7

さまよふ(彷徨)

さまよう(連体法) 八八才12

さむ(覚) 二五才6

さめぬ 八二ウ15

さめしより 八五ウ15

さも(然)

さも 一七ウ6・二九ウ13・四三才3・四七

ウ7・五三才13・五六才7・六三才10

さやう(然様)

さやうの 九才2・一三才5・五二才5・五

四ウ13・七五才7・八七才7

さやうなり(然様)

さやうにもと 七ウ9

さやうに(連用法) 八才3・五四才13・六七

ウ10・八七才17

さやうにて 二二ウ14

さやうにのみ 七一ウ1

さやうならん 八七ウ6

さらしな(更級)

さらしな 五一才3

さらなり(更)

さらなり(更)

さらなる(連体法)	一一ウ14	さりととも(然)	四一オ8・四五ウ8
さらに(連用法)	一三オ5・四四オ1	さりとともと	一八ウ7・二〇ウ10・四〇ウ12
さらにも	四八オ11	さりととも	二八ウ14・三八ウ4・四二ウ2・六八ウ11・七七ウ17・八四オ6
さらなり(中止法)	六八ウ2	さる(去)	一一ウ8
さらじこ(作礼而去)	一八オ15	さり給べき	一一ウ8
さらじことして		さる(然)	
さらじにさらじ(更更)	三三ウ14	さる三五ウ8・三六ウ3・六〇ウ13・六二ウ2・六五ウ21・六八オ3・七四ウ8・八四ウ9	さゑもん(左衛門)
さらば(然)		さるにても(然)	さゑもん(左衛門陣)
さらば一七ウ5・四三オ11・四四オ5・四四オ9・四四ウ4		さるにても	さゑもん(左衛門)
さり(去) ↓よさり		さるは(然)	さん(産) ↓おほむさん
さり(然)		さるは	さむぐわつとをかごろ(三月十日頃)
さるべき 一二オ10・一三オ3・四七ウ6・六七ウ17・六八オ1・七四オ7		さるほどに(然程)	三月十日ごろより
さるまじき	四〇オ14	さるほどに	さむじふにちごろ(三十日頃)
さりぬべき	四四ウ11・五五ウ6	されども(然)	卅日ごろに
さりぬべく	五一オ8・八八ウ11	されども	さむじふよにん(三十余人)
さりぬべからん	六七ウ2	さわがし(騒) ↓ものさわがし	三十よ人の
さらはず	七五オ17	さわがし(騒) ↓ものさわがし	さんちう(山中)
さるまじきと	八六ウ12	さわがしき(連体法)	山中に
さりげなし(然無)		さわぎ(騒) ↓こころさわぎ	さむでうたかくら(三条高倉)
さりげなくて	二八ウ13・四五ウ3	ささぎに	三でうたかくらなれば
さりとて(然)		さわぐ(騒) ↓うちさわぐ・もてさわぐ	さむにち(三日) ↓にさむにち
さりとて	二八ウ2・四三ウ11・八八オ17	ささがれ給ふ	さむにん(三人) ↓にさむにん
さりとては	六二オ16	ささがせ給て	さむびき(三匹) ↓にさむびき
		さわぐ(連体法)	さむぼう(三宝)

三寶にも 八五ウ6
 さむまいだう(三昧堂) 七ウ2
 三まいだうに 二二ウ9
 さむぬのきみ(三位君) 五二オ12
 三ぬのきみ 一〇オ1
 三ぬ・きみは 一一オ5
 さむぬのちうじやう(三位中将) 五二ウ4
 三ぬの中將 一ウ5・三オ1・三オ4・一七
 ウ1・四八オ5・四八オ12・六五オ3
 三ぬの中將は 五ウ4・二三ウ12・五八ウ18
 三ぬの中將こそ 六ウ3
 三ぬの中將をこそ 五三ウ10
 三位の中將の 六七ウ8
 三位の中將とて 七〇オ16
 三位中將 七五ウ17・八八ウ1
 三位中將は 七六オ9
 さむぬのちうじやうどの(三位中将殿) 七四ウ6
 三位の中將殿などこそは 七四ウ6
 し(師) 四五ウ7
 しの 八一ウ7
 師と
 しありく(歩)

しありき侍なりと 六三オ11
 しありき給しかば 七一ウ2
 しう(主) 五二オ12
 しうならんと 五二オ12
 しうくげなり(秀句) 五二ウ4
 しうくげに(連用法) 八一ウ2
 しうす(修) 八三オ4
 しうし給 八一ウ2
 しうし侍るに 八三オ4
 しおく(為置) 二二ウ4
 しをき給へりし 七八オ18
 しおき給へり 七八オ18
 しかしか(然然) 六三オ18
 しか 六三オ18
 しかるに(然) 七九ウ2
 しかるに 七九ウ2
 しかるべし(然) 二七ウ2・七九ウ12
 しかるべき(連体法) 八〇オ1
 しかれども(然) 八〇オ1
 しかれども 八〇オ1
 しきし(色紙) 五七ウ9
 しきしに 六四オ1
 しきし 六六オ14
 しきしの 六六オ14
 しきぶ(式部) ↓くらしうびのおとこのしきぶの
 たいぶがめ

しきぶを 二六ウ5
 しきぶ 三一オ12・四三ウ13・四四ウ3・六
 二オ15
 しきぶばかりぞ 三一ウ3
 しきぶも 四一ウ14・四四ウ6・七一ウ16
 しきぶは 五〇ウ14
 しきぶのきみ(式部君) 四六オ1
 しきぶのきみも 四六オ1
 しきぶのたいふ(式部大夫) 四〇オ10
 しきぶの大夫には 七一ウ14
 しきぶの大夫 七五オ11
 しきぶのたいふがむすめ(式部大夫娘) 七二オ2
 しきぶの大夫がむすめ 七二オ2
 しきりに(頻) 三八オ6
 しきりに 三八オ6
 しぐれがちなり(時雨) 六二ウ6
 時雨がちなる(連体法) 六二ウ6
 しぐわつ(四月) 三九ウ13
 四月などには 三九ウ13
 しげし(繁) ↓とつげし
 しげからずのみ 一六オ11
 しげき(連体法) 二五ウ15
 しげく(連用法) 二七オ3・三〇ウ13
 しげく侍れば 三五オ1
 しげからぬ 五一オ8

しげる(繁)									
しげれるに	五一才15	したがいて							五六ウ12
しごにち(四五日)		したし(親)							しづくに
四五日に	四三ウ4	したしき(連体法)	二〇才2・二二才5・八						しづまる(静)
しごにん(四五人)		三ウ5							しづまり給へる
四五人	五一ウ9	したしく(連用法)							しづまりにけり
しし(獸)		したね(下根)							しづまりて
しゝを	七九ウ15	したねは							しづみいる(沈入)
しじぶくにち(四十九日)		したふ(慕)							しづみいり給へれば
四十九日なども	三九才13	したひきこへぬべきにや							しづみ入て
しじぶねん(四十年)		したやすし(下安)							しづみいり給へり
四十年ばかりに	八〇ウ2	したやすからぬ	一八才13*・六五才1						しづみ入給て
しじぶよ(四十余)		しだりいづ							しづみ入しか
四十よばかりなるが	二五才9	しだりいで	四ウ6《意味不明》						しづみふす(沈伏)
しぞく(親族)		しちはちにん(七八人)							しづみふし給へれば
しぞくなどや	五一ウ3	七八人							しづみふし給にしを
しうくなれども	五二才5	しちはちねん(七八年)							しづむ(沈) ↓おぼししづむ
した(下) ↓いきのした		七八年が	七五才11						しづみたる
した 一八才13* 《ししたやすし》との掛詞		しづかなり(閑・静)							しづみ給ふに
したにて	五〇ウ7*	しづかなりと	二ウ9						しづませ給めるになど
したに	五三才7	しづかなる(連体法)	三才8・八才9・四九						しづみ給しかども
しだい(次第)		ウ16・八一ウ4							しづめあふ(静敢)
しだいの	四七ウ10	しづかに(中止法)							しづめあへぬ
したがさね(下襲)		しづかに(連用法)	一六才1						しづめがたし(静難)
したがさねなど	二五才5	しづかにて	三五才8・七八ウ4						しづめがたく(連用法)
したがふ(従)		しづく(暁)	五六才2						しづやかなり(静)
		しづくの	一八才9						しづやかに(連用法)
									しつらひ ↓おぼむしつらひす

しどけなし
しどけなく(中止法) 三七ウ11
しとみ(薨) ↓たてじとみ
しとみのより 二四ウ11
しとみ 二八オ8
しとみの 二五オ3
しなやかなり
しなやかに(中止法) 五五ウ14
しぬ(死)
しに侍りて 八〇オ9
しのびあふ(忍敢)
しのびあへず 三三オ13*
しのびこむ(忍込)
しのびこめける 六五ウ9
しのびやかなり(忍)
しのびやかに(連用法) 三三オ6・六九オ1
・七六オ7
しのびある(忍居)
しのびいたらんになど 五四オ13
しのぶ(忍) ↓うちしのぶおはず・たちしのぶ
しのびきこゑ 一三ウ1
しのびたる 一三ウ10・三四ウ13
しのぶ(連体法) 一四オ4
しのびて 一八ウ2・五四オ7
しのぶとも 二九ウ9
しのぶと 五四オ5
しのぶなるべし 五五オ10
しのぶに 六一オ8
しのび給へど 七七オ4
しのぶぐさ(忍草)
しのぶ草の 六七オ13
しばし(暫)
しばし 一五ウ8・一八オ2・四〇ウ12・四
一ウ4・六九オ9・八三ウ18
しばしも 六一ウ5
しはず(師走)
しはずの 二四オ13
しはぶく(咳) ↓うちしはぶく
しひて(強) 七九ウ5・八八オ15
しゐて
じぶくわつ(十月) 二四オ6
十月より
十月ばかりとかやぞ 六六オ6
十月に 八一オ4・八二ウ4
じぶくわつとをか(十月十日) 六六ウ16
十月十日とぞ
じぶこや(十五夜) ↓はちくわつじぶこや
じぶころく(十五六) 九ウ7
十五六などにや 一一オ8
十五六の 二六オ2
十五六ばかりにや
じぶにさむ(十三三) 正月ばかりよりは 四二オ9
十二三ばかりなる 三九オ1
じぶはちにち(十八日) 八二ウ5
十八日
じふまい(十枚) 六四オ2
十まいばかりに
じふろくねん(十六年) 七七ウ19
十六年に
しほしほと
しほ と 四二ウ1
しぼる(絞)
しぼるばかりなり 五〇ウ5
しみかへる(染返) 二二オ6
しみ返(中止法)
しみふかし(染深) 三ウ3
しみふかく(中止法)
しも(下) 五二オ15
しもは
しめ(標) 一一オ13・三二ウ7・四六ウ4
しめの
しやう(荘) 八〇ウ14
しやうまで 八一オ19
しやうにて
しやうがす(唱歌) 三オ6
しやうがせさせ給
しやうぐわつ(正月)

しやうぐわつとをかごる(正月十日頃)	しやるべき	五〇ウ16	しらせめ	四二ウ12
正月十日ごろより	しゆう(主) ↓しう		しらせたてまつらで	五〇ウ2
しやうじ(障子)	しゆきやう(修行) ↓すぎやう		しらせで	六一オ18
しやうじを	じゆきやう(誦経) ↓すぎやうす・みぎやう		しらせたてまつらまし	六四ウ8
しやうじ	じゆきやう	四一オ8	しらせさせ給へと	六八ウ13
しやうじん(精進) ↓おほむしやうじん	じゆきやうなど	四七オ1・七七オ3	しらせ給へ	七二ウ5・七三ウ16
しやうじん(生身)	しゆくえん(宿縁)		しらすがほ(不知顔)	
しやうじんの	しゆくえん	七九ウ12	しらすがほに	一五オ8
じやうず(上手)	しゆくしよ(宿所)		しらすがほにて	六四オ17
上ずを	宿所は	七二ウ14	しらつゆ(白露)	
上ずに	しゆくせ(宿世) ↓おほむしゆくせ・すくせ		しらつゆの	五七オ12*・五七オ14*
じやうずつ(上手)	しゆくせこそ	四六ウ3	白露に	六六ウ1*
じやうずづき(中止法)	しゆつけ(出家)		しらなみ(白浪) ↓おきつしらなみ	
じやうずめく(上手)	出家など	七七ウ9	しらぶ ↓あひしらぶ	
じやうずめき(中止法)	出家	八〇ウ1	しらへ(調)	
じやうぞく(装束)	出家の	八三ウ4	しらへに	二オ7
じやうぞく	しゆつけす(出家)		しり(後)	
じやうぢきなり(正直)	出家し給入るとばかりは	八一ウ16	しりに	一八ウ4
じやうぢきに(連用法)	じよう(允) ↓うたのじよう		しる(知) ↓いひしる・おぼしる・おもひし	
じやうのこ(箏)	しよじや(書写)		りすべ・おもひしる・ききしる・たづねし	
じやうのこ	しよじやになん	八一オ14	る・ひとしねず・みえしる・みしる	
じやうの事を	しよじやへ	八二オ2	しらず	七オ5・一〇オ11・三二ウ8・四五
じやうらぶ(上臈)	しよじやに	八二ウ6	オ7・四七オ10・五三ウ2・六七オ11・七	
上じ	しらす(知) ↓いひしらす・きこえしらす・た		五オ2・七五ウ9・八二オ15	
上じの	じねしらす・みせてらす		しられず	一〇オ9
しやる	しらせ給はせりけるか	三三三ウ15	しり給はぬにや	一四ウ15

しらぬ 一五才2・三〇ウ15・五一才11・五 八才17・六二才5・六七才3・七三才16・ 七六才20・七七才15・八八才10	一八ウ5・二〇ウ3 二九ウ5	しりたてまつらず侍り しられたてまつらぬ	七九ウ19 八一ウ15	「し」るべし給にやと しれがましき(痴)	八六才2
しらねば	三三ウ15	しりたてまつらず侍り しられたてまつらぬ	八四ウ1 八四ウ8	しれ(こころ)(痴心)	七五才7
しらるゝ	三三ウ2*・五〇ウ2	しりたてまつらぬ	八四ウ1 八四ウ8	しれふるまひす(痴振舞)	三三ウ16
しりながら	三三ウ15	しらぬに	八四ウ8	しれもの(痴者)	五ウ2
しりて候へ	四四才4	しりたまはじと	八四ウ11	しれ物にて	三一ウ2
しるまじうだに	四四才7	しるし(著)	三六才7	しろぐ(動) ↓みじろぐ	八一ウ9
しる(連体法)	四四ウ17	しるく(中止法)	三六才7	しろくろ(白黒)	二ウ11
しらばこそ	四七才12*	しるき(連体法)	六一才17・六八ウ4	しろくろ(白)	八一ウ9
しり給はずや	五〇ウ1	しるし(験・印) ↓おほむしるし	六一才17・六八ウ4	白くろしも	八一ウ9
しらせ給はぬか	五三才3	しるし	三九ウ13・六四才11・六六才7	しろし(白)	二ウ11
しりて	五七ウ15	しるしも	四七ウ16・五五才6・八五ウ12	しろしと	二ウ11
しり侍らず	五八ウ3	しるしには	七七ウ15	しろき(連体法) 六四才1・七八ウ18・八七 ウ13・八八ウ4	二ウ11
しりたる	六〇才4	しるしにや	八七才5	しをる(菱) ↓うちしをる	二ウ11
しりてや	六〇ウ10	しるべ(導)	八七才5	しをん(紫苑)	五八ウ18
しられても	六〇ウ18	しるべにや	六五ウ2	しをん	五八ウ18
しられざらんこそ	六〇ウ20	しるべにや	八四ウ4	しをん	五八ウ18
しらで	六三才7・七一ウ8・八四才16	しるべ(導)	八四ウ4	しむかう(深更)	二ウ10
しるべき	六三ウ4・八三ウ6	しるべする(連体法)	二二才3	しんかうに	二ウ10
しらまじとぞ	六六ウ19*	しるべしてんや	二七ウ3	しむちう(心中) ↓おほむしむちう・おほむし むちうども	七六才11
しらでも	六七ウ9	しるべし給へ	五四才16	むちうども	七六才11
しりさぶらひて	六九ウ11	しるべせんと	五四ウ8	心中も	七六才11
しりたりと	七三才13	しるべせよと	五四ウ12	しむでん(寢殿)	七六才11
しられたてまつらず	七四ウ8	しるべせさせたまへと	五六ウ17	しんでんの	一八才1

しんでんは 一一二ウ6

す

す(為) ↓ あんないす・いでいりす・うちずん
 ず・おもがはりす・おほむいのりす・おほ
 むしつらひす・おほむてならひす・かいば
 みす・かきけちかきけちす・かぢす・かな
 しつす・きねむす・きやうほとけくやつす・
 くわんず・くんず・くしいづ・ぐす・けい
 す・げかうす・ごらむす・さたす・しつす・
 しやうがす・しゆつけす・しるべす・しれ
 ふるまひす・ずきやうす・ずほふす・ずん
 ず・せいす・そつす・たいめんす・つくろひ
 す・つりす・てんじやうす・ねむじすぐす・
 ねむじゆす・ねむず・ふうず・へんす・みみ
 はさみす・めかれす・やまひす・よういす・
 りやうず
 すれば 一ウ4・二六ウ8・五七ウ2
 しつれば 二オ1
 せさせたまへば 二オ7
 するに 二オ1・二五オ14・二七ウ1・三二
 ウ15・三三オ3・四〇ウ7・四二ウ15・四
 七オ3・五三オ2・五九オ14・七四オ17・
 八二オ9

すべき 八オ2・二七オ9・三三オ15・三六
 ウ13・三七ウ4・四〇ウ14・七一ウ12
 する(「ぞ」の結び) 一一オ5・五〇ウ18・
 七九オ3
 して 一一オ6・一三ウ15・一六オ4・一七
 オ13・一九ウ11・二六ウ5・二八オ8・二
 九オ5・二九ウ17・三二ウ2・三五オ5・
 四一オ3・四三ウ3・四四オ8・四九ウ4
 ・四九ウ7・四九ウ9・五二オ9・五二オ
 15・五八ウ16・五九オ8・六〇ウ11・六二
 ウ5・六二ウ9・六四ウ2・七二オ11・七
 四ウ13・七八ウ14・七九ウ1・八〇オ12・
 八〇オ18・八四ウ5・八七オ8・八七オ13
 し給ける 一一ウ7
 し給に 一二ウ7・一四オ3・一八オ8・二
 〇オ6・五六オ12・六八ウ8
 したまふ 一二ウ12
 し給つゝ 一三オ12
 しけんたに 一五オ9
 するにや 一五オ13
 せで 一五ウ12
 するを 一八オ2・二七ウ2・五四オ9・五
 七オ4・七七ウ5
 せさせ給へと 二〇ウ14
 しなまし 一三オ5*
 したてまつりて 二三ウ4

する(連体法) 二五ウ2・四六ウ15・六一ウ
 15・六二オ11
 し給 二六オ1・三八オ12
 せず 二六オ11・二七オ5・二七ウ6・二八
 ウ12・六一ウ4
 せさせ給はん 二九オ11・五一ウ19・六五オ12
 し給けり 二九ウ6
 すべきにか 三一オ5
 したれど 三三オ12
 せられ給て 三三オ13
 せぬを 三五ウ5・六〇ウ17
 したる 三六オ2・五一ウ9
 し候(へ)と 三六オ12
 せましと 三七ウ7
 すべきと 三八オ5・五二ウ16
 し給はず 三八ウ16・三九オ9・四一オ5・
 四八ウ7
 せさするに 三九ウ12
 せさせめ 四二ウ8
 せばこそ 四二ウ11
 したてまつるべしとも 四三ウ14
 せんと 四六オ6・五九ウ19・六二ウ19
 し給て 四七オ1・四七オ11
 し侍れ 四七オ7・六五オ11
 し候と 四七オ8
 せめなど 四七オ14*

してぞ	四九才10	し侍るべきを	七三ウ18	すぎつし(過憂)	五一才9
すらんと	五〇ウ4	せさせず	七五才14	すぎうくて	
せずとも	五一ウ14	し給ひける	七六ウ17	すぎこころ(好心)	
しためれば	五一ウ15	しに	七七ウ9	すぎこころ	七五才20
しつるこそ	五三才17	し(中止法)	七八ウ8	すぎまかる(過罷)	
したるが	五五ウ9	するが	七八ウ8	すぎまかりぬるを	七七ウ6
し給れども	五六才13	せさせ給ては	七九ウ5	すぎやう(修行)	
せましとて	五六ウ3	し侍らんと	八一才9	すぎやうに	二一ウ16
すれ、「こそ」の結び	五七才13*	し侍けるやらん	八二才17	すぎやう(誦經) ↓じゆきやう・みずきやう	
せさせ給ける	五七ウ1	する(終止法)	八二ウ9	すぎやうす(誦經)	
せさせ侍らんや	五八ウ4	すべしとも	八四才4	すぎやうしに	六〇才13
したりしこそ	五八ウ8	し給へれば	八八才15	すく(透)	
したり	五九ウ9	すいがい(透垣)		すきたるも	二五才3
せさせ給ふ	六〇才8	すいがいの	七八ウ16	すきて	六一才16
し給へば 六〇才12・六二才9・六二才12・ 六五才5・七八ウ3		ずいじん(隨身) ↓みずいじん		すく(好)	
するまで	六〇才14	すう(据) ↓おこしすう		すける	三五ウ8
すると「ぞ」の結び	六三才14	すゑたてまつりて	三八ウ1	すきて	七五才7
するも	六三ウ12	すゑて	三九才3	すく	
するばかりとて	六三ウ15	すかす		すぐ(過) ↓うちすぐ・おもひしりすぐ・さし	
してや	六四ウ1	すかされて	六九才17	すぎ(中止法)	一才1
すらんなど	六五才2	すがた(姿) ↓おほむすがた・まひろげすがた・ やつれすがた		すぎぬる	一才3・六五ウ12
しはんべる	六五ウ20	すがたも	三一ウ1	すぎ給しかば	一三才2
し給へど	六八才4	すがら ↓みちすがら		すぎ給にし	一五ウ9
する(準体法)	六九才4	すき(好)		すぎ侍つる	一五ウ12
し侍るに	六九才12	すきなども	七五才14	すぐるこそ	一七ウ9

すぎぬ	三五才7	すぐさせ給ふべかりし	七〇ウ8	すぐさせ給へば	二九才7
すぐる(連体法)	三六ウ11・四四ウ9・四五オ1・六二ウ11	すぐし給しを	七一才11	すさび(遊)	
すぎて	三九才12・三九ウ3・四八才13	すぐし侍る「と」	七一ウ18	すさびの	三四才7
すぎ給にければ	四九ウ15	すぐされざらんなど	七四才13	すさぶ(遊)	↓うちすさぶ
すぎさせ給	五〇才6	すぐしつる	八四ウ7	すさまじ(凄)	
すぎ給ぬるは	五〇才10	すぐし侍りつる	八五ウ10	すさまじく(連体法)	九才9
すぎける	五五才3	すぐせ(宿世)	↓しゆくせ	すさまじく(中止法)	二五才13
すぎさせ給ぬと	六〇才2	すくなし(少)	六四ウ17	すさまじう(中止法)	五二ウ6
すぐるも	六一ウ7	すくなきに	七ウ11	すさまじくて	五三ウ14
すぎ侍るに	七〇才1	すくなかりける	八七才8	すさみ(遊)	↓てすさみ
すぎにし	七二才4・七六ウ16	すぐる(勝)		すさむ(遊)	↓かきすさむ・くちずさむ
すぎけるに	七五才9・七五才10・七五才13	すぐれたる	五ウ9	ず(数誦)	
すぎにける	八四才16	すぐれたるらん	六才9	ず	一八才12・一八ウ1・四二ウ3
すぐえう(宿曜)		すぐる(連体法)	六才12	ずかやま(鈴鹿山)	
すぐえうも	二九才9	すぐれ給へる	一〇ウ12	ずかやま	二三才5*
すぐしがたし(過難)		すぐれ給へりし	一三才8	すさき(薄)	
すぐしがたかりつる	二ウ6	すぐれて	二三ウ10	すさきの	五七ウ10
すぐしはつ(過果)		すぐれたまへれば	八一ウ5	すずし(涼)	
すぐしはつまじきと	四四才11	すけ(典侍)	↓こだいなごんのすけ・だいなごんのすけ・ちつなごんのすけ	すずしき(連体法)	一才4
すぐす(過)	↓おもひすぐす・ききすぐしがた	すこし(少)	↓いますこし	すすみいづ(進出)	
し・ききすぐす・ながめすぐす・ねむじす		すこし(少)	↓いますこし	すすみいづるに	五〇才13
ぐす・みすぐしがたし		すこし(連用法)	一〇ウ10・二二ウ1・三二ウ13・三九ウ14・四〇ウ4・四一才13・四二才4・四三ウ2	すすみよる(進寄)	
すぐしたまひしかば	一〇才6	すこし(連用法)	一〇ウ10・二二ウ1・三二ウ13・三九ウ14・四〇ウ4・四一才13・四二才4・四三ウ2	すすみよりにけり	四〇ウ4
すぐさせ給へなど	三八ウ7	二才4・四三ウ2		すすみよりぬ	五六ウ18
すぐさず	六七才2	すぐす(過)		すすむ(勸・進)	《下二段》 ↓まうすすむ
				すすめ申させ給へば	三才9

すゝめたてまつらんと	一三才 9	すぢ	も	一三ウ 3	すまひも	五三ウ 9
すゝむる(連体法)	二一才 13	すつ(捨) ↓うちすつ・ふりすてがたし・みす			すまふ(遊) ↓かきすまふ	
すゝめ給ふも	二一ウ 3	つ・みすてがたし			すまふ(住)	
すゝめよと	四三才 1	すてゝ	一三才 5*・五六才 9		すまい給	四九ウ 17
すゝめ給て	四三才 13	すて(捨) ↓をばすて・をばすてやま			すみ(住) ↓やまずみ	
すゝめ(中止法)	八八ウ 15	すてがたし(捨難)			すみか(栖) ↓おほむすみか・つひのすみか	
すすむ(進)《四段》	三七才 14	すてがたしとて	五二ウ 3		すみかには	五二ウ 6
すゝみまいらすべく侍に		すてがたきと(「や」の結び)	五五才 12		すみぞめの	一四才 5
すゝむし(鈴虫)		すでに(既)	五三才 17		すみつき(墨付)	六六才 15
すゝむしの	二ウ 12	すなはち(即)	六〇才 6		すみつきまで	
すゞり(硯) ↓おほむすゞり	二五ウ 6	すなはち			すむ(澄)	
すゞりの		すべて	五六才 16・五九ウ 12		すむ(連体法)	五一才 2
すゞるなり(漫)		すべり			すむ(住)	
すゞるならん	五〇才 10	すべりいる(滑入)	一六ウ 4		すみたる	五一才 16
すゞるに(連用法)	六〇才 1・六四ウ 3	すべり入給を			すみけん	五一才 17
すそ(裾)		ずほふ(修法) ↓おほむずほふ			すみ侍が	五四才 5
すそなども	五九ウ 11	ずほつ	一九ウ 13		すむ(連体法)	六〇才 3
すぢ(筋)		ずほつなど	二〇才 5		すみ侍りて	七六ウ 2
すぢにのみ	五才 11	ずほふす(修法)			する(摺) ↓おしする	
すぢなれば	七ウ 10	ずほつして	二〇ウ 2		するに	六〇才 16
すぢには	一三才 5	すます(澄) ↓おもひすます			す糸(末) ↓おほむす糸	
すぢは	五三ウ 17	すまひ(住居)			す糸の	八ウ 9・六一ウ 11*
すぢに	六四才 4・七四ウ 7	すまひにて	四四才 4		すへにも	九才 4
すぢのみ	六六ウ 8	すまいなれば	四九ウ 5		すへまでと	四七ウ 11
すぢはしも	八七才 2	すまひの	四九ウ 10		す糸に	七九ウ 9・八七才 8
すぢすぢ(筋筋)						

ずんざ(従者)
ずんざなり
ずんず(誦) ↓うちずんず
ずんじて

五四ウ 16
五〇オ 9

せきもり(関守)
せきもり
せちぶん(節分)
せちぶんの
せむかたなし(為方無)
せんかたなし
せんかたなくて
せめたつ(賣立)
せめたてられて
せめて

二一オ 2・二二ウ 4
せんばうのみや(先坊宮)
せんばうのみやも
二四オ 14
三八オ 3
二四オ 14
七二ウ 6
七四オ 3
三六オ 12

せ

せ(瀬) ↓あふせ
せいす(制)

一九ウ 15
五九オ 3

せめて
せんじ(禅師) ↓にわじのぜんじ
ぜんじにのみぞ
ぜんじを
ぜんじのきみ(官旨君)
せんじのきみの
ぜんじのきみ
ぜんしよ(前所) ↓おほむぜんしよ
ぜんちしき(善知識)
ぜんちしきなどこそ
せんとうのひめみや(一姫宮)
せんとうのひめ宮 一二オ 8 《せんはう》の
誤写か
せんにち(千日)
千日
せんばう(先坊)
せんばうの 一二ウ 12・一三オ 8・二〇ウ 15・

そ(衣) ↓おほむぞ
そ(僧)
そつも
そつなども
そつども
そつもの
そつす(奏)
そつするに
そつし侍し
そくわうあんらくせかい(即往安楽世界)
そくわうあんらくせかひなど
そこ(其処)
その
そこなふ(損) ↓もてそこなふ
そこはかとなし
そこはかとなき(連体法)
そこら
そこら
そそく(注)

せいしきこえ給へば
せいしきこゑ給へども
せいりやうでん(清涼殿)
せいりやうでんに
せつしやう(少将)

一オ 6

八六オ 8・八六ウ 6
五〇ウ 18
六二オ 17
一五ウ 6

少将
少将を
せつしやうのきみ(少将君)

五五オ 15・五六オ 17
五五ウ 4

二二オ 13

少将のきみの
せつしやうのきみの

五三ウ 18
五六ウ 12

二二オ 13

せつそく(消息)
せつそく

一五ウ 1

二二オ 13

せつと(兄人) ↓おほむせつと
せつとの

五〇ウ 18・七二オ 10

八一オ 15

せきあべ(急上)
せきあげて

六二オ 9

二二ウ 3

そ

そゝぎ(中止法)	四一才 8	そひふす(添臥)	二六ウ 4	そむく(連体法)	八六ウ 11
そそのかす(唆)	七八ウ 3	そひふし給に	四〇ウ 8	そめ(染) ↓ すみぞめ	
そゝのかしなど		そひふしたるに	四二才 3	そら(空) ↓ おほぞら	
そぞろなり(漫)		そいふしたるに		空	四ウ 1
そゝるに(連用法)	一才 9・八五才 6	そふ(添)《四段》 ↓ うちそふ《四段》・おもひ		空に	六才 5・三〇ウ 9
そゝるなる(連体法)	一六ウ 2	そふ・たちそふ・ながれそふ		そらにのみ	一二ウ 4・一七ウ 7
そちのみや(帥宮)		そえる	一四才 3	空も	一七ウ 9
そちのみや	九ウ 11	そひたてまつりても	二〇ウ 8	空にも	三三才 13
そつのみや(帥宮) ↓ こそつのみや		そひたる	二九ウ 17	そらを	六六才 18
そつの宮の	七〇ウ 15・八七才 14	そふなる	七四才 10	そらごと(虚言)	
そなた(其方)		そふ(添)《下二段》 ↓ うちそふ《下二段》・か		そら事もや	五四ウ 1
そなたに	四七才 13*	きそふ・たてそふ・ひきそふ		それ(其)	
その(其)		そへつる	一四才 11	それ	二才 11
その六ウ 1・九才 10・一一才 8・一二才 5・		そへては	三九才 10	それが	三三才 5・七二才 10
一九才 13・一九才 16・二二才 2・二四ウ 3		そへたりし	六三ウ 21	それへ	四四才 5
・二五才 8・四一ウ 6・四三才 1・四四才		そえたる	六五ウ 18	それしもこそ	四七ウ 6
13・四五才 15・四五ウ 16・四六才 10・四七		そへて	八八才 13	そればかりは	五二才 3
ウ 16・五一ウ 2・五一ウ 3・五五才 3・五		そむ(初) ↓ つきそむ・なりそむ・わたりそむ		それを	五二才 9・五六才 8・七三才 18
五才 10・五八才 13・六〇ウ 9・六一才 2・		そむきやる(背遣)		それはしも	五二ウ 1
六一才 9・六二才 11・六二ウ 5・六五才 12		そむきやられぬ	七九才 18	それも	五三ウ 12・七一才 9・七四才 6
・六九ウ 7・七一ウ 1・七五ウ 15・七七才		そむく(背)		それに	五五才 1・八〇ウ 17・八一才 16・八
2・七八ウ 6・七九ウ 4・八〇才 16・八一		そむきて	六九ウ 10	六才 9	
ウ 8・八三才 4・八四ウ 6		そむき(中止法)	七〇ウ 11	それと	五五ウ 2・七七才 16
そのまま(其儘)		そむきなんとのみ	七五才 17	それなりけり	五八才 15
そのまゝに一九ウ 3・三九才 7・四五才 8・		そむかせ給し	七七才 17	それより	六四ウ 7
五〇ウ 9		そむきても	八六才 4	それなり	六六才 13・七九才 8

た

それにも	七〇才1・七二才9	大事に(連用法)	一九才12・四七ウ2	たいふのおほむめのと(大夫御乳母)	六三才5
それならんかしと	七二ウ8	大事なるにやなど	四四ウ15	大夫の御めのと	
それにて	七九才5	たいしやう(大将) ↓うだいしやう・さだいしやう		たいふのめのと(大夫乳母)	六三才16・六五ウ13
それは	八六ウ18			大夫のめとの	
それにや	八七ウ2	だいじん(大臣) ↓うだいじんの		たいめん(対面)	七四才10・七九才14
それがし(某)		だいじんぐう(大神宮)		たいめん	
それがしと	五七ウ3	大神宮に	七九ウ3	たいめんなどや	八二才4
それほど(其程)		たいだいし(怠怠)		たいめんす(対面)	
そんわう(孫王)		たい	一五ウ7・三三ウ17	たいめんし給て	一五ウ2
そんわうの	五二才4	たいなごん(大納言) ↓こだいなごんのすけ・なにくれのだいなごん		たいめんし給ひて	六六ウ21
		大納言	九ウ1	たいめんしきこえつる	六九ウ16
		だいなごんのすけ(大納言典侍)	九才8	たいめんして	七三ウ19・八三ウ9
		大納言のすけ	七一才1	たいめんし給たれば	七七才6
		大納言すけとて	八七才17	たいめんし侍りぬるなど	七七ウ13
		大納言すけこそ		たいめんしつれば	七九才10
		だいばんどころ(台盤所)	五三ウ6	だいら(内裏)	八〇才4
		だいばん所の		内裏の	
		たいふ(大夫) ↓いちでうのひやうぶのたいふ・くらうどのおととのしきぶのたいふがめ・しきぶのたいふ・しきぶのたいふがむすめ・とつぐうのたいふ・ひやうゑのたいふ・ひやうゑのたいふどの・ひやうゑのたいふのりただ		たう(唐)	
		大夫	三四ウ11	たうより	七八ウ6・八一才13
		たいふどの(大夫殿) ↓ひやうゑのたいふどの		たうへ	八〇ウ4
				だう(堂) ↓みだう	
				だうに	二二ウ7
				堂	八一才3
				堂の	八一才9
				だうしむ(道心)	
				道心とは	七九ウ19

たえいる(絶入)

たへいる(連体法) 二二才15『たぐへる』

とする翻字もあり

たへ入給ぬと

四一ウ1

たえず(絶)

たえせぬ

七七ウ5

たえず(不絶)

たへず

六一才9

たえま(絶間)

たえま

一九才15

たへまを

たか(鷹)

たかを

七九ウ15

たかから(高倉) ↓さむでうたかから・にでう

たかから

たかし(高)

たかく(連用法)

二八才10

たかう(中止法)

五七ウ6

たがふ(違)《四段》

たがひぬる

一四才10

たがいたる

五二ウ6

たがふ(連体法)

たがい給

六八才10

たがふ(違)《下二段》 ↓こころたがふ

たがへ・れきこへて

八三才7

たがへ(違) ↓おほむかたがへ・かたがへ・

ひとたがへ

たき(滝)

たきの

六六ウ9

たく(長) ↓ひたく

たけしかば

一才1

たけ(中止法)

たぐひ(類) ↓おほむたくひ

たぐひの

七八ウ19

たぐひ

八七才16

たぐひなし(類無)

たぐひなき(連体法)

一一ウ5

たぐひなきとて「ぞ」の結び

たぐいなしと

五七才15*

たけ(竹) ↓ふえたけ

たすく(助) ↓あひたすく

ただ(只)

たゞ八ウ10・一五ウ16・一七才5・二〇ウ13

・二六ウ10・二九才15・三〇才8・三〇ウ

4・三〇ウ9・三五ウ5・三六ウ15・三八

才6・三九才5・四〇才13・四〇ウ11・四

一ウ5・四一ウ7・四二ウ4・四二ウ12・

四四才6・四八才8・五一才7・五二才8

・五六ウ3・五七才9・五八ウ14・六〇才

9・六〇才15・六〇ウ11・六五才5・七二

ウ8・七五才17・七七才15・七九才7

ただいま(只今)

たゞいまの

二才7

たゞいまは

四〇才4

たゞいま

四〇ウ17・四五ウ11

たたく(叩) ↓うちたたく

ただし(但)

たゞし

三七ウ5

たたずみありく(佇歩)

たゝずみありき給

六二ウ10

たたずむ(佇) ↓たちまはりたたずみありく

たゝずませ給て

一才6

たたずみかいばむ(佇垣間)

たゝずみかいばみ給ふ

五一才10

ただなり

たゞならずと

六四ウ5・八七ウ1

たゞに「一七ウ8」をなじに」とする翻字も

あり

ただびと

たゞ人とは

六三才6・六三ウ7

たゞ人ならじ

六一才7

たゞ人には

七二才20・八一ウ17

たたみ(畳)

たゝみなど

三四ウ8

たち(立) ↓きさきたち

たち(達) ↓きみたち・きむたち

たちいづ(立出)

たちいで給に

二七ウ8

たちいで給ふに	五二ウ 7	たちそふ(立添)	二七ウ 9	たちわかる(立別)	七七ウ 18
たちいでなんと	五三才 9	たちそひて		たちわかれたてまつりつる	八五才 8
たちいで給て	五三才 12	たちどまる(立止)		たちわかれ(中止法)	
たちいでん	七三ウ 12	たちどまりて	一八才 2・五二ウ 10	たつ(立)《四段》 ↓いでたつ・おとなだつ・お	
たちえ(立枝)		たちどまらまほしく	七六才 13	ひたつ・おぼしたつ・おもひたつ・おりた	
たちへ	三二ウ 15	たちなる(立馴)		つ・さきだつ・ひきつくるひいでたつ・み	
たちおくる(立運)		たちなれ給	七八ウ 1	たつ	
たちをくれ給べき	三八ウ 16	たちのく(立退)		たつ(連体法)	五ウ 6
たちかくる(立隠)		たちのくべき	二六才 11	たつせたまふ	一一ウ 11
たちかくれ(中止法)	五七才 12*	た「ち」のかれず	七八ウ 20	たつせ給ふ	一二才 2
たちかくれぬべき	五九才 10	たちばな(橋)		たつせ給に	一二才 12
たちかへる(立帰)		たちばなの	五三才 6	たち給へる	一八ウ 2
たちかへりたまへれば	三ウ 10	たちまさる(立勝)		たちて	一八ウ 4・八三ウ 11
たちかへり給ぬ	一八ウ 15	たちまさりたる	六ウ 1	たつせ給ぬれば	二三才 9
たちかへりぬると	一九才 8*	たちまじる(立交)		たちぬれば	二六才 15
たちかへり(中止法)	二七ウ 10	たちまじりぬれば	五二才 5	たちも	四二才 1
たちかへり給にし	四五才 3	たちまちに(忽)		たちける	六四ウ 20
たち返きこゑん	六〇ウ 3	たちまちにとも	二二才 10	たち侍るなり	八六ウ 17
たちかへらざらまし	六五才 18	たちまちに	二二才 13・八〇才 13	たつ(立)《下二段》 ↓いだしたつ・おしたつ・	
たちかへり(連用法)	六六才 9	たちまはりたたずみありく(立廻行歩)		おぼしたつ・かきたつ・きこしめしたつ・せ	
たち帰ぬる	六八才 14	たちまはりたつずみありき給に	七八ウ 12	めたつ・ふきたつ	
たち帰給ふ	七八才 18	たちやすらふ(立休)		たてつべき	三三才 14*
たちきく(立聞)		たちやすら「ひ給」へば	八四才 1	たて給て	四八ウ 3
たちきく給へば	三一才 2	たちよる(立寄)		たてながら	五五才 5
たちのぶ(立忍)		たちよりたまふ	一四才 13	たてん	五八ウ 11
たちのび給と	三三ウ 7	たちよりて	二五才 2	たてゝ侍るに	六五ウ 1

たてゝ侍りしを	六九才7	たづね侍りつるなり	八三ウ8	たてそへ給	二二ウ11
たづき(方便)		たづねまほしきを	八四才19	たてまつる(奉)《本動詞》	
たづきも	六九ウ18	たづね給らんと	八四ウ16	たてまつらばやと	四五ウ12
たづさはる(携)		たづねきこゆる	八五ウ7	たてまつらん	五六ウ8
たづさはりて	七九ウ14	たづねまほしう	八七ウ6	たてまつり給て	六一才1
たづぬ(訪・尋)		たづねあふ(尋会)	七二才9	たてまつらんと	六三才1・六五才4
たづねまほしきに	二二ウ10	たづねあはまほしくて	八五ウ1	たてまつり給へり	六六才12
たづねて	一三才6・四四才10	たづねあひぬる	五〇ウ11	たてまつり給	六七ウ18
たづねてか	二七才10	たづねいづ(尋出)	七八ウ10	たてまつりつる	七八ウ15
たづぬべき二九ウ10・四七才9・四九才6・		たづねいづる(連体法)	五四ウ2	たてまつりつる	八六ウ1
六六ウ14		たづねいる(尋入)	三八才9	たてまつる(奉)《補助動詞》	
たづね(中止法)	三八才7	たづね入たまへり	五四ウ8	たてまつる(連体法)	一一才4・四二才14
たづねさせ給	四四ウ15	たづねきく(尋聞)	六一才9	みたてまつる(終止法)	一一才12
たづねんと	四五才15	たづねきゝ給へ	七九才15	をくれたてまつらせ給まじければ	一一ウ13
たづねさせ給に	四五ウ3	たづねしらす(尋知)	六〇ウ5	すゝめたてまつらんと	一三才9
たづぬれば	四八ウ16	たづねしらせよと	七九才15	見たてまつる(連体法)	一五才12・六八才3
たづぬる(連体法)	五三ウ14・六〇ウ12	たづねしる(尋知)	六三才12	かぢしたてまつると	一六ウ17
たづねまほしき 六六才3・七三才17・八二		たづねしりて	見えたてまつるも	みたてまつりなど	二〇才6
才14		たづねとふ(尋問)		見えたてまつるも	二〇ウ5
たづねまほしく	六七才12	たづねとい給へども			
たづねきこゆべき	六九ウ18	たづねまゐる(尋参)			
たづね給たれば	七六才10	たづねまいりぬるなりなど			
「たづね」たてまつらむ	八二才1	たづねまいりたり			
たづねたてまつる	八二才19	たてじとみ(立部)			
たづね候べきと	八二ウ12	たてじとみの			
たづね候べきにも	八二ウ16	たてそふ(立添)			

そひたてまつりても	二〇ウ 8	所をきたてまつりたる	四九ウ 5	見たてまつらまし物をと	七二才 16
をくりたてまつりて	二一ウ 15	みたてまつらせ給へ	五〇才 5	たのみたてまつりしなど	七二ウ 1
したてまつりて	二三ウ 4	しらせたてまつらで	五〇ウ 3	にたてまつり給へりと	七二ウ 7
いだしいれたてまつり給	二四才 13	まいらせたてまつり給へかしと	五二才 3	やしないたてまつり給てしかば	七三才 7
のせたてまつる(終止法)	二七ウ 14	つかはれたてまつりなんと	五二才 10	なしたてまつりけるに	七四才 1
なぐさめたてまつらんとて	二八ウ 6	まちたてまつり給へと	五六才 3	見たてまつるには	七四ウ 4
ゝ(を)こしすゑたてまつりて	二九才 4	わらひたてまつれば	五六ウ 1	みたてまつらまほしく侍れども	七四ウ 6
みすてたてまつりて	二九才 10	みいれたてまつらんなど	五九才 3	しられたてまつらず	七四ウ 8
すゑたてまつりて	三八ウ 1	みたてまつりし	五九ウ 13	みなしたてまつりし	七五才 3
見すてたてまつりても	三八ウ 2	あつかひたてまつる	六一ウ 1	おくれたてまつりて	七六才 15
御かゝへたてまつるに	四〇ウ 13	まぼらへたてまつれども	六二才 14	恋たてまつる(連体法)	七七才 15
ふせたてまつりて	四〇ウ 15	みいれたてまつりたるにやと	六二ウ 1	きゝたてまつる(連体法)	七七ウ 17
かぢしたてまつる(連体法)	四一ウ 4	をくりたてまつりつ	六二ウ 6	たちわかれたてまつりつる	七七ウ 19
まぼりたてまつりて	四二才 3	つけたてまつりて	六三ウ 17	きゝたてまつ「らず」	七七ウ 20
みたてまつれば 四二才 7・五〇才 6・六二	四二才 3	やしないたてまつるに	六三ウ 18	にたてまつ「り」たる	七八才 1
ウ 3		しらせたてまつらましなど	六四ウ 8	みへたてまつるべきが	七八才 6
いだしたてまつれば	四三才 12	みたてまつりたまふ	六五ウ 5	まちうけたてまつりて	七八才 21
したてまつるべしとも	四三ウ 14	入たてまつれば	六八ウ 17	きゝわたりたてまつりて	七九才 13
かなへたてまつらまほしきばかりにて 四三ウ	四三ウ 14	きゝつけたてまつりたる	六九才 13	つきたてまつりて	八一才 16
16		をくれたてまつりて	六九才 14	見たてまつり侍る	八一才 18
のせたてまつりて	四四ウ 5	きゝいでたてまつらずとて	七〇ウ 14	あひたてまつりてより	八一才 20
もとめたてまつるなど	四五ウ 8	うみたてまつらせ給しを	七一才 4	「はなれ」たてまつらず	八一ウ 1
もとめたてまつり侍れども	四六才 2	つきたてまつりたりしに	七一ウ 11	たのみたてまつりて	八一ウ 7
とりたてまつりたるやらん	四六才 4	かしづきたてまつりし	七一ウ 15	をしみたてまつりし	八一ウ 11
とりかくしたてまつるべきに	四九才 2	つきたてまつりたりし	七二才 3	しりたてまつらず侍り	八一ウ 15
こひたてまつり(中止法)	四九才 9	おくれたてまつりしかば	七二才 6	「たづね」たてまつらん	八二才 2

たづねたてまつる	八二才 19	たどりよらんも	八二才 12	たのみきこえさせ給へるに	四七ウ 12
見たてまつるに	八二ウ 4	たどる(辿) ↓ おぼしたどる		たのみかなと	五八才 1*
見たてまつれば	八三ウ 3	たどるなれば	七三才 15	たのみたてまつりしなど	七二ウ 1
なしたてまつらずと	八三ウ 4	たな(棚) ↓ あかだな		たのみべきなど	七四才 18
しられたてまつらで	八三ウ 13	たなばた(七夕)		たのみたてまつりて	八一ウ 7
きかれたてまつるべき	八三ウ 15	七夕	一才 2	たのもし(頼)	
道びきたてまつり	八四才 3	たに(谷)		たのもしき(連体法)	二九才 6
見たてまつりつるも	八四才 9	たに	七六才 1	たのもしとも	三八ウ 13
しりたてまつらぬ	八四ウ 1	たね(種)		たのもしびと(頼人)	
見えたてまつらんに	八四ウ 13	たね	六七才 13	たのもし人に	一〇才 3・五〇ウ 15
きねんしたてまつりつる	八五ウ 11	たのみおもふ(頼思)		たのもし人と	四〇ウ 9
つけられたてまつりぬ	八六才 1	たのみおもへる(連体法)	三二才 13	たば(束)	
めでたてまつる物かな	八八才 9	たのみかはす(頼交)		たば	五五ウ 17
見をきたてまつらば	八八才 10	たのみかはし給へる	二二才 1	たばかす(謀)	
見せたてまつり給へば	八八ウ 4	たのむ(頼) 《下二段》		たばかされたる	八三才 12
たどたどし(辿)		たのめ給て	一四ウ 7	たばかり(謀)	
たど しき(連体法)	四ウ 2	たのめたまへる	一五才 3	たばかりたりやと	四四ウ 11
たど しや	四ウ 8	たのめ給へる	一七ウ 3・二九ウ 5	たばかりつべき	五五ウ 1
たど しくなん候	七三ウ 5	たのめぬ	五二ウ 13*	たはぶれ(戯) ↓ あそびたはぶれ・おほむたはぶれ	
たとふ(喩)		たのめたらん	五八ウ 4	ぶれ	
たとへん	四六ウ 7	たのまれ侍りて	八四才 7	たび(度) ↓ ひとたび	一才 11*
たとへむかたなし(喩方無)		たのむ(頼) 《四段》 ↓ うちたのむ		たびに	
たとへむかたなく(連用法)	一〇ウ 8	たのみきこえて	一五ウ 10	たびには	八六ウ 2
たどりなし(辿無)		たのむ(連体法)	一七才 7*	たびかさなる(度重)	
たどりなく(連用法)	三三才 14・七八ウ 8	たのみきこゑさするに	三八ウ 5	たびかさなれば	五〇才 1
たどりよる(辿寄)		たのみて	四〇才 12	たびたび(度度)	

たび	三才9・二四才3・二六ウ16・三	玉を	八二ウ15	たちかへりたまへれば	三ウ11
たびね(旅寝)	二才5・三四才3・三八才11・五二ウ11	たまさかなり(偶)		見えさせ給ふこそ	四才5
たびね		たまさかに(連用法)	七二才14	かこちかゝらせ給(連体法)	四才8
たふ(堪)		たましひ(魂)		かけさせ給ふ(連体法)	四ウ4
たえずや		たましゐは	三〇才3*	とりなし給ふこそ	五才12
たぶ(賜)		たまふ(給)《補助動詞・四段》		思ひしりたまふ(連体法)	五ウ2
たびたれば	三五ウ13	たゝませ給て	一才7	きこえしらせ給て	六才2
たふとし(尊)		ながめられさせ給へば	一才10	ゝ(う)らみ給(連体法)	六才3
たうとく(中止法)	一六才5	ゝ(と)はせ給へば	一ウ5・六三才17	ふきたて給ふ(連体法)	六才5
たうとくに	一八才3	わたらせ給に	一ウ8	さまさせ給て	六才7
たうとくて	七八ウ7	ながめさせ給ふ(連体法)	一ウ9	てん上し給て	六ウ10
たうと	八一ウ21	せさせたまへば	二才7	をいたゝせ給て	六ウ13
たへがたげなり(堪難)		ひきつたへたまはざらめ	二ウ1	さぶらはせ給しを	七才1
たへがたげに(連用法)	五九ウ17	まいり給て	二ウ4・三ウ10・八才8	なり給たるを	七才2
たへがたし(堪難)		うちこはづくり給へば	二ウ4	むかへとりたてまつらせ給たるに	七才5
たへがたく(連用法)	三九才11	さぶらはせたまふ(終止法)	二ウ5	おぼしめしかしづきたてまつらせ給ふに七才	
たへがたう(中止法)	三九ウ1	かきならさせ給て	二ウ8	7	
たえがたきに	三九ウ17	うちいでさせ給に	二ウ10	をいたゝせ給へば	七才8
たへがたう(連用法)	五七才4	うちそゑ給へる	二ウ11	まいり給はずなるを	七才11
たへがたく(中止法)	六〇才11	をとり給はず	三才2	まじらひ給し	七ウ4
たへなり(妙)		わたらせたまふ(終止法)	三才3	うれへきこゑ給へば	七ウ6
たえに(連用形)	八一ウ1	しやうがせさせ給(終止法)	三才6	きゝ給て七ウ7・一六ウ17・一九ウ6・二	
たま(魂)		すゝめ申させ給へば	三才10	〇才4・三四才2・六五ウ9・七八ウ9	
たまも	一四才12	ならはせ給へる	三ウ1	とり給ふ(終止法)	七ウ9
たま(玉) ↓ ひとつるたま		をしみ給はず	三ウ5	きゝ給ふに	八才6
		かへりわたらせたまひければ	三ウ9	まちわたりたまふ(終止法)	八才7

なさせ給へなど	八ウ5	くちずさみ給ふ(連体法)	一一オ2	心ちしたまふ(終止法)	一二ウ12
申させ給へば	八ウ6	もてなし給へる	一一オ3・一六オ12	いはれ給しかば	一二ウ15
かたらせ給し	八ウ7	つくり給へるにも	一一オ11	もてなしきこえ給を	一一オ1
かこたせ給し	八ウ12	しづまり給へる	一一ウ1	すぎ給しかば	一一オ2
をりさせ給はん	八ウ13	かけ給へるを	一一ウ4	きこえわたり給て	一一オ7
きこゑたまへば	九オ3	やすめ給へき	一一ウ6	すぐれ給へりし	一一オ8
申給へば	九オ7・六七ウ13・八七オ12	し給ける	一一ウ7	つくし給には	一一オ10
きこゑ給を	九オ12	さり給へき	一一ウ8	し給つゝ	一一オ13
むまれ給て	九ウ5	をりさせ給ふ(終止法)	一一ウ10	なくさめ給はず	一一オ14
おぼしよろこばせ給に	九ウ5	つかせ給ぬれば	一一ウ10	かくれ給ぬれば	一一三オ15・一二三オ13・五三オ7
見えたまふ(終止法)	九ウ7	たゝせたまふ(終止法)	一一ウ12	とぶらひわたり給に	一一三ウ2
もちたてまつらせ給て	九ウ10	をくれたてまつらせ給まじければ	一一ウ13	きこゑわたり給に	一一三ウ6
かよひ給し	九ウ13	かぶらせ給(終止法)	一一ウ14	おぼえ給はずや	一一三ウ10
うせ給て	一〇オ2・五五オ8	たゝせ給ふ(終止法)	一一オ2	もてなし給て	一一三ウ11
なくなり給ては	一〇オ5	とげさせ給て	一一オ6	いで入給に	一一三ウ15
すぐしたまひしかば	一〇オ6	をりさせ給ぬれば	一一オ8	かゝり給を	一一四オ6
をゝしたて給し	一〇オ8	いさせ給へるに	一一オ9	いひをき給しに	一一四オ9
なりたまひにしかば	一〇オ10	かくれさせ給ぬれば	一一オ10	見給らんと	一一四オ12
おほしたて給に	一〇ウ1・一一オ7	たゝせ給に	一一オ12	たちよりのたまふ(連体法)	一一四オ13
をいたち給へば	一〇ウ3	なり給へる	一一二オ13・二〇オ9	をきいで給も	一一四ウ2・三三オ8
したてまつりたまふ(終止法)	一〇ウ5	思ひつゞけられたまふに	一一ウ2	いで給ふ(連体法)	一一四ウ3
なり給はん	一〇ウ7	ながめくらし給を	一一ウ5	とりなし給て	一一四ウ6
見え給ふ(終止法)	一〇ウ9・一二オ3・六七オ8	思ひきこえ給て	一一ウ6	たのめ給て	一一四ウ7
すぐれ給へる	一〇ウ12	し給に	一一ウ7・一四オ3・一八オ8・二〇オ7・六八ウ8	いで給へば	一一四ウ8
ふきいで給ふ(終止法)	一一オ1	思ひ入給に	一一ウ8	まぎらはし給に	一一四ウ11

やすらひ給ものから	一四ウ 14	きゝ給へば一八才3・一八才6・五二ウ 10・	おぼえ給へば一九ウ 13・三三才 11・六七才 19
しり給はぬにや	一四ウ 15	六九才 5	・七六才 14
みをくられ給ふ(終止法)	一四ウ 16	ねんじゆし給ける	さはがせ給て
たのめたまへる	一五才 3	入給ぬるに	いでありき給をも
あがり給はず	一五才 8	たち給へる	せいしきこえ給へば
見いれ給(連体法)	一五才 11	いり給ぬるを	しづみいり給へれば
たいめんし給て	一五ウ 3	まち給へるに	なり給へれば
まいり給しに	一五ウ 3	ふし給へるに	おもり給へる
きこえ給へば	一五ウ 9・六七才 3	きゝ給ければ	わたり給て
すぎ給にし	一五ウ 9	みはて給て	なり給て
きかせ給はゞ	一六才 2	たちかへり給ぬ	つげ給はざりける
よみ給に	一六才 4	をき給て	思ひ給へるに
うちかたらひ給(連体法)	一六才 8	おぼえ給を	なり給にけるなど
まどろまれ給はぬに	一六ウ 1	かきすまはれ給へども	をどろき給て
すべり入給を	一六ウ 4	見給へるに	をきて給へるも
なき入給ゑるに	一六ウ 5	ひきかづきふし給ぬれば	み給ば
ふし給へり	一六ウ 14・二八才 6	つくろひし給はず	思ひ給へる
わづらひ給ふとて	一六ウ 15	みいれ給はず	きこゑ給へば
をどろかし給はざりければ	一七才 2	しづみふし給へれば	たのみかはし給へる
わづらひ給ふも	一七才 5	わづらひ給(連体法)	りやうじ給し
ながれ給を	一七才 11	ついで給て	かくれ給なん
ひきよき給はぬに	一七ウ 3	ゝ(と)ぶらひきこえ給て	きこえをき給ふべし
たのめ給へる	一七ウ 3・二九ウ 5	かへり給ぬれば	見ならひ給はぬ
むねさはがれ給ふ(連体法)	一七ウ 14	うちまどろみたまふ(連体法)	きへ入給(連体法)
いで給ぬれば	一七ウ 15	見え給て	見え給へば
わたりたまひぬ	一七ウ 16	をどろき給に	

すゝめ給ふも	二二ウ3	なげき給なるを	二三ウ13	いで給べき	二七才5・三〇ウ6・四八ウ12
はて給ぬと	二二ウ5	とり給へば	二四才4	をくりおき給に	二七才7
見え給はず	二二ウ7	申すゝめ給に	二四才5	かたらひ給へども	二七才12
さたしきこえ給ふ(終止法)	二二ウ8	わたりそめ給ぬれど	二四才7	よりふし給へるに	二七ウ7
こもり給ぬれば	二二ウ9	あらため給べき	二四才8	たちいで給に	二七ウ9
きこえ給ふ(終止法)	二二ウ11・六七才21	たてまつり給(終止法)	二四才13・六七ウ18	返給ぬ	二七ウ12
なり給たる	二二ウ14	わたらせ給ぬ	二四ウ4	ね給へる	二八才3・四〇ウ4
よみ給て	二二才4	ねられ給はず	二四ウ6	いでさせ給やらむ	二八才9
うちあげ給たるは	二二才5	わたりそめ給し	二四ウ15	ひきかづき給へる	二八才14
きゝ給らんと	二二才8	かいばみ給へば	二五ウ3・五五ウ7	おぼししづみ給へる	二八ウ6
しをき給へりし	二二ウ4	かゞせ給はじなど	二五ウ6	すござせ給へば	二九才7
なし給て	二二ウ7	見やり給へば	二五ウ8	せさせ給はん	二九才11・五一ウ19・六五才13
りやうじ給へりし	二二ウ8	いれ給はず	二五ウ12	うちなき給て	二九才14
たてそへ給(連体法)	二二ウ12	おどろかれ給て	二五ウ15	よりふし給ぬ	二九ウ2
くだらせ給しかば	二二ウ15	し給(終止法)	二六才1	入給はず	二九ウ3
思ひやり給ふ(連体法)	二二才2	まぼり給へば	二六才2・七九才4	し給けり	二九ウ6
ながめわび給(終止法)	二二才7	おぼえ給へる	二六才5	おぼえ給に	二九ウ13・七六ウ2
うせ給ぬ	二二才8	見え給ふにや	二六才8	なみだぐまれたまふ(終止法)	二九ウ16
たゞせ給ぬれば	二二才9	おぼし給(「ぞ」の結び)	二六才10	御てならひしたまふ(終止法)	三〇才2
きこえ給(終止法)	二二ウ1	おぼえ給(連体法)	二六才10・六〇ウ6・六	いでたまふ(終止法)	三〇ウ10
まいらせ給べけれども	二二ウ1	二才8	二六才12	いで給ぬ	三〇ウ12・五三ウ2・五八ウ15・六〇ウ6
まいり給にしかば	二二ウ5	みたち給へれば	二六才12	まぎれ入給て	三一才1
御はゝにて候給に	二二ウ7	ひきあげ給へれば	二六ウ2	たちきゝ給へば	三一才3
まじらひ給はんも	二二ウ8	見をき給へれば	二六ウ3	ふしくらさせ給つ	三一才4
すぎ給に	二二ウ9	そひふし給に	二六ウ4	うちたゞき給へば	三一才10・七三才14
をいゝで給ふを	二二ウ10	またれ給はぬに	二六ウ16		

おぼめかせ給かなとて	三二才13	わらはせ給へど	三五才2	み入たまはぬに	三九才10
入たまふ(終止法)	三一才14	いで給て	三五才8	なりまさり給へば	三九才11
つくりいで給たるにやなど	三一才10	きゝわたし給にも	三五才11	ふし給ぬ	三九才2
ちぎりかたらひ給に	三一才12	つくるはれ給ふ(終止法)	三五才10	しづみ入給て	三九才6
をきいで給はず	三二才5	見給に	三六才3	見え給に	三九才7
もち給へる	三三才5	とはせ給へば三六才4・五七才5・五九才2	三六才2	いひをき給し	三九才8
とゞめ給(終止法)	三三才6	うちたゝせ給に	三六才14	をきあがり給へる	三九才14
いり給はでぞ	三三才9	あけ給へと	三六才15	ちぎり給しも	四〇才3
あかしはて給へる	三三才9	「きこえ」給へと	三七才2	まぎれたまふに	四〇才6
入給たるに	三三才11	いで給なほ	三七才8	をひたち給へれば	四〇才12
ならばしをき給へる	三三才12	まぎれありき給に	三七才16	うちまどろまれ給はず	四〇才1
とけ給はず	三三才14	ならひ給はぬに	三八才1	ねられ給(連体法)	四〇才7
き給て	三三才16	思ひしられたまひける	三八才4	思ひより給はぬに	四〇才8
ふし給へる	三三才1	かへり給ても	三八才5	きゝなし給へる	四〇才10
みわたしたまふ(終止法)	三三才9	まいり給べきにぞなど	三八才11	なり給ぬ	四〇才12
なり給たれば	三三才10	物つくし給(連体法)	三八才12	ひへ給たるに	四〇才13
せられ給て	三三才13	はてさせ給はじと	三八才5	候給ぞ	四〇才16
かき給(終止法)	三三才4	すぐさせ給へなど	三八才8	見えさせ給へるに	四一才1
たちしのび給と	三三才7	おぼえ給はず	三八才14	なり給へり	四一才6
しらせ給はざりけるか	三三才15	きゝつたへ給しか	三八才12	見え給へる	四一才14
うけひきたまはざりしかば	三四才3	をいたち給へるに	三八才14	たへ入給ぬと	四一才1
かよひきこえ給はん	三四才5	たちをくれ給べき	三八才16	いきいで給ぬ	四一才5
心とゞめ給はん	三四才9	し給はず 三八才16・三九才9・四一才5・四八才7		きへいり給へりければ	四一才6
かくるへかよひ給はん	三四才12	しづみいり給へり	三八才17	をきあがりたまふ(連体法)	四一才9
きゝふし給たるに	三四才4	しづみふし給にしを	三九才8	しづみ給ふに	四一才10
まち給に	三四才15・四四才14			ね入給へるを	四二才2

みじろき給へるに	四二才 4	まいり給へる	四五ウ 17	まうで給(連体法)	四八ウ 4
見えさせ給はず	四二才 10	まいり給ぬる	四六才 13	をこたり給はず	四八ウ 4・五九才 1
わづらはせ給へる	四二才 10	おぼえ給へ(「こそ」の結び)	四六ウ 8	まいり給(連体法)	四八ウ 6
うちをどろき給て	四二ウ 2	きかせ給へと	四六ウ 9	見え給はねば	四八ウ 8
しづませ給めるになど	四二ウ 9	まどろみ給へるに	四六ウ 10	申給て	四九才 17
こもらせ給へかしと	四三才 8	をどろき給ぬ	四六ウ 16	思ひやられ給へば	四九ウ 4
見えさせ給けるとて	四三才 10	し給て	四七才 2	あかしくらし給ふ(「ぞ」の結び)	四九ウ 7
こもらせ給て	四三才 11	いで給はんと	四七才 2	かずへられ給に	四九ウ 12
すゝめ給て	四三才 13	かへり給(連体法)	四七才 2・八	すぎ給にければ	四九ウ 15
まいり給ぬ	四三才 14	六ウ 2	六ウ 2	すまい給(終止法)	四九ウ 17
よみたまふ(終止法)	四三ウ 4	心ちし給て	四七才 11	きゝあはせられ給に	五〇才 3
いでさせ給へとのみ	四三ウ 6	ひとりごち給ふ(終止法)	四七才 14	みたてまつらせ給へ(命令法)	五〇才 5
かへり給まじき	四三ウ 12	わづらはせ給ふ(終止法)	四七ウ 1	すぎさせ給へ(「なむ」の結び)	五〇才 6
わたしきこえ給へと	四四才 5	なやみ給て	四七ウ 3	すぎ給ぬるは	五〇才 10
ならせ給へば	四四才 8	おぼしなげかせ給ふ(連体法)	四七ウ 5	ひきいり給ぬるに	五〇才 16
まいらせ給へと	四四才 10	きこえあはせ給へるに	四七ウ 10	しり給はずや	五〇ウ 1
あかし給つゝ	四四才 13	たのみきこえさせ給へるに	四七ウ 12	おぼえ給けるをぞ	五〇ウ 13
まいり給へりと	四四才 15	さきだち給なんずる	四七ウ 14	あくがれたまふ(連体法)	五一才 1
いでさせ給なんずるに	四四ウ 1	つくし給に	四七ウ 15	いで給に	五一才 3
たづねさせ給(連体法)	四四ウ 16	申をき給に	四八才 2	思ひやり給ふ(連体法)	五一才 4
たちかへり給にし	四五才 3	ならせ給ぬれば	四八才 5	あくがれたまふに	五一才 8
いでたち給(終止法)	四五ウ 1	おぼしはくゝませ給べき	四八才 9	たゝみかいはみ給ふ(終止法)	五一才 10
まうでつき給て	四五ウ 2	きこえたまふ(「ぞ」の結び)	四八才 10	見いれ給へば	五一才 15
たづねさせ給に	四五ウ 3	うせ給ぬれば	四八才 11	かいはみ給ふに	五一才 17
こもり給たるが	四五ウ 6	あたり給はず	四八才 14	ゝ(う)せ給にし	五一ウ 1
うせさせ給るとて	四五ウ 7	たて給て	四八ウ 3	うせ給し	五一ウ 3

見たまふに	五二ウ 5	みへたまふ(連体法)	五三ウ 13	せさせ給ける	五七ウ 1
いそがせ給へども	五一ウ 11	いのり給けん	五三ウ 18	とはせ給ふに	五七ウ 3
かなしうしたまふ(連体法)	五一ウ 13	しるべし給へ(命令法)	五四オ 17	わらはせ給ふ(終止法)	五七ウ 6
なり給ためれば	五一ウ 16	きゝすぐし給はぬと	五四オ 18	いでたち給ふ(連体法)	五七ウ 9
うせ給なん	五一ウ 17	たづねきゝ給へ(命令法)	五四ウ 2	さしやり給へれば	五八オ 13
みをき給(連体法)	五一オ 1	わたらせ給て	五四ウ 12	おほせ給ふも	五八ウ 1
もとめさせ給なれ	五一オ 2	きゝいれたまはず	五四ウ 14	おほせ給へど	五八ウ 5
うせ給たんなるに	五一オ 2	きゝ給なん	五四ウ 17	とりいれ給んと	五八ウ 8
まいらせたてまつり給へかしと	五一オ 3	思ひ給へど	五五オ 16・六五ウ 8	わけまいり給に	五九オ 2
いき給たらん	五一オ 8	み給へ(命令法)	五五ウ 17	せいしきこゑ給へども	五九オ 4
み給へば 五二オ12・五七ウ17・六四オ1・		まちたてまつり給へと	五六オ 3	かよひありき給(連体法)	五九オ 5
七九オ1		このませ給はざりしかど	五六オ 6	まうでたまふに	五九オ 7
みたまへど	五二オ 17	もてかしづき給なれば	五六オ 8	まいり給へるが	五九オ 10
おぼえ給(終止法) 五二ウ6・八一ウ13・八		ならせ給はん	五六オ 9	うちいらせ給に	五九オ 15
二オ1		かよひ給はんずるなめりなど	五六オ 10	入給はねば	五九オ 15
たちいで給ふに	五二ウ 7	し給ふに	五六オ 12	をり給て	五九オ 15
み給に	五二ウ 8・七七オ11	し給けれども	五六オ 13	うみたまふ(連体法)	五九ウ 3
をしはかられ給へど	五三オ 1	みたまふに	五六オ 15・六四オ 8	のぞき給へば	五九ウ 6
いで給なんと	五三オ 2	いはれ給はず	五六オ 16	見給へば 五九ウ10・六六オ12・六七オ6	五九ウ 6
しらせ給はぬか	五三オ 4	かへり給ふ(終止法)	五六オ 17	まもられ給に	五九ウ 15
いれまいらせ給へと	五三オ 4	させさせ給へ(命令法)	五六ウ 9	こぼれ給ぬ	六〇オ 1
たちいで給て	五三オ 12	ゆるし給へとて	五六ウ 10・七三オ 20	すぎさせ給ぬと	六〇オ 2
ゝ(と)い給へば	五三オ 13	ゆるしたまはん	五六ウ 13	入給て	六〇オ 7
ながめすぐし給へば	五三ウ 4	とゞめ給て	五六ウ 14	まいり給ふ(終止法)	六〇オ 8
まいり給はず	五三ウ 6	いそぎかへり給ぬ	五六ウ 14	せさせ給ふ(終止法)	六〇オ 9
まいり給へれば	五三ウ 6	せさせたまへと	五六ウ 18	物おぼえ給はず	六〇オ 11

し給へば 六〇才12・六二才9・六二才12・ 六五才5・七八ウ4	六〇才15	きゝ給に 六三才15・七二ウ2・七五ウ14 御らんぜさせ給へ(命令法)	六三才18	みたてまつりたまふ(終止法)	六五ウ6
なやみ給に	六〇才16	見給し	六三ウ2	心をき給はぬも	六五ウ10
あはれみ給ぞと	六〇才17	おぼえ給て	六三ウ4	いで給ひぬ	六六才11
むまれ給ぬれば	六〇才17	おぼえ給はぬ	六三ウ7	まち給ふに	六六才11
うせ給ぬと	六〇ウ12	をいたち給はんに	六三ウ11	たてまつり給へり	六六才12
申請はゞ	六〇ウ15	をいたち給はゞ	六三ウ15	こぼれ給ひけり	六六ウ10
いひしらせ給(連体法)	六一才1	見え給ふを	六三ウ18	かきそえ給ふ(「ぞ」の結び)	六六ウ20
たてまつり給て	六一才2	よろこびたまふ(連体法)	六三ウ20	いだきいだし給ひて	六六ウ21
とい給に	六一才2	かなしみ給に	六三ウ21	見給ば	六七才5
たづねとい給へども	六一才9	あいしもち給し	六四才11	とゞめさせ給ける	六七才22
おぼえ給にも	六一才12	をどろかれ給に	六四才13	おぼしはごくませ給へ(命令法)	六七ウ2
おぼえ給ふ(終止法)	六一才14	さすらへ給らんと	六四才17	うまれ給ひし	六七ウ4
みへ給はず	六一才16・七一ウ3	うちゑみ給へる	六四ウ2	きこえ給はず	六七ウ5
見え給(連体法)	六一才17	うまれ給なば	六四ウ6	かへり給ひて	六七ウ6
みたまふも	六一ウ1	やすらい給に	六四ウ9	みだきあいし給ふに	六八才1
まもり給へば	六一ウ14	みつくし給(連体法)	六四ウ14	わたり給へば	六八才1
をしのごい給へば	六一ウ15	ながめ給て	六四ウ17	し給へど	六八才5
もてなしかしづかれ給はまし	六二才3	みいだし給ふ(連体法)	六五才2	いだしたて給ひつ	六八才6
やどり給ぬらん	六二才4	まちよろこび給て	六五才4	まちきこえ給ひて	六八才7
をいたちたまはゞ	六二才4	もてなさせたまふ(連体法)	六五才6	おはしきこえ給(終止法)	六八才8
きへ給ぬ	六二才13	とり給て	六五才8	みだきいで給ひたるに	六八才11
ひゑはて給たれば	六二ウ4	より給へば	六五才8	うつくしみ悦給ふ(連体法)	六八才13
まつて給はぬ	六二ウ9	なりまさらせ給ふこそ	六五才10	わづらひ給て	六八才19
たゞみありき給(連体法)	六二ウ10	をくらかさせ給なよと	六五才14	うまれ給ひぬ	六八才20
見え給はぬを	六三才6	なり給はんなんど	六五ウ2	かよひ見給に	六八ウ6

見しりきこえ給て	六八ウ 7	ぬすみいで給しを	七一オ 6	いでさせ給べきに	七三オ 4
まうで給に	六八ウ 11	とられ給て	七一オ 7	やしないたてまつり給てしかば	七三オ 7
しらせさせ給へと	六八ウ 13	まじり給(連体法)	七一オ 8	ならせ給て	七三オ 9・七四ウ 8
いのり給に	六八ウ 13	なげき給はず	七一オ 9	めでられ給なれなど	七三オ 11
さぶらはせ給て	六八ウ 14	すぐし給しを	七一オ 11	道びき給へ(命令法)	七三ウ 2
いで給べきに	六八ウ 15	はらみ給て	七一オ 13	見給へかしと	七三ウ 3
申給(終止法)	六九オ 1	なり給ふ(連体法)	七一オ 14	きよとゞめ給ひつらんとしもぞ	七三ウ 7
うちをこない給に	六九オ 2	うせ給にき	七一オ 15	こもり給べきにか	七三ウ 15
おぼえ給はざりしを	六九オ 6	しづみ給しかども	七一オ 16	かよひ給はん	七三ウ 16
うせさせ給て	六九ウ 6	とゞめおき給し	七一オ 16	しらせ給へ(命令法)	七三ウ 16
なり給けんと	七〇オ 4	いで給しを	七一ウ 1	かたらひ給(終止法)	七四オ 19
みへさせ給し	七〇オ 6	しありき給しかば	七一ウ 2	みなれ給たらん	七四ウ 13
なり給と「か」の結び)	七〇オ 8	おくらかさせ給けるとて	七一ウ 7	いだしたて給(終止法)	七四ウ 15
うせ給べきと	七〇オ 12	うせ給しと	七二オ 4	みへさ「せ」給しを	七五オ 2
うせ給ひにし	七〇オ 15	うせ給にける	七二オ 14	をよすけ給(連体法)	七五オ 20
かよひ給にしぞかし	七〇オ 16	きよ給だに	七二ウ 3	なり給しより	七五ウ 2
めでられ給ふ(連体法)	七〇オ 17	しらせ給へと	七二ウ 5	きえうせ給ぬるを	七五ウ 7
うみ給し	七〇ウ 1・七一オ 14	いのり給(連体法)	七二ウ 5	さそい給て	七五ウ 18
なくなり給し	七〇ウ 3・七〇ウ 10	にたてまつり給へりと	七二ウ 7	まかで給に	七五ウ 18
こもり給けるとばかり	七〇ウ 5	いで給なんず	七二ウ 13	まいり給たれば	七六オ 5・八六オ 13
なり給ひけるにや	七〇ウ 7	いでさせ給て	七二ウ 15	あらはれ給たるかと	七六オ 6
すぐさせ給ふべかりし	七〇ウ 8	わたらせ給へなど	七二ウ 15	うちおこない給て	七六オ 8
きよ給(終止法)	七〇ウ 16	入たまひしは	七二ウ 19	たづね給たれば	七六オ 10
きよたまふに	七〇ウ 18	おぼえ給で	七二ウ 21	まち給へよなど	七六オ 20
ときめき給て	七一オ 2	きこえ給(連体法)	七三オ 2	おり給ぬ	七六ウ 9
うみたてまつらせ給しを	七一オ 5	まいらせ給て	七三オ 3	経佛くやうし給(終止法)	七六ウ 10

かき給(連体法)	七六ウ 10	のぞみ「給」なば	七九ウ 9	みつげ給はず	八三才 10
きゝおどろき給てぞ	七六ウ 13	入給(連体法)	八一才 1	見給ひしかば	八三才 13
かたりきこえ給(「ぞ」の結び)	七六ウ 14	といきゝ給に	八一才 2	見へ給しかば	八三才 15
きゝ「あは」せ給に	七六ウ 16	いき給て	八一才 8	たちやすら「ひ給」へば	八四才 1
し給ひける	七六ウ 17	ゝ(と)ひ給に	八一才 13	しりたまはじと	八四ウ 11
しのび給へど	七七才 4	をこない給て	八一才 19	見きゝあらはし給ひて	八四ウ 15
たいめんし給たれば	七七才 6	あらはし給(終止法)	八一ウ 2	たづね給らんと	八四ウ 16
おぼえさせ給に	七七才 13・七七才 16	しうし給(連体法)	八一ウ 3	いそぎ給ける	八五才 10
そむかせ給し	七七才 17	おぼえ給(「ぞ」の結び)	八一ウ 4	「し」るべし給にやと	八六才 3
みへさせ給しとて	七七才 20	あらはれ給(終止法)	八一ウ 5	帰給て	八六才 13
きゝつけ給て	七七ウ 9	すぐれたまへれば	八一ウ 5	なき給ふ(終止法)	八六ウ 5
よびかへし給し	七七ウ 10	をと給へれど	八一ウ 6	うちわらひ給ひて	八六ウ 6
おどろかし給へよ	七八才 9	ぐしてわたり給ひしかば	八一ウ 10	さはがせ給に	八六ウ 8
をしのごい給(連体法)	七八才 14	出家し給へるとばかりは	八一ウ 16	つれなくきこえ給(終止法)	八七才 4
しおき給へり	七八才 18	思ひ給てけるなど	八一ウ 18	ききをよばせ給たる	八七才 10
たち帰給ふ(連体法)	七八才 18	申給へり	八一才 6	候はせ給へと	八七ウ 5
たちなれ給(連体法)	七八ウ 1	きゝ給(連体法)	八一才 8	きこへ給へば	八七ウ 8
いさめきこえ給て	七八ウ 3	かやり給はんと	八一才 9	おもひ給など	八七ウ 11
ゐ給て	七八ウ 4	おぼい給ければ	八一才 11	なり給なんと	八八才 12
かたり申給(終止法)	七八ウ 6	おぼえ給へど	八一才 14	思ひ給て	八八才 12
わたり給たる	七八ウ 7	とりかへし給へ(命令法)	八二ウ 10	し給へれば	八八才 15
たづね入たまへり	七八ウ 10	とり給べきと	八二ウ 11	きこえ給つ	八八ウ 1
ありき給に	七八ウ 13	さし給(終止法)	八二ウ 13	見せたてまつり給へば	八八ウ 4
なり給べき	七九ウ 2	みへ給へるに	八三才 7	見給て	八八ウ 7
まぼりきこえ給て	七九ウ 4	たがい給(連体法)	八三才 7	まちきこえ給(終止法)	八八ウ 14
せさせ給ては	七九ウ 5	いき帰給べかりける	八三才 8	たまふ(給)《補助動詞・下二段》	

つきそめ給ふるを	七ウ 1	たえて	五八才 16	たれにも	四二ウ 11
思ひ給ふる物をとて	五八ウ 12	たへず	五九才 5	たれにかはと	四三ウ 11
思ひ給ふ・と	六七ウ 13	たへにける	六六ウ 7 *	たれにか	四五ウ 11
思ひたまへれど	七七ウ 16	たえにしかども	七一才 8	たれかは	四九ウ 1
たまふ(給)《補助動詞・活用不明》	七八才 2	たゆふ(大夫) ↓ひやう系のたゆふ		たれも	五一ウ 19・五一ウ 20
思ひ給		たゆふのおほむめのと(大夫御乳母)		たれならん	五二ウ 15
たみ(民)	七四ウ 2	たゆふの御めのとの	六二ウ 12	たれ中將にかと	五三才 10
たみに		たより(便)		たれとは	五四ウ 9
ため(為) ↓おほむため	二〇ウ 1	たより	一三ウ 16	たれにかなど	六〇ウ 3・八二才 12
ためとや	二四ウ 1	たより(頼)		たれとだに	六二才 5
ために	三〇才 14	たよりにはなど	一五才 14	たれならんと	六四才 9
ためにも	八三才 2	たよりも	二九ウ 10・四七才 10・六六ウ 14	たれが	七三ウ 10
ため		たよりに	五五才 9	たればかりにかと	七九才 3
ためし(例)		たらふ(足)		たればかりなる	八一ウ 19
ためし	五才 7・四八ウ 1・六一ウ 19	たらいたるをなど	五四才 10	たれにと	八五才 1
ためしぞ	五七才 15 *	たれ(誰)		たれたれ(誰誰)	
ためしにも	七一才 2	たれぞと	一ウ 4・三三ウ 9・五七ウ 2	たれ も	七一ウ 13
たもつ(保)	九才 3	たれをかはとこそ	一五ウ 10	たわらもと	
たもたせをはしませども		たれか	一八才 14 *・四〇ウ 16・五三才 14・六八ウ 18・七二ウ 17・七五ウ 15	たわらもとの	五二ウ 3
たもと(袂)	五才 5 *	たれ	二二才 15・五一才 17・六六ウ 2 *	たをやかなり	
たもとも	一四才 5	たれと	二七才 10・三六ウ 15・六〇ウ 10	たをやかに(中止法)	三三才 1
たもとに		たれとか	二七ウ 3		
たゆ(絶) ↓あとたゆ・かきたゆ	九才 10	たれに	二八ウ 2・七七ウ 6		
ゝ(た)へぬを	一七才 15 *・六九才 18	たれにかとて	三一才 11		
たえぬ		たれにかと	四〇ウ 8		
たへぬべく	四三ウ 15				

ち

ち ↓いづち

ち(乳) ↓おほむち

ぢ(路) ↓あふみぢ・いんぢ・おほぢ・やまぢ・

ゆめぢ・よそぢ・よみぢ

ちあふ(乳)

ちあへ侍りしが

ちつべつ(中宮) ↓ちつべつ

中宮は

中宮も

中宮にも

中宮の

中宮を

中宮などは

中宮にこそ

ちつじやう(中将) ↓くゑんちつじやう・げん

ちつじやうのむすめ・さむめのちつじやう・

さむめのちつじやうどの・なにのちつじや

う・なにのちつじやうののおほむちのちつじ

やう・にゑちつじやう・にゑのちつじやう・

やまふみのちつじやう

中将 二ウ³・二ウ¹⁰・七ウ⁸・二〇オ⁶・

六三オ¹²

中将は 四オ¹¹・八オ⁵・一八ウ¹³・二〇ウ²

・二九ウ⁶・五八ウ¹⁵・六〇オ¹⁷・七一オ¹⁵

中将の 五三オ³・六六ウ²⁰・七二オ¹⁵・七

六ウ¹

中将にかと

中将にか

中将には

中将のみこそ

中将とばかりなり

中将も

ちつじやうどの(中将殿)

中将殿には

中将殿 二二ウ⁶・七二ウ²⁰・七七オ⁵・七

八ウ⁹

中将殿ゝ

中将殿は 二八オ⁸・七〇ウ⁸・八六オ¹²

中将殿も 六三ウ²⁰・七〇オ¹¹・七〇ウ²・

七六ウ¹²

中将殿の

中将殿とは

中将殿をも

ちつじやうども(中将共)

中将ども

ちつじやうのきみ(中将君)

中将のきみぞ

中将のきみも

中将のきみとて

ちうだう(中堂)

中だうへ

ちうしよ(住所)

ちう所を

五四オ¹⁵

五五オ¹³

七三オ⁶

八七オ¹⁵

八七オ¹⁶

一六ウ¹⁵

一六ウ¹⁵

一六ウ¹⁵

一六ウ¹⁵

一六ウ¹⁵

一六ウ¹⁵

一六ウ¹⁵

一六ウ¹⁵

一六ウ¹⁵

一六ウ¹⁵

一六ウ¹⁵

一六ウ¹⁵

一六ウ¹⁵

一六ウ¹⁵

一六ウ¹⁵

一六ウ¹⁵

一六ウ¹⁵

一六ウ¹⁵

一六ウ¹⁵

一六ウ¹⁵

一六ウ¹⁵

ちうなごん(中納言) ↓ごんちうなごんの

とのちうなごん・なにのちうなごんのお

ほむこのちつじやう

中納言に

ちうなごんどの(中納言殿)

中納言殿

中納言殿ゝ 三五オ⁸・六八オ⁷

中納言殿は 四四ウ⁸・六四ウ⁹・六七ウ⁶・

七五ウ¹²・七六ウ⁸

中納言どのゝ

中納言どのは 五〇ウ²⁰・五七オ¹⁶

中納言殿の 六八オ⁹・六八ウ⁴

ちうなごんのすけ(中納言典侍)

中納言のすけ

ちかし(近) ↓けちかし・ひとちかし・ほどち

かし・まぢかし

ちかき(連体法) 一三オ⁶・二〇オ⁹・二四

ウ²・二四ウ¹¹・四九ウ⁹・五三オ⁶

ちかく(連用法) 二五オ⁴・二五ウ⁹・四一

オ²・四六ウ¹⁴・四八ウ¹⁶・五〇オ¹・五

七ウ¹¹・六〇オ⁷・六五オ⁸・六七オ⁶・

七三オ¹¹

ちかくて

ちかきに

ちかぢか(近近)

ちかに

二五ウ³

四九ウ⁸

四九ウ⁸

四九ウ⁸

四九ウ⁸

四九ウ⁸

四九ウ⁸

四九ウ⁸

四九ウ⁸

四九ウ⁸

四九ウ⁸

四九ウ⁸

四九ウ⁸

四九ウ⁸

四九ウ⁸

四九ウ⁸

四九ウ⁸

四九ウ⁸

四九ウ⁸

四九ウ⁸

四九ウ⁸

四九ウ⁸

四九ウ⁸

四九ウ⁸

四九ウ⁸

四九ウ⁸

ちかづく(近付)		ちくぜん(筑前)		ちいさき(連体法)	
ちかつきて	一三ウ14	ちくぜんは	七四オ7	ぢぶつだう(持佛堂)	二五ウ8
ちがふ(違)		ちくぜんのかみ(筑前守)		ぢ佛堂に	七八ウ14
ちがひて	三七オ6	ちくぜんのかみ	七四オ3	ぢもく(除目)	
ちぎり(契) ↓おほむちぎり		ちこ(児)		ぢもくなどゝ	三〇ウ5
ちぎりも	一二ウ1・一四ウ3・五八オ8・	ちこの	六三オ3・六三オ15・六三ウ7・六	ぢもくに	三三オ9
六一オ11		四オ13・六五ウ6・六六ウ15・六八オ9	六五ウ14	ちよ(千夜)	
ちぎりさへ	一六ウ13・五〇ウ6*	ちこそ	六五ウ14	ちよを	一四オ15
ちぎりの	二二ウ3・三三オ11・六四ウ12	ちこは	六六オ5	ちらす(散) ↓ひきちらす	
ちぎり	二九ウ4・五〇ウ1・六二オ1・六	ちこ	六七オ19	ちり(塵)	
三ウ3・六四オ19・六五ウ7		ちこさま(児様)		ちりとち	七四オ14
ちぎりにか	四六オ16	ちこさまに	六ウ11	ちりぢりなり(散散)	
ちぎりなれどもと	四六ウ13*	ちち(父)		ちり	に(連用法) 三九ウ3・七一ウ13
ちぎりなば	六四ウ18*	ちを	八〇オ12	ちりのこる(散残)	
ちぎりなれば	六五ウ8	ちの	八一オ2	ちりのこりたるを	二五ウ16
契	六七オ14・六九オ19・七四オ8	ちちおとど(父大臣)		ちるぼふ(散)	
契も	六九ウ16	ちをとど	六オ10・二三ウ13	ちるぼはさんち	六七ウ11
契の	八四オ10	ちおとどなど	一一ウ4	ち系(知恵)	
契かな	八五ウ1	ちちはは(父母)		ち系	八一ウ5
ちぎりおく(契置)		ちははの	三八ウ9	ぢん(陣) ↓さゑもんのぢん	
ちぎりをく(連体法)	五七ウ18*	ちは	六二オ4		
ちぎりかたらふ(契語)		ちは	七九オ15		
ちぎりかたらひ給に	三一ウ12	ちは	八六オ2		
ちぎる(契)		ちと(些)			
ちぎらぬを	一四ウ12*	ちと	四四ウ1		
ちぎり給しも	四〇オ3	ちひさし(小)			

つ

ついたち(一日) ↓にくわつついたち					
ついたちころ(一日頃)					

一日ころ	八才9	つかはし侍をと	四七才7	月を	二才2
ついで(築地)		つかはして	五七ウ16・八七ウ9	月も	三ウ7・四ウ1・五才2・五才6*
ついで(序)	八才9・四九才16	つかはしたれば	六〇才5	月の	五才9*・一三才7・五七才7
ついで	八二才5	つかはす(終止法)	六〇才13	月に	五一才2・八一才9
ついはなつ(突放)		つかひ(使) ↓おほむつかひ		月のみぞ	五一才15
ついはなちて	五三才5	つかひにて	二九ウ11	つき(次)	
ついで		つかひ	三四ウ9	つきには	三四才1
ついで		つかひに	四四ウ4	つきの	七一才17
ついで		つかひ(番)		つきごとのおほむこと(月御事)	
ついで		つかいも	六五才1	月ごとの御事も	四二才9
ついで	一九ウ7	つかふ(仕)		つきごろ(月頃)	
ついで	五五ウ16	つかひ候へば	三七ウ1	月ごろ	六七才11・八二才18・八四才8・八四ウ7・八五ウ10
つかうまつる(仕)		つかはれたてまつりなんと	五二才10	月ごろも	八三ウ8
つかうまつりて	一五ウ8	つかふ(使) ↓めしつかふ		つきす(尽)	
つかうまつり侍べき	二〇ウ9	つかい(中止法)	七九ウ16	つきせず	四才5・七四ウ17
つかうまつれなど	三九才4	つかへ(仕) ↓みやづかへ		つきせぬ	六八ウ8
つかうまつらんなど	四〇才8	つかまつりなる(仕)		つきそむ(付初)	
つかうまつり(中止法)	四八才6	つかまつりなれしかど	七四ウ1	つきそめ給ふるを	七ウ1
つかうまつれ(命令形)	五六ウ12	つかまつる(仕)		つきそめたるより	四〇才15
「つかうまつり候はず候へども	八〇ウ10	つかまつる(連体法)	五六ウ17	つきづきし	
つかさ(司) ↓おほむつかさ		つかまつり侍りけるに	七六ウ6	つき	しく(連用法)
つかさくらゐ(司位)		つかまつりて	八〇ウ1	つきなし(付無)	一四ウ5
つかさくらゐ	七九才21	つき(付) ↓すみつき		月なしとてぞ	一九才8* ≪月無≫との掛詞
つかはす(遣)		つき(月) ↓ありあけのつき・ふたつき		つきひ(月日)	
つかはしてこそは	三三ウ4	月一才4・一二ウ11・一九才8* ≪つきな		月日の	一〇ウ7・四八才13・七三才10・七
つかはさん	四五才4	しとの掛詞・七一才18			

八才 8・八五才 2
 月日も 六六ウ 15・七五ウ 15
 つく(着) ↓おはしつく・まつでつく
 つく(付)《下二段》 ↓うちつけなり・うちみつ
 く・かきつく・きぎつく・ことつく・みつく
 つけて四才 8・五ウ 8・三九ウ 16・四九才 14
 ・五五才 9
 つけても 一才 4・六一ウ 21・六五才 16・
 七七才 1・七八才 12・八六才 9
 つけては 三七ウ 13
 つけられんと 五三才 11
 つけたるを 五七ウ 11
 つけたてまつりて 六三ウ 17
 つけてこそ 七六ウ 6
 つけてもこそ 八〇ウ 17
 つく(付・就)《四段》 ↓おひつく・かたらひ
 つく・こころづきなし・さぶらひつく・こじ
 やうずづく・よづく
 つき待に 八ウ 2
 つかせ給ぬれば 一ウ 10
 つきぬるは 一六才 10
 つきたてまつりたりしに 七一ウ 11
 つきたてまつりたりし 七二才 3
 つきたてまつりて 八一才 16
 つく(告) ↓こひづく
 つげ待つる 一五ウ 6
 つげ給はざりける 二〇才 9
 つぐるに 四八ウ 14
 つくし(尽) ↓こころづくし
 つくし(筑紫)
 つくしの 七〇才 2・七二才 7
 つくしへ 七三ウ 1・七三ウ 9・七三ウ 18
 つくす(尽) ↓みつくす
 つくし給には 一三才 10
 つくす(連体法) 一六ウ 8
 つくし(連用法) 二四才 12
 つくすと 四六ウ 5
 つくし給に 四七ウ 15
 つくして 五二才 7
 つくづく(熟熟)
 つく と二才 1・二九ウ 7・四二才 3・
 五九ウ 14・六一ウ 13・六四ウ 17・六六ウ 9
 つくよ(月夜) ↓ゆづくよ
 つくりいづ(作出)
 つくりいで給たるにやなど 三一ウ 10
 つくる(作)
 つくり給へるにも 一才 11
 つくりたる 五五才 4
 つくり(中止法) 五五ウ 10
 つくりて 五七才 8・七七才 10・八一才 3
 つくる(作) ↓うしこわづく
 つくる(繕) ↓ひきつくるひいでたつ・ひき
 つくろふ 二〇才 9
 つくろはれ給ふ 三五ウ 10
 つくろはずれば 五五ウ 18
 つくろひす(繕)
 つくろひし給はず 一九才 14
 つごもり(晦) ↓はちぐわつごもり
 つごもり(晦頃)
 つごもり(伝) ↓きぎつたふ・ひきつたふ・まつ
 しつたふ 三三才 15
 つたへで 三五才 1
 つたうる(連体法) 六七ウ 9
 つたへ(伝)
 つたへにも 六ウ 1
 つづく(続)《下二段》 ↓いひづく・おぼし
 つづく・おぼしめしづく・おもひづく
 やりづく
 つづく(続)《四段》 ↓うちづく・とりづく
 つゞかず 三八ウ 8
 つつまし(慎)
 つつましく(連用法) 三才 10
 つつましう(連用法) 七三ウ 13
 つつまあふ(包敢)
 つつまあふまじく 七五ウ 1
 つつむ(包) ↓ひきつつむ
 つつみて 七一ウ 6・七四才 2

つと
 つと
 つとぶ(集) ↓さしつどぶ・まぬりつどぶ
 つといたる
 つとめて(早旦)
 つとめて
 つとめては
 つね(常) ↓よのつね
 つねは
 つねの
 つねに(常)
 つねに
 つねになん
 常に
 つひに(遂)
 つひには
 ついに 四八才10・七一才17・七五ウ9・七
 七ウ17・七八ウ1・七九才19
 つるに
 つひのすみか(終住処)
 ついのすみかと
 つばね(局) ↓おほむつばね
 つばねも
 つばねぞと
 つばねにぞ
 つばねに 四五ウ10・六二ウ12・六三才16
 つばねには
 つばねの
 つばね
 つばみ(蓄)
 つばみの
 つま(端)
 つまと
 つまおと(爪音) ↓おほむつまおと
 つまど(妻戸)
 つまどなどの
 つまどを
 つみ(罪)
 つみ
 つみは
 つみふかき(罪深)
 つみふかきも
 つみふかし(罪深)
 つみふかき(連体法)
 つもる(積)
 つもらぬ
 つもりぬ
 つゆ(露)《名詞》 ↓しらつゆ
 つゆの
 つゆとこそ
 つゆ
 つゆ(露)《副詞》
 つゆも
 つゆの
 つゆ
 つゆばかり(露許)
 つゆばかり
 つゆばかりの
 つゆばかりも
 つらさ(辛)
 つらさの
 つらさは
 つらし(辛)
 つらき(連体法)
 つらしと
 つらしとこそ
 つらきに
 つらからん
 つりす(釣)
 つりするばかりにて
 つるうち(弦打)
 つるうちなど
 つれなし
 つれなき(連体法)
 つれなくて
 つれなくきこえ給
 つゆも 八才13
 つゆの 三九才9・五一ウ7
 つゆ 四二才1・五六ウ19
 つゆばかり 一〇ウ4・四六ウ10
 つゆばかりの 一九ウ4・四一ウ8
 つゆばかりも 二七才13
 つらさ(辛) 一七才3・一七才10
 つらさの 五七ウ18*
 つらし(辛)
 つらき(連体法) 一四才1・三三才4
 つらしと 一七才1
 つらしとこそ 一七ウ12
 つらきに 二七才2
 つらからん 五七才1
 つりす(釣) 一八ウ9
 つりするばかりにて
 つるうち(弦打) 六〇才8
 つるうちなど
 つれなし
 つれなき(連体法) 一七ウ11
 つれなくて 一九才16・八六ウ9
 つれなくきこえ給 八七才4

て

て(手) ↓あしで・いたで・おほむて・おほむ
 てあし・ひくてあまた
 て 三ウ 5
 ては 五八オ 1
 ての 五八ウ 15
 てを 六〇オ 16
 ても 六四オ 6
 てに 八二ウ 15
 てあし(手足)
 てあしとも 五二オ 9
 てつぐ(調度) ↓おほむてつぐ・おほむてつぐ
 ども
 ておふ(手負)
 てをい(中止法)
 てかき(手書) 八〇オ 9
 てかき 五四オ 10
 てし(弟子) ↓おほむてし
 てすさみ(手遊) 一八オ 8
 てすさみを
 てならひ(手習) ↓おほむてならひす
 てならひ 六六オ 14
 てまさぐり(手弄) ↓おほむてまさぐり
 てまさぐりにて 六六ウ 4
 てら(寺) ↓おほむてら・やまてら・やまやま

てらでら

寺に

てんじやう(殿上)

てん上の

てんじやうす(殿上)

てん上し給て

てんにん(天人)

てん人の

六九オ 12

三ウ 4・六オ 4

六ウ 10

八二ウ 14

と

と(戸) ↓つまど・やりど・やりどぐち
 とを
 とつぐ(春宮)
 春宮も 三オ 2・六ウ 12・九オ 5
 春宮の 七オ 2・二三ウ 6
 春宮 一一ウ 10
 とつぐうには 一一ウ 11
 春宮と 二三ウ 4
 とつぐうのたいふ(春宮大夫)
 春宮の大夫など 九ウ 1
 とつぐうのによつこれいけいでん(春宮女御麗
 景殿)
 春宮の女御れいけいでんと 九ウ 9
 とつだい(灯台)

とつだい 二五ウ 9・五五ウ 11・六七オ 6

とつだいの 五一ウ 8

とかく(兎角)

とかく 二九オ 15・二九ウ 14・四二ウ 10・六

一ウ 3・六二ウ 5

とがむ(咎)

とがむる(連体法) 三二オ 1・三二ウ 13・四

九ウ 8

とき(時) ↓おほむとき・かたとき・ねのとき・

ひととき

時 一四ウ 4・二六オ 5・三四オ 1・五二ウ 16

・八〇オ 4・八七ウ 16

時の 一九ウ 2・二三オ 12・二七オ 5

時より 二三ウ 5・七五オ 6

時に 三七ウ 12

ときなど 五八ウ 12

時だにも 八三ウ 12

ときどき(時時)

時 三ウ 1・五六オ 10・八〇ウ 8

とき は 六五オ 11

とき 七六オ 8

ときは(常盤)

ときはに 一一オ 6・七〇ウ 18

ときはのによみん(常盤女院)

ときはの女院などよりも 六八オ 20

ときはのみかど(常盤帝)

ときはのみかどの	二二ウ13	所のみ	一四オ1	ところから(所柄)	
ときはのゐん(常盤院)		所二二オ3・五九ウ13・七三オ5・八〇ウ14		所がらにや	三三オ8
ときはのゐんと	二〇ウ17	所なども	二二ウ8	ところどころ(所所)	
時はのゐんに	五九オ9	所に一八オ3・四四オ3・五八オ6・五九ウ5・六三オ10・六六オ18		所へ	四一オ9
ときめき(悸) ↓ ところときめきす		ウ5・六三オ10・六六オ18		ところなし(所無)	
ときめく(時)		ところに三三オ12・三三オ13・四〇ウ4・六六ウ3・六六ウ5		ところなき(連体法)	六八ウ16
ときめき給て	七一オ2	所にも	四四オ2	とし(年) ↓ おほむとし	
とく(解)《四段》 ↓ ひきとく		ところなりとも	四四オ6	とし 一一オ9・二四オ14・六八オ13・六九ウ5・七二オ14・七二オ17・七七オ17	
とく(解)《下二段》 ↓ うちとく		所をば	五一オ9	としの三〇オ13・三一オ4・三四ウ5・四七オ15・七一オ18・七七オ7・七七ウ4・八〇オ2	
とけて	二四ウ6・四〇ウ6	所を	五五オ9	としさへ	三三オ9
とけ給はず	三二ウ14	所やと	五九オ11	としも	五四オ9
とぐ(遂)		ところも	五九オ12	としを	六四ウ10・七四ウ2
とげさせ給て	一一オ6	ところの	五九オ13	とし(疾)	
とぐまじきにやと	七九オ19	ところなどの	五九ウ15	とくと	一七オ16
とげて	七九ウ10	所や	六〇オ4	とくと	
とくこぶ(得業)		所の	六三ウ9	とく(連用法) 一八ウ15・二六ウ2・二八オ9《「こと」とする翻字もあり》・四三ウ6・四六オ15・四八ウ17・五一ウ11・五三オ4・五七オ11	
とくごうの	五二ウ2	所「に」	七三ウ4	とく(中止法)	二六ウ16
とぐち(戸口)		ところをも	七三ウ16	とくこそ	三三オ1・七七ウ7
とぐちまで	五七オ5	ところへ	七八ウ10	と(と)きに	三一オ11
とくとく(疾)		所になん	八三ウ1	とくなど	五七オ9
とくと		所にて	八三ウ7	と(と)く(連用法)	六〇オ6
とくと	四三オ12・四四ウ5	ところあらはし(所顕)	五八オ4		
とくと	四四ウ6	所あらはしも	四九ウ5		
とこ(床) ↓ ちやうじ		ところおく(所置)			
ところ(所) ↓ おきどころ・ひとところ・ふたところ	一一ウ12	所をきたてまつりたる			

どじ(同土) ↓おほむいとどじ	どむる(連体法)	殿よりの	二〇才4
とじ(年頃)	とどめ給	殿には	二一ウ4
とじ(四三ウ7・七三ウ4・七四ウ12・八一才5・八二ウ7)	とどめ給て	殿も	二一ウ9
とせ(年) ↓ひととせ・ふたとせ	とどめん	とのゝ二三ウ4・二四ウ15・三三才10・七三才2	七
とちかさぬ(閉重)	とどめし	とのに	二九ウ7
とちかさぬ(中止法)	とどめずは	とのへ	三三ウ8・五七才16
「と」ぢかさねたる	とどめさせ給ける	とのにも	四七ウ6
とぢこもる(閉籠)	とどめ候べき	殿ゝ	二二三ウ2・五四ウ16・六三ウ10
とぢこもる(閉籠)	とどめおく(留置)	とのと	五四ウ16
とぢこもる「も」覽	とどめをきて 三〇才3・六四才16・八五才9	とのより	五六ウ4
とぢこもりたる	とどめおき給し	殿は	六〇才1
とぢこもり侍らん	とどめがたし(留難)	殿よりも	六八才17
とじ(閉)	とどめがたし(終止法) 二二ウ4・五〇ウ10	殿に	八六才12
とぢたる	とどめがたく(連用法)	とのごもる(殿籠) ↓おほむとのゝもりおく・おほむとのごもる	
とて	となり(隣)	とのおほむおとど(殿御大臣)	二三才11
とてや	となりの	殿ゝ御をとゞ	
とどこほる(滞)	となりに	とののげんちうなごんの(殿権中納言殿)	五四ウ11
とどこほりて	との(殿) ↓あふみどの・うだいじんの・おほいどの・おほどの・ごんちうなごんの・さむめのちうじやうどの・ちうなごんの	とののげんちうなごん(殿権中納言)	八四才11
とどまる(留) ↓おもひとどまる	の・みくしげどの	殿のちうなごん(殿中納言)	
とどまりて	殿	殿の中納言	六八才20
とどまりて侍るに	とのは	とのにのちうじやう(殿二位中将)	
とどまりつるを	殿	とのゝ二る中将	一ウ5
とどむ(留) ↓おほしとどむ・かけとどむ・ききとどむ	との		
とどめつ	との		

とのゝ二の中將の	六四才 10	とへば	六二ウ 18	とみに(頓)	
とのひめぎみ(殿姫君)		とへとしも	六六才 19 *	とみに	四八才 7
とのゝひめぎみの	一二才 3	とふべしと	六六ウ 2 *	とむ(留) ↓あたとむ	
とのゝ(宿直) ↓おほむとのゝ・おほむとのゝ		とふ(連体法)	七五ウ 14	とも(共) ↓おほむとも・もろともなり	
びと		とふべく	七七才 1	ゝ(と)もの	五〇ウ 20
とばかり		とふべしとも	七七ウ 6	とも(友)	
とばかり	五六ウ 7	ゝ(と)ひ給に	八一才 13	ともなる	七六ウ 3
とひきく(問聞)		とぶらひわたる(甲渡)		ども ↓おほむあとも・おほむおもひども・お	
といきゝ給に	八一才 2	とぶらひわたり給に	一三ウ 2	ほむけしきども・おほむこども・おほむし	
とひまどはず(問惑)		とぶらぶ(甲)		むちうども・おほむてうども・おほむみ	
とひまどはざれて	三四ウ 14	ゝ(と)ぶらひきこえ給て	一九ウ 7	ども・からこども・こだちども・こども	
とふ(問・訪) ↓たづねとふ		とぶらふべきと	四九ウ 1	さぶらひども・ちうじやうども・はかせど	
ゝ(と)はせ給へば	一ウ 5・六三才 17	とぶらはんと	五四才 17	も・はらからども・ひじりども・ひとども・	
といも	四才 9	とぶらう(連体法)	六七才 9	ふるむすめども・ほふしども・まつしいれ	
とはましかばと	一六ウ 8	とほ(遠) ↓まちどほなり		ども・むすめども・めあかしども・ものど	
とふに	一七才 10・三三ウ 12	とほし(遠) ↓けどほし・ひととほし		も・やすきかたども・をむなども	
とはすれば	三三ウ 9	とをく(連用法)	六二ウ 15	ともあれかくもあれ	二八ウ 7
とはまほしけれとて	三五ウ 12 *	とほす(通) ↓あけとほす		ともあれかくもあれ	
とはせ給へば 三六ウ 4・五七ウ 4・五九ウ 2		とをされたる	七八ウ 16	ともかくも(兎角)	
とふなり	三六ウ 15	とほそ(枢)		ともかくも 八ウ 11・三〇ウ 2・三六才 10・	
とはせぬ	四七ウ 7	とほそを	七六才 3	四二ウ 4・五一ウ 20・五六ウ 9・八五ウ 4	
ゝ(と)い給へば	五三才 13	とまる(止) ↓いきとまる・おもひとまる・た		とます(灯)	
とはまほしうこそ	五四才 16	ちどまる		ともしなど	五九才 8
とはせ給ふに	五七ウ 2	とまる(連体法)	一四ウ 14	とら(虎)	
とはぬ	五七ウ 18 *	とまるべき	一五ウ 11	とら	七六ウ 3
とい給に	六一才 2	とまるまじう	六一ウ 5	とらす(取)	

とらすれば	三五ウ15	とりつづく(取続)	とりわたす(取渡)	八八ウ13
とり(取) ↓おほむむことり		とりつゞき	とりわたして	
とり(鶏)		とりどりなり(取取)	とる(取) ↓おほしとる・おもひとる・ひとる	
とりの	二七オ1	とり	たま・むかへとる・めしとる	
とりも	三三オ5・三三ウ1*	とりなす(取成)	とり給ふ	七ウ9
とりに	三三オ13*	とりなし給ふこそ	とり給へば	二四オ4
とりあく(取空)		とりなし給て	とられんは	四〇ウ10
とりあけし	七三オ5	とりなさで	とりたてまつりたるやらん	四六オ4
とりあつむ(取集)		とりはなつ(取放)	とりつらんと	四九オ3
とりあつめ(中止法)	六一ウ19	とりはなちては	とりて	五八オ15・六三ウ5・八二ウ8
とりあふ(取敢)		とりはらふ(取払)	とり給て	六五オ8
とりあへず	一七オ11	とりはらひて	とるべしとは	六七オ13
とりあらず(取争)		とりまかなふ(取賄)	とられ給て	七一オ7
とりあらず(取争)	二一オ8	とりまかなふめれど	とり給べきと	八二ウ10
とりいづ(取出)		とりもつ(取持)	どうぼう(同坊)	
とりいでゝ	三六ウ6	とりもて	どうぼうに	八一オ5
とりいづべきかと	三八オ7	とりやる(取遣)	とゑん(兔園)	
とりいる(取入)		とりやりなど	とゑこの	一四ウ7
とり入て	二五ウ7	とりやりたる	とを(十)	
とりいれられなど	五三オ17	とりよす(取寄)	十ばかりに	七五ウ2
とりいれ給んと	五八ウ7	とりよせてましと	とをか(十日) ↓さむぐわつとをかごろ・しや	
とりかくす(取隠)		とりよせて一五ウ2・二五ウ9・六五ウ19・	うぐわつとをかごろ・じぶぐわつとをか	
とりかくしきこえて	四三ウ14	八七ウ4	とをか(十日頃)	
とりかくしたてまつるべきに	四九オ2	とりよせなど	十日ごろに	五九オ5
とりかへす(取返)		とりわき(取分)		
とりかへし給へ	八二ウ10	とりわき		

な

な(名) ↓あだな・うきな・おほむな

なをのみ 五ウ5・一一ウ4

なを 一九ウ1

なには 六五ウ1

なは 八六ウ17

ないがしろなり(蔑)

ないがしろに(連用法) 三四才12

なつ(惱) ↓こなう

なか(中) ↓おほむなか・よのなか

なかにも 八才12・三三才5

なかに 一〇ウ12・一六ウ3・二五ウ16・二

八才1・五二才5・五二才16・六四ウ14・

六八ウ17・八二ウ14

中の 一六才14・五三才2

中を 一六ウ6・二三才1

なかの 一八ウ5

中に 二三五才8・二五ウ14・五二才12・五九

ウ7

中にも 四五才9

なかがぎ(中垣)

なかがぎより 五五ウ6

なかがころ(中頃)

なかがころ 六ウ2

ながし(長)

ながく 六六ウ7*・七二才6・七一ウ3

ながす(流)

ながし(中止法) 一一才12

ながすべきにやと 一九ウ1

ながさじと 六〇ウ19

ながさず 八六才6

ながして 八八才8

なかつかさのみや(中務宮)

なかつかさのみやの 五一ウ1

なかなか(中中)

中 一五才10

中々 三〇ウ14

なか 七六ウ7・八六ウ11

なかなかなり(中中)

中 なるべければ 二三ウ8

なか に(連用法) 五二ウ13*

なか なる(連体法) 七六才8

ながむ(眺) ↓うちながむ

ながめられさせ給へば 一才9

ながめさせ給ふ 一ウ9

ながめ給て 六四ウ17

ながむる(連体法) 六六才18

ながめ(眺)

ながめのみ 三三才12

ながめを毛 四七才13*

ながめくらす(眺暮)

ながめくらし給を 一二ウ4

ながめすくす(眺過)

ながめすくし給へば 五三ウ4

ながめわぶ(眺侘)

ながめわび給 二三才7

ながらふ(永)

ながらへて 一九ウ1・七二才12・八五ウ17

ながらふるとならば 三九才14

ながらふべきにやと 三九ウ15

ながらふべき 四二ウ11・六〇ウ17・七四ウ20

ながらふまじき 四二ウ14

ながらへんに 四九才14

ながらへん 六二才6

ながらふるにや 七六才17

ながらふる(連体法)

ながらへはつ(永果) 八六才5

ながらへはつまじう 五〇ウ12

ながる(流)

ながるばかりにて 一五才7

ながれ給を 一七才11

ながれ(流)

ながれなどにのみ 一三ウ5

ながれ 六六才15

ながれそふ(流添)

ながれそう(連体法) 一六ウ13

なきいる(泣入)

なき人給ゑるに	一六ウ 5	なぐさむ(慰)《下二段》	なききて	五四才 8
なきひと		なぐさめて	なげき給はず	七一才 9
なき人に	四〇ウ 11・四一才 6	なぐさめ給はず	なげし(長押)	
なきまどふ(泣惑)		なぐさめたてまつらんとて	なげしに	四ウ 12
なきまどへども	六二才 16	なぐさめよと	なごり(名残) ↓おほむなごり	
なきゑる(泣居)		なぐさめきこえばやと	なごり	三ウ 11・五五才 3
なきいたる	四二ウ 1	なぐさめきこえんと	なごりも	一六ウ 12
なきをり(泣居)		なぐさめ(慰)	なごりを	五七才 4・八五才 9
なきをりけり	四九才 8	なぐさめとも	なごりと	七七才 8
なく(鳴)		なぐさめに	なごりなし(名残無)	
なくば	三三才 6	なぐさめには	なごりなく(連用法)	五七才 8
なくらんと	三二ウ 2 *	なくなる(無)	なさ(無) ↓いとまなさ	
なく(泣) ↓うちなく		なくなり給ては	なし(無) ↓あとかたなし・あひなし・あへなし・ありなし・いふかひなし・おほえなし・	
なきなど	四九才 9	なくなりなんこそ	およびなし・かぎりなし・かくれなし・かひ	
なかれ侍るに	六五才 15	なくなりける	なし・きたなげなし・くまなし・こころづ	
なく(ぞ)の結び	六六ウ 2 *	なくなりて	きなし・こころなし・こちなし・さつなし・	
なきて	七一才 12	なくなりぬとも	さりげなし・せむかたなし・そこはかとな	
なくに	七五才 4・七七才 20	なくなり侍りにけり	し・たくひなし・たとへむかたなし・たど	
なく(連体法)	七八才 5	なげかしげなり(歎) ↓ものなげかしげなり	りなし・つきなし・ところなし・なごりな	
なき給ふ	八六ウ 5	なげき(嘆) ↓おほむなげき	し・なにこころなし・ならびなし・ねむな	
なぐさみ(慰)		なげきの	し・ひまなし・びんなし・ほいなし・ほどな	
なぐさみには	二二才 3・六八ウ 9	なげき	さ・ほどなし・またなし・やくなし・やるか	
なぐさむ(慰)《四段》		なげく(嘆) ↓うちなげく・おほしなげく・お	たなし・ゆくへなし・ゆふかひなし・ゆゑ	
なぐさむばかりの	二二ウ 6・二三ウ 5	もひなげく	なし・よしなし	
なぐさむ(連体法)	二二ウ 9	なげきたりしを	なき(連体法) 四才 3・七ウ 13・一〇ウ 13・	
なぐさみなまし	三〇才 5	なげき給なるを		

一三ウ7・一四才12・一五才4・一五才9
 ・二四才11・二五才14・二六才5・三一ウ
 8・三二ウ11・四五才10・四七才11・五〇
 ウ18・五三ウ3・五九ウ4・六一ウ20・六
 六才13・七二ウ2・七四ウ18・七八才7・
 七九才16・八八才14
 なくやは 五才7
 なければ 六才3・二七才6・三三ウ13・三
 六ウ13・三七才8・四〇ウ7・六二才17・
 七八才11
 なかめる 六才12
 なく(中止法) 七ウ3・八ウ1・一〇ウ4・
 一一才9・一二ウ9・二二ウ3・三五才4・
 三八才2・四七才10・四七ウ16・七九才7
 なからぬ 一三才2
 なからんと 一三ウ5・一四ウ3
 なきを 一四ウ4・一五才12・六八才11
 なく(連用法) 一七才7*・二二ウ14・二二
 才3・二六才10・二六ウ3・二六ウ11・三
 一才13・四三ウ8・四五ウ7・五一才3・
 五一才7・五一ウ7・五六才14・八〇ウ14
 ・八四ウ17・八八才6
 なくて一七才7*《「甲斐無」との掛詞》・三
 五ウ2・三六ウ8・三七ウ3・四〇ウ14・
 四九才6・五二才1・五五才9・五五才10
 ・五八才15・六一才10・六一ウ13・六四ウ

6・六七才9・七〇才1・七一ウ13・八二
 ウ17・八四ウ7・八五才2
 なしと 一七才14*《「甲斐無」との掛詞》
 なしとてぞ 一九才8*《「つきなし」との
 掛詞》
 なきに 二〇才4・五五才15・五九才12
 なし(終止法) 二二才9・二四才9・二七才
 13・二九ウ10・三一才2・三六ウ3・三七
 才7・四一ウ9・四二才7・四二才13・四
 三ウ9・四四ウ17・四八ウ10・四八ウ15・
 五〇ウ11・五二才17・五六ウ19・五九ウ13
 ・六一才11・六六ウ15・六六ウ17・七九才
 5・八三才8・八五才6
 なきかに 二七才7
 なけれども 二九才15・三二ウ13・五四ウ9
 なかりつる 二九ウ13
 なかりけるにやと 三一才9
 なけれど 三一才10
 なからん 三二ウ13・七四才10
 なきにやと 三七ウ5
 なくこそ 四六ウ7
 なくぞ 四八ウ1
 なくてなん 六三才9
 なかりければ 六三才10
 なきかを 六六ウ14
 なからず 六七才5

なく侍りし 六九才15
 なしとて 七三才4
 なしび(無) ↓ことなしび
 なす(為) ↓いひなす・ききなす・きこえなす・
 とりなす・みなす
 なしぞかしと 六ウ7
 なさせ給へなど 八ウ5
 なさまほしきに 一四才15
 なし給て 二二ウ7
 なしたてまつりけるに 七四才1
 なしたてまつらずと 八三ウ4
 なつ(夏) 一才1
 夏も 二二才2
 夏の 一六才9
 なつかし(懐) 七四才18
 なつかしう(連用法) 八一才1
 なつかしく(連用法)
 なつかし 二五ウ15
 なつやま(夏山)
 なつ山の 六一ウ10*
 なでしこ(撫子)
 なでしこの 二八才8・二八ウ8・七四才9・八〇
 など(何)
 など 一〇ウ12
 などが(何)

なご	一三ウ5・一四ウ3・七四才13	なにくれのだいなごん(何呉大納言)	なにもと
なごやう(等様)		なにくれの大納言など	なにもとがや
御めのとなどやうの	二二才11	なにごころなし(何心無)	なにゆゑ(何故)
たゝみなどやうの	三四ウ8	なに心なく(連用法)	なにゆへ
なに(何)		なに心なくて	なぬか(七日)
「な」にの	二ウ1	なにごと(何事)	七日の
なにの	七ウ2・二〇才16	なにごとの	七日ばかり
なにか	一五才1・五六才1	なに事にも	七日に
なにかと	二二ウ10・五七ウ13	なに事も	七日をだに
なにゝか	二五ウ6・二五ウ10	なにごとも	七日
なにも	三才3	なに事か	なのめなり(斜)
なにと	五二ウ14・七二ウ2・七八才7	なに事をかは	なのめに(連用法)
なにゝ	七五ウ5	なに事にかと	なる(名乗)
なにを	七九ウ18	なに事ぞ	なりの申に
なにがし(某) ↓ふるきみやばらのなにがしの		なに事にか	なるにや
おとど・みなもとのなにがし		なに事と	なびく(靡) ↓うちなびく
なにがしが	三四才1・八二ウ1	なに事ならんと	なびかぬ
なにがしを	三四才11・五七ウ14	なに事ぞとて	なびくまじく
なにがしと	五八ウ10・七一ウ4	なに事の	なべて(並)
なにがし	七九ウ12	何事の	なべてには 一三ウ4・六六才15・八五ウ9
なにがしも	八〇才9	なにのちうじやう(何中将)	なべての
なにがしのあざり(某阿闍梨)		なにの中將とかや	なべてにも
なにがしのあざり	四一才9	なにのちうなごんのおほむこのちうじやう(何	なべてに
なにくれ(何呉)		中納言御子中將)	なべてならず(不並)
なにくれと二二ウ2・一九ウ14・四八才15・		なにの中納言の御この中將	なべてならぬ 六ウ10・三六才5・六七ウ19
六八才6			なほ(猶)

なを三ウ10・六才4・一八ウ15・二〇ウ2・ 二四才7・三五才14・四六才10・四六ウ5 ・五三ウ9・五七才12*・五八才1*・六 〇ウ20・七六才2	なみだも	五〇才13・七六才9	ならはして	八ウ1
なほし(直衣) ↓おほむなほし	なみだぐむ(涙)		ならひ(習) ↓てならひ	
なほす(直) ↓ひきなほす	なみだぐまれたまふ	二九ウ16	ならひをば	一四ウ14
なほる(直)	なみだぐまるゝを	六四ウ4	ならひあかす(習明)	
なをらずとて	なむ(列) ↓ぬなむ		ならひあかし侍る	八一ウ8
なまさぶらひ(生侍)	なもあみだぶつ(南無阿弥陀仏)	二二ウ2	ならびなし(並無)	
なみ(波) ↓おきつしらなみ	なもびやうどうだい系(南無平等大慧)	一八ウ1	ならびなくて	二二ウ6
なみの	なやしき(連体法)	一九才6	ならふ(慣) ↓みならふ	
なみだ(涙) ↓おほむなみだ	なやましげなり(惱)	六六ウ3	ならはせ給へる	三ウ1
なみだを	なやまし(惱)	四五才6	ならひ給はぬに	三八才1
なみだより	なやますと	四六ウ3	なりそむ(成初)	
なみだに	なやますべき	四五才6	なりそめにける	八六ウ14
なみだは	なやみ(惱) ↓おほむなやみ	四六ウ3	なりまさる(成勝)	
六六ウ9	なやむ(惱)	三九才6	なりまさり給へば	三九才11
なみだの	なやまず	四七ウ2	なりまさらせ給ふこそ	六五才10
三九ウ17・四二才14	なやみ給て	五九ウ17	なりゆく(成行)	六才8
なみだ二二才8・五〇ウ10・六〇才1・六	なやむ(連体法)	六〇才14	なる(成) ↓つかまつりなる・なくなる	
一ウ14・六四才7・六五ウ4	なやみ給に	三三ウ12	なりぬれば	三ウ7・三九ウ3・四三ウ4・ 五〇才13・七三才11
なみだとに	ならす(鳴) ↓うちならす・かきならす		なり侍を	四ウ7
なみだぞ	ならはしおく(馴置)		なり給たるを	四ウ10・一三ウ12
なみだのみ	ならはしをき給へる		なり侍を	七才2
なみだのみぞ	ならはす(慣)		なる(連体法) 七ウ1・五〇ウ12・七〇ウ11	九才5
			なり侍らず	一〇才10
			なりたまひにしかば	

なり給はん	一〇ウ 7	なり給へり	四一オ 6	なりにき	七一ウ 4
なり給へる	一二オ 13・二〇オ 9	なりなば	四三ウ 5	なり侍りしに	七一ウ 13
なりにしを	一三オ 14・八五ウ 16	ならせ給へば	四四オ 8	ならせ給て	七三オ 9・七四ウ 7
なるらん	一四オ 8	なりては	四七ウ 2	ならまほしき	七四オ 14
なりつゝ	一五オ 10・三八オ 15	ならせ給ぬれば	四八オ 4	なり給しより	七五ウ 2
なりぬべければ	一六オ 6	なりぬべきにやと	五〇ウ 10	なりぬるぞと	七五ウ 11
なるに	一六オ 7	なりきこゑて	五〇ウ 16	なりけん	七五ウ 13
なりにけり	一七オ 1	なりて侍らん	五一ウ 3	なりにければ	七七ウ 2
なりぬらんと	一八オ 6・六二ウ 8	なり給ためれば	五一ウ 16	なり候に	七七ウ 19
なりて一八オ 10・二八オ 11・四四ウ 13・五八オ 16・七五ウ 9		なりにたる	五三ウ 5	なり給べき	七九ウ 2
なり給へれば	二〇オ 2・二四オ 11	なりにけるを	五四オ 8	なりし	八〇オ 2
なり給て	二〇オ 7・四七ウ 4	ならんと	五四オ 8	なり侍りぬ	八〇ウ 2
なり給にけるなど	二〇オ 14	ならず	五四オ 9	なりぬらんも	八四ウ 8
なり給たる	二一ウ 13	ならせ給はん	五六オ 9	なりぬべき	八六オ 11
なりにたれ	二五オ 15	なるべき	六一ウ 6	なり給なんと	八八オ 12
なりぬる	二七ウ 7	なりけり	六四オ 15	なる(鳴) ↓うちなる	
なりてなど	二八オ 10	なり給はんなど	六五ウ 2	なるにも	一五オ 5
なりぬるに	二八ウ 14・三八ウ 15	なりしを	六七オ 11	なれたる	六七オ 7
なりたる	三〇オ 12	なり侍りけるに	六九オ 11	なんでふ(何条)	
なりなんと	三二ウ 7	なり給けん	七〇オ 4	なんでう	三六オ 4
なり給たれば	三三オ 10	なり給と	七〇オ 8		
なりぬ	三八オ 11・三九オ 7	なり給し	七〇ウ 11		
なり侍たり	三八ウ 2	なり給ひけるにや	七〇ウ 7		
なり侍ぬとて	三八ウ 6	なりぬべしなど	七一オ 3		
なり給ぬ	四〇ウ 12	なり給ふ	七一オ 14		

に

にぎははし(賑)		にしのみきやう(西京)	四五ウ 4
にぎわゝしきに	三七ウ 13	にしのみきやうなる	四四オ 3
にく(逃)		にしのみきやうへ	四四ウ 7
にげたりとて	五三ウ 1	にしのみきやうには	四九オ 10
にくし(憎) ↓うちいでにくし・ききにくし・		にしのみきやうなりけり	五九オ 7・六四オ 5
くちいれにくし・にくろにくし		西京の	六三オ 15
にくからず	五ウ 4	西の京の	七六ウ 14
にくからずと	五二ウ 5	西の京にて	七九オ 4
にくわつ(二月)		にしのたい(西对)	八五オ 13
二月には	六八オ 14	西のたいに	六八オ 7
にくわつついたち(二月一日)		西のたいを	八八ウ 11
二月一日	三九オ 6	にじふしご(二十四五)	
にくる(濁)		廿四五もや	五二オ 13
にくる(連体法)	六四ウ 19*	にじふねん(二十年)	
にさむにち(二三日)		廿年にや	六九ウ 13
二三日	一五ウ 4・六九オ 1・八〇オ 19	にじふはち(二十八)	
二三日を	三〇ウ 1	廿八にぞ	七七オ 17
にさむにん(二三人)		廿八にて	八一ウ 16
二三人して	五九ウ 18	にじふよ(二十余)	
二三人	六七ウ 17	廿よばかりなる	五五ウ 15
にさむびき(二三四匹)		にしやま(西山)	
二三四びき	三三ウ 7	にしやまより	六一オ 1
にし(西)		にでうたかくら(二条高倉)	
にしに	五オ 1	二条たかくらになん	七二ウ 14
		にでうほりかは(二条堀川)	
		二でうほりかはの	六〇オ 3
		ににち(二日) ↓いちににち	
		にのひと(二人)	
		二の人のにて	二三オ 12
		には(庭)	
		にはに	二七ウ 13
		にはかなり(俄)	
		にはかに(連用法) 一二オ 9・三八ウ 15・四	
		一ウ 1・六八オ 1	
		にはかなる(連体法)	七七オ 2
		にふだう(入道) ↓くらうどのにふだう	
		にふだうのみや(入道宮)	
		入道の宮の	七〇ウ 18
		にようご(女御) ↓とうべうのにようこれいけ	
		いでん・みぎのおとどのれいけいでんに	
		ようご	
		女御に	二三ウ 5
		女御	三七ウ 15
		にようばう(女房)	
		女房なども	一三オ 1
		女房の 三四ウ 10・四六ウ 11・五五オ 9・八	
		七ウ 12	
		ねうばうの	五七ウ 14
		女房 六二ウ 16・六六オ 18・七八ウ 18・八二	
		ウ 14	

女房は 七一才 11
 によゝん(女院) ↓ときはのによゝん
 にる(似) 二五才 12
 にたるは 七二才 7
 にたてまつり給へりと 七八才 1
 にたてまつ「り」たる 七九才 5
 にたる 四三才 10
 にわじのぜんじ(仁和寺禪師) 四四才 15・四五才 17
 にはじのぜんじ 四八才 15
 にわじのぜんじに 一三才 6
 にぬちうじやう(二位中将) 一〇才 5
 二ゝの中將は 三才 4・三才 10・二才 12
 二ゝの中將も 一〇才 9
 二ゝの中じやうは 一三才 14
 二ゝの中將は 七二才 10
 二和寺に 八〇才 5
 二和寺の

ぬ

ぬ(寝) 二四才 6
 ねられ給はず 二六才 13
 ね侍らん 二六才 15
 ねぬる 二八才 3・四〇才 4
 ね給へる 四〇才 6
 ねられ給 四七才 1・六〇才 12
 ぬぎて 五八才 15
 ぬし(主) 三六才 9
 ぬすみいづ(盗入) 七一才 5
 ぬすみいでなんと 五二才 10・五八才 6
 ぬすみいで給しを 五才 4
 ぬふ(縫) ぬるゝがほなるや
 ぬいて ぬるゝがほなり(濡顔)

ね

ね(根) ↓したね
 ね(寝) ↓たびね
 ね(音)

ね 二才 7
 ねは 六才 5
 ねかな 六才 8
 ねを 一〇才 13
 ねをも 一三才 10・一三才 13
 ねのみ 一四才 5
 ねの 二七才 2
 ねに 三三才 14*
 ねをや 三三才 14*
 ねぞ 六六才 7*
 ねとも 六六才 19*
 ねをのみ 七一才 11
 ねいる(寝入) 二二才 6
 ね入にけり 二二才 2
 ね入給へるを 四二才 2
 ねがひ(願) 七九才 10
 ねがい 八八才 13
 ねがいに 八八才 13
 ねがふ(願) ↓こひねがふ
 ねぎこと(祈事) 二四才 7
 ねぎこと
 ねたし(妬) 四五才 6
 ねたく(連用法) 七五才 16
 ねたき(連体法)
 ねのとき(子時) 四一才 1
 ねの時ばかりに

の

ねぶたし(眠)

ねぶたくこそ

ねむごろなり(懇)

ねんごろに

ねや(闇)

ねやの

ねむじすぐす(念過)

ねんじすぐして

ねむじすぐすに

ねむじゆし給ける

ねむず(念)

ねんじきこゆるに

ねんじ侍りし

ねむなし(念無)

ねんなからめと

のきば(軒端)

ゝ(の)き葉に

のく(退) ↓ たちのく

のごふ(拭) ↓ おしのごふ

のこり(残)

のこり

のこりの

のこる(残) ↓ ちりのこる

のこり(中止法)

のこる(連体法) 三三才8・五四ウ4・七六才15

のこるべき

のこりて

のす(乗)

のせたてまつる

のせたてまつりて

のしつれども

のぞく(覗) ↓ さしのぞく

のぞき給へば

のぞみ(望)

のぞみも

のぞむ(望)

のぞみ「給」なば

のたまはず(宣)

の給はするも

のたまひかく(宣掛)

の給かけつれば

のたまふ(宣)

の給へば 五才8・五ウ3・一七ウ4・一七ウ10・三七ウ5・四七才4・五三ウ10・五

四才1・五四才17・五四ウ3・五四ウ7・

五四ウ12・五七ウ13・五八ウ16・六〇ウ1

・六三ウ6・六六才9・六八ウ19・七四才

13・七七ウ14・八三ウ10・八七ウ3・八七

ウ5・八八ウ8

の給はず

の給しに

の給に 一六才3・一七ウ13・四三才1・七

三ウ4・七四ウ18・七六才20・七九才20・

八二ウ11・八三ウ14・八四ウ4・八八才18

の給も

の給ふも

の給ふに 二七ウ4・六六才1・六六才6・

六七ウ3

の給て 二七ウ11・六六才10・八八ウ11

のたまへば

のたまはざらんには

の給はず

の給へど

の給しも

の給しと

の給ふを

五四ウ18

五四ウ15

五四ウ14

五四ウ15

五四ウ14

五四ウ15

五四ウ14

五四ウ15

五四ウ14

五四ウ15

五四ウ14

五四ウ15

五四ウ14

五四ウ15

五四ウ14

五四ウ15

五四ウ14

五四ウ15

五四ウ14

五四ウ15

五四ウ14

五四ウ15

五四ウ14

五四ウ15

五四ウ14

の給はして 六五ウ 3
 の給はずに 七〇オ 7
 の給(連体法) 七三ウ 20・七四オ 15・八三ウ 18
 の給(終止法) 八二オ 7
 の給しかば 八三オ 17
 の給へども 八三ウ 4
 の給を 八五ウ 5
 のち(後)
 のち 一〇オ 2・二七ウ 3・五四ウ 6・五五オ 8
 のちは 一五ウ 11・二二オ 7・二九オ 11・四五オ 4・四八ウ 6・五一ウ 17
 〃(の)ち 一九オ 13・一九オ 16・六一オ 2・六一オ 9
 のちの 二二ウ 7・四〇オ 12・四八オ 14
 〃(の)ちは 四一ウ 7
 後 六九オ 15・六九ウ 2・六九ウ 6・七二オ 1
 ・七五オ 11・七七ウ 19
 後には 七〇ウ 12
 後は 七五オ 13・七五ウ 5・七六オ 15・七六ウ 3
 のちのよ(後世) 四九ウ 1
 のちのよを 六〇ウ 18
 のちのよこそ 七八ウ 8
 のちの世も

のどかなり(長閑) 二〇ウ 10
 のどかに(連用法) 八六ウ 5
 のどむ(和) のどむべきとて 八六ウ 5
 のぼる(上) ↓かへりのぼる・まかりのぼる 七二ウ 7
 のぼり侍りしかど 七二ウ 7
 のぼりたる 七二ウ 9
 のぼりて 八一オ 4・八一オ 8
 のり(法) 八四ウ 3
 のりの のりただ ↓ひやうゑのたいふのりただ 八四ウ 3
 のりたゞが 二五オ 9・二六オ 5・三五ウ 7・三七ウ 6
 のりたゞなどに 二九ウ 11・三三ウ 1
 のりたゞも 三〇ウ 7・四四ウ 14
 のりたゞに 三五ウ 1
 のる(乗) 四四ウ 6
 のりぬ

は

はかせども(博士共) 一一オ 9
 はかせどもゝ 一一オ 9
 はかな(果無) 五一オ 16
 はかなの 五一オ 16
 はかなげなり(果無) 七八ウ 18
 はかなげに 七八ウ 18
 はかなし(果無) ↓あとはかなし 一一オ 1
 はかなう(連用法) 一一オ 1
 はかなぎ(連体法) 一一ウ 3・一三ウ 2・一四ウ 9*・一四ウ 12*・二二オ 6・二九オ 5・四九ウ 10・六一オ 12・七三ウ 2・七四オ 12
 はかなく(連用法) 一三オ 15・三九オ 7・三九オ 12・四八オ 10・四九ウ 17・七五ウ 13
 はかなくぞ 六二ウ 6
 はかなくて 六四ウ 9・八五オ 8
 はかなかりける 六四ウ 12・七八オ 11
 はかばかし(抄) 六四ウ 12・七八オ 11
 はか しく(連用法) 二〇オ 8・二七ウ 5
 ・六一ウ 12
 はか しが(連体法) 二二オ 10・四七オ 4
 はか しからず 八六ウ 14
 はからひ(計) ↓おほむはからひ 八六ウ 14
 はからふ(計) 八ウ 12
 はからふべきなど 八ウ 12
 はかり(量)

はかりにてか	八二ウ 11	はじめ(始)	かればつ・きえはつ・すぐしはつ・ながら
はかりにて	八二ウ 16	はじめに	へはつ・ひえはつ・みはつ
はかる(量) ↓おしはかる		はじめと	はて給ぬと
はく(履)		はじめて(初)	はてにけれ
はきたる	六二ウ 17	はしらかす(走)	はてさせ給はじと
はくくむ(育) ↓おぼしはくくむ		はしらかし(終止法)	はてぬれば
はくくむ(育) ↓おぼしはくくむ		はたち(二十)	はてなん
はざま(狭間)	七九才 15	廿ばかりなるが	はつる(連体法)
はざまより	七八ウ 16	廿に	はてず
はざみ(挟) ↓みみはざみす		廿ばかりなる	はつうぐひす(初驚)
はし(端)		はたとせ(二十歳)	はつうぐひすの
はしの	三四ウ 6	廿とせばかりは	はづかし(恥)
はしなる	四五ウ 4	はたらく(働)	はづかしく
はしたなし		はたらかぬに	はつせ(初瀬)
はしたなかりければ	三三才 8	はぢ(恥)	はつせに
はしつかた(端方)		はじにてと	はて(果)
はしつかた	一八才 4	はちぐわつじぶごや(八月十五夜)	はても
はしつかたの	五二ウ 7	八月十五夜の	はて「のひ」も
はしのおまし(端御座)		はちぐわつじぶごもり(八月晦日)	はてはて(果果)
はしのをましに	一九ウ 6	八月つごもりに	はて
はじまる(始)		はちじふ(八十)	はな(花)
はじまり(中止法)	二〇才 5	八十に	はな
はじむ(始) ↓みはじむ		はちまき(鉢巻)	はな(鼻)
はじめて	一九ウ 14・二二才 3・六八ウ 1	八まきの	はなちぐるし(放苦)
はじめ(終止法)	六四ウ 12	はつ(果) ↓あかしはつ・あけはつ・あれはつ・	はなちぐるしく(連用法)

はなつ(放) ↓ついはなつ・とりはなつ
はなちきこえず 四二才1
はなち侍らん 六二ウ18
はなちこそやと 六三ウ1
はなたれて 七五才8
はなばなと(花花)
はな と 六四才13
はなる(離) ↓おもひはなる・かけはなる
はなれず 一四才2・一九ウ10・三二ウ4
はなるゝ(連体法) 二六才4
はなれんと 六三才7
「はなれ」たてまつらず 八一才20
は(母) ↓おほむはは・おほむははかた・き
みのおほむはは・ちちはは
はゝにて 四四ウ12
はゝ 五四才6
はゝなる 六三才8
はゝの 六三ウ14・六五ウ17・七三才8・七
七ウ1・八〇才16・八〇ウ6・八三ウ1・
八四才14・八五才10
はゝに 八〇才5
ははうへ(母上)
はゝうへにも 七ウ6
はゝ上 五九才3
ははかた(母方)
はゝかたとても 七ウ12
はばかる(憚)
はゞかる(連体法) 一三才9・六一才10
はゞかるべきにぞと 七五ウ5
ははきさき(母后)
はゝきさき 二〇ウ16
ははぎみ(母君)
はゝぎみの 七才1
ははみや(母宮)
はゝみや 一〇才3
はゝみや 一〇才9
ははみやすどころ(母御息所)
はゝ宮す所 一二才9
はゝみやす所の 一五才14
はひ(灰)
はいに 一八才7
はひかかりむつる(這掛睦)
はいかゝりむつれなど 六八ウ7
はひわたる(這渡)
はひわたる(連体法) 一二ウ13
はぶれありく(放歩)
はぶれありかんも 八八ウ10
はべり(侍)《本動詞》
侍りけるかなとて 一ウ10
侍かなとて 二才4
侍を 四ウ3
侍と(「や」の結び)
侍まじと 五才7
侍り(終止法) 六ウ4・三六才10・五一ウ1
・六八ウ20・八八才14
侍りしを 八才11・六七才9
侍らん 八才12・二九才8・三六才4・四五
ウ15・五四才15
侍(連体法) 八才12・二九才11・四四才3
侍に 八ウ1・一五ウ11・七〇ウ12・七二才15
侍らずなど 九才7
侍つるに 一五ウ4・四八才9
侍(終止法) 一五ウ7・二〇才10・二〇ウ14
・四五ウ16・四八才8
侍べきにも 一五ウ15
侍とて 一六才3・三六才11
侍けるかな 一七ウ5
侍て 二〇才11・八三才14
侍らねば 二〇才13
侍らば 二〇ウ9・四四才7
侍など 二四ウ3
侍けるにかとて 二八才4
侍らんを 三〇ウ13
侍らめと 三〇ウ14
侍ら「む」 三三ウ2
侍と 三五才2
侍めれ 三六才8
侍らずとて 三六才9
侍まじと 三六ウ16

侍と、「なむ」の結び)	三七才12	侍る(「なむ」の結び)	六六才4・八八ウ9	侍りしに	八二ウ3
侍れども	三七才15・七三ウ13	侍るらんと	六六才6	侍り(「なむ」の結び)	八三ウ6
侍らず 三七才16・四四才2・四七才5・四八才5・五三才13		侍りけるととて	六七ウ8	侍りと	八三ウ10
侍は	三七ウ6	侍りける	六七ウ10・七七ウ1・八七才9	侍しを	八四才13
侍(中止法)	四一才11	侍れば	六七ウ12	侍る(終止法)	八五ウ7
侍ぬべき	四三才3	侍る(連体法)	六八ウ21・七三ウ8・七四才8・八〇才5・八〇才5・八三ウ1	侍らぬを	八五ウ8
侍らぬに	四三才5	侍しかば	六九ウ9	侍らで	八五ウ10
侍のみこそ	四四才4	侍「り」し	六九ウ10・八〇才2	侍と、「やは」の結び)	八六ウ12
侍ず	四八才3	侍し	六九ウ2・七三才5	侍るべしなど	八八才16
侍しかども	四八ウ17	侍るかな	七〇才5	はべり(侍)《補助動詞》	四ウ1
侍るらん	五三ウ12	侍るぞかし	七〇才11	いり侍ぬ	四ウ5
侍りて	五三ウ13	侍りけん	七二才1・八七才10	あかし侍ぬべきを	四ウ7
侍なんと	五三ウ15	侍なり	七二才12	なり侍を	五ウ3
侍れ(「こそ」の結び)	五四才16	侍りなど	七三ウ20	おほえ侍など	八才13
侍らんと	五四ウ1	侍りながら	七四才19・八二才3	思ひ侍まゝに	八ウ2
侍らんなど	六〇ウ16	侍るべきなど	七四ウ11	しれ心つき侍にやと	八ウ3
侍ける	六三ウ6	侍らずながら	七六才16	そうし侍し	八ウ4
侍べき	六三ウ14	侍らましかば	七六ウ18	はるけがたく侍ける	八ウ13
侍やとて	六五才7	侍りけ「る」ものをとて	七七才1	わづらはしく侍(終止法)	九才5
侍るを 六五才17・六五ウ12・六七ウ9・六九ウ11・七二才11・七三ウ3・七六才18		侍(「こそ」の結び)	七七才16	なり侍らず	一五ウ5
侍りければ	六五ウ15	侍りしかども	七七ウ8	思ひ侍つるに	一五ウ6
侍るが	六五ウ18	侍るに	八〇ウ16	つけ侍つる	一五ウ12
侍ると	六五ウ18・八二才16	侍しが	八一才4	すぎ侍つる	一七ウ7
侍らねど	六六才3	侍ると、「か」の結び)	八一才13	まいり侍(連体法)	一七ウ8
		侍ど	八二ウ2	ふかし侍らし	一七ウ10
				よく侍れと	

まいら侍ざりつる	二〇才12	まち侍つれと	五四才1	きこえさせ侍らん	六六才8
つかうまつり侍へき	二〇才10	心やすく侍(連体法)	五四才2	まがふべくも侍べらず	六七才1
さまし侍らんとて	二五才15	きこえて侍(連体法)	五四才3	まいら侍ると(「なむ」の結び)	六七才3
ね侍らん	二六才13	すみ侍が	五四才5	たづねまほしく侍りつれど	六七才12
申侍れば	二九才10	きく侍れば	五四才6	おもひよらず侍りけるに	六七才14
しげく侍れば	三五才1	をしう侍しかと	五四才12	思ひしられ侍れと(「こそ」の結び)	六七才15
すくみまいらすべく侍に	三七才14	あんないし侍らんと	五四才6	しらでも侍るべきを	六七才9
まいらせ侍へき	三七才1	申つたへ侍らんと	五五才1	まいらせをき侍覽と	六七才12
なり侍たり	三八才2	申侍らんと	五六才8	こもりて侍つると	六九才1
おぼえ侍(終止法)	三八才4	申侍るかなとて	五六才15	たて侍りしを	六九才7
なり侍ぬとて	三八才6	しりて侍が	五七才15	まいら侍りしに	六九才4
かきこもり侍まじきに	四三才7	つかはして侍と(終止法)	五七才16	とまりて侍るに	六九才9
うせ侍ぬなど	四四才16	しり侍らず	五八才3	なり侍りけるに	六九才11
あそび侍つるに	四六才1	せさせ侍らんや	五八才4	し侍るに	六九才12
もとめたてまつり侍れども	四六才2	いで侍なりと	五九才4	まいら侍りて	六九才13
きこえさせまほしく侍に	四六才5	はなち侍らん	六二才18	なく侍りし	六九才15
し侍れ(「こそ」の結び)	四七才7	うせ侍りて	六三才9	まかり侍て	六九才18
つかはし侍をと	四七才8	みをき侍らんとて	六三才11	こがし侍ぬるも	六九才18
みをき侍れば	四八才8	いでしありき侍なりと	六三才12	ふかく侍りければ	六九才1
いで侍にきと	四九才1	心地し侍れ(「こそ」の結び)	六五才11	まどはされて侍なんど	六九才3
わすれ侍なりなど	五〇才7	思ひ侍りつるものを	六五才14	なくなり侍りにけり	六九才8
ふけ侍ぬ	五一才5	なかれ侍るに	六五才16	あとたえて侍りつるに	六九才14
なりて侍らん	五一才3	たて侍るに	六五才1	うれしく侍り	六九才17
申侍つれば	五三才15	おきて侍ると	六五才16	すぎ侍るに	七〇才1
いり侍ぬと	五三才16	きく侍るに	六五才17	みしりきこゆべくも侍らず	七〇才8
へ侍物を	五三才8	申侍りし	六六才7	かへりて侍りしを	七一才6

のぼり侍りしかど	七一ウ 8	とごこもり侍らん	七七ウ 14	もちて侍りと	八二ウ 15
ちあへ侍りしが	七一ウ 11	しり侍らんと	七七ウ 16	ねんじ侍りし	八二ウ 18
なり侍りしに	七一ウ 13	ほいなく侍ると	七九オ 20	うち侍に	八三オ 1
すぐし侍る「と」	七一ウ 18	たづさはりて侍りしかば	七九ウ 14	しうし侍るに	八三オ 4
きく侍りし	七一ウ 19	あかし侍りき	七九ウ 18	たづね侍りつるなり	八三ウ 9
見侍りつるに	七二オ 13	ごきたり侍れば	八〇オ 1	申侍らんとて	八三ウ 11
見侍る(「ぞ」の結び)	七二オ 18	まかり侍るに	八〇オ 6	たのまれ侍りて	八四オ 8
帰侍らまし	七二ウ 12	しに侍りて	八〇オ 9	おもひしられ侍り(終止法)	八四オ 11
まいり侍らん	七二ウ 13	いきて侍りしかども	八〇オ 10	おぼれ「侍る」(終止法)	八四ウ 17
見侍て	七二ウ 20	きりふせられて侍りしに	八〇オ 13	おもひわかれ侍「らぬ」	八四ウ 18
し侍るべきを	七三ウ 18	なり侍りぬ	八〇ウ 2	侍るに	八五オ 3
わかれ侍(終止法)	七四オ 2	わたり侍りても	八〇ウ 5	すぐし侍りつる	八五ウ 10
くし侍て	七四オ 5	あい侍らんの	八〇ウ 7	うれしう侍りなんどぞ	八五ウ 12
おもひたち侍りけると	七四オ 5	めぐりまうできて侍「る」なり	八〇ウ 9	申侍るなるにこそ	八六ウ 9
おくり侍りつるに	七四ウ 3	申侍る	八〇ウ 10	やみ侍るも	八六ウ 10
恋しう侍りて	七四ウ 5	し侍らんと	八一オ 9	さう しく侍れ(「こそ」の結び)	八六ウ 10
みたてまつらまほしく侍れども	七四ウ 7	思ひ侍る(終止法)	八一オ 10	たち侍るなり	八六ウ 17
みおき侍りぬる	七六オ 19	いそがれ侍るなど	八一オ 11	し まうじう侍る(終止法)	八七オ 1
すみ侍りて	七六ウ 3	見たてまつり侍る(「なむ」の結び)	八一オ 18	おぼえ侍ると(終止法)	八七オ 12
わすれ侍りけれども	七六ウ 5	ならひあかし侍る(終止法)	八一ウ 8	覚侍る(終止法)	八七ウ 4
つかまつり侍りけるに	七六ウ 6	見侍らざりき	八一ウ 9	たづねまほしう侍るに	八七ウ 7
わすれがたく侍れとて(「こそ」の結び)	七	しりたてまつらず侍り(終止法)	八一ウ 16	きこへさせ侍る(連体法)	八八ウ 3
六ウ 8		うけ給侍(終止法)	八一ウ 17	ばむ↓さかしばむ	
しり侍らで	七七ウ 4	まいり「侍」らんも	八二オ 2	はむべり(侍)《本動詞》	
下向し侍りき	七七ウ 12	まつで侍らんなど	八二オ 7	はんべりにき	七一ウ 9
たいめんし侍りぬるなど	七七ウ 13	し侍けるやらん	八二オ 18	はんべれば	六七オ 4

はむべり(侍)《補助動詞》							
わたしはんべらんと	六七ウ3	春	一オ1・八〇オ2	ひならで		二二オ2	
あまりはんべらぬ	七〇オ9	春の	三三オ1・三五オ5	ひ		二八オ10・四四オ15	
きくはんべらで	七二ウ11	春も	三五オ3	ひも		二八ウ14・二九オ3・四〇オ8・四四オ13・六二オ15	
しはんべる)の「の結び	六五ウ21	春と	四七ウ1	ひに		三九オ10	
まかりありきはんべるに	八〇ウ15	春は	六七ウ15	「ひ」も		三九ウ3	
はや(早)		はるか(遥)		日		五七ウ6・六七ウ16・八〇オ16	
はや		はるかの		日を		七九ウ17	
はやし(早)	一三五ウ4・六〇ウ12	はるかさ(遥)	四七ウ12	日も		八二オ8・八六オ16・八七ウ8	
はやく(連用法)	六一オ3	はるかさなどに	四三オ14	ひ(火) ↓うづみび		一八オ8	
はやう(連用法)	五一ウ1	はるかに		ひの			
はやむ(速) ↓うちはやむ		はるかなる(連体法)	一四ウ15・八一ウ6	ひには		一八オ13* 《思ひ》との掛詞	
はやらかなり(早)		はるかならんずる	三三オ10・四三オ3	火の		一四ウ12・二五ウ2・五一ウ5・五九ウ4	
はやらかに(連用法)	五六オ17	はるけがたし(晴難)	三五オ4	火		二五オ4・三一ウ2・四一オ2・五九オ8	
はら(腹) ↓おとりばら・おほむはら・ひとつ		はるけがたく侍ける	八ウ4	ひえはつ(冷果)			
はら・ふるきみやばらのなにがしのおとど		はるけし(遥)		ひゑはて給たれば		六二ウ3	
はらからども(同胞)		はん(番) ↓おほばん		ひがき(檜垣)			
はらからども	七四オ2	は(日) ↓つきひ・ひとひ	二二オ1	ひがきと			
はらふ(払) ↓とりはらふ		日に		ひがくし(日隠)			
はらいたる	六六ウ5	ひの	二〇オ16	ひがくしの		五二ウ8	
はらむ(孕)		ひ(日)		ひがし(東)			
はらみ給て	七一オ13	ひに	一六オ3・三八オ14	東の		七八ウ13	
はりま(播磨)		ひ(日) ↓つきひ・ひとひ		ひがし(日数)			
はりまの	八一オ14	は(日)		ひかず(日数)			
はりまのかうのとの(播磨守殿)		ひの	二〇オ16	ひかずも		三九オ6	
はりまのかうの殿	三七オ3			ひかず		三九オ12	

ひ

ひかすの	四四ウ9・六一ウ7	ひきかづきて	四二ウ5	ひきなをしつゝ	六七オ20
ひがむ(僻)		ひきかづきたる	五〇ウ4	ひきひろく(引広)	
ひがめるをのみ	七二ウ20	ひきかへす(引返)		ひきひろげて	五七ウ16
ひがめ(僻目)		ひきかへしてんこそ	三五ウ2	ひきよく(引避)	
ひがめにやと	四二オ6	ひきこす(引越)		ひきよき給はぬに	一七ウ2
ひかり(光)		ひきこし	二三ウ3	ひきよす(引寄)	
ひかりを	五オ9*	ひきし(低)		ひきよせて	二オ6・三〇オ1
ひかりと	一〇ウ7・七三オ10	ひきくて	五九オ15	ひきよすめく	
ひかりの	一九オ7*・五九ウ5	ひきそふ(引添)		ひきよすめき(中止法)	五二ウ11
ひかり	二四ウ12・五一ウ5	ひきそへて	二五ウ9	ひきよるこび(引喜)	
ひかりにも	四八オ13	ひきちらす(引散)		ひきよるこびて	二ウ7
ひかる(光)		ひきちらし(中止法)	二五オ6	ひきぬる(率)	
ひかるやうにて	五〇オ8	ひきちらして	二五ウ10	ひきいり給ぬるに	五〇オ15
ひきあく(引開)		ひきつくるふ(引繕)		ひきいれつ	五九オ16
ひきあけて	一九オ9	ひきつくるひて	三三ウ10	ひく(引) ↓うけひく	
ひきあけ給へれば	二六ウ2	ひきつくるひいでたつ(引繕出立)		ひかん	五一ウ14
ひきあふ(引合)		ひきつくるいいでたち給ふ	五七ウ8	ひく(連体法)	五二ウ10
ひきあはで	五九ウ10	ひきつたふ(引伝)		ひきて	五二ウ12
ひきかく(引掛)		ひきつたへたまはざらめ	二ウ1	ひかれて	七七ウ13
ひきかけて	七八ウ19	ひきつつむ(引包)		ひくてあまた(引手数多)	
ひきかくす(引隠)		ひきつゝみたる	五七ウ10	ひくてあまたの	二三ウ15
ひきかくして	四六ウ1・八〇オ16	ひきとく(引解)		ひぐれ(日暮)	
ひきかづきふす(引被伏)		ひきときて	三六オ6	日ぐれに	六七ウ3
ひきかづきふし給ぬれば	一九オ10	ひきとどむ(引止)		ひげす(卑下) ↓おほしひげす	
ひきかづく(引被)		ひきとどめられぬるに	一六ウ4	ひこぼし(彦星)	
ひきかづき給へる	二八オ13	ひきなほす(引直)		ひこぼしの	一オ2

ひごろ(日頃)		ひたけて	三三ウ10	五ウ13・四七オ7・四八ウ13・五一オ8・
日ごろ	二〇オ11	ひたひ(額)		五二ウ10・五二ウ15・五三オ5・五三オ7
ひじろ	四一オ12	ひたいなど	二六オ4	・五三オ12・五三ウ16・五四ウ2・五四ウ
ひさし(久)		ひだりのおとど(左大臣)		8・五五ウ7・五六ウ5・五九オ13・五九
ひさしくこそ	二オ8	左のをとど	二三オ10	ウ4・五九ウ8・五九ウ18・六〇オ8・六
ひさしく(連用法)	九オ3・二〇オ11・四四	ひだりのおとどのひめぎみ(左大臣姫君)		〇ウ12・六一オ1・六一オ3・六八ウ16・
ウ14・四八ウ7・五三ウ5・五八オ16・六		左のおとどのひめ君の	六八オ14	六九オ4・六九ウ7・七五ウ14・七七ウ3
二ウ8・八一オ10		左のをとどのひめぎみの	六四ウ4	・七七ウ11・八三オ8・八四ウ9・八五ウ
ひさしう(連用法)	一六ウ17	ひだりのおほいどの(左大殿)		8・八七オ3《前接不明の為不確定》・八七
ひさしきに	一九オ15	左のおほい殿は	四七オ15	ウ6・八七ウ9
ひさしかるまじとのみ	二九オ9	ひちりき(筆築)		人しもぞ
ひさしからず	五五オ4	ひちりき	三オ4	人よりも
ひさし(廂)		ひつ(櫃) ↓をりびつ		人には
ひさしの	一八オ7	ひつ	五九オ16	人をも
ひじり(聖)		ひづ(凍)		人も七ウ13・一一オ5・二〇オ3・二二オ10
ひじりの	七八ウ7・八〇ウ1・八一オ15・	ひぢて	二八オ6	・二二オ11・二三オ3・二六オ15・二八オ
八二ウ7		ひつじ(羊)		2・三三オ1・三六ウ5・四二オ13・五〇
ひじり	七九オ8・八二オ13	ひつじの	四九ウ12	ウ11・五一オ6・五三オ10・五四ウ17・六
ひじりはなん	八一オ17	ひと(人) ↓あづまびと・おほむとのゐびと・		四ウ3・七〇ウ11・七三ウ3・八二オ19
ひじりを	八二オ1	ただびと・たのもしびと・なきひと・にの		人なれば
ひじり「の」	八三ウ18	ひと・ふるびと・まねびと・みちゆきひと・		人に 二二ウ14・一八ウ11・五四オ5・五八
ひじりに	八五ウ3	よのひと・よひと		ウ4・六〇ウ17・六〇ウ20・六一オ7・六
ひじりも	八五ウ5	人 四ウ4・一三ウ7・一六オ11・二二ウ5		九オ17・七〇オ17・七二オ8・七三ウ1・
ひじりども(聖共)		・二二オ9・二五オ14・三〇ウ10・三〇ウ		七三ウ19・七九オ4・八三ウ6・八三ウ14
ひじりども	七六オ4	13・三三ウ8・三六ウ12・三七ウ7・四四		・八七ウ17
ひたく(日長)		オ6・四四オ8・四五オ12・四五ウ12・四		人より
				一四オ1・五八ウ11

人は 一四才6・一五才2・一五才12・二六
 ウ2・二八ウ15・三三才6・五一ウ12・五
 四才16・五六ウ6・六二才1・六三才9・
 七五ウ11・七六ウ14・八四ウ10
 人の一六ウ8・二一才8・二四ウ9・二五才
 1・二六才3・二七ウ1・二九ウ4・三〇才
 14・三八ウ11・四〇ウ7・四一ウ10・四四
 ウ1・四四ウ12・四五ウ5・四六才4・五
 四才6・五四才11・五五ウ8・五八才11・
 五八ウ1・五九ウ3・六〇ウ9・六二才2
 ・六二ウ19・六三才6・六三ウ2・六七才
 17・七二ウ3・七二ウ5・七三才16・七六
 ウ12・八一才6・八二才10・八二才15・八
 二ウ8・八三ウ13・八四才6・八四ウ6・
 八四ウ8・八五才12・八六才16・八八ウ3
 人ならん 二六才7
 人なりけりとモ 三一ウ5
 人などは 四〇才13
 人かと 四六ウ14
 人なども 四七才4・六一才10
 人などの 四九才2
 人か 四九才3
 人を 四九ウ8・五一才11・八七才6
 人とも 五〇才2
 人だに 五〇才10・七八才2・七八才11
 人もや 五二ウ5

人や 五三才13
 人ぞと 五三才15
 人と 五五才10・八三才13・八三ウ3
 人にやと 五八才3・七九才6・八一ウ13
 人ならんと 五八才7・五九ウ16・六〇ウ7・
 六四才7
 人など 五八才13・八一ウ20
 人にて 六〇ウ9・八一ウ14
 人にかと 六一ウ6・六三ウ21
 人だにも 六一ウ13
 人にてこそは 六二才5
 人なるべしと 七〇ウ15
 人なり 七九ウ2
 人「は」 八〇ウ18
 人ばかりや 八四才18
 人ならず 八五ウ4
 人しも 八六ウ11
 人にこそなど 八八ウ7
 ひとえだ(一枝) 二五ウ16
 ひとゑだ 二五ウ16
 ひとかたならず(不一方) 五三ウ3
 一かたならず 八五ウ2
 人かたならず 八三ウ2
 ひとがら(人柄) 八三ウ2
 人がらも 八三ウ2
 ひとときは(一際) ↓いまひときは

ひとけ(人氣) 五三才13
 人けも 五一才13
 ひとこと(一言) 二七才9
 ひとことも 五四ウ17
 一こと 二九ウ14
 ひとさま(人様) 五二ウ7
 人さまを 二九ウ14
 人さまなりやと 五二ウ7
 ひとしほ(一人) ↓いまひとしほ
 ひとしれず(人不知) 二九ウ14
 人しれず(連用法) 三三ウ1*・八四ウ9
 人しれぬ(連体法) 四〇才2
 ひとたがへ(人違) 五八才12
 人たがへにやとて 四一ウ12
 ひとたび(一度) 二六ウ7
 一たびも 六ウ12
 ひとちかし(人近) 八一才3
 人ちかき(連体法) 二〇ウ17
 ひとつ(一) 八一才3
 ひとつに 二〇ウ17
 ひとつはら(一腹) 八一才3
 一つはらなれば 二〇ウ17
 ひととき(一時) 八一才20
 ひと時も 八一才20
 ひとところ(一所)

ひとゝころ	九ウ10	人めばかりも	一九才13	人わろく(連用法)	四五才3
一所こそ	七八才3	人め	三五才1	ひな(難) ↓おほむひなあそび	
ひととせ(一年)		ひとやり(人遣)		ひなぶ(鄙)	
ひとゝせ	七七ウ8	ひとやりならず	二九ウ15	ひなびて	七七才18
ひととほし(人遠)		ひとよ(一夜)		びは(琵琶)	
人とをき(連体法)	四〇ウ6	一夜に	一四才15	びは	三才3
ひとども(人共)		一よの	五八才8	ひび(日)	
ひとどもは	六〇才9	ひとよの	六六ウ18* ≪一節≫との掛詞	ひびに	二〇才1
ひとひ(一日)		ひとよ(一節)		ひびきみつ(響満)	
一日	八ウ6・六五ウ19	ひとよの	六六ウ18* ≪一夜≫との掛詞	ひびきみちて	六八才15
ひとびと(人人)		ひとり(一人)		ひびく(響)	
人	四才2・六才9・二五才7・二七ウ12	ひとり	一才6・三七才10・五〇ウ15・五四ウ19・七一才14	ひびきて	六才5
	・三三才11・四四才16・四四ウ3・五一ウ6	一人	三七才15・三九才1・七一才4	ひま(隙)	
	6・五一ウ9・五三ウ7・五三ウ15・五六才5・六八ウ15	ひとり		ひまなるらんと	三〇ウ8
人の		ひとり		ひま	三九ウ5
人	一三才3・二五ウ14・三五才9	ひとりごち		ひま	三九ウ14
人	二七才2・二八才7	ひとりごちおはす(独御)		ひまも	四一ウ10
人人の	二七ウ14	ひとりごちをはするに		ひまに	四四ウ4
人	六〇才15・八一ウ11	ひとりごち(独)		ひまかな	
ひとびとし(人人)		ひとりごちて		ひまなし(隙無)	
人	七五才13	ひとりごち給ふ	一八才14	ひまなし(連体法)	二二ウ3・一四ウ5・一七ウ6
ひとふし(一節)		ひとるたま(火取玉)	四七才14	ひまなく(中止法)	三九ウ17・四三ウ1
ひとふしを	六六ウ6*	ひとる玉を	八二ウ7	ひまなきに	四〇才4
ひとま(一間)		ひとわらはれなり(人笑)		ひまなき(「ぞ」の結び)	四五才11
一ま	五二ウ9	人わらはれなる(連体法)	一九ウ1	ひまなし(終止法)	七五才5
ひとめ(人目)		ひとわるし(人悪)		ひめぎみ(姫君) ↓とののひめぎみ・ひだりの	
		人わろかんなりと	三五才2		

おとどのひめぎみ・みちしばのひめぎみ

ひめぎみ 一三才 14

ひめぎみの二五ウ 7・二八才 3・二八ウ 5・

三四ウ 1・三九才 4・五七ウ 14・七五ウ 12

ひめぎみは二六ウ 9・三三才 14・三三ウ 4・

三八ウ 9・三九才 7・四〇才 10

ひめぎみも 二八ウ 10・四六才 1

ひめぎみを 三八才 16

ひめぎみに 五四ウ 10

ひめ君も 七〇才 11

ひめ君は 七〇才 14・七一ウ 9

ひめ君 七一才 13・七一ウ 12・七五才 19

ひめ君「に」 七二才 2

ひめ君にも 七二才 6

ひめ君さへ 七二才 13

ひめみや(姫宮) ↓せんとうのひめみや・みん

のひめみや 一ウ 9・二二ウ 5・七一才 4

ひめ宮 三才 8・八七ウ 4

ひめみやの 四才 1・七才 1・七才 10

ひめみやなども 二二ウ 15

ひめ宮は 二〇ウ 3

ひやうし(拍子) 三才 5

ひやうし 三才 5

ひやうぶ(兵部) ↓いちでうのひやうぶのた

いふ

ひやうぶ(屏風)

ひやうぶの 一六ウ 3

ひやうぶなどの 五二才 15

ひやうぶなど 五五ウ 11

ひやうぶきやう(兵部卿)

兵部卿と 五一ウ 2

ひやう系のたいふ(兵衛大夫)

ひやうへの大夫 二四ウ 13・二七ウ 13・三五

ウ 16・四八ウ 11

ひやうへの大夫が 二五才 7・四〇才 13・四

七才 5

ひやう系のたいふは 三八才 10

ひやうへの大夫も 四〇才 6

ひやう系の大夫 四一才 7

ひやうへの大夫に 四二ウ 6・四三才 2

ひやう系の大夫は 四三ウ 5

兵衛の大夫と 七一ウ 17

兵衛大夫 七四ウ 19

兵衛大夫は 七五才 5

ひやう系のたいふどの(兵衛大夫殿)

ひやうへの大夫どの、 四五ウ 14

ひやう系のたいふのりただ(兵衛大夫一)

ひやう系の大夫のりたが 二四ウ 1

ひやう系のたいふ(兵衛大夫)

ひやうへのたいふ 三一ウ 15

ひやう系のたいふは 三四ウ 4

ひやう系のたいふかも 三九才 1

ひやうへのたいふも 三九ウ 9

ひゆ(冷) 四〇ウ 13

ひへ給たるに

ひらかど(平門)

ひらかどなどは 五五才 5

ひらかどめかし(平門)

ひらかどめかしき(連体法)

ひる(昼) ↓よるひる 五九才 12

ひる(干)

ひずと 一四ウ 7

ひるつかた(昼方)

ひるつかた 四二才 2

ひるぐ(扨) ↓ひきひろぐ 五九ウ 11

ひろげたる

ひろげ ↓まひろげすがた

ひろさは(広沢) 五一才 5

ひろさはの

ひろし(広)

ひろき(連体法) 二二ウ 3

ひろく(中止法) 三七ウ 13

ひをけ(火桶)

ひをけに 一八才 7

火をけの 二五ウ 1

ひんがしやま(東山)

ふ

ひながし山よりとて	四五ウ 5	ふへの	六六オ 2・六六オ 7	ふきいづ(吹出)	
ひながし山よりと	四五ウ 11	ふへになん	六六オ 4	ふきいで給ふ	一一オ 1
びん(鬢) ↓おほむびん		ふへを	六六ウ 4	ふきたつ(吹立)	
びんぎ(便宜)		ふ糸を	六六ウ 13	ふきたて給ふ	六オ 4
びんぎ	一三ウ 16	ふえたけ(笛竹)		ふく(更) ↓うちふく	
びんなし(便無)		ふ糸たけの	六六ウ 6*・六六ウ 18*	ふけぬや	一七オ 15* ≪吹≫との掛詞
びんなかるべき	三四オ 6	ふかさ(深) ↓つみふかさ		ふけぬらんと	一七ウ 4
びんなき(連体法)	七一オ 6	ふかし(深) ↓いろふかし・こころふかし・し		ふけにける	一八オ 4・二六ウ 14
		みふかし・つみふかし・ふかみ		ふけし	一九オ 7*
		ふかきには	五オ 5*	ふけにけり	四六オ 5
		ふかく(連用法)	一二ウ 8・三八ウ 5	ふけ侍ぬ	五一オ 5
		ふかく(中止法)	一二ウ 14	ふく(吹) ↓うちふく	
		ふかき(連体法) 三三オ 3・四六ウ 13*・五		ふけぬや	一七オ 15* ≪更≫との掛詞
		九オ 1・七八オ 15		ふくらかなり(脹)	
ふ↓たらふ		ふかゝらん	四九ウ 1	ふくらかに(連用法)	五五ウ 8
ふ(経) ↓ほどふ	四一ウ 6	ふかくて	六四オ 19	ふくらかなる(連体法)	五七オ 7
へず		ふかゝらずと	六八オ 16	ふけゆく(更行)	
ぶ↓いながぶ・ひなぶ		ふかく侍りければ	六九オ 19	ふけゆく(連体法) 一七ウ 9・一八ウ 8・五	
ふつず(封)		ふかゝりけん	七一オ 13	一オ 2・五九オ 1	
ふうじたる	六三ウ 16	ふかくは	七四オ 8	ふけゆくものをと	五二ウ 14*
ふえ(笛)		ふかす(更)		ふげんぼさつ(普賢菩薩)	
ふ糸を	一ウ 3・三三ウ 5	ふかし侍らじ	一七ウ 8	普賢菩薩	八一ウ 4
ふ糸の 一ウ 11・二ウ 6・六オ 5・六オ 8・		ふかみ(深)		ふし(伏) ↓おきふし	
一〇ウ 13・一二オ 10		ふかみ	七六オ 1	ふし(節) ↓ひとふし・をりふし	六六ウ 18*
ふ糸なりけり	六四オ 9	ふかあはす(吹合)		ふしを	
ふ糸なり	六四オ 11	ふきあはする(連体法)	一ウ 3	ふしぎなり(不思議)	
ふ糸にて	六五ウ 18				

ふしぎなる(連体法)	八〇ウ15	ふたがる(塞)		ぶつだう(仏道)	七九ウ18
ふしくらす(臥暮)		ふたがりながら	四六才10	仏道とは	
ふしくらさせ給つ	三一才4	ふたたび(再)		ふで(筆)	
ふしみのさと(伏見里)		ふたゝびと	五五才15	ふでの	一三ウ4・六六才15
ふしみのさとゝも	四三ウ7	ふたつき(二月)	六七ウ19	ふでや	一九才5
ふす(臥)《四段》↓ききふす・しづみふす・そ		ふた月ばかり		ふで	三五ウ10
ひふす・ひきかづきふす・まるびふす・よ		ふたところ(二所)		ふと	
りふす		ふた所	一ウ6	ふと	一六ウ1・二六才5・二六才9・七九
ふし給へり	一六ウ14・二八才6	ふたところながら	六ウ8	ふとも	七八ウ20
ふし給へるに	一八ウ9・四〇ウ6	二所	五〇才5	ふところ(懐)	
ふしたり	三一ウ1	二所こそは	七三才9	ふところ(懐)	
ふしにける	三一ウ3	二所の	七七才4	ふところに	四二ウ5
ふし給へる	三三才1	二所ながら	七八ウ3	ふとし(太)	
ふし給ぬ	三九ウ2	ふたとせ(二年)		ふとく(連用法)	五五ウ9・五七才8
ふしたる	六六ウ3	ふたと「せ」	八八ウ16	ふね(船)	
ふしつゝ	六六ウ4	ふたり(二人)		ふねの	五〇才9
ふす(臥)《下二段》↓きりふす		ふたりながら	二ウ3	ふびん(不便)	
ふせたてまつりて	四〇ウ14	二人	二三才14	ふびんの	五八ウ4
ふせぐ(防)		ふたり	五九ウ7・六二ウ17	ふみ(踏)↓おほむやまふみ・やまふみ・やま	
ふせぎつへき	七四ウ14	ふだんねむぶつ(不断念仏)		ふみがちなり	
ふせぐへき	七八才17	ふだんねんぶつ	二二ウ9	ふみ(文)↓おほむふみ	一一才11・三三ウ1
ふせや(伏屋)↓やぶれふせや		ふぢつば(藤壺)		ふみを	
ふせやは	三七ウ17	ふぢつばの	一ウ7	ふみは	二七才10
ふせやにしも	四五才6	ふつか(二日)↓ごぐわつふつか		ふみなども	二九ウ8
ふた(蓋)		ぶつじ(仏事)		ふみなど	三〇才5・三〇才10
ふたに	二五ウ6	ぶつじ	二二ウ10	ふみの	三三ウ2・六三ウ16

ふみ 五七ウ10・五八才11
 ふみを 五八才12
 ふみみる(踏見) 八六ウ15
 ふみ「み」ぬ 八六ウ15
 ふもと(麓) 六九ウ12
 ふもとに 六九ウ12
 ふゆ(冬) 七八才16
 冬 七八才16
 ふようなり(不用) 八六ウ15
 ふよふにて 八七才3
 ふよふに(連用法) 二ウ12
 ふりいつ(振出) 六九ウ2
 ふりいでたる 六ウ9
 ふりすてがたし(振捨難) 一一才9・六九ウ5
 ふりすてがたく(中止法) 二四才8
 ふりわけ(振分) 五一ウ6
 ふりわけの 七七ウ4
 ふる(古) ↓ものふる 七九才4
 ふりたる 七九才4
 ふりにし 七九才4
 ふりにける 七九才4
 ふる(連体法) 七九才4
 ふるきみやばらのなにがしのおとど(古宮腹某大臣) 三三才9
 ふるき宮ばらのなにがしのおとど 三三才9
 ふる(古事) 三三才9

ふる事 六四才3
 ふる事など 七四ウ9
 ふるさと(古里) 五〇ウ7
 ふるさとの 五一才16
 ふるさとや 七四才3
 古里へも 七四才3
 ふるし(古) 六六ウ8
 ふるきも 六六ウ8
 ふるびと(古人) 七四ウ13
 ふる人の 七四ウ13
 ふるまひ(振舞) ↓しれふるまひす 七四ウ13
 ふるむすめども(古娘共) 五二才6
 ふるむすめどもの 五二才6
 ふるめかし(古) 三七ウ10
 ふるめかしき 三七ウ10



べちの 六〇ウ1
 へん(辺) 六〇ウ1
 へんに 三三ウ7・四四ウ15・五九才8・五九才10・七二才11・八〇才16・八二才16
 へん 四五ウ8
 へんには 四六才3
 へんにて 四六才11
 へんず(変) 六〇才15
 へんじて 六〇才15
 ほ(穂) 五七ウ11
 ほに 五七ウ11
 ほい(本意) ↓おほむほい 六五才7
 ほいに 六五才7
 ほい 七九才19・八一才16・八三ウ4
 ほいなし(本意無) 一一才4
 ほいなくぞ 一一才4
 ほいなく(連用法) 五四才7
 ほいなく(連用法) 六八才2
 ほいなく侍ると 七九才20
 ほか(外) ↓おもひのほかなり・ことのほかなり 七九才20
 ほかに 一ウ1*・二〇才3・三九才5・六五才16・八三才5

ほ

ほかなどにても 一三ウ13

ほかの 六九才17

ほかげ(火影)

ほかげに 二六才3

ほかげより 六四ウ11

ほこりほこりと 一一才2

ほこり と

ぼさつ(菩薩) ↓ふげんぼさつ

ほし(星) ↓ひこほし 一九才7*

ほしの 一九才7*

ほそし(細) ↓こころほそし・ものこころほそし

ほど(程) ↓いくほど・このほど・さるほどに

程に一才5・一〇才8・一一才10・三五ウ16

・四一才14・六二才11・六九才3・七〇才

15・八二ウ18

程なり 一ウ10

ほど二才11・三二ウ13・四一才13・六四才14

・六四ウ15・七四ウ19・七五才15・七八ウ

12・八四才10

ほどに 四ウ2・一一才8・一五ウ12・一七

ウ1・一八ウ10・一九ウ17・二〇ウ11・二

一ウ4・三〇ウ3・三四ウ6・三六ウ11・

三七ウ7・三八才13・三八才14・四一ウ4

・四二ウ1・四四才15・四四才16・四四ウ

1・四四ウ16・四五才3・四五ウ2・四五

ウ6・四五ウ17・四六才6・四六ウ15・四

六ウ15・四七ウ17・四八ウ13・四九ウ16・

五〇才11・五一才5・五五ウ13・五七才3

・五七才13*・五七ウ1・五七ウ9・五九

才6・六〇才17・六一才1・六一ウ20・六

二才8・六二才13・六二ウ10・六五才2・

六九才16・七一才16・七一ウ15・七一ウ19

・七二才4・七三才11・七三ウ20・七七ウ

10・七九才8・八〇才11・八〇才15・八一

才8・八二才8・八三ウ18・八四才5・八

四ウ7・八五才16

程ながら 四ウ10

程を 五ウ1・五ウ10・七六才17

ほどの 五ウ12・一一才5・一二才14・四五

才6・五四才4・五五才2・六一ウ1・六

二ウ16・六五ウ8・六六ウ12・六七ウ4・

七四ウ17・七五才4・七七才12・八四才5

ほどながら 五ウ12・一一ウ11・二〇才9

ほどにぞ 六ウ1・七七才5

ほどより 六ウ10・七七ウ1

ほども 七ウ4・一一ウ12・三〇才11・三二

才11・三五ウ4・四二ウ6

ほどにや 一〇才8・一〇ウ6

ほどなり 一二ウ13

ほどにて 一三才2・二四ウ3・四三才4・

七〇ウ1・七八ウ11 一三才6・五〇才9

ほどにと 一四ウ1

ほどを 一四ウ5・五七才10・六四ウ12・七

一ウ2

ほどは 一六才6・五二ウ5

ほどには 二一才13・七七才7

ほどゝて 二二ウ2

ほどなる 二四ウ11

ほどなめれ 三三才4

程の 三七ウ17

ほどにも 三八ウ14・四五才1

ほどなどに 四三ウ1

ほどぞ 四六ウ12*・七七才19

ほどなれば 五八ウ13

ほどながらも 六〇ウ8

程 七六才9・八六ウ5

「ほど」になどゝ 八四才2

ほとけ(仏) ↓かみほとけ・きやうほとけくや

うす 七六才20・七六才5・八四才2

ほとけの 四二ウ15・四六才12・六〇ウ16・

ほとけにも 四九才17

ほとけに 四九ウ5

ほとけ 六八ウ13

佛の 七八ウ11・七八ウ17

佛と 八一才18

佛に 八二ウ17

ほとけかみ(仏神) 二九才13
 ほとけかみにも 三二ウ10
 ほとけかみの 三二ウ10
 ほどちかし(程近) 五〇ウ12
 ほどちかく(連用法) 一四才15
 ほどなさ(程無) 一四才15
 ほどなし(程無) 一四才15
 ほどなき(連体法) 二四ウ8・二六ウ7・三才6・八四才2
 ほどなく(連用法) 三二ウ14・七一才13・七一ウ16
 ほどふ(程経) 一七才4
 ほどへにける 五三ウ8
 ほどへ侍物を 五三ウ8
 ほのかなり(仄) 三ウ2・一三才12・一四ウ10・三二ウ2・三三ウ3・四一才2
 ほのきこゆ(仄間) 二四ウ9
 ほのきこゆるに 二四ウ9
 ほのぼのと 六二才11・八〇才11
 ほのと 六二才11・八〇才11
 ほのめきよる(仄寄) 一八ウ11
 ほのめきよる(連体法) 一八ウ11
 ほふくゑきやつ(法華経) 八一ウ2
 法花経 八一ウ2

ほふし(法師) ↓うつまさほふし
 法師に 七〇ウ11・七五ウ9
 ほふじ(法事) 四八才15
 ほつじ 四八才15
 ほふしども(法師共) 六二ウ4
 ほつしども 六二ウ4
 ほふりん(法輪) 八〇才19
 ほつりん 八〇才19
 ほりかは(堀川) ↓にでうほりかは
 ほんい(本意) ↓おほむほんい 七九ウ4
 ほんい 七九ウ4
 ま(間) ↓たえま・ひとま
 まに 一八才7・二七才5・三五才5・五七才12*・六一才6
 まにも 一九ウ2
 まも 二九ウ16
 まうけ(設) ↓おほむこころまうけ 六三ウ19
 まうく(設) 六三ウ19
 まうけたりと 六三ウ19
 まうしいれども(申入共) 三七才16
 申入どもにも 三七才16
 まうしおく(申置) 三七才16

ま

申をき給に 四八才2
 まうしすむ(申勧) 二四才4
 申すゝめ給に 二四才4
 まうしつたふ(申伝) 五五才1
 申つたへ侍らんと 五五才1
 まうす(申)《本動詞》 ↓おもひまうす・ものまうす
 まうす 二才2・八六才15
 申つる 二才2・八六才15
 申させ給へば 八ウ6
 申給へば 九才7・六七ウ13・八七才12
 申せども 一九才11・三〇ウ14
 申ければ 二一ウ5
 申ゝ(し) 二二ウ5
 申に 二四ウ3・四三ウ6・五三才16・五七ウ16・八二ウ12
 申侍れば 二九才10
 申せば 三三ウ4・三五才2・四四ウ16・四五才14・五一才7・五六ウ8
 申べき 三四ウ10
 申つるは 三六才1
 申候つれど 三六ウ5
 申すも 三六ウ8
 申すに 三七ウ4・三七ウ6・四一才5・五一ウ4
 申せなど 四一才11
 申(連体法) 四六才6・五七才3・六七ウ8

・七八ウ12・八七オ6

申さんとして 四六オ8

申(終止法) 四七オ8

申ながら 四七ウ6

申べきに 四八オ5

申給て 四九オ17

申て 五一ウ2・六三ウ1・六七ウ11・七一ウ4

申侍つれば 五三オ15

申なれ 五三ウ11

申を 五四オ5

申侍らんと 五六ウ8

申侍るかなとて 五六ウ15

申候て 五七ウ16

申さん 六〇ウ14

申給はゞ 六〇ウ15

申しゝを 六五ウ19

申侍りし 六六オ7

申給 六九オ1

申し 七二オ3

申たりし 七二オ3

申べかりけれ 七二オ9

申侍る 七七ウ7

申給へり 八〇ウ10

申しかども 八二オ6

申侍らんとて 八三ウ11

申しより 八四ウ2

申侍るなるにこそ 八六ウ9

まうす(申)《補助動詞》 三オ9

すゝめ申させ給へば 三四オ4

いなび申て 三七オ13

かしこまり申候 五七ウ3

なのり申に 五七ウ5

かたり申せば 六〇ウ17

さかしばみ申せば 七七ウ17

おはし申さば 七八ウ6

かたり申給 七九オ9

かしこまり申て 八五ウ7

いのり申つる 八八オ13

まうづ(詣) 四五ウ7

まうでゝ 四八ウ12

まうでゝ 七七ウ8

八〇ウ1 四八ウ4

まうで給 五九オ7

まうでたまふに 六二ウ9

まうで給はぬ 六八ウ11

まうで給に 七三オ18

まうでつるに 八二オ7

まうで侍らんなど 八二オ7

まうで(詣) ↓うづまさまうで・おほむはかま 七三オ18

まうで(詣) ↓めぐりまうでく 七四ウ10

まうでつく(詣着) 四五ウ2

まうでつき給て 七九ウ6

まえん(魔縁) 八八オ15

まえん 八三オ12

まゑんに 八三オ12

まかす(任) ↓うちまかす 三八ウ7

まかせて 八八オ18

まかせ(連用法) 五五ウ18

まかづ(罷) 七五ウ18

まかで給に 七五ウ18

まかなふ(賄) ↓とりまかなふ 一八ウ11

まがふ(紛) 一八ウ11

まがうべきかは 一八ウ11

まがふべくも 二六ウ3

まがふべくも 四二オ7

まがふべくも 六一オ15

まがへられにけり 五三オ16

まがまがし(凶凶) 六〇ウ13

まが しく 六〇ウ13

まがりありく(罷歩) 八〇ウ4

まがりありき(中止法) 八〇ウ15

まがりありきはんべるに 八〇ウ15

まかりいづ(罷出) 一七ウ5

まかりいでなん 一七ウ5

まかりかへる(罷帰) 一七ウ5

まかりかへりて	八〇ウ 5	まぎるゝ	三八オ 2	まことに(連用法)	一五ウ 13・一六オ 5・一八オ 3・二〇オ 7・三一ウ 12・三四オ 15・四三オ 3・四四ウ 14・四九オ 1・五一ウ 18・五九ウ 7・五九ウ 17・六一オ 9・六二ウ 3・六三ウ 6・六八オ 9・七四オ 6・七六オ 10・七七オ 3・八八オ 5
まかり帰ては	八一オ 14	まぎれたまふに	四〇オ 5	まことには	五八ウ 6
まかりのぼる(麗上)		まぎる(連体法)	六三オ 10	まことならば	六六オ 8
まかりのぼりて	八二ウ 5	まぎれ(紛)		まことや	二二ウ 14・四七オ 14・四八ウ 10・五九オ 9・六五ウ 21
まかりのぼり	八三オ 1	まぎれの	一四ウ 1	まさぐり(弄)	↓てまさぐり
まかる(麗)	↓すぎまかる	まぎれに	三〇ウ 10・三七オ 6	まさる(勝)	↓あくがれまさる・おもひまさる・たちまさる・なりまさる・みえまさる
まかりて	二六オ 13	まぎれ	三七ウ 14	まさる(連体法)	一七オ 10・一九ウ 17・五二オ 16・六五オ 11・七六ウ 17
まかり侍て	六九オ 17	まぎれありく(紛歩)	三七ウ 16	まさり(中止法)	二二ウ 12
まかる(連体法)	七二オ 8	まぎれありき給に	三七ウ 16	まさるべきならずと	二四オ 2
まかりし	七二オ 17	まぎれいる(紛入)	三〇ウ 16	まさりたらんずる	五五オ 14
まからんと	七三ウ 9・七四オ 5	まぎれ入給て	三四ウ 9	まじらふ(交)	七ウ 3
まかり侍るに	八〇オ 6	まぎれいりて	三五オ 4	まじらひ給し	七ウ 3
まかりて	八〇オ 17・八三オ 3	まぎれゆく(紛行)	一五オ 7	まじらひ給はんも	二二ウ 7
まかり候しに	八三オ 5	まぎれゆくべき	三八ウ 1	まじらい(中止法)	七五オ 13
まきこむ(巻込)	六四オ 8	まくら(枕)	↓おほむめとまくら	まじる(交)	↓たちまじる
まきこめたるは	七九オ 1	まくらみ	三〇ウ 11	まじらず	四七ウ 9
まきよす(巻寄)		まくらがみに	七二オ 5		
ま「き」よせて		まじ(孫)	七三ウ 8		
まきらはじ(紛)	一七ウ 14	まじの	七四ウ 15		
まきらはじに		まじて			
まきらはす(紛)	↓いひまきらはす・おもひまき	まじは			
まきらはす		まこと(誠)			
まきらはしたる	三三ウ 2・三三ウ 3・六六オ 13	まことの	六五オ 17		
まきらはし給に	一四ウ 10	まことは	六五ウ 11		
まきらはして	三〇ウ 9・五〇オ 15	まことなり(誠)			

まじり給	七一才 8	まちうけたてまつりて	七八才 21	まちたてまつり給へと	五六才 3
まじりて	七四ウ 2	まちうけて	八〇才 6	まちきこへつるものを	五六ウ 7
ます(増)		まぢかし(近)		まち給ふに	六六才 11
「ま」して	三八才 15	まぢかき(連体法)	一三ウ 11	まちきこえ給ひて	六八才 7
また(又)《副詞》		まちどほなり(待遠)	一三ウ 11	まちきこえしに	七一ウ 2
又三才 2・一ウ 5・一五ウ 10・一七ウ 11・		まちどをにのみ	一三ウ 11	まち給へよなど	七六才 19
二一才 4・二四才 5・二九ウ 13・三五ウ 5		まちどをに	三五ウ 3	まちきこえ給	八八ウ 14
・三九ウ 6・四八才 6・五四ウ 3・六一才		まちよろこぶ(待悦)	六五才 3	まつ(松)	
6・六一ウ 6・六二才 1・六三ウ 3・六五		まちよろこび給て		まつの	七六才 3
ウ 7・七三才 12・八一才 8・八五才 16・八		まちわたる(待渡)		まづ(先)	
六才 4		まちわたる(連体法)	一才 2	まづ(先)	
またも	七才 3	まちわたりたまふ	八才 7	まづ(先)	
また二九ウ 2・三三ウ 5・三六才 13・三七		まつ(待)	一五才 9	まづ(先)	
ウ 2・三九ウ 2・六一ウ 7・八七才 15		またちや	一八才 5・三〇才 7	まづ(先)	
また(又)《接続詞》		またずもや	一八ウ 7	まづし(貧)	七五才 9
又一三ウ 7・二五才 10・二七才 5・三〇才 14		また給へるに		まづしくて	
・三三才 4・三四才 6・三四才 10・四〇才		まつ(連体法) 一八ウ 11・三二才 8・五二ウ		まつむし(松虫)	
1・六六ウ 3		15・五五ウ 7・五七才 13*		まつむしぞ	六六ウ 2*
また	四九才 17・五八ウ 16・七三ウ 2	またれ給はぬに	二六ウ 15	まど(窓)	
まだ(未)		まてよと	二七ウ 11	まど	二ウ 9
まだ	三三才 3	またるゝに	二八ウ 13	まどはす(惑) ↓とひまどはす	
まだき(夙)		またましかば	三〇才 5	まどはされて	六九ウ 3
まだきに	五七才 1・七八才 15	またずしも	三一才 10	まどはしてし	七四ウ 16
またなし(又無)		まち給に	三四ウ 15・四四才 14	まどはしてしが	八二才 16
又なく(中止法)	七四才 16	まつらんや	三五ウ 11*	まどひまはる(惑廻)	
まちづく(待受)		まち侍つれと	五四才 1	まどひまはりて	四八ウ 14

まどふ(惑) ↓あきれまどふ・おもひまどふ・							
なきまどふ							
まどはで	一四ウ10*						
まどはんを	五一ウ17						
まどろむ(微睡) ↓うちまどろむ							
まどろまれ給はぬに	一六ウ1						
まどろみ給へるに	四六ウ10						
まねぶ(学)							
まねびきこへたるを	五六ウ18						
まはす(廻) ↓おほしまはす							
まはりく(廻来)							
まはりきぬれば	七五ウ16						
まはる(廻) ↓たちまはりたたずみありく・ま							
どひまはる							
まはりて	五二ウ8						
まひろげすがた							
まひろげすがた	五一ウ8						
まへ(前) ↓おほむまへ							
まゑに	二ウ5						
まほしき							
きこえまほしさに	七九才14						
まぼらふ(目守)							
まぼらへたてまつれども	六二才14						
まほる(目守)							
まぼり給へば	二六才2・七九才4						
まぼりたてまつりて	四二才3						
まぼりきこえ給て							
まぼろし(幻)							
まぼろしに	二六才8						
まま(儘) ↓ありのままなり・そのまま							
「まま」	八六才3						
ままなり(随)							
まゝに(中止法) 六才7・八才13・一一ウ5							
・一六才13・五一才2・五二ウ13・六〇ウ							
6・七二才18・七四ウ18・七五才20・八一							
ウ18・八三ウ19							
まゝにも	七才9						
まゝには	四四ウ9・五〇ウ12・七七ウ4						
まゝならば	四七ウ10						
まゝにてぞ	七二ウ12						
まみ(目見)							
まみ	二六才4						
まめごと							
まめごと	一七ウ2						
まめなり							
まめなる(連体法)	五ウ5						
まめやかなり							
まめやかに(連用法) 一三ウ6・二七才12・							
三九才10							
まもり(守)							
まもりと	七九ウ2						
まもる(目守)							
まもられ給に							
まもり給へば							
まゆ(眉)							
まゆ	五五ウ9・五七才8						
まよひ(迷)							
まよひにも	五ウ9						
まよふ(迷)							
まよひぬべう	四ウ3						
まよひける	二二才2						
まよふ(連体法)	二七ウ2						
まよふらんと	四九ウ3						
まれびと(客人)							
まれ人の	三三ウ9						
まろびふす(転伏)							
まろびふす	四〇才9						
まぬらす(参)《本動詞》							
まいらせ給へけれども	二二ウ1						
まいらせずなど	二四ウ15						
まいらせられよ	三七才10						
まいらせ侍べき	三七ウ1						
まいらせ給へと	四四才10						
まいらすべきと	四五ウ15						
まいらせたてまつり給へかしと	五二才3						
まいらせよと	五七ウ15						
まいらすべき	六六才10						
まいらせ給て	七三才3						

まぬらす(参)《補助動詞》

すゝみまいらすべく侍に 三七才 14

いれまいらせ給へと 五三才 4

見まいらせんと 七三才 14

みまいらする(連体法) 七七才 19

まぬらせおく(参置)

まいらせをき侍覽と 六七才 12

まぬり(参) ↓おほむまぬり

まぬり 一六才 4

まぬりつどふ(参集)

まぬりつどいなど 三三才 11

まぬる(参) ↓かへりまぬる・たづねまぬる・もてまぬる・わけまぬる

まぬるべき 一ウ7・二才1・三四ウ7

まぬり給て 二ウ3・三ウ10・八才8

まぬり給はずなるを 七才 11

まぬり給しに 一五ウ3

まぬりて一五ウ5・一六ウ16・一七才9・二

八才11・三〇ウ7・三六ウ7・五六ウ1・

五七ウ7・六一才5・六八ウ15・六八ウ21・

七一才19・七八才6・八三才14・八四才12

まぬり侍 一七ウ7

まぬり侍ざりつる 二〇才 11

まぬり給にしかば 二三ウ5

まぬりぬ 三六ウ1・五七才16

まぬり給べきにぞなど 三八才 11

まぬり給ぬ 四三才 13

まぬりたり 四三ウ10・五六ウ5・六〇才6

まぬりなど 四四才 8

まぬり給へりと 四四才 15

まぬらんなど 四四ウ2

まぬりつるに 四五ウ14

まぬり給へる 四五ウ17

まぬり給ぬる 四六才 13

まぬり給 四八ウ6

まぬりて侍しかども 四八ウ17

まぬり給はず 五三ウ6

まぬり給へれば 五三ウ6

まぬりたるを 五七ウ12

まぬり給へるが 五九才 10

まぬり給ふ 六〇才 8

まぬりたるが 六二ウ14

まぬり侍ると 六七才 2

まぬり侍りしに 六九才8・八〇才4

まぬり侍りて 六九才 13

まぬらざらましかば 七二ウ10

まぬり侍らん 七二ウ13

まぬり給たれば 七六才5・八六才13

まぬり「侍」らんも 八二才 2

み

み《接尾語》 ↓ふかみ

み(見) ↓まみ

み(身) ↓うきみ・おほむみ・おほむみども・わがみ

身よ 四ウ11

身をも 六ウ7

身を 一四才2・二三才5*・三一ウ9・三

五才10・六九才18・七四才1・八〇才18

身に 一四才3・二九ウ16・三八ウ2・六二

才3・六三才10・七一才9・七四才19・八

二ウ1・八八才10

身 一五ウ16

身の 一六ウ12・二四才10・二九才6・二九

才7・六一ウ8・六四ウ17・七八才7・八

三ウ15・八五才1・八七ウ15

身も 一七才6・六一ウ10*

身ともがなと 四一ウ13

身ぞと 四九才15

みの 六五才10

身に 七三ウ12

身には 七四才10

み 七五才9

みにて 七九才16

身ぞかしなど 八六才11

みあふ(見合)							
みあひし	六一才11	みをき給	五一ウ20	右のをとゞは		二二ウ2	
みあいたる	六三ウ3	みをき侍らんとて	六三才11	右のをとゞよりは		二二才11	
みいだす(見出)		みおき侍りぬる	七六才18	右のをとゞも		三〇ウ6	
みいだし給ふ	六五才2	見をきたてまつらば	八八才10	右のおとゞ		七〇才15	
みいる(見入)		みおくる(見送)		みぎのおとどのれいけいでんのによつこ(右大			
見いれ給		みをくられ給ふ	一四ウ15	臣麗景殿女御)			
見いれ給はず	一五才11	みをくりきこゆれば	二七ウ9	右のをとゞのれいけいでんの女御		一一才1	
み入たまはぬに	一九ウ4	見をくりきこゆれども	五〇才11	みぎのおほいどの(右大臣殿)			
み入(中止法)	三九才9	みおどろく(見驚)	六三才4	右の大ぬ殿		七四ウ5	
見いれ給へば	四一ウ8	見をどろきて		みぎは(汀)			
み入れたてまつらんなど	五一才14	みか(三日)	三五才7	みぎは		一七才7*	
み入れたてまつりたるにやと	五九才3	三日ぞ	六八ウ1	みくし(御髪)			
みうしなふ(見失)	六二ウ1	三日より		御ぐし		二九才4	
みうしないて	五三才7	みかうし(御格子)	一五才5	みくしげどの(御匣殿)			
みえしる(見知)		御かうし		みくしげどの		五二才2	
見えしられども	六三才1	みかど(御門) ↓ときはのみかど	七一才6	みじかし(短)			
みへしられ	八七ウ17	御門		みじかき(連体法)		五一ウ7	
みえまさる(見勝)		みかへる(見返)	五七才6	みじる(見知)			
見えまさるを	一七ウ8	みかへりたれば		見しりきこえ給て		六八ウ7	
見えわく(見分)		みききあらはす(見聞現)	八四ウ15	みしりきこゆべくも侍らず		七〇才7	
見えわかず	五二才11	見きゝあらはし給ひて		みじろぐ(身動)			
みおく(見置)		みききいづ(見聞出)	八四ウ6	みじろぎ給へるに		四二才4	
見をき給へれば	二六ウ3	見きゝいづる(連体法)		みす(御簾)			
みきて	四七ウ17	みぎのおとど(右大臣)	一〇才10	みすの二ウ5・四ウ8・七ウ1・一三才11		三四ウ8	
みをき侍れば	四八才7	右のおとゞも	一一才7・五六才7	みす			
		右のをとゞの		みす(見)			

みすまじく	三三ウ 2	みだうに	五九才 4	みちすがらも	四七才 8
みすまじくは	七五才 16	御だうに	七二才 11	みちのくにがみ(陸奥紙)	
みせきこえず	七五ウ 3	御だうより	七九才 9	道のくにがみに	七一ウ 5
みずいじん(御隨身)		みたつ(見立)		道のくにがみの	八八ウ 5
みずいじん	七一ウ 4	みたち給へれば	二六才 11	みちびき(導) ↓おほむみちびき	
みずきやう(御誦経)		みだる(乱) ↓おもひみだる		みちびく(導)	
御ずきやうなど	四七ウ 15	みだれがはし(乱)	七八才 4	道びき給へ	七三ウ 2
みずきやうの	六八才 17	みだれがはしく(連用法)		道びきたてまつり いぬれば	八四才 3
みすぐしがたし(見過難)		みだれよる(乱寄)		みちゆきひと(道行人)	
みすぐしがたき(連体法)	一三ウ 3	みだれよりけるを	七五ウ 6	みちゆき人の	二四ウ 4
みすつ(見捨)		みち(道)		みつ(満) ↓ひびきみつ	
みすてゝ	二七才 4	みちを	一一才 6	みちぬる	六五ウ 4
みすてたてまつりて	二九才 10	みちに	一一才 8・二〇ウ 13・六五才 18	みつ(三)	
見すてたてまつりても	三八ウ 2	みちならねば 二二ウ 8 《近江路》との掛詞		みつに	七一才 14
みすてがたし(見捨難)		みちの	一四才 7・四三才 14・五六才 16	みづ(水) ↓やりみつ	
みすてがたき(連体法)	六〇才 2	みちも	三八ウ 3・五一才 6	みづ	一三ウ 12・四一才 8
みせしらす(見知)		みちにも	四九ウ 3	みづも	四三ウ 9
みせしらせたてまつり	五ウ 10	道を	七五ウ 14	みづの	六二才 13
みだい(御台)		道には	七六才 2	みづから(自) ↓おほむみづから	
御だいなど	一五才 11・五七ウ 7	道に	七八ウ 1	みづから	二〇才 1
御だい	七八ウ 3	道にも	七九ウ 13	身づから	三六ウ 8
みだう(御堂)		道なれば	七九ウ 15	みつく(見付)	
みだうの	二二ウ 12	みちしばのひめぎみ(道芝姫君)	八一才 1	みつけたりし	三三才 7
御だうの	二四才 14	みちしばのひめぎみの		みつけたらんと	五一才 11
御だう	四八ウ 3	みちすがら(道)	四九才 4	みつけたららん	五一ウ 16
みだうにのみ	四八ウ 9			みつけれれじと	五三才 6

みつけられつらんと	六〇ウ 11	みなる(見慣)	七四ウ 12	みや	一一才 11
みつけ・れて	六一才 8	みなれ給たらん		みやは	一一ウ 12
みつけたりし	六七才 19	みね(峰)		宮	一八ウ 7・六九ウ 6
みつけ給はず	八三才 9	みねの	八六ウ 16	宮も	一九才 15
見つけて	八七才 7	みはじむ(見始)		みやの	一九ウ 9
みつくす(見尽)		見はじめたりしに	六六ウ 10	みやは	二〇ウ 1
みつくし給	六四ウ 14	みはつ(見果)		宮の	七〇才 14
みどり(緑) ↓うすみどり		みはて給て	一八ウ 14・二一ウ 7	みやこ(都)	
みな(皆)		みみ(耳) ↓おほむみみ		みやこの	一三ウ 13・二二ウ 15・六五才 16
みな九ウ 2・二二才 8・三六ウ 12・六〇ウ 4		みゝに	三三才 15	宮こよりも	二六ウ 16
・六九ウ 7・七六ウ 4・七九ウ 11		みゝも	五四ウ 13	宮この	六九才 5
みなす(見做)		みゝ	七二ウ 3	宮こも	六九才 8
みなされけんなど	三三才 8	みみはさみす(耳挟)		宮こを	六九ウ 14
見なしたらんにと	五五ウ 2	みゝはさみして	五二才 13	みやこを	七二才 18
見なしたてまつりし	七五才 3	みみより(耳)		宮こへ	七四ウ 10・八一ウ 18
見なしつ	七九才 4	みゝよりには	五二ウ 2	みやすどころ(御息所) ↓ははみやすどころ	
みなひと(皆人)		みめ(見目) ↓おほむみめ		みやす所は	一一ウ 14
みな人	五九才 11	みめ	七二才 19・八一ウ 12	みやすどころ	一三才 15
みなみ(南)		みめよし(見目好)		みやづかへ(宮仕)	
みなみの	一八才 1	みめよき(連体法)	二四ウ 13	宮づかへを	三九才 4
みなみざま(南様)		みや(宮) ↓いちでうのみや・いちほむのみや・		みやる(見遣)	
みなみざまに	五二ウ 8	こそつのみや・こみや・せんばつのみや・そ		見やり給へば	二五ウ 8
みなもとのなにかし(源某)		ちのみや・そつのみや・なかつかさのみや・		見やれば	八二ウ 13
源のなにかしと	八〇才 3	にふだうのみや・ははみや・ひめみや・ふ		みゆ(見)	
みならふ(見習)		るきみやばらのなにかしのおとど・ぬんの		見えさせ給ふ	四才 5
見ならひ給はぬ	二一才 9	ひめみや		見えたまふ	九ウ 7

見え給ふ	一〇ウ9・二二才3・六七才8	みへたまふ	五三ウ12	かへりみがちなり・かよひみる・ふみみる	
みゆる(「ぞ」の結び)	二二才4・二二ウ14	みへぬ	五四才4	見む	一才11*
・二五才8・二五才10・三三ウ5・四八ウ		みへたるが	五五ウ15	見れと(「こそ」の結び)	五才10*
1・七七才5		みゆれど	五六才4	みたてまつる	一一才4・一一才12・四二才14
見え給て	一九ウ10	みゆる(連体法)	五九ウ5・五九ウ13	・六四ウ3	
見えたてまつるも	二〇ウ5	みへ給はず	六一才16・七一ウ3	みる(連体法)	一一ウ11・三三才2・五二ウ
見え給へば	二二ウ2・三九ウ15	見え給	六一才17	5	
見え給はず	二二ウ7	見えて	六一ウ5	みるらん	一四才6
みへたる	二二ウ11	見え給はぬを	六三才6	見給らんと	一四才12
見えたる	二二ウ12	見え給ふを	六三ウ18	見たてまつる	一五才12・六八才3
みゆる(終止法)	二四ウ12・五二才16	みへさせ給し	七〇才6	みるべきにやと	一六ウ3
みゆるに	二五才4・二六才4・五一ウ5	みへさ「せ」給しを	七七才1	見んと	一八才14*
見え給ふにや	二六才8	みへたるに	七七才8	見給へるに	一九才9
見えず	二八才2	みへさせ給しとて	七七才19	みたてまつりなど	二〇才6
見えじなど	二八ウ11	みへたてまつるべきが	七八才6	み給ば	二〇ウ7
見え給に	三九ウ7	みへぬに	七八ウ20	みも	二五ウ12・三〇ウ15・五七才15
見えさせ給へるに	四一才1	みゆ「る」(中止法)	七九才2	見る(連体法)	二五ウ14・二六才1・八二ウ
見え給へる	四一才14	みへ給へるに	八三才7	2	
みゆるを	四二才6	見へ給しかば	八三才15	みさぶらはめと	三三ウ4
見えさせ給はず	四二才10	見えたてまつらんだに	八四ウ13	見て	三五ウ7
見えさせ給けるとて	四三才10	見えし	八五ウ15	見給に	三六ウ3
見えぬは	四四ウ15	みゆづる(見譲)		みたてまつれば	四二才7・五〇才6・六二
見えつる	四六ウ16	みゆづるべき	二一才4	ウ3	
見え給はねば	四八ウ8	みよ(御世)		みたてまつらせ給へ	五〇才4
みゆ(終止法)	五一ウ7	御よ	九才4	みるらんと	五〇才15
みゆる(準体法)	五二才13	みる(見) ↓ あひみる・うちみつく・うちみる・		みず	五〇ウ9・六三才7

見たまふに 五一ウ 5
 みれど 五二才 11
 み給へば 五二才 12・五七ウ 17・六四才 1・
 七九才 1
 みたまへど 五二才 17
 み給に 五二ウ 8・七七才 11
 みや 五三才 11
 み給へ 五五ウ 17
 みし 五六才 11・五八ウ 2・六三才 14
 みたまふに 五六才 15・六四才 8
 見れば 五八才 15
 見給へば 五九ウ 10・六六才 12・六七才 6
 みたてまつりし 五九ウ 13
 みたまふも 六一ウ 1
 見るは 六一ウ 7
 みて 六三才 5・八二ウ 15
 見給し 六三ウ 2
 みたてまつりたまふ 六五ウ 5
 見さぶらひしかは 六五ウ 20
 見し 六五ウ 20・六七ウ 5・六八ウ 9・七六
 ウ 4・七九才 3
 見さぶらふばや 六六才 4
 見るに 六六ウ 9
 見るべかりける 六六ウ 13
 見給ば 六七才 16
 見るべき 六九才 5

見侍りつるに 七二才 13
 見たてまつらまし物をと 七二才 16
 見侍る 七二才 18
 見しは 七二ウ 8
 見侍て 七二ウ 20
 見給へかしと 七三ウ 3
 見まいらせんと 七三ウ 14
 見たてまつるには 七四ウ 4
 見たてまつらまほしく侍れども 七四ウ 6
 みまいらす 七七才 19
 見たてまつり侍る 八一才 18
 見侍らざりき 八一ウ 9
 見たてまつるに 八二ウ 4
 見給ひしかば 八三才 13
 見たてまつれば 八三ウ 3
 見たてまつりつるも 八四才 9
 見てし 八五才 16
 みんと 八六才 5
 見てのみ 八六ウ 3
 見せたてまつり給へば 八八ウ 4
 見給て 八八ウ 6
 みるめ(見目) 八八ウ 6
 見るめの 八五才 5
 みわたす(見渡) 八五才 5
 みわたしたまふ 三三才 9

む

むかし(昔) 一四才 4・二三才 6*
 むかしを 五八ウ 19・七三才 5・七三ウ 13・
 七四才 17
 昔の 六九才 9
 むかしも 七四ウ 4
 むかし 七四ウ 9
 昔 七九ウ 13
 むかひある(向居) 五六才 5
 むかひいたる 五六才 5
 むかふ《下二段》(迎) 一〇才 7
 むかへて 一〇才 7
 むかふ《四段》(向) ↓うちむかふ 一八才 7
 むかひて 二〇ウ 13
 むかはん 七八ウ 19
 むかいたれば 七八ウ 19
 むかへ(迎) ↓おほむむかへ 七八ウ 19
 むかへとる(迎取) 七八ウ 19
 むかへとりたてまつらせ給たるに 七才 4
 むかへのあん(迎院) 七才 4
 むかへの院に 一六ウ 15
 むかへのあんに 一七ウ 16
 むかへのあんに 一七ウ 16
 むかへのあんと 一八ウ 16
 むかへのあんに 一九ウ 17

むかへのあんの 一四才14
 むく(向) 四七才13*
 むきて 八一ウ18
 むかじと 六一ウ16
 むげなり(無下) 二〇才7・四七ウ3
 むげならぬ 六一ウ16
 むげに(連用法) 二〇才7・四七ウ3
 むこ(婿) ↓おほむむことり
 むこ(無期) 三六ウ6
 むこにて 八二ウ2
 むさうなり(無双) 八二ウ2
 むさうに 八二ウ2
 むし(虫) ↓まつむし
 むじやう(無常) 八〇ウ17
 無常は 八〇ウ17
 むすびおく(結置) 四六ウ12*
 むすびをく(連体法) 二五ウ11
 むすぶ(結) 二五ウ11
 むすぶ(連体法) 六一才1・六四ウ18*
 むすびて 六一才1・六四ウ18*
 むすぶのかみ(結神) 五〇ウ6*
 むすぶのかみの 五〇ウ6*
 むすぼほる(結) 一四才14
 むすぼゝれ(中止法) 一四才14
 むすめ(女) ↓うだいじんのおほむむすめ・お
 ほむむすめ・げんちつじやつのむすめ・し

きぶのたいふがむすめ・ふるむすめども
 むすめ 二四ウ13・二八才12・三七才9
 むすめならんと 二五才13
 むすめなどの 二六才6
 むすめと 三四才2・八七才11
 むすめとのみ 四〇才14
 むすめの 五二ウ18
 むすめども(女共) 四一才3
 むすめども 五〇ウ8
 むせぶ(噎) 三九ウ2
 むせびて 三九ウ2
 むつ(六) 一〇才8
 六の 一〇才8
 むつの 七〇ウ1
 むつる(睦) ↓はひかりむつる
 むなし(虚) 七〇ウ1
 むなく(連用法) 一五才6・二二ウ13・七
 五才3
 むね(胸) ↓おほむむね
 むね三ウ3・一七ウ14・二九ウ1・三三才7
 ・四四才14
 むねの 二八ウ11
 むねあげ(棟上) 二八ウ11
 む「ね」あげ 八一才9
 むま(馬) ↓おほむむま

むま 一三ウ15・二四ウ4・三三ウ7
 むまる(生) 九ウ5
 むまれ給て 六〇才17
 むまれ給ぬれば 六一ウ18
 むまれいづ(生出) 六一ウ18
 むまれいでより 三三ウ15
 むめ(梅) 三三ウ15
 むめの 三三ウ15
 むらいなり(無礼) 六七才4
 むらぬならんとて 六七才4
 むる(群) ↓うちむる 六九才16
 むるのやし(室八鳥) 六九才16
 むるのやしまの

め

め(目) ↓うきめ・おほむめ・ひがめ・ひとめ
 みめ・みめよし・みるめ・やきやめ
 めを 一六ウ3・七五才16・七九才7
 め 二五才15・五九才2・六二ウ1
 めも 二五ウ14・四二才1
 め(妻) ↓くらうどのおとこのしぎぶのたいふ
 がめ
 めなりけるが 五五才2
 めは 七五才10

めに 七五ウ10
 めあかしども(目明) 五二オ9
 めあかしども
 めかし↓ひらかどめかし・ふるめかし
 めかれす(目離) 二六オ1
 めかれせず
 めく↓あるじめく・じやうずめく・ひきよすめ
 く・わかれめく
 めぐらす(廻) ↓しむむじめぐらす
 めぐりあふ(廻会) 四六ウ12*
 めぐりあはん
 めぐりまうでく(廻詣来) 八〇ウ8
 めぐりまうできて侍「る」なり
 めざまし(目寛) 三四オ13
 めざましき(連体法)
 めし(召) 三四オ2
 めし
 めしや 三五ウ1
 めしいる(召入) 二一オ15
 めし入べき
 めし入て 六〇オ7
 めしつかふ(召仕) 五七ウ11
 めしつかふ(連体法)
 めしとる(召取) 三八オ6
 めしとる(連体法)
 めす(召)

めして 一ウ4・一八ウ16・五一オ3
 めさんと 六一ウ15
 めづ(愛) 七〇オ17
 めでられ給ふ
 めでられ給なれ 七三オ10
 めでたてまつる物かな 八八オ9
 めづらかなり(珍) 八八ウ6
 めづらかに(連用法) 五九ウ9・七二オ19・
 めづらかなる(連体法) 八二オ7
 めづらし(珍) 二五ウ14・六七ウ14
 めづらしと 六八オ9・六八ウ18
 めづらしき(連体法)
 めづらしが(珍) 五三ウ7
 めづらしが(中止法)
 めであふ(愛合) 四オ2
 めであへるに
 めでたし(目出) 二一オ12・二二オ3・二
 めでたく(連用法) 三ウ10・五六オ8
 めでたくて 一一オ6
 めでたくを 六四オ2
 めでたし(終止法) 六八ウ2・七八オ14
 めでたき(連体法) 七二ウ18・八一ウ1・八
 三オ5・八四ウ12
 めのと(乳母) ↓おほむめのと・おほむめのと

ご・さいしやうのめのと・たいふのおほむ
 めのと・たいふのめのと・たゆふのおほむ
 めのと 二八オ10
 めのとは 四四オ2
 めのとなて 四九ウ2・六七オ5
 めのと 六二ウ11
 めのと 七五ウ2
 めのわらは(女童) 四四ウ3
 めのわらはの
 めやすし(目安) 三〇ウ3
 めやすからめなど 四九オ16
 めやすからめと
 もし(若) 二四オ5・三六ウ1・五五ウ2・六五
 ウ21・八七オ9
 もしやと 二六ウ1
 もつ(持) ↓あいしもつ・いひもてゆく・とり
 もつ 九ウ10
 もちたてまつらせ給て
 もちて 二四ウ13・三六ウ1・三六ウ7・五
 七ウ12・七一ウ6・八二ウ15

も

もち給へる

三二ウ 5

もてまゐる(持参)

もちたる

八二ウ 7

もてまいりて

八八ウ 2

もてあそぶ(弄)

もと(下・許) ↓おほむもと・こころもと・なに

もとより(元)

もてあそばんことも

二オ 2

もと・やまもと

三六オ 9

もてあつかふ(持扱)

八二オ 19

もと

四ウ 11

もてあつかいきこゆる

八二オ 19

もとまでも

六二ウ 13

もていつ(持出)

五九ウ 1

もとの

一一ウ 2

もていでなど

五九ウ 1

もとのに 三二オ 2・七六ウ 9・八五ウ 14

物にのみ

もてかしづく(持傳)

五六オ 8

五ウ 14・六六ウ 21・八〇オ 5

六六ウ 1*

物とてや

もてかしづく給なれば

五六オ 8

もとの

一四オ 8

もてさわぐ(持騒)

二九ウ 12

もとの

一四オ 6

もてさはがれん

七〇ウ 10

もとの

一四オ 8

もてそこなふ(持損)

七〇ウ 10

もとの

一四オ 6

もてなしかしづく(持成傳)

六二オ 2

もとの

二〇オ 8

もてなしかしづかれ給はまし

六二オ 2

もとの

二五オ 6

もてなす(持成)

一一オ 3・一六オ 12

もとの

二五オ 6

もてなし給へる

一一オ 3・一六オ 12

もとの

二五オ 6

もてなしきこえ給ふを

一一ウ 15

もとの

二五ウ 8

もてなし給て

一一ウ 15

もとの

二五ウ 8

もてなしきこゆべしとも

二九オ 5

もとの

二五ウ 12

もてなさんこそ

二九オ 5

もとの

二五ウ 12

もてなしきこえざりしかど

三〇ウ 2

もとの

二五ウ 12

もてなさせたまふ

三九ウ 10

もとの

二五ウ 12

もてなしたるに

三九ウ 10

もとの

二五ウ 12

もてなすべきに

八五ウ 4

もとの

二五ウ 12

もとの

三六オ 9

もとの

三六オ 9

もの(物・者) ↓おほむものおもひ・しれもの

物にもがなやと

物ゝ六オ 10・六ウ 2・五五オ 2・六〇ウ 6・

六二ウ 13

物にのみ

物なれば

物とてや

物を 一五オ 13・五四ウ 12・七一ウ 18

物の 一六ウ 9・六五ウ 18・六七ウ 8・七三

ウ 8・七五オ 7

物も 一九ウ 4・二〇ウ 5・三九オ 9・四一

ウ 8・五六オ 16・七七オ 10

物など

物なんめり

物 一五ウ 2・二六オ 12・二七オ 14・三四ウ 8

・五九ウ 6・六二ウ 11・六三オ 10・六三ウ

19・六四ウ 19*・七四ウ 8・八〇オ 5・八

〇オ 13・八七オ 3

物には

物に 一六ウ 4・二九オ 7・五九ウ 7・六一

オ 15・六四オ 19・七九オ 6

物などの

物は 三九オ 4・八〇オ 3

ものゝ 四四オ 3・五四オ 5・五五オ 6・六

五ウ13・六七ウ9	物をそろしうも	二一才12	ものなれたり	七九才12
もの	物をそろしう(中止法)	四一ウ12	もののけ↓おほむもののけ	
物なり	物をそろしう(連用法)	四三ウ2	ものゝけなど	一五ウ15
ものなり	ものおぼゆ(物覚)	六〇才11	ものの糸(物絵)	
物か	物おぼえ給はず	六〇ウ8	物の糸	八一ウ7
物ぞと	ものおぼえざりつる	一六才5	ものふる(物古)	
ものをぞ	ものおもひ(物思) ↓おほむものおもひ	七三ウ6	物ふり(中止法)	五一才14
ものを	物思ひの	一一才5	ものまうす(物申)	
ものかな	ものおもひわする(物思忘)	五〇才10	物申さん	四五ウ10
物也	物思ひわする(連用法)	五〇ウ12	物申さんとして	五六ウ4
物とかや	ものおもふ(物思)	七三ウ17	もみぢ(紅葉)	
物なりけるを	物をもはん	七三ウ6	もみぢに	五ウ8
物なども	ものがたり(物語) ↓おほむものがたり	五〇才10	もみぢ	六二ウ7
物とだに	物がたりを	七三ウ17	もや(母屋)	
物なりければ	物がたりも	七三ウ17	もやへ	一八才15
物かな	ものがなし(物悲)	五〇才10	もよほし(催)	
ものあはれなり(物哀)	物がなしかりぬべき	五〇ウ12	もよをしの	一五才10
物あはれにて	ものこころほそし(物心細)	七三ウ17	もれいづ(漏出)	
ものうし(物憂)	もの心ほそく(連用法)	七三ウ17	もれいづる(連用法)	七六才8
物うくて	ものさわがし(物騒)	六九ウ1	もろこし(唐)	
物うく(連体法)	物さはがしく(中止法)	七ウ2	もろこしの	八〇ウ12
ものうらめし(物恨)	ものども(物共)	七ウ5	もろこしへも	八一ウ9
物うらめしく(中止法)	物ども	七ウ5	もろともなり(諸共)	
ものおそろし(物恐)	ものなげかしげなり(物歎)	七ウ5	もろとも(連用法)	一ウ9・一四ウ9*
物をそろしく(中止法)	物なげかしげなり(終止法)	七ウ5	もん(文)	
物をそろしきまで	ものなる(物慣)	七ウ5		

もんはしも

八一ウ 8

や

や(屋) ↓ふせや・やぶれふせや

や(矢) ↓やきやめ

やう(様) ↓いかやうなり・などやう

やうは

一三ウ 8

やうの

二五ウ 6

やうも

三五ウ 4・七七ウ 18

やう 三六ウ 13・三七ウ 8・四〇ウ 14・六三

オ 9・六八ウ 12・七一ウ 12・七九ウ 5・八

二ウ 3・八五ウ 9

やうなど

三七ウ 4

やうは

三七ウ 5

やうか(八日)

六二ウ 8

八日と

やつきひ(楊貴妃)

七一ウ 2

やうきひが

七一ウ 2

やうなり(様)

七一ウ 2

やうにて 四オ 11・三三ウ 2・四〇ウ 6・四

〇ウ 15・五〇オ 8・五九ウ 12・六七ウ 7・

七六ウ 4

やうに(連用法) 八ウ 5・三七ウ 9・三七ウ

2・三九ウ 15・四一ウ 14・四三ウ 1・六〇

オ 12・六二ウ 12・六二ウ 13・六六ウ 10・七

七ウ 10

やうなるに

二六ウ 12

やうに(中止法)

四三ウ 9・五八ウ 19

やうなる(連体法) 四九ウ 4・六三ウ 16・八

二ウ 14

やうやう

やう 一九ウ 16・二八ウ 14・三九ウ 5・

四一ウ 5・六〇ウ 6・六八ウ 7・七五ウ 19

やか ↓をかしやかなり

やがて(廳)

やがて 一五ウ 4・一六ウ 3・一七ウ 15・一

七ウ 16・一九ウ 10・二二ウ 11・二二ウ 16・

二七ウ 9・二八ウ 7・三九ウ 8・四二ウ 5

・四五ウ 1・四七ウ 1・五三ウ 11・五七ウ

16・五八ウ 13・六三ウ 2・六六ウ 12・六六

ウ 20・七一ウ 3・七五ウ 7

やがてこそ

五七ウ 3

やきやめ(焼矢目)

八〇ウ 18

やきやめなど

八〇ウ 18

やく(焼)

八〇ウ 18

やくにしかば

五五ウ 8

ゝ(や)けにしかば

五八ウ 17

やく(役)

七九ウ 17

や「く」にて

七九ウ 17

やくそく(約束) ↓おほむやくそく

やくなし(益無)

やくなかりぬべし

やくなう(連用法)

やくわうぼむ(薬王品)

やくわうぼんの

やくそ(八声)

やくそ(八声)

やさし(羞)

やさしき(連体法)

やさしと

やしなひ(養) ↓さとやしなひ

やしなふ(養)

やしなうべき

やしないたてまつるに

やしないたてまつり給てしかば

やしま(八島) ↓むろのやしま

やすきかたども(安方共)

やすきかたどもに

やすし(安) ↓うしろやすし・こころやすし・

したやすし・めやすし

やすからずぞ

やすからぬ

やすみ(休) ↓おほむやすみ

やすむ(休) ↓うちやすむ

やすめ給べき

やすらふ(休) ↓たちやすらふ

三四ウ 8

八一ウ 10

八一ウ 3

三三ウ 13*・三三ウ 1*

五一ウ 12・五六ウ 7

五一ウ 18

六三ウ 9

六三ウ 17

七三ウ 7

五一ウ 20

三三ウ 3

一八ウ 13*

一一ウ 6

やすらひ給ものから	一四ウ14	山の	六五才13	やまふみのちうじやう(山踏中将)	
やすらい給に	六四ウ9	やまあらし(山嵐)		やまふみの中将と	六五才19
やすらはるゝに	八八才6	山嵐	七五ウ19	やまと(山本)	
やつれすがた(靈姿)		やまかぜ(山風)		山もとは	七七才5
やつれすがたにて	三〇ウ15	山かぜ	七四ウ14・七八才17	やまやまてらでら(山山寺)	
やつれすがたはと	六八ウ18	やまくち(山口)		山寺に	六八才18
やどす(宿)		山くち		やみ(闇) ↓こころのやみ	
やどしけり	五才6*	やまし(疚) ↓こころのやまし		やむ(止)	
やどしても	五才9*	やまずみ(山住)		ゝ(や)みなん	五ウ13
やどり(宿) ↓くるまやどり		山すみは	五四才2	やみなんよりは	八ウ10
やどる(宿)		やまぢ(山路)		やみなんとぞ	三一才8
やどりてまじと	三五ウ6	山ぢへ	一一ウ8	やみにしを	三四才4
やどり給ぬらん	六二才3	山ぢを	五三ウ14	やむべき	三五ウ5
やなぎ(柳)		山ぢこそ	五三ウ18	やみにし	八三ウ13
やなぎの	三三才2	やまでら(山寺)		やみぬべかりけるに	八五才15
やはら		山寺へ	八三才11	やみ侍るも	八六ウ10
やはら	一六才15	やまのゐ(山井)		やや《副詞》	二二ウ6・二七ウ7
やわら	一八ウ5・四〇ウ14	山のゐの	六四ウ18*	やゝ	
やぶれふせや(破伏屋)		やまひす(病)		やや《感動詞》	
やぶれふせやの	二八ウ16	やまいして	八一才6	やゝと	二六ウ5・四一才5
やま(山) ↓あらしのやま・いけやま・おほむ		やまひがち(病)		やり(遣) ↓ひとやり	
やまふみ・きたやま・すずかやま・なつや		やまいがちにのみ	五一ウ15	やりいづ(遣出)	
ま・にしやま・ひんがしやま・よしのやま・		やまふみ(山踏) ↓おほむやまふみ		やりいでゝ	二八才2
をぐらのやま・をばすてやま		やまふみとかや	五三ウ11	やりつづく(遣続)	
山	二二ウ5	やまふみがちなり(山踏)		やりつゞけて	五九才8
やまの	五三ウ9	山ふみがちにて	二三ウ12	やりど(遣戸)	

やりどを 一六ウ 1

やりどの 三三才 2

やりどぐち(遣戸口)

やりどぐちより 二七ウ 8

やりみじ(遣水)

やりみじ 二二ウ 5

やる(遣) ↓いひやる・うちやる・おしやる・

おぼしやる・おもひやる・かきやる・きこ

えやる・さしやる・しやる・そむきやる・と

りやる・みやる・ゆきやる

やらまほしく 一九ウ 8

やりて 三〇才 5

やらむと 三三ウ 1

やりなんやと 三三ウ 3

やれとて 三五ウ 13

やりつねば 四四才 11

やりぬ 四四ウ 4

やらせて 四四ウ 7

やるかたなし(遣方無)

やるかたなくて 一六ウ 14

やら 一六ウ 3・一八ウ 3・四〇ウ 8

ゆ

ゆかし(床) ↓おくゆかし

ゆかしき(連体法) 二五才 2

ゆかしくて 五七才 6・六九才 8・八一ウ 21

ゆかしくなんと 六六才 9

ゆかしくてなん 六七才 2

ゆかし「く」(中止法) 八六ウ 16

ゆかり(縁) ↓おほむゆかり・くさのゆかり

ゆかりを 三八才 7

ゆかりと 三八才 9・八三ウ 6

ゆき(行) ↓みちゆきひと 七三才 17・八五才 10

ゆきあふ(行会) 八五才 13

ゆきあひたりしを 三七ウ 17

ゆきかかる(行掛) 三八ウ 4

ゆきかゝりても 三八ウ 4

ゆきやる(行遣) 三九才 5

ゆきやるまじう 一九才 5

ゆく(行) ↓いひもてゆく・おいゆく・くれゆ

く・なりゆく・ふけゆく・まぎれゆく 一六ウ 14

ゆきけん 三六ウ 8

ゆかまして 六二ウ 10

ゆく(連体法) 七五才 2

ゆくへ(行方) ↓おほむゆくへ

ゆくゑ 一〇才 4・一〇才 9・五一才 11・七

二ウ 4・七三才 16・七六才 20・七七才 15・

八四ウ 1

ゆくゑも 三一ウ 8・四七才 10・四八ウ 15・

六七才 11・七五ウ 8

ゆくへ 四九ウ 2・五八才 17・六七才 3

ゆくへも 五三ウ 2

ゆくゑだに 五八ウ 3・八五才 2

ゆくゑを 八二才 15

ゆくへなし(行方無) 五四才 4

ゆくゑなく(連用法) 六七才 21・七〇ウ 2・

七〇ウ 10・七四ウ 16・七五才 6・八八ウ 9

ゆくゑなき(連体法) 六八ウ 5・八三ウ 7

ゆづる(譲) ↓みゆづる

ゆひ(結) ↓もとゆひ

ゆふ(夕) ↓あさゆふ

ゆふ(結) ↓うちゆふ

ゆふがた(夕方) 四四才 9・四八ウ 11

タがた 二八ウ 7

ゆふかひなし(言甲斐無) 二八ウ 7

ゆふかひなき(連体法) 二八ウ 7

ゆふぐれ(夕暮) 二八ウ 7

タぐれの 一才 5・四五ウ 6・五〇才 11

よ

ゆふぐれには	一六才 4	ゆめ	五四ウ 14	よ(節) ↓ひとよ
夕ぐれに	四五ウ 16	ゆゆし		よ(世) ↓いくよ・うきよ・かみのよ・このよ・こむよ・のちのよ・みよ
夕ぐれを	五八才 1*	ゆゝしくも	六才 7	よの三才 8・四才 4・一三ウ 7・三〇才 12・五二ウ 2・七五才 10・七六ウ 4・八四ウ 6
ゆふぐれは	六六ウ 1*	ゆる(許)		よに七才 5・一〇才 11・一三才 8・一五ウ 11
ゆふつかた(夕方)	六二才 8	ゆるゝ(連体法)	八才 11	・一九ウ 1・四九才 16・五五才 7・五七才 15*・六八ウ 11・六八ウ 12・七三才 10・七
ゆふづくよ(夕月夜)		ゆるさ(許) ↓おほむゆるし		七ウ 3・七七ウ 16・八三ウ 14・八四ウ 5
ゆふづくよの	六六才 17	ゆるす(許)	八才 4	世も
ゆめ(夢)		ゆるしてんと		よを九才 8・二〇ウ 10・七五才 17・七七才 17
ゆめの	一四ウ 10*・一九ウ 9	ゆるし給へとて	五六ウ 9・七三才 20	よ
ゆめと	一四ウ 13*	ゆるしたまはん	五六ウ 12	よには 三九ウ 10・五三ウ 11・六六ウ 14・七
ゆめかと	二六ウ 14	ゆゑ(故) ↓なにゆゑ	一三才 2	〇才 3
ゆめも	四〇才 1	ゆえ		よは 四六ウ 13*・八四ウ 8・八八才 4
ゆめに	四〇ウ 17・四三才 9	ゆへ	一三ウ 3・五五ウ 15・六〇ウ 4・六七才 5・六七ウ 7	よと
ゆめぞと	四六ウ 16	ゆへに	二二才 15	よばかり
ゆめの	五〇才 2	ゆへは	六一ウ 8	よにこそなど
ゆめのみ	六一ウ 4	ゆへも	六三ウ 5	世を
夢も	六八ウ 10	ゆへや	六五ウ 16	よにも
夢にだに	七二ウ 4	ゆゑなし(故無)		世に
夢に	八二ウ 6・八三才 7	ゆへなからぬに	六九ウ 4	世と
夢の	八五ウ 15	ゆへなからず	七四ウ 10	「よ」を
ゆめうつつ(夢現)		ゆへなからんだに	八五才 7	よ(夜) ↓ひとよ
夢うつつとち	八四ウ 18			
ゆめぢ(夢路)				
ゆめぢに	二七ウ 2			
ゆめゆめ(努努)				

よなどは 一三才7・八一ウ4
よ 一六才13・五九才1・六四ウ11
よのみとは 一四ウ12* 《「此世」との掛詞》
よや 一七ウ4
よの 一八才5・一八ウ8・一九才7*・二
六ウ15・二八才7・三三才4・三三才14・
三五才5
よも 四〇ウ7・六二才11
よをも 五七才2
よを 六六ウ11・七九ウ17
夜 八〇才15
夜の 八二ウ5
よついで(用意) 五一ウ7
よついでも 二五才4
よついで(用意) 八一ウ12
よついで(世語) 八六才10
世がたり 三〇才13
よがれ(夜離) ↓おほむよがれ
よがれも 三〇才13
よく(避) ↓ひきよく
よざり(夜去) 三〇才7
よざりは
よし(由)

よし 一ウ6・一ウ7・二才1・一三才5・
一五ウ6・一九ウ5・二〇才4・二四ウ3
・四一才11・四四ウ17・四五才13・四六才
7・四八ウ16・五八ウ14・六〇才4・六〇
ウ2・六六才10・七二才8・八一才7・八
二才6・八三才17・八三ウ7・八四ウ2
よしを 一九才13・三七ウ1・六三ウ9
よしをぞ 四八才10
よしの 五〇ウ19
よし(良) ↓こちよげなり・みめよし
よく(連用法) 一ウ10・二才8・一七ウ10・
二三ウ2・二五才12・二六ウ6・三〇ウ14
・三七ウ16・五二才10・五二ウ1・五四ウ
2・五四ウ5・五六ウ18・五七ウ6・六一
才7・六一才17・六四才14・七三才13・七
六ウ1・八三才12
よき(連体法) 八ウ5・一三ウ16・一六才3
・三〇ウ8・三九ウ15・四二ウ16・四四ウ
4・五七才3
よしと 三三才6
よからめなど 三五ウ2・六〇ウ20
よからめ 三七才14・七八ウ1・八八才16
よかるべき 四三才9
よし(終止法) 五四ウ1
よからめ 六五才5
よくも 七八ウ19

よからめをば 八六ウ12
よくこそと 八七ウ7
よしなし(由無)
よしなき(連体法) 一四才4・一九才4・五
六ウ14・八二ウ8
よしなかりけりと 六一才13
よしなく(連用法) 八八才11
よしのやま(吉野山) 七〇ウ5
吉野山に
よしよし 四六才7
よし
よす(寄) ↓ことよす・さしよす・とりよす・
ひきよす・ひきよすめく・まきよす
よせよと 二七ウ12
よせに 五六ウ3
よすれば 五六ウ3
よすが(縁) 八才2・一三ウ9・七二才11
よすがと 二四才1
よすがは
よそ(他所) 一一三ウ8・六七才18
よその
よそぢ(四十)
よそぢに 七〇才9
よそなり(他所)
よそなる(連体法) 四〇才13
よそふ(装) ↓おもひよそふ

よそへられて	五四才12	よはゝ	五二ウ13*	よみ(詠) ↓うたよみ	
よそほし(装)		よはひ(齡) ↓おほむよはひ		よみぢ(黄泉)	
よそをしく(中止法)	六八才17	よはひの	四ウ9	よみぢの	八八才11
よつ(四)		よはい	七九ウ8・八一ウ6	よむ(読・詠)	
四に	七二才17	よひ(宵)		よみて	一六才2・三六才7
よづく(世付)		よひも	一才3	よみ給に	一六才4
よづきて	八四ウ13	よひ	三六ウ11・四五ウ1・四九ウ15	よむ(連体法)	一六才13
よとこ(夜床)		よいなどにも	五九才2	よむなり	一八才4
よとこに	三〇才3*	よい	五九才6	よみ給て	二二才4
よどむ(淀)		よびいる(呼入)		よむばかりとて	二六才14
よどみなばなど	一九才3	よび入たれば	六二ウ14	よまんと	三九ウ1
よなよな(夜夜)		よびかへす(呼返)		よみたまふ	四三ウ4
よな	一四才14	よびかへし給し	七七ウ10	よみてぞ	四九ウ6
よな	一五才3	よひと(世人)		よまんとのみ	五一ウ15
よな	四〇ウ2	よ人	二三才4	よむべき	五七才10
よに(世)		よぶ(呼)		よも	八四才6
よに	四四才3	よびたれば	四三ウ10	よも	
よのつね(世常)		よびて	六二才17	よもぎ(蓬)	
よのつねならず	八四ウ12	よばで	七七ウ11	よもぎが	五一才9・六六ウ1*・八五ウ14
よのつねなりし	八七ウ16	よべ(夜部)		よもすがら(終夜)	
よのなか(世中)		よべは	一五才8・一九才6	よもすがら	四四才12・四六ウ8
よの中	二二ウ3	よべの	一八ウ5・三二才2・三三才9・五	夜もすがら	七六才6
よのひと(世人)		八才3		より ↓みみより	
よの人	一〇ウ7	夜部の		よりかかる(寄掛)	
世の人も	八六ウ8	よべよりの	二七ウ8	よりかゝりて	五九ウ7
よは(夜半)		夜部	七二ウ18・七三才5	よりに(寄来)	

よりきたれば 三一才12
 よりふす(寄伏) 二七ウ6
 よりふし給へるに 二九ウ2
 よりふし給ぬ 二九ウ2
 よる(夜) 四〇ウ1
 よるも 五六才1
 よるなれば 二二才11・二三ウ3
 よる(因) 七九ウ11
 よりて 八二ウ3
 よらず 二〇才7
 より(中止法) 四七ウ3
 よる(寄) ↓おほしよる・おもひよる・さぐり
 よる・さしよる・すすみよる・たちよる・た
 どりよる・ほのめきよる・みだれよる・ゐ
 よる 五七才17
 よりて 二五ウ1・四一才5・四二才6・四
 五ウ10
 よらまほしくぞ 二六才9
 よりたれば 二八ウ2
 よらんと 四六ウ14
 よらずかして 五一ウ12
 より給へば 六五才8
 よるひる(夜昼) 六ウ13・七九ウ3
 よるひる 六五才8
 よるべ(寄方) 五五才8・六九才15

よるこぶ(嬉) ↓うつくしみよるこぶ・おほし
 よるこぶ・ひきよるこぶ・まちよるこぶ
 よるこびたまふ 六三ウ19
 よろし(宜) 二二才13
 よろしうも 四一才14・五四才6
 よろしき(連体法) 六才9・六一ウ21
 よろづ(万) 四八才2
 よろづに 二〇才7
 よろづは 四七ウ3
 よわげなり(弱) 二〇才7
 よはげに(連用法) 四七ウ3
 よわし(弱) 四七ウ3
 よはく(連用法) 五七才17
 よる(夜居) 五七才17
 よいの

ら

よるこぶ(嬉) ↓うつくしみよるこぶ・おほし
 よるこぶ・ひきよるこぶ・まちよるこぶ
 よるこびたまふ 六三ウ19
 よろし(宜) 二二才13
 よろしうも 四一才14・五四才6
 よろしき(連体法) 六才9・六一ウ21
 よろづ(万) 四八才2
 よろづに 二〇才7
 よろづは 四七ウ3
 よわげなり(弱) 二〇才7
 よはげに(連用法) 四七ウ3
 よわし(弱) 四七ウ3
 よはく(連用法) 五七才17
 よる(夜居) 五七才17
 よいの

り

りつし(律師) ↓だいらりつし 一五才15
 りつしと 二二才9
 りつしは 一八ウ10・二〇ウ1・二二ウ11
 りつしならでは 二二才9
 りやうず(領) 二二才9
 りやうじ給し 二二才2
 りやうじ給へりし 二二ウ8
 りむじきやく(臨時客) 三五才6
 りんじきやくなど 八〇ウ7
 りむじゆ(臨終) 八〇ウ7
 りんじゆに 八〇ウ7

れ

れいけいでん(麗景殿) ↓とつべつのにんけい
 れいけいでん・みぎのおとどのれいけいで
 んのにようこ
 れいざま(例様) 一五ウ14
 れいざまならでなど 一九ウ11
 れいざまにも 八三才14
 れいざまに 八三才14
 れいならず(不例) 三六才2
 れいならぬ(連体法) 三六才2

れいならず(連用法) 四一才13・五三ウ7
れいの(例)

れいの 一一才5・一七才2・一七才4・一
八ウ8・三一ウ14・五二才17・五一ウ4・

五三才8・五四才17・五九才6・七五才14
・七八ウ9・八六才14

れいも(例)

れいも

三一才6

れん(連)

れん

五二ウ10

れんだいの(蓮台野)

「れん」だい野へ

八三才2

れんだい野

八〇才15

ろ

ろくじふ(六十)

六十ばかりなる

五九ウ6

ろくじふよ(六十余)

六十よばかりなるが

七九才10

ろくじふよこく(六十余国)

六十よ国

八〇ウ3

ろくにち(六日) ↓五六日

ろくねん(六年)

六年

八〇ウ5

わ

わうじやう(往生)

往生の

七九ウ10

わうじやうごくらく(往生極楽)

わうじやう極楽の

七九ウ6

わうせうくん(王昭君)

わうせうくんを

五二ウ11

わが(我)

我七ウ11・二六ウ8・二八ウ15・四五才6・
四九ウ2・五四才12・六七才7

わが

一六ウ8・六一ウ2・六四才19

我が

わかぎみ(若君)

わかぎみをば

一〇才6

わかぎみ

若君

若君の

若君をも

わかし(若)

わかき(連体法) 四才1・二七才14・五三ウ
15・五三ウ16・五九ウ6・六二ウ13・六二

ウ16

若かりし

若

わがみ(我身)

七五才6
七七才19

わが身にも

わが身を

わが身の

我身も

我身は

我身に

わかる(別) ↓おもひわかる・たちわかる

わかれ侍

わかれ(別)

わかれかと

わかれめく(別)

わかれめきて

わき(分) ↓とりわき

わく(分) 《下二段》

わくる(連体法)

わく(分) 《四段》 ↓おもひわく・みえわく

わく(連体法)

わけ(分) ↓ふりわけ

わけまるる(分参)

わけまいり給に

わざと(態)

わざと

わざと「の」

わざとも

わざとの

四三ウ13
五八ウ9
六一ウ17
七八才12
八四ウ4
八四ウ13
八五才9

三三才14*

三三才10

三二ウ6

一〇ウ4

三二ウ6

三二才10

三七才13・八七ウ6

三八才10

三七才13・七五才1

三七才11

三七才10

五九才2

五九才2

三才7・七五才1

三七才11

三七才10

三七才10

三七才10

三七才10

三七才10

三七才10

三七才10

三七才10

三七才10

三七才10

わざとならず(不態)

わざとならず(連用法)

わざとならず

わする(忘) ↓ものおもひわする

わすれねど

わすれ侍なりなど

わすれ侍りけれども

わすれがたし(忘難)

わすれがたく(連用法) 一ウ2・六七才18・

七六ウ7

わたくし(私)

わたくし

わたくしを

わたくしの

わたす(渡) ↓ききわたす・とりわたす・みわ

たす

わたしきこえ給へと

わたしはんべらんと

わたしきこえて 七〇ウ4・七一ウ14・八三

才11

わたらひ(渡)

わたらひ

わたり(辺) ↓いちでうおほみやわたり・いち

でうわたり・うちわたり・かたわたり

わたりえと

わたりそむ(渡初)

わたりそめ給ぬれど

わたりそめ給し

わたる(渡) ↓かへりわたる・ききわたる・き

こえわたる・とぶらひわたる・はひわたる・

まちわたる

わたらせ給に

わたらせたまふ

わたりたまひぬ

わたり給て

わたらせ給ぬ

わたらせ給て

わたり給へば

わたらせ給へなど

わたり給たる

わたり侍りても

わたり給ひしかば

わづかに(僅)

わづかに

わづらはし(煩)

わづらはしく侍

わづらはしき(煩)

わづらはしきに

わづらはぶ(煩) ↓おほしわづらはぶ

わづらぶ(煩) ↓おもひわづらぶ

わづらひて 一二才10・四四ウ13・四五才12

わづらひ給ふとて

二四才7

二四ウ15

一ウ8

三才3

一七ウ16

二〇才6

二四ウ4

五四ウ12

六八才1

七二ウ15

七八ウ6

八〇ウ4

八一ウ10

八〇才10

八ウ13

四才9

一六ウ15

わづらひ給ふも

わづらひ給

わづらぶ(連体法)

わづらぶ(終止法)

わづらはせ給へる

わづらはせ給ふ

わづらひ給て

わななく(戦慄)

わななくに

わななくて

わびし(侘)

わびしくて

わびしき(連体法)

わびしく(連用法)

わぶ(侘) ↓ながめわぶ

わらうづ(藁沓)

わらうづなど

わらは(童) ↓めのわらは

わらふ(笑) ↓うちわらふ・ひとわらははれなり

わらはせ給へど

わらひたてまつれば

わらはせ給ふ

われ(我)

我も一ウ8・一九ウ11・六七才10・七五才5

われはと

我一七才12・五〇ウ15・六三ウ4・八五ウ4

一七才5

一九ウ5

二〇才11

三八才14

四二才10

四七ウ1

六八才19

四〇ウ11

四〇ウ11

三六才13

四七才6

五三才11

六二ウ17

三五才2

五六ウ1

五七ウ6

一三才3

一三才3

一三才3

一三才3

一三才3

一三才3

一三才3

一三才3

一三才3

一三才3

我さへ 三八ウ 2

我を 三九オ 3

我こそ 四六オ 16

われこそ 五二オ 4 《「少将」とする翻字も

あり》

われは 五六ウ 14

我さえ 六七オ 18

我と 七三オ 13

我なん 七四ウ 11

我に 七五オ 15

我ならで 七五ウ 14

われながら(我) 一六ウ 10

われながら 一六ウ 10

わろし(悪) ↓ひとわろし

ゐ

ゐ(寝) ↓あさゐ

ゐ(居) ↓くもゐ・よゐ

ゐ(井) ↓やまのゐ

ゐなか(田舎)

いなかの 七四ウ 2

ゐなむ(居列)

いなみたる 三三オ 5

ゐよる(居寄)

ゐよりて 六七オ 6

ゐる(率) ↓ひきゐる

ゐる(居) ↓おきゐる・おりゐる・しのびゐる・

つゐる・なきゐる・むかひゐる

いさせ給へるに 一一オ 9

いたれば 二八オ 14

いたる 五九ウ 8

ゐ給て 七八ウ 4

ゐん(院) ↓ときはのゐん・むかへのゐん

ゐん 一一ウ 12

院は 一一オ 6

ゐんを 二二オ 3

ゐんの 二二ウ 3

ゐんがう(院号)

院がう 一一ウ 14

ゐんのひめみや(院姫宮)

院のひめ宮 一一オ 11

ゐんのひめみやも 二二オ 8

ゑ

ゑ(絵) ↓もののゑ

ゑ 六四オ 2

ゑの 六四オ 6

ゑなんどの 六六オ 14

ゑびす(戎) 八一オ 19

ゑびすが

ゑみがちなり(笑)

ゑみがちにて 五五ウ 10

ゑむ(笑) ↓うちゑむ

ゑみたり 五七オ 8

ゑもん(衛門)

ゑもんに 六三ウ 17

ゑん(縁)

ゑんに 五九ウ 4

ゑん 八八オ 14

を

をかし 三五オ 11・五七オ 2

をかし(連用法) 三五オ 11・五七オ 2

をかし(て) 五四オ 18・五八ウ 1・五八ウ 6

をかしからぬ 五四ウ 3

をかし(「ぞ」の結び) 五八ウ 18

をかしやかなり

をかしやかなる(連体法) 二七オ 11

をぎ(菘) 六六オ 17

おぎ 六六オ 17

をぎの 六六オ 19*

をぐらのやま(小倉山)

をぐらの山の	六二ウ 7	をとこも	三一オ 1	をはりのかみにぞ	三八オ 8
をけ(桶) ↓ひをけ		をとこは	五五オ 3	をむな(女) ↓あるじのをむな・げすをむな	
をこがまし(痴)		おとこにて	六七ウ 10	女も	五〇オ 14
をこがましくも	七七オ 11	おとこの	七二ウ 18	女こそ	五三オ 14
をさおひ(幼) ↓おほむをさおひ		をとこぎみ(男君)		女	五九ウ 6
をさなし(幼)		をとこぎみは二〇ウ 6・二三オ 13・五〇オ 16		をむなぎみ(女君)	
おさなく(連用法) 九オ 5・六八オ 10・七七		をの(小野) ↓かりばのをの		女ぎみは	六〇オ 10・六〇ウ 6
オ 12		をのこ(男子)		おんなぎみ	八三オ 6
をさなき(連体法)	三九ウ 7	をのこを	三九オ 1	をんな君も	八五ウ 13
をさなくて	四〇オ 11	をのこを	六三オ 2	をんな君は	八七ウ 15
をさなかりし	五〇ウ 8	をばすて(姨捨)		をむなども(女)	
おさなき(連体法)	六九ウ 1・七五ウ 8	をばすてならぬ	二四オ 6	女どもなども	四九オ 8
おさなうより	八四オ 14	をばすても	五一オ 4	女ども	六三オ 14
をさをさ		をばすてやま(姨捨山)		をり(居) ↓なきをり	
をさ	四八ウ 7	をばすて山の	一二ウ 11	をり(折)	
をし(惜)		をはりのかうのとの(尾張守殿)		をり	一ウ 10・二ウ 6・二九オ 11
をしう(連用法)	五四オ 11	をわりのかうの殿よりとて	三五ウ 14	をりにも	二ウ 2
をし(鴛鴦)		をはりのかみ(尾張守)		をりは	七オ 10・一六オ 1
をしの	六五オ 1	をはりのかみばかり	三〇ウ 11	をりには	三二オ 7
をしふ(教)		をはりのかみ三三オ 6・三六ウ 10・四五オ 11		をりとても	三二ウ 12
をしへたりつる	三四ウ 13	・五八ウ 13		をりにか	四〇ウ 3
をしむ(惜)		をはりのかみに 三三オ 15・四四ウ 10・五六		をりまでも	四二ウ 10
をしみ給はず	三ウ 5	ウ 16		をりも	四五オ 17
をしみて	五七オ 5	をはりのかみの	三四ウ 9・五六ウ 10	おりは	八三オ 2
をしみたてまつりし	八一ウ 11	おはりのかみと	三六オ 1	をりびつ(折櫃)	
をとこ(男)		をはりのかみには	三六オ 8	をりびつなどを	二五ウ 1

をりふし(折節) 三〇才15
 をりふしの
 をりをり(折折) 三才11・六ウ4・一三才6
 をり 四才8
 をりをりの も 一七ウ7・一九ウ6・四〇才9
 未詳
 あ かまし 八七才4
 あ かましき(連体法)
 きこ 八〇ウ12
 こ 三七才14
 こ 三
 さむ 八〇才1
 し 三
 し まつじう侍る 八六ウ18
 しやくり 八三才3
 しゃくり など

す 八七才2
 す 七三才18 ≪「たづね」か≫
 た 八七ウ16
 た う
 た うの
 と と
 と と
 とくしき 八五才1
 とくしき 七二才3
 な 八一ウ20
 な と
 わざ 三七才16
 わざ
 い 八四才3
 道びきたてまつり いぬれば
 まふ 八八才17
 まひ候ねば
 つく 八五ウ17
 つけられ
 まつる

まつらん 八七ウ17
 はす 御 八八ウ
 はす 御
 つもねすき たも
 つもねすき たも 八八才
 の 七四才1・八二ウ17 ≪「祈」か≫ 八一ウ18
 申侍る 八〇ウ10
 も 八一才1
 八二ウ18 ≪「の鐘」か≫・八五才2・八五
 八二才11
 八二ウ17・八七才1・八七才3
 八二才1
 八三才1
 八六才1
 八二才3
 八一才2・八八才3

平成十三了十七年度

活動報告・学内会員消息

平成十三了十七年度 活動報告・学内会員消息

平成十三年度

【前期】

四月 十三日 研究会活動開始

・活動計画（あさが霽索引作成を継続）

・新入会員紹介（研究生 関根紗絵）

二十日 遠足打ち合わせ

・作業（班毎に単語カード取り開始）

二十七日 遠足打ち合わせ ↓ 遠足を食事会に変更

・作業継続

五月 十一日・二十五日 作業継続

六月 一日・八日・十五日 作業継続

二十二日 作業継続

・夏期集中作業について

七月 六日 作業継続

十三日 会員研究発表

関根紗絵「形容詞語幹から派生する動詞の語構成と意味の

史的研究」

八月 二十日・二十四日 夏期集中作業

【後期】

十月 五日 後期活動開始

会員研究発表

西村幸恵『『反音抄』における漢字音について』

十二日 作業継続

十一月 二日 作業継続（カード取り了）

十六日 作業（カード整理了）

三十日 作業（カード確認開始）

十二月 七日・十四日 作業継続

一月 十一日・十八日・二十五日 作業継続

二月 一日 会員研究発表

渡邊一志「続日本紀宣命における万葉仮名についての研究」

・作業継続

八日 作業継続

・会報発行見送りを決定

十七日 卒業生送別会

渡邊一志・関根紗絵は、研究会の日常活動を離れることとなった。

平成十四年度

【前期】

四月 十二日 研究会活動開始

・活動計画（あさが霽索引作成を継続）

作業（カード確認）

十九日 作業継続

二十六日 遠足打ち合わせ

・作業継続

五月 六日 遠足（黒瀬ダム）

十日 作業継続

二十四日 作業継続（カード確認了）

三十一日 作業（カード入力開始）

六月 七日・十三日 作業継続

二十一日 会員研究発表

西村幸恵「中世悉曇資料の漢字音に関する研究

『反音鈔』を中心に（仮）」

七月 五日・十二日 作業継続

十九日 ・夏期集中作業の日程について

・作業継続

八月二十六日～三十日 夏期集中作業

【後期】

十月 四日 後期活動開始

作業継続

十一月 十一日・十八日・二十五日 作業継続

十二月 一日・十五日・二十九日 作業継続

一月 十三日・二十日 作業継続

二月 十日・十七日・二十四日・三十一日 作業継続

三月 七日 ・春期休業中の作業等について ↓なし

・作業継続

西村幸恵は、研究会の日常活動を離れることとなった。

平成十五年度

【前期】

四月 十一日 研究会活動開始

・活動計画（あさちが露索引作成を継続・影印資料を読む）

・新人生紹介（三年生 高津佐可奈子）

・新歓遠足について

・会員研究発表について

・作業（カード入力）

十八日 影印資料を読む

二十三日 ・遠足打ち合わせ

・影印資料を読む

五月 二日 ・影印資料を読む

・遠足打ち合わせ

三日 遠足（香六ダム・フィッシングレイクたかみや）

九日・二十三日・三十日 影印資料を読む

六月 六日 会員研究発表

高津佐可奈子『妙一記念館本仮名書き法華経』研究

「たまふ」の文字表記について」

・影印資料を読む

十三日・二十日 影印資料を読む

七月 四日 会員研究発表

世羅恵巳「要因に対する期待の有無と心情との関係性について」

・影印資料を読む

十一日 会員研究発表

磯貝淳一「醍醐寺蔵探要法花験記の用字基盤について

日本・中国両部の比較から」

・影印資料を読む

十七日 会員研究発表

森岡信幸「平安時代の漢字文献の高頻度字の類似度の測定」

松本光隆「石山寺蔵「悉曇十二章」について」

・夏期集中作業について

二十四日 作業

八月二十五日、二十七日 夏期集中作業（データ訂正）

【後期】

十月 三日 ・後期の作業内容について

・作業（データ訂正）

十日 作業継続

二十四日 作業継続（データ訂正了）

三十一日 影印資料を読む

十一月 十四日 作業（自立語・付属語の分類）

二十一日 作業（班分け、自立語の分析）

二十八日 影印資料を読む

十二月 五日・十九日 作業継続

一月 九日・二十三日 作業継続

三十一日 影印資料を読む

二月 六日 作業継続

平成十六年度

【前期】

四月 九日 研究会活動開始

・活動計画（あさが霏索引作成を継続）

・新人生紹介（三年生 花房千春）

・遠足について

十六日 ・遠足打ち合わせ

・作業（逆引き（一回目））

五月 七日 ・見学、入会者（二年生 松元仁美）

・遠足打ち合わせ

八日 遠足（大久野島）

十四日・二十八日 作業継続

六月 四日 作業継続

十一日 会員研究発表

高津佐可奈子『妙一記念館本仮名書き法華経』研究

『補助動詞「たまふ」』

・作業継続

十八日・二十五日 作業継続

七月 二日・九日・十六日 作業継続

二十三日 ・夏期集中作業について

三十一日

八月 十九日、二十一日 夏期集中作業

【後期】

十月 一日 後期活動開始

八日 会員研究発表

花房千春『大蔵虎明本狂言台本研究

』代名詞「おれ」について』

二十二日・二十九日 作業継続

十一月 五日 会員研究発表

高津佐可奈子『妙一記念館本仮名書き法華経』研究』

十九日・二十六日 作業継続

十二月 三日・十日・十七日 作業継続

一月二十一日 ・春期休業中の活動について ↓なし

・作業継続

二十八日 作業継続

二月 四日 作業継続（逆引き結果の原データへの反映了）

高津佐可奈子は、研究会の日常活動を離れることとなった。

平成十七年度

【前期】

四月 十五日 研究会活動開始

・活動計画（あさちが露索引作成を継続）

・新入生紹介（博士課程前期 茨木佑子）

・作業（逆引き漏れのチェック）

二十二日 作業（参照見出し作成、逆引き〔二回目〕）

五月 六日 会員研究発表

茨木佑子『源氏物語』における漢語形容詞「便なし」の表現価値

十三日・二十日・二十七日 作業継続

六月 三日・十日・十七日 作業継続

二十四日 会員研究発表

花房千春「大蔵虎明本狂言台本の日本語学的研究」

・作業継続

七月 一日・八日・十五日 作業継続

二十二日 夏期集中作業について

・作業継続

二十九日 作業継続

八月二十二日～二十四日 夏期集中作業（逆引き〔二回目〕了）

【後期】

九月 三十日 会員研究発表

松元仁美「異体仮名の使い分け

～室町時代における「え」の字体について」

十月 十四日 後期活動開始

・作業（逆引き〔三回目〕）

二十一日・二十八日 作業継続

十一月 四日 会員研究発表

花房千春「大蔵流狂言台本研究

虎明本から虎寛本へ 人称代名詞の改変について」

十一月 十一日・十八日・二十五日 作業継続

十二月 二日 研究会紹介について

・作業継続

一月 九日・十六日 作業継続

一月 十三日・二十日 作業継続

二十七日 作業継続（逆引き〔三回目〕了、凡例案の検討）

二月 三日 作業（逆引き漏れのチェック）

十日 作業（逆引き結果の原データへの反映）

二十日～二十二日 春季集中作業（会報作成）

花房千春・世羅恵巳は、研究会の日常活動を離れることとなった。

編集後記

会報第二十八号をお届けいたします。

本号は、あさぢが露自立語索引を掲載いたしました。

本索引は、平成十年度より行なつてまいりました鎌倉時代物語を対象とした語彙蒐集活動の成果のひとつです。多年に渡つて継続した作業でしたが、ようやく「かたち」あるものとしてみなさまにお目にかけることができ、嬉しく存じます。

作成にあたつては慎重を期しましたが、なお不十分な点も少なくないかと思われまふ。諸先生、諸学兄の御批評、御教導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

(平成十八年三月三十日 森岡信幸)

広島大學

國語史研究會會報 第貳拾八號

平成十八年三月三十一日 発行(非売品)

編集兼発行者 広島大學國語史研究會

〒七三九 八五三一

東広島市鏡山一丁目二番三号

広島大学大学院文学研究科日本語学研究室内